

鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（27）

国分上野原テクノパーク第3工区造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書（I）

# 上野原遺跡

（第10地点）

所在地 鹿児島県国分市大字上之段水ヶ迫ほか

第1分冊



2000年3月

鹿児島県立埋蔵文化財センター

## 序 文

本報告書は、国分上野原テクノパークの造成工事に先立って、鹿児島県立埋蔵文化財センターが実施した上野原第3工区の埋蔵文化財発掘調査の記録です。

近年、縄文時代早期・草創期をはじめとして、旧石器時代まで重要な発見が相次いでおりますが、上野原遺跡の調査はその先駆けをなすものとして全国でも注目されています。

上野原遺跡の第3工区の調査は、平成3年度に鹿児島県教育庁文化課（現文化財課）により確認調査が実施され、約90,000㎡の範囲に遺跡が広がることが判明し、翌平成4年度から平成6年度までの3か年間で、鹿児島県立埋蔵文化財センターが発掘調査を行ったものです。

調査の結果、約7,500年前の壺形土器や土偶・耳栓などが出土し、縄文時代早期後半に高度な文化が花開いていたことを裏付けるものでした。また、遺構も蒸し焼き調理の場として考えられている集石遺構が200基以上も発見されたり、縄文時代後期の最大の深さが2.7mもの陥し穴も79基が発見されています。

上野原遺跡第3工区から出土した約15万点の出土品の中から767点については、平成10年6月30日に国の重要文化財（考古資料）に指定されました。

上野原遺跡の調査によってもたらされた資料は、質・量ともに膨大で単年度では報告することが困難であるため、今年度は「遺構編」として縄文時代前期までの遺構・遺物及び縄文時代早期の遺構を報告することになりました。

この報告書が今後の考古学研究および文化財保護のために役立つことができれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査ならびに報告書整理作業に関して、鹿児島県地域振興公社や国分市をはじめ、多くの方々の御協力を賜りましたことを心より感謝申し上げます。

平成12年3月1日

鹿児島県立埋蔵文化財センター

所 長 吉 永 和 人

口絵 1



①第3工区確認調査状況と始良カルデラ



②第3工区調査風景



口絵 2



①地層断面



②地層断面



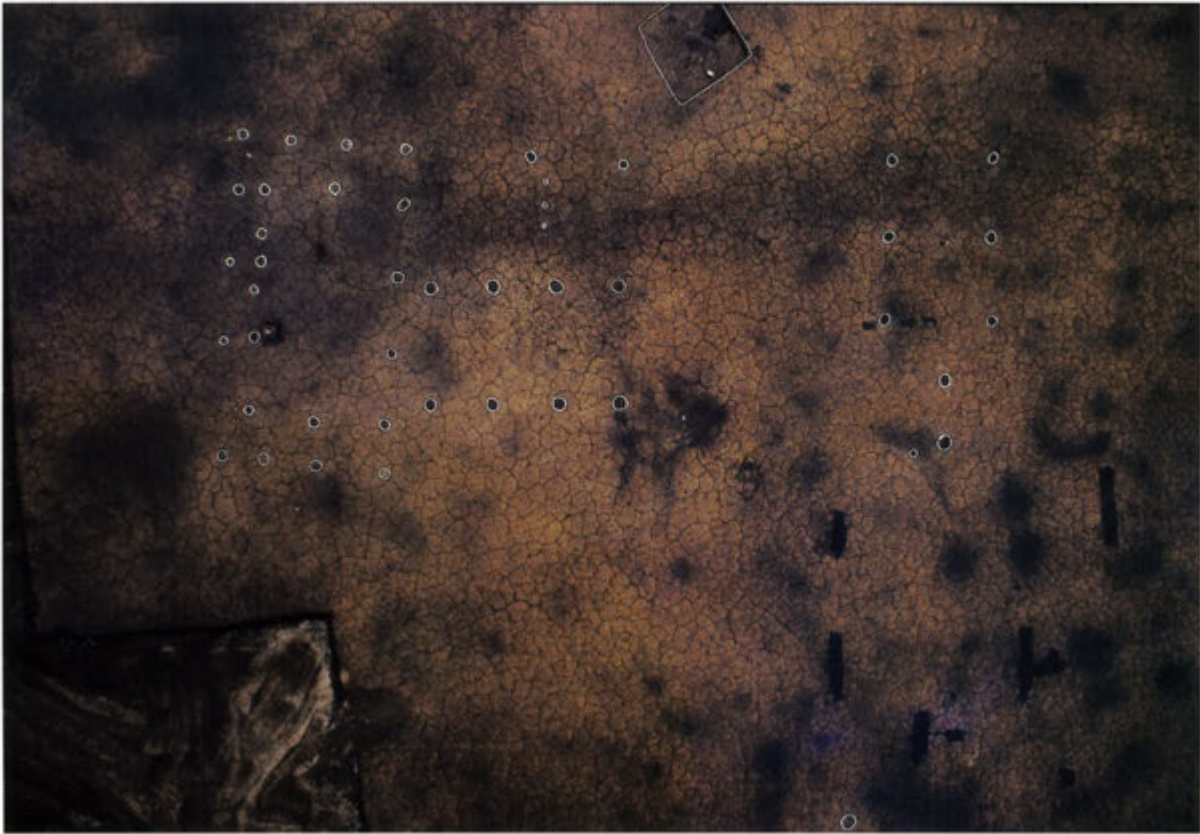


①探照灯検出状況（空中写真）



② 1号探照灯





①掘立柱建物跡（空中写真）



②掘立柱建物跡



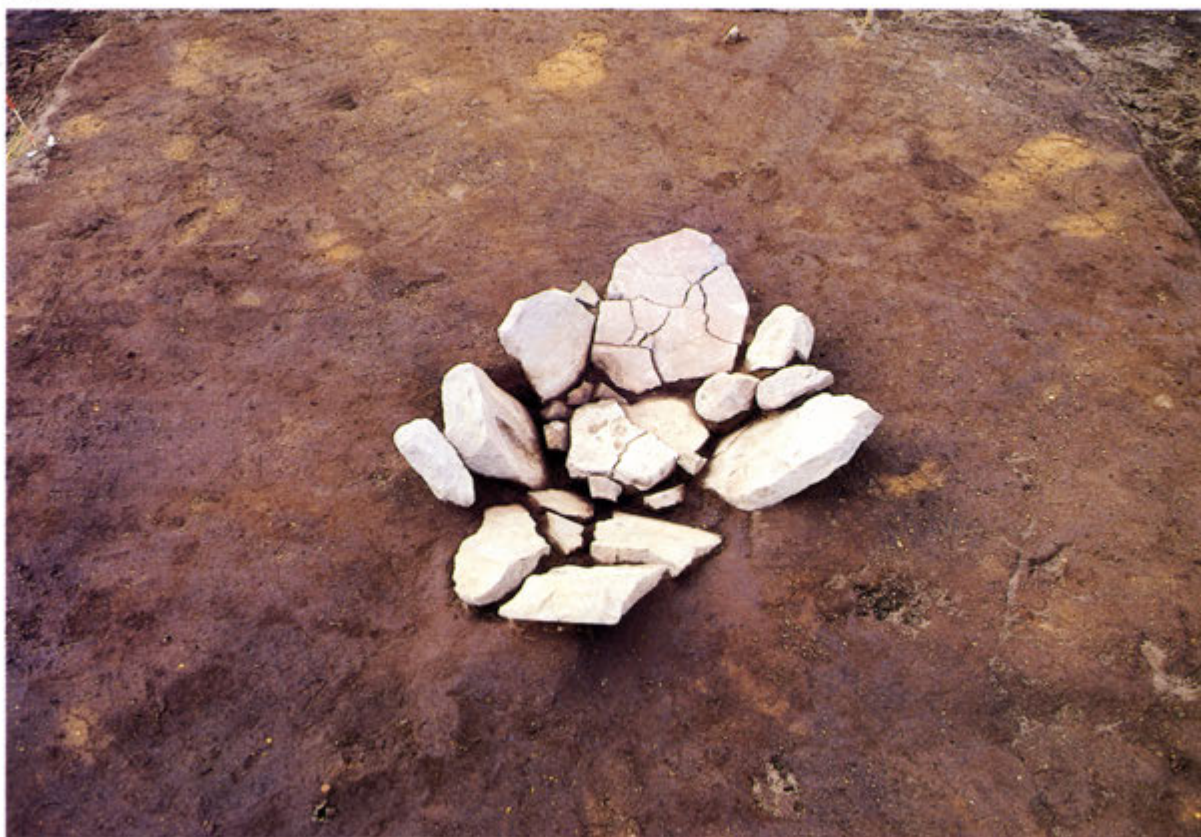


① 陷し穴検出状況



② 陷し穴





①103号集石遺構



②89号集石遺構





① R-12土器埋納遺構 1 検出状況



② R-12土器埋納遺構 2 検出状況





① 3号石斧埋納遺構

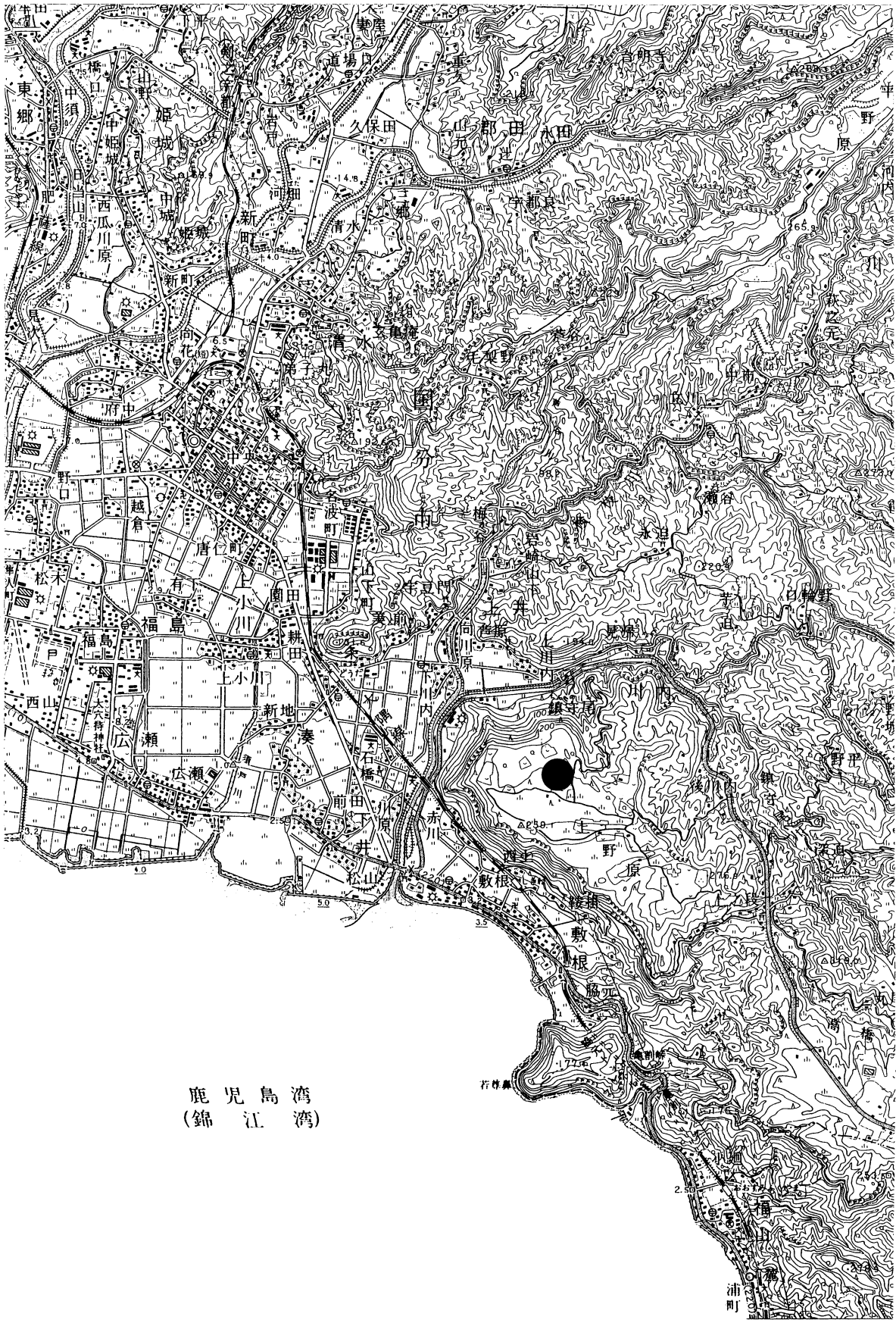


② 6号石斧埋納遺構



## 報 告 書 抄 録

ふりがな	うえのはら いせき							
書名	上野原遺跡 (第10地点)							
副書名	国分上野原テクノパーク第3工区造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書							
シリーズ番号	27							
編著者名	中村耕治・繁昌正幸・井ノ上秀文・富田逸郎・森田郁朗・東 和幸・八木澤一郎・栗林文夫							
編集機関	鹿児島県立埋蔵文化財センター							
所在地	〒899-5652 鹿児島県始良郡始良町平松6252番地 TEL 0995-65-8787							
発行年月日	2000年3月30日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
		市町村	遺跡番号					
うえのはらいせき 上野原遺跡 (第3工区)	かごしまけんこくぶんし 鹿児島県国分市 おおあざうえのなんあざみずがきこ 大字上之段字水ヶ迫 他	462128	10-76	31度 42分 20秒	130度 47分 30秒	19940624 / 19950328	90,000m <sup>2</sup>	国分市上野原 テクノパーク 第3工区造成 工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
うえのはらいせき 上野原遺跡 (第3工区)		縄文時代早期 縄文時代前期 縄文時代後期 弥生時代中期 古墳時代 中世 近代	縄文早期土器埋納土坑 縄文早期石斧埋納遺構 縄文早期磨石集積遺構 縄文後期陥し穴 縄文後期掘り込み 弥生中期竪穴住居跡 古墳時代竪穴住居跡 中世掘立柱建物跡 近代探照灯	12基 6基 3基 79基 369基 1基 1基 8棟 2基	平格式土器 (深鉢形土器・壺 形土器) 土偶・耳飾り・土 製品・石製品・石 斧・石鏃・石皿 塞ノ神式土器 山ノ口式土器 成川式土器 青磁			



鹿兒島湾  
(錦江湾)

遺跡位置図 (50,000分の1)

# 例 言

- 1 この報告書は、国分上野原テクノパーク第3工区造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は、鹿児島県開発公社（現地域振興公社）の依頼を受けて、鹿児島県立埋蔵文化財センターが実施した。
- 3 上野原テクノパーク第3工区造成工事に伴う発掘調査においては資料が多いため、今年度は「遺構編」として、近代から縄文時代前期までの遺物・遺構、および縄文時代早期の遺構について報告することとし、縄文時代早期の「遺物編」については次年度以降報告することとした。
- 4 発掘調査における測量・実測・写真撮影は平成3・4・5・6年度の調査担当者が分担して行った。
- 5 本書掲載の測量・実測図・出土遺物の実測および製図は、担当者が分担して行った。
- 6 出土遺物の写真撮影およびプリント等は、鶴田静彦の協力を得た。  
遺物番号は、本文および挿図・図版の番号と一致する。
- 7 本書に用いたレベル数値は、すべて海拔絶対高である。
- 8 対で埋納された壺形土器の土壌分析は、株式会社「パリノサーベイ」に依頼した。
- 9 本書の編集は、主に中村耕治・富田逸郎・八木澤一郎が行った。各項の執筆分担はつぎのとおりである

## 〔第1分冊〕

第I章	.....	中村耕治
第II章	.....	繁昌正幸・富田逸郎
第III章	.....	栗林文夫
第IV章 第1節	.....	中村耕治・繁昌正幸
第2節	.....	森田郁朗
第3節	.....	井ノ上秀文
第4節	.....	栗林文夫
第5節	.....	中村耕治
第6節-1	.....	中村耕治
第6節-2	.....	東 和幸
第6節-3	.....	富田逸郎
第6節-4	.....	井ノ上秀文
第7節	.....	中村耕治・横手浩二郎

## 〔第2分冊〕

第8節 1-(1)	.....	八木澤一郎
1-(2)	.....	富田 逸郎
1-(3)	.....	八木澤一郎



# 本文目次

口 絵  
序 文  
例 言

第 I 章	調査の経過	19
第 1 節	調査に至るまでの経過	19
第 2 節	調査の組織	19
第 3 節	調査の経過	19
第 II 章	遺跡の位置	34
第 1 節	遺跡の位置	34
第 2 節	周辺遺跡	34
第 III 章	層位	46
第 IV 章	発掘調査	47
第 1 節	調査の概要	47
第 2 節	近代の調査	53
第 3 節	歴史時代の調査	55
第 4 節	古墳時代の調査	64
第 5 節	弥生時代の調査	67
第 6 節	縄文時代後期の調査	70
1	縄文時代後期の陥し穴	70
(1)	陥し穴 A 類	70
(2)	陥し穴 B 類	101
(3)	小結	107
2	縄文時代の掘り込み	109
3	縄文時代後期の集石遺構	194
4	縄文時代後期の遺物	194
第 7 節	縄文時代前期の調査	202

## 第 1 分 冊

口 絵

序 文

例 言

第 I 章 調査の経過

第 1 節 調査に至るまでの経過

第 2 節 調査の組織

第 3 節 調査の経過

第 II 章 遺跡の位置

第 1 節 遺跡の位置

第 2 節 周辺遺跡

第 III 章 層位

第 IV 章 発掘調査

第 1 節 調査の概要

第 2 節 近代の調査

第 3 節 歴史時代の調査

第 4 節 古墳時代の調査

第 5 節 弥生時代の調査

第 6 節 縄文時代後期の調査

1 縄文時代後期の陥し穴

(1)陥し穴 A 類

(2)陥し穴 B 類

2 縄文時代の掘り込み

3 縄文時代後期の集石遺構

4 縄文時代後期の遺物

第 7 節 縄文時代前期の調査

## 第 2 分 冊

第 IV 章 発掘調査

第 8 節 縄文時代早期の調査

1. 遺 構

(1) 集石遺構

(2) 集積遺構 (石核母岩・磨石)・石斧埋納遺構

(3) 土器埋納土坑

付 篇 壺形土器内の土の分析

## 第 3 分 冊

図 版 編

## 挿 図 目 次

第1図 周辺遺跡 …………… 35	第39図 陥し穴実測図（A類） …………… 76
第2図 霧島・桜島地形断面図 …………… 36	第40図 陥し穴実測図（A類） …………… 77
第3図 上野原台地周辺地形図及び上野原テクノパーク旧地形・テクノパーク内遺跡分布図…37	第41図 陥し穴実測図（A類） …………… 78
第4図 国府（小路）遺跡出土遺物 …………… 40	第42図 陥し穴実測図（A類） …………… 79
第5図 城山山頂遺跡地形図 …………… 41	第43図 陥し穴実測図（A類） …………… 80
第6図 城山山頂遺跡出土遺物 …………… 42	第44図 陥し穴実測図（A類） …………… 81
第7図 妻山元遺跡出土遺物 …………… 43	第45図 陥し穴実測図（A類） …………… 82
第8図 平栴遺跡出土遺物1 …………… 44	第46図 陥し穴実測図（A類） …………… 83
第9図 平栴遺跡出土遺物2 …………… 45	第47図 陥し穴実測図（A類） …………… 84
第10図 模式柱状図 …………… 46	第48図 陥し穴実測図（A類） …………… 85
第11図 第3工区遺跡範囲図 …………… 48	第49図 陥し穴実測図（A類） …………… 86
第12図 第3工区遺跡確認調査トレンチ配置図…49	第50図 陥し穴実測図（A類） …………… 87
第13図 平成4年度調査範囲図 …………… 50	第51図 陥し穴実測図（A類） …………… 88
第14図 平成5年度調査範囲図 …………… 51	第52図 陥し穴実測図（A類） …………… 89
第15図 平成6年度調査範囲図 …………… 52	第53図 陥し穴実測図（A類） …………… 90
第16図 探照灯配置図 …………… 53	第54図 陥し穴実測図（A類） …………… 91
第17図 探照灯平面図 …………… 54	第55図 陥し穴実測図（A類） …………… 92
第18図 探照灯内出土電話機ラベル …………… 54	第56図 陥し穴実測図（A類） …………… 93
第19図 歴史時代掘立柱建物配置図 …………… 55	第57図 陥し穴実測図（A類） …………… 94
第20図 1号掘立柱建物平面図 …………… 56	第58図 陥し穴実測図（A類） …………… 95
第21図 2号掘立柱建物平面図 …………… 57	第59図 陥し穴実測図（A類） …………… 96
第22図 3号掘立柱建物平面図 …………… 59	第60図 陥し穴実測図（A類） …………… 97
第23図 4号掘立柱建物平面図 …………… 59	第61図 陥し穴実測図（A類） …………… 98
第24図 5号掘立柱建物平面図 …………… 60	第62図 陥し穴実測図（A類） …………… 99
第25図 6号掘立柱建物平面図 …………… 60	第63図 陥し穴実測図（A類） …………… 100
第26図 7・8号掘立柱建物平面図 …………… 61	第64図 陥し穴実測図（B類） …………… 102
第27図 7号掘立柱建物平面図 …………… 62	第65図 陥し穴実測図（B類） …………… 103
第28図 8号掘立柱建物平面図 …………… 63	第66図 陥し穴実測図（B類） …………… 104
第29図 歴史時代出土遺物 …………… 64	第67図 陥し穴実測図（B類） …………… 105
第30図 古墳時代住居跡配置図 …………… 64	第68図 陥し穴実測図（B類） …………… 106
第31図 古墳時代住居跡平面図 …………… 65	第69図 掘り込みの計測位置と類別 …………… 116
第32図 古墳時代出土遺物 …………… 66	第70図 小穴の向きと角度 …………… 117
第33図 弥生時代住居跡配置図 …………… 67	第71図 掘り込みの類例 …………… 118
第34図 弥生時代住居跡平面図 …………… 68	第72図 掘り込み実測図（1） …………… 119
第35図 弥生時代住居内出土遺物 …………… 69	第73図 掘り込み実測図（2） …………… 120
第36図 陥し穴配置図 …………… 73	第74図 掘り込み実測図（3） …………… 121
第37図 陥し穴実測図（A類） …………… 74	第75図 掘り込み実測図（4） …………… 122
第38図 陥し穴実測図（A類） …………… 75	第76図 掘り込み実測図（5） …………… 123
	第77図 掘り込み実測図（6） …………… 124



第78図 掘り込み実測図(7) .....	125	第118図 掘り込み配置図(5) .....	168
第79図 掘り込み実測図(8) .....	126	第119図 掘り込み配置図(6) .....	170
第80図 掘り込み実測図(9) .....	127	第120図 掘り込み配置図(7) .....	171
第81図 掘り込み実測図(10) .....	128	第121図 掘り込み配置図(8) .....	172
第82図 掘り込み実測図(11) .....	129	第122図 掘り込み配置図(9) .....	173
第83図 掘り込み実測図(12) .....	130	第123図 掘り込み配置図(10) .....	174
第84図 掘り込み実測図(13) .....	131	第124図 掘り込み配置図(11) .....	175
第85図 掘り込み実測図(14) .....	132	第125図 掘り込み配置図(12) .....	176
第86図 掘り込み実測図(15) .....	133	第126図 掘り込み配置図(13) .....	177
第87図 掘り込み実測図(16) .....	134	第127図 掘り込み配置図(14) .....	178
第88図 掘り込み実測図(17) .....	135	第128図 掘り込み配置図(15) .....	179
第89図 掘り込み実測図(18) .....	136	第129図 掘り込み配置図(16) .....	180
第90図 掘り込み実測図(19) .....	137	第130図 掘り込み配置図(17) .....	181
第91図 掘り込み実測図(20) .....	138	第131図 掘り込み配置図(18) .....	182
第92図 掘り込み実測図(21) .....	139	第132図 掘り込み配置図(19) .....	183
第93図 掘り込み実測図(22) .....	140	第133図 掘り込み配置図(20) .....	184
第94図 掘り込み実測図(23) .....	141	第134図 掘り込み配置図(21) .....	185
第95図 掘り込み実測図(24) .....	142	第135図 掘り込み配置図(22) .....	186
第96図 掘り込み実測図(25) .....	143	第136図 掘り込み配置図(23) .....	187
第97図 掘り込み実測図(26) .....	144	第137図 掘り込み配置図(24) .....	188
第98図 掘り込み実測図(27) .....	145	第138図 掘り込み配置図(25) .....	189
第99図 掘り込み実測図(28) .....	146	第139図 掘り込み配置図(26) .....	190
第100図 掘り込み実測図(29) .....	147	第140図 掘り込み配置図(27) .....	191
第101図 掘り込み実測図(30) .....	148	第141図 掘り込み配置図(28) .....	192
第102図 掘り込み実測図(31) .....	149	第142図 IV層検出1号集石遺構 .....	195
第103図 掘り込み実測図(32) .....	150	第143図 IV層検出2号集石遺構 .....	196
第104図 掘り込み実測図(33) .....	151	第144図 縄文時代後期土器出土状況 .....	197
第105図 掘り込み実測図(34) .....	152	第145図 縄文時代後期土器実測図1 .....	198
第106図 掘り込み実測図(35) .....	153	第146図 縄文時代後期土器実測図2 .....	199
第107図 掘り込み実測図(36) .....	154	第147図 縄文時代後期土器実測図3 .....	200
第108図 掘り込み実測図(37) .....	155	第148図 縄文時代後期土器実測図4 .....	201
第109図 掘り込み実測図(38) .....	156	第149図 縄文時代前期土器実測図1 .....	203
第110図 掘り込み実測図(39) .....	157	第150図 縄文時代前期土器実測図2 .....	204
第111図 掘り込み実測図(40) .....	158		
第112図 掘り込み実測図(41) .....	159		
第113図 掘り込み実測図(42) .....	160		
第114図 掘り込み配置図(1) .....	161		
第115図 掘り込み配置図(2) .....	163		
第116図 掘り込み配置図(3) .....	164		
第117図 掘り込み配置図(4) .....	166		

# 口 絵 目 次

口絵 1 ①第 3 工区確認調査状況と始良カルデラ

②第 3 工区調査風景

口絵 2 ①地層断面

②地層断面

口絵 3 ①探照灯検出状況（空中写真）

② 1 号探照灯

口絵 4 ①掘立柱建物跡（空中写真）

②掘立柱建物跡

口絵 5 ①陥し穴検出状況

②陥し穴

口絵 6 ①103号集石遺構

②89号集石遺構

口絵 7 ① 3 号石斧埋納遺構

② 6 号石斧埋納遺構

口絵 8 ①R-12土器埋納遺構 1 検出状況

②R-12土器埋納遺構 2 検出状況

## 第 I 章 調査の経過

### 第 1 節 調査に至るまでの経過

昭和58年7月に「テクノポリス法（高度技術工業集積地開発促進法）」が施行された。この新しい地域開発構想が通商産業省から発表され、鹿児島県でも鹿児島市を母都市として国分・隼人地区を中心とした2市12町が対象地区として指定された。

鹿児島県教育委員会では、テクノポリス構想の事業推進と文化財保護の調和を図るため、事前に対象地区の2市12町の全域の遺跡分布調査を、昭和59年から3ヶ年で実施することとした。

国分市については、昭和59年5月に実施され、34の遺跡が新たに発見された。

国分市川内地区・上之段地区（通称上野原台地）においては鍋迫遺跡（川内鍋迫）・堂ヶ尾遺跡（川内堂ヶ尾）・水ヶ迫遺跡（上之段水ヶ迫）・中原遺跡（上之段中原）・藤ヶ尾遺跡（上之段藤ヶ尾）・後川内遺跡（上之段後川内）・東原遺跡（上之段東原）の7遺跡が確認された。

鹿児島県は、上野原台地における86haを「国分上野原テクノパーク」と銘打って先端技術産業の中核工業団地として企業の誘致を計画した。計画では86haを4分割（1工区～4工区）して実施することになるが、事前の分布調査では1工区・2工区においては遺跡を確認できなかった。そこで、昭和61年に1・2工区から造成工事が着手されたが、1工区の工事中に住居跡が発見されたため、県文化課により緊急に調査が行われた。調査は昭和61年11月に行われ、弥生時代中期の竪穴住居跡5基と掘立柱建物跡3棟が検出されている。

また、同じ年度に4工区においては、県文化課により確認調査が実施されている。その結果、縄文時代早期・晩期の遺物が出土し、遺跡も広範囲に及ぶことが確認された。

平成3年度には、3工区の確認調査が県文化課により実施され、縄文時代早期・前期・晩期の遺物包含層が約90000㎡に及ぶことが確認された。

そこで、造成工事を実施する鹿児島県開発公社と

県文化課は、その取り扱いについて協議を重ね、3工区については、平成4年度から3ヶ年で発掘調査を実施することとした。また、発掘調査については平成4年度から開所する鹿児島県立埋蔵文化財センターが担当することとなった。

### 第 2 節 調査の経過

上野原遺跡の第3工区の調査は、平成3年度に確認調査を実施し、平成4年度から平成6年度までの3ヶ年で全面調査を実施することとなった。

平成4年度は、西側30000㎡を対象にして平成4年4月20日から平成5年3月30日まで行った。

平成5年度は、中央部30000㎡を対象にして平成5年4月23日から平成6年3月30日まで行った。

平成6年度は、東側30000㎡を対象にして平成6年4月24日から平成7年3月30日まで行った。

### 第 3 節 調査の組織

#### 平成3年度

調査主体者	鹿児島県教育委員会		
企画・調整	鹿児島県教育庁文化課		
調査責任者	〃	〃	課長 向山 勝貞
	〃	〃	参事 立園多賀生
調査企画者	〃	〃	課長補佐 濱松 巖
	〃	〃	係長 吉元 正幸
調査担当者	〃	〃	主査 中村 耕治
	〃	文化財研究員	富田 逸郎
事務担当者	〃	主幹兼係長	濱崎 琢也
	〃	主査	枇杷 雄二
	〃	主査	下園 勝一
	〃	主事	新屋敷由美子
調査指導助言者	鹿児島県考古学会長		河口 貞徳
	鹿児島大学助教授		森脇 広

#### 平成4年度

調査主体者	鹿児島県教育委員会		
企画・調整	鹿児島県教育庁文化課		
調査責任者	鹿児島県立埋蔵文化財センター		
		所長	大久保忠昭
調査企画者	〃	次長	水口 俊雄
	〃	主任文化財主事兼調査課長	戸崎 勝洋

	主任文化財主事	新東 晃一	鹿兒島大学助手	本田 道輝
調査担当者	〃 文化財主事	大野 重昭	熊本市立博物館学芸員	富田 紘一
	〃	〃 繁昌 正幸		
	〃	〃 倉元 良文	平成6年度	
	〃 文化財研究員	東 和幸	調査主体者	鹿兒島県教育委員会
	〃	〃 八木澤一郎	企画・調整	鹿兒島県教育庁文化課
	〃	〃 栗林 文夫	調査責任者	鹿兒島県立埋蔵文化財センター
事務担当者	〃 主査	下園 勝一		所長 内村 正弘
	〃 主事	中村 和代	調査企画者	〃 次長 川原 信義
調査指導助言者	鹿兒島県考古学会長	河口 貞徳		〃 主任文化財主事兼調査課長
	鹿兒島大学教授	下野 敏見		戸崎 勝洋
	鹿兒島大学教授	上村 俊雄		〃 主任文化財主事 新東 晃一
	鹿兒島大学助教授	西中川 駿	調査担当者	〃 文化財主事 中村 耕治
	鹿兒島大学助手	本田 道輝		〃 〃 下園 昌三
	平成5年度			〃 〃 富田 逸郎
調査主体者	鹿兒島県教育委員会			〃 文化財研究員 森田 郁朗
企画・調整	鹿兒島県教育庁文化課			〃 〃 八木澤一郎
調査責任者	鹿兒島県立埋蔵文化財センター			〃 〃 栗林 文夫
	所長	大久保忠昭	整理担当者	〃 文化財主事 繁昌 正幸
調査企画者	〃 次長	水口 俊雄	事務担当者	〃 主査 成尾 雅明
	〃 主任文化財主事兼調査課長			〃 主事 中村 和代
		戸崎 勝洋	調査指導助言者	鹿兒島県考古学会長 河口 貞徳
	〃 主任文化財主事	新東 晃一		東京大学教授 今村 啓爾
調査担当者	〃 文化財主事	中村 耕治		鹿兒島大学教授 上村 俊雄
	〃	〃 井ノ上秀文		鹿兒島大学助教授 森脇 広
	〃	〃 脇岡 隆夫		鹿兒島大学助教授 渡辺 芳郎
	〃	〃 下園 昌三		鹿兒島大学助手 本田 道輝
	〃 文化財研究員	八木澤一郎		文化庁調査官 松村 恵司
	〃	〃 栗林 文夫		奈良国立文化財研究所 猪熊 兼勝
	〃	〃 関 明恵		
整理担当者	〃 文化財主事	繁昌 正幸	平成7年度(報告書作成)	
事務担当者	〃 主査	成尾 雅明	主体者	鹿兒島県教育委員会
	〃 主事	中村 和代	企画・調整	鹿兒島県教育庁文化課
調査指導助言者	鹿兒島県考古学会長	河口 貞徳	責任者	鹿兒島県立埋蔵文化財センター
	慶応義塾大学名誉教授	江坂 輝彌		所長 内村 正弘
	国学院大学教授	小林 達雄	企画者	〃 次長 川原 信義
	岡山大学教授	稲田 孝司		〃 主任文化財主事兼調査課長
	鹿兒島大学教授	上村 俊雄		戸崎 勝洋
	鹿兒島大学教授	新田 栄治		〃 主任文化財主事 新東 晃一
	鹿兒島大学助教授	渡辺 芳郎	整理担当者	〃 文化財主事 中村 耕治

	〃	文化財研究員	八木澤一郎
	〃	〃	栗林 文夫
事務担当者	〃	主 査	成尾 雅明
	〃	主 事	追立ひとみ
遺物指導者		鹿児島県考古学会長	河口 貞徳

平成8年度（報告書作成）

主 体 者		鹿児島県教育委員会	
企画・調整		鹿児島県教育庁文化課	
責 任 者		鹿児島県立埋蔵文化財センター	
		所長	吉元 正幸
企 画 者	〃	次長	尾崎 進
	〃	主任文化財主事兼調査課長	
			戸崎 勝洋
	〃	主任文化財主事兼課長補佐	
			新東 晃一
	〃	主任文化財主事兼第1調査係長	
			立神 次郎
整理担当者	〃	文化財主事	中村 耕治
	〃	〃	富田 逸郎
	〃	文化財研究員	八木澤一郎
事務担当者	〃	主 査	成尾 雅明
	〃	〃	前屋敷裕徳
	〃	主 事	追立ひとみ
遺物指導者		鹿児島県考古学会長	河口 貞徳

以下、調査の経過は日誌抄にかえる。



平成3年度調査経過および調査概要

平成3年度は、第3工区全体にわたる確認調査を実施した。

調査月	調査概要・出土遺物	検出遺構	備考
4月 5月	工業振興課・鹿児島県開発公社と確認調査に係る協議・打ち合わせを行なう。		調査準備 { 伐採・グリッド杭 打ちは開発公社
6月	1トレンチ～4トレンチ確認調査  1・2トレンチ：遺物・遺構確認されず。 3トレンチ：Ⅲ層（土器片）Ⅵ層（土器片・石鏃・磨石） 4トレンチ：Ⅲ層（土器片）、Ⅵ層（土器片）		6月10日より調査を開始する。
7月	4トレンチ～14トレンチ確認調査  5トレンチ：Ⅵ層（土器片） 6トレンチ：Ⅵ層（土器片） 7トレンチ：Ⅲ層（土器片）、Ⅵ層（土器片・黒曜石） 8トレンチ：Ⅲ層（土器片）、Ⅵ層（土器片・黒曜石） 9トレンチ：Ⅲ層（土器片）、Ⅵ層（土器片） 10トレンチ：Ⅲ層（土器片）、Ⅵ層（土器片） 11トレンチ：Ⅲ層（土器片）	Ⅵ層に集石遺構	
8月	12トレンチ～17トレンチ調査  11トレンチ：Ⅵ層（土器片・黒曜石） 12トレンチ：Ⅲ層（土器片）、Ⅵ層（土器片） 13トレンチ：Ⅲ層（土器片）、Ⅵ層（土器片） 14トレンチ：Ⅵ層（土器片・黒曜石） 15トレンチ：Ⅴ層（土器片轟式？）、Ⅵ層（土器片） 16トレンチ：Ⅵ層（土器片） 17トレンチ：遺物・遺構確認されず。	陥し穴と思われる ピット 集石遺構	27日、国分市教育委員会の文化財ウォッチング事業の体験学習（26名）

調査月	調査概要・出土遺物	検出遺構	備考
9月	<p>18トレンチ～27トレンチ確認調査</p> <p>18トレンチ：遺物出土せず。</p> <p>19・20トレンチ：遺物・遺構確認されず。</p> <p>21トレンチ：Ⅵ層（土器片）</p> <p>22トレンチ：Ⅲ層（石斧）</p> <p>23トレンチ：遺物出土せず</p> <p>24トレンチ：Ⅵ層（土器片）</p> <p>25・26・27トレンチ：遺物・遺構確認されず。</p>	集石遺構？	19日、鹿児島大学助教授森脇広先生の指導を受ける。（地層について）
10月	<p>25トレンチ～35トレンチ確認調査</p> <p>28トレンチ：Ⅲ層（石鏃）</p> <p>29トレンチ：Ⅲ層（土器片），Ⅵ層（土器片）</p> <p>30トレンチ：遺物・遺構確認されず。</p> <p>31トレンチ：Ⅲ層（土器片），Ⅵ層（土器片）</p>		
11月	<p>28トレンチ～35トレンチ確認調査</p> <p>28トレンチ：Ⅵ層は遺物・遺構なし。</p> <p>31トレンチ：Ⅵ層（土器片）</p> <p>32・33・34・35トレンチ：遺物・遺構確認されず。</p>		確認調査は11月で終了。12月以降は全面調査に切り替える。
12月	<p>〇－8区（800㎡）の調査</p> <p>11月で確認調査を終了し、遺跡地の範囲が確定したので、平成3年度の残りは全面発掘調査に切り替えた。</p> <p>全面調査は、調査区のほぼ中央を東西に走る支線道路部分から始めるため、幅20m、長さ200mの表土剥ぎを行なう。</p> <p>〇－8区のⅢ・Ⅳ・Ⅴ層掘り下げ。古墳時代・縄文時代晩期の土器片が出土するが量は多くない。Ⅵ層掘り下げ。縄文時代早期の土器片が出土。</p>	<p>Ⅳ層上面で黒褐色土の落ち込みらしい部分が検出される。</p> <p>Ⅵ層において、集石遺構検出</p>	

調査月	調査概要・出土遺物	検出遺構	備考
1月	<p>○-8区, L-7・8区の調査</p> <hr/> <p>○-8区Ⅵ層掘り下げ。石鏃出土。</p> <p>開発公社の方からK・L・M・N-7・8区の調査を急いで欲しいとの要望があったため、12日よりそちらの調査に入る。K・L-7・8区の表土剥ぎ、Ⅲ・Ⅳ層及びⅥ層の調査。遺物・遺構は認められず。</p>	<p>○-8区Ⅳ層上面</p> <p>検出の落ち込みは陥し穴と思われる。</p>	<p>加世田市教育委員会の上東克彦氏が研修のため調査に参加する。(20日～23日)</p>
2月	<p>M・N-7・8区, ○-8・9区の調査</p> <hr/> <p>M・N-7・8区表土剥ぎ、Ⅲ層・Ⅳ層及びⅥ層の調査。表層中及びⅢ層中より土器片が出土するが細片のため時期は判別できない。</p> <p>○-8・9区は道路支線部分である。Ⅵ層中より縄文時代早期の土器片・石器が出土する。</p>		<p>12日～13日, 鹿児島県考古学会長の河口貞徳先生の指導を受ける。</p>
3月	<p>○-7・8・9区の調査(支線道路敷部分)</p> <hr/> <p>○-7区表土剥ぎ、Ⅲ層・Ⅵ層の調査。Ⅵ層より縄文時代早期の土器片・石器出土。</p> <p>○-8・9区, Ⅵ層の調査。Ⅵ層より縄文時代早期の土器片(平椀式土器)出土。石斧・石鏃・石匙出土。</p>		<p>26日, 平成3年度の調査を終了する。</p>

平成4年度調査経過および調査概要

平成4年度は、第3工区の西側30,000㎡を発掘調査対象とした。

(N・O・P・Q・R・S-5・6・7・8・9区)

調査月	調査概要・出土遺物	検出遺構	備考
4月	N~S-5~9区 N~S-5~9区のトレンチ調査。Ⅲ層上面までの掘り下げ。 O-7~9区中央部表土剥ぎ取り後、Ⅲ層掘り下げを行い調査終了。 土器片数点、石鏃出土。		4月20日より作業開始。 昨年度の調査を参考にしながら、トレンチでの調査を行なう。
5月	N~S-5~9区 N~S-5~9区のトレンチ調査継続。Ⅲ層上面までの掘り下げ終了。R-9区表土剥ぎ S-5区では黒曜石の剥片が集中する。 各トレンチから十数点の遺物が出土するが、全体的に稀薄である。土器片は小破片のため明確な形式・時期は不明。		
6月	P・Q・R-7・8・9区 P・Q・R-9区、Ⅳa層上面まで掘り下げ終了 イモ穴掘り下げ終了。 R-7区、Ⅳb層上面まで掘り下げ中。 R-8区、Ⅳb層上面まで掘り下げ終了。イモ穴掘り下げ終了。 Ⅲ層より市来式土器、Ⅳ層より曾畑式土器、石鏃・石匙出土。	P・Q・R-8・9区に、掘り込みが検出されるが、断ち割りによってようやく判断出来る。R-8区よりピット検出。R-7区より古道及び畑境検出。	
7月	O・P-9区、Q・R-5~9区、S-5区 O・P-9区、Q・R-5~8区、S-5区Ⅳa層まで掘り下げ。一部Ⅳ層地形図作成、遺物取り上げ。P-8区、表土剥ぎ終了。Ⅲ層掘り下げ。	Q・R-5~9区に古道及び畑境検出。	24日、国分南小学校教諭22名見学のため来跡。 31日体験学習「古代とのふれあい」実施。

調査月	調査概要・出土遺物	検出遺構	備考
8月	P-7区, Q-5~9区, R・S-5・6区 ..... Q~S-5・6区, II~IV a層掘り下げ, 遺物取り上げ, 地形図作成。Q-7~9区, III~IV a層遺物取り上げ。P-7区, III・IV a層掘り下げ。	P・Q・R-9区に掘り込み検出。断ち割りにより遺構か否かを判断。	3日, 国分市小・中学校初任者研修のため20名来跡。
9月	N・O-8・9区, Q-8~9区 ..... N~O-8~9区, III層掘り下げ。O-8~9区IV層掘り下げ終了し, コンター実測。P-6区, III層掘り下げ終了。Q-8区, IV層掘り下げ。Q-9区, 掘り込み検出。測量, 掘り下げ, 写真撮影。R-9区, V層をコンボにより除去後, VI層掘り下げ。平椀式土器・塞ノ神式土器, 石斧・磨石出土。	Q-8区に掘り込み遺構検出。陥し穴の可能性。R-9区より, 集石遺構計5基検出。また, チップ集中域及び破碎礫集中域検出, 石器製作所跡の可能性あり。	16日, 健康講座。 17日, 遺跡内安全点検実施。
10月	O-6~9, Q-7~9, R-9, S-9区 ..... O-6・7区, P-7区, IV層コンター実測。P-9, Q-7~9区, 掘り込み断面実測。O-8区, 掘り込み掘り下げ, R-8・9区, VI層掘り下げ。R-9区, VII層掘り下げ, 遺物取り上げ, 地形図作成。集石実測。S-5区, IV a層掘り下げ。S-9区, 表土剥ぎ, 掘り下げ後IV層地形図作成。	O-7・8区より掘り込み遺構, O-9区, 集石遺構検出。R-8区からは, 集石遺構及びチップ集中域を確認, 掘り下げ, 実測。S-9区, 掘り込み検出。	13日, 鹿児島県考古学会長河口貞徳先生の現地指導を受ける。 27日, 鹿児島大学農学部西中川駿先生の現地指導。
11月	O・P-8・9区, Q-5~9区, R-7~9区 ..... O・P-8・9区, 遺構実測終了。Q-5・7区掘り込み遺構実測及び集石遺構検出, 掘り下げ, 実測。Q-9区, 重機によりV層まで除去後, VI層掘り下げ, 集石・チップ集中域検出。R-7・8区VII層掘り下げ終了。R-9区, 集石遺構実測。 S-5区チップ集中域。黒曜石チップ・石鏃出土。	Q-9区, チップ集中域(石器製作跡と推定)検出, 掘り下げ。	5日, 空中写真撮影 19日, 技術研修講座研修生23名来跡。 吾平町婦人部来跡。



調査月	調査概要・出土遺物	検出遺構	備考
12月	<p>O・P-8・9区, Q-7~9区, S-5~7区</p> <p>.....</p> <p>O-8・9区, VII層集石遺構実測終了。調査終了。OP-8区, VI層掘り下げ終了。P-9区, V層の除去。Q-7区, V層を重機により除去。Q-9区, VI層・VII層掘り下げ, 遺物取り上げ。R-7~9区, 集石遺構実測及びVII層掘り下げ。R-7・8区, 調査終了。S-5区, 掘り下げ。S-7区, IV層地形図作成。S-6・7区, IV層掘り込み検出。</p>	<p>O-8区集石遺構, Q-9区集石遺構 及び石器製作跡検 出。</p>	<p>24日, 鹿児島大学上村俊 雄先生, 本田道輝先生, 現地指導。</p>
1月	<p>O-9区, P-6・7区, Q-6~9区, S-9区</p> <p>.....</p> <p>O-9区, 重機によりV層・VI層除去。P-6・7区, 掘り込み遺構掘り下げ, 断面実測。P-9区, V層を重機で除去。Q-6・7区, 掘り込み断面実測。Q-7~9区, VI層・VII層掘り下げ。S-9区, VII層を重機で除去。</p>	<p>集石遺構, Q-9 区, 掘り込み遺構, O-9, P-6・ 7, Q-6・7・ 9, R-6, S- 5区。</p>	<p>12日, 空中写真撮影 11~14日, 長期研修生実 習。14日, 鹿児島大学名 誉教授下野敏見先生現地 指導。</p>
2月	<p>P-6~8区, Q-8・9区, R-5・6区, S-5区, S-7~9区</p> <p>.....</p> <p>P-6・7区, 掘り込み実測, 写真撮影終了。P-8区, V層の除去。Q-8・9区, 集石遺構実測。VII層掘り下げ, 遺物取り上げ。R-5区, VI層除去, 断面実測。R-8区, 掘り込み遺構写真撮影。S-5区, 下層トレンチ掘り下げ, 写真, 実測。S-9区, 下層トレンチ。</p>	<p>R-5区のVIII層か ら集石遺構検出。 掘り込み遺構の写 真・実測・半裁な ど。Q-8・9区 より集石遺構。Q- 8区より, チップ 集中域検出。</p>	<p>24日降雪の中, 調査を行 なう。</p>
3月	<p>O・P-9区, Q-8・9区, R・S-5~9区</p> <p>.....</p> <p>O-9区, 東壁断面実測。P-9, Q-8区, 残り部分掘り下げ, 遺物取り上げ。Q-9区, チップ取り上げ。R-7~9区, S-6・7区VI層除去VII層地形図作成。調査終了。</p>	<p>P-9, Q-8, R-5・6区集石 遺構実測。R-8・ 9, S-6~8区, 掘り込み遺構の半 裁, 写真, 実測</p>	<p>24日, 向山文化課長来訪。 15日, 大雨。</p>

平成5年度調査経過および調査概要

平成5年度は、第3工区の中央30,000㎡を発掘調査対象とした。

(O・P・Q・R・S-10・11・12区)

調査月	調査概要・出土遺物	検出遺構	備考
4月	O・P・Q・R-10区  O・P・Q・R-10区の表土剥ぎ。 Q・R-10区、Ⅲ層・Ⅳ層掘り下げ。Ⅲ層より縄文時代後期の土器。Ⅲ・Ⅳ層上部より縄文早期の平椀式土器・石鏃・スクレイパー出土。	落ち込み検出。	4月22日から作業を開始する。  Ⅲ・Ⅳ層より縄文早期の遺物が出土するが土層の横転等が原因ではないか？
5月	O・P・Q・R-10区  O・P-10区、Ⅲ・Ⅳ層掘り下げ。Ⅲ層・Ⅳ層上部より平椀式土器出土。 Q・R-10区、Ⅳ層上面精査。R-10区の一部はⅣ層・Ⅴ層掘り下げに入る。	Q-10区に10基・ R-10区に2基の 落ち込み検出。	
6月	O・P・Q・R-10区  O・P・Q-10区、Ⅳ層上面において検出された落ち込みの掘り下げ。落ち込みは深くなるものがあり、陥し穴ではないかと思われる。 R-10区、Ⅵ層掘り下げ。遺物の量が多い。平椀式土器・塞ノ神式土器・石鏃・スクレイパー・石斧等が出土。	O・P・Q-10区 に陥し穴と思われる 落ち込み。 R-10区に集石遺 構	
7月	O・P・Q・R-10区、O・P-11区  O・P・Q-10区、Ⅳ層上面検出の陥し穴状落ち込み掘り下げ。 R-10区、Ⅵ層掘り下げ。遺物の量が多い。 O・P-11区、表土剥ぎ。Ⅲ層・Ⅳ層掘り下げ。 縄文後期と思われる土器片、石斧出土。	落ち込み  O-10区：6基 P-10区：2基 Q-10区：4基 R-10区：集石遺 構 5基	



調査月	調査概要・出土遺物	検出遺構	備考
8月	<p>Q・R-10区, P・Q-11区の調査</p> <p>Q・R-10区, VI層掘り下げ。遺物の量が多くなかなか進まない。縄文時代早期の土器・石器(石鏃・石匙・スクレイパー・石斧・環状石斧・石皿・磨石)</p> <p>P・Q-11区, 表土剥ぎ。III・IV層掘り下げ。IV層上面において落ち込み検出。</p>	<p>R-10区, 集石遺構 17基</p> <p>Q-10区, 集石遺構 1基(現在)</p>	<p>長雨や集中豪雨による道路決壊のため作業の出来る日が極端に少なく, 作業がはかどらない。</p>
9月	<p>O・P・Q・R-10区, O・P-11・12区の調査</p> <p>Q・R-10区, VI層下部掘り下げ。遺物多い。</p> <p>Q-10区において土偶出土。</p> <p>O・P-11区, IV層上面検出の落ち込み掘り下げ</p> <p>O・P-12区, 表土剥ぎ。III・IV層掘り下げ。</p> <p>P-12区において2間×2間の掘立柱建物跡検出。</p>	<p>落ち込み(陥し穴)</p> <p>Q-11区, 2基</p> <p>P-11区, 6基</p> <p>掘立柱建物跡1基</p>	<p>9日, 鹿児島県考古学会長の河口貞徳先生の現地指導。</p> <p>戦後最大級の台風13号来襲。プレハブの屋根一部損壊。</p>
10月	<p>O・P・Q・R-10区, O・P-11・12区の調査</p> <p>Q・R-10区, 掘り下げ終了。集石遺構の実測と空中写真のみ。</p> <p>O・P-10・11・12区, VI層掘り下げ。平椀式土器が出土, 量は少ない。</p>	<p>集石遺構</p> <p>P-10区, 2基</p> <p>O-10区検出の陥し穴を10cm間隔でスライスして断面観察を重点に調査。</p>	<p>18・19日, 岡山大学教授稲田孝司先生現地指導。</p>
11月	<p>O・P-10・11・12区, Q-11区, S-10区の調査</p> <p>O・P-10・11・12区, VI層掘り下げ。縄文早期の遺物出土。P-12区の一部はIV層掘り下げ。陥し穴状の落ち込み検出。</p> <p>Q-11区, IV層上面で落ち込み3基検出。VI層掘り下げ, 縄文早期の遺物出土。</p> <p>S-10区, 表土剥ぎ。IV層掘り下げ, 遺物は少ない。VI層掘り下げ, 環状石斧・耳栓をはじめ遺物が多い。</p>	<p>陥し穴</p> <p>P-12区, 3基</p> <p>Q-11区, 5基</p> <p>S-10区, 4基</p> <p>集石遺構</p> <p>P-12区, 4基</p>	<p>12日, 鹿児島大学教授上村俊雄先生・同助手本田道輝先生の指導を受ける。</p> <p>13日, 現地説明会。</p>

調査月	調査概要・出土遺物	検出遺構	備考
12月	<p>P-11区, Q-11・12区, R-11・12区の調査</p> <p>Q-11区, VI層掘り下げ。縄文早期の遺物多し。</p> <p>Q-12区, IV層上面検出の落ち込み掘り下げ。</p> <p>一部VI層掘り下げ。縄文早期の平椀式土器多く出土。また、石器も種類・数とも多い。耳栓・土製品出土。</p> <p>R-11・12区, 表土剥ぎ。III・IV層掘り下げ。</p> <p>R-12区, III層上面において探照灯（戦時中のサーチライト）検出。IV層面の落ち込み掘り下げ。</p>	<p>陥し穴</p> <p>Q-12区, 7基</p> <p>R-11区, 2基</p> <p>R-12区, 2基</p> <p>集石遺構</p> <p>Q-11区, 5基</p> <p>探照灯</p> <p>R-12区</p>	3日, 作業員健康診断
1月	<p>Q-11・12区, R-11・12区, S-10区の調査</p> <p>Q-11・12区, VI層掘り下げ。遺物多し。</p> <p>R-11・12区, IV層上面検出の落ち込み掘り下げ。</p> <p>探照灯の掘り下げ, 実測。</p> <p>S-10区, VI層掘り下げ。遺物が多い。</p>	<p>集石遺構</p> <p>S-10区, 3基</p>	
2月	<p>Q-11・12区, R-11区, S-11・12区の調査</p> <p>Q-11・12区, VI層掘り下げ。遺物の出土量が多く, 土器・石器の他に耳栓・用途不明の土製品・小型土器等が出土。</p> <p>R-11区, VI層掘り下げ。縄文時代早期の土器・石器・環状石斧・耳栓等が出土。南側においては遺物の出土量が著しく少なくなる。</p> <p>S-11・12区, IV層掘り下げ。</p>	<p>集石遺構</p> <p>Q-12区, 1基</p> <p>探照灯</p> <p>S-11 (R-12の探照灯と同様のものである)</p>	<p>熊本市立博物館学芸員の富田紘一氏に現地指導を受ける。</p> <p>慶応義塾大学名誉教授江坂輝彌, 河口貞徳各先生の指導を受ける。</p> <p>国学院大学教授小林達雄先生の現地指導を受ける。</p>
3月	<p>R-12区, S-11・12区の調査</p> <p>R-12区, S-11・12区, VI層掘り下げ。埋納の壺形土器11点出土。異形石器出土。石斧デポ検出。</p> <p>遺物の出土は完形壺が出土する割に土器片等の量が少なくなる。</p>	<p>埋納壺形土器</p> <p>R-12区, 4</p> <p>S-11区, 9</p> <p>S-12区, 2</p> <p>石斧埋納遺構</p> <p>R-12区, 1基</p> <p>S-12区, 3基</p>	<p>鹿児島大学上村俊雄・渡辺芳郎・本田道輝各先生現地指導</p> <p>29日作業終了。</p>



平成6年度調査経過および調査概要

平成6年度は、第3工区の東側30,000㎡を発掘調査対象とした。

(O・P-13・14・15・16区, Q-13・14・15区, R-13・14区)

調査月	調査概要・出土遺物	検出遺構	備考
4月	P・Q・R-13区の調査 表土剥ぎ。Ⅱ層・Ⅲ層掘り下げ。土器小片出土。	陥し穴 P-13区, 6基	4月25日から作業を開始する。
5月	P-13・14区, Q-13・14区, R-13区の調査 P-13区, 陥し穴と思われる落ち込み掘り下げ。 P-14区, Ⅱ層中より土師器の坏出土。掘立柱建物跡, 竪穴住居跡が検出される。 Q-13区, Ⅳ層掘り下げ。落ち込み検出。 Q-14区, Ⅳ層掘り下げ。一部Ⅵ層掘り下げ。Ⅵ層では, 平椀式土器などが多量出土。 R-13区, Ⅳ層掘り下げ。落ち込み検出。	陥し穴 Q-13区, 8基 (やや浅い掘り込みである) R-13区, 3基 竪穴住居跡 P-14区, 1基 掘立柱建物跡 O・P-14区, 3棟	
6月	O・P・Q-13・14区の調査 O-13区, 表土剥ぎ, 弥生時代の竪穴住居検出。 P-13区, 陥し穴掘り下げ。深さが3mにもなると思われる。 P-14区, 竪穴住居掘り下げ。遺物は少ないが, 古墳時代の土器である。 Q-13区, 陥し穴掘り下げ。東側半分はⅥ層掘り下げ。遺物が多く出土する。 Q-14区, Ⅵ層掘り下げ。平椀式土器・塞ノ神式土器・環石・石斧・石鏃等出土。	陥し穴 P-14区, 6基	1日, 教育次長視察。 文化庁の西田健彦調査官来跡。
7月	O-13・14区, Q-13・14区, R-13区の調査 O-13区, Ⅵ層掘り下げ。遺物は少ない。 O-14区, 表土剥ぎ。Ⅳ層掘り下げ。 Q-13・14区, Ⅵ層掘り下げ。遺物が多い。 R-13区, Ⅵ層掘り下げ。終了する。	集石遺構 O-13区, 2基 Q-14区, 15基 Q-13区, 5基 R-13区, 5基	文化庁の岡村道雄調査官来跡。 30日「古代とのふれあい」体験学習実施。

調査月	調査概要・出土遺物	検出遺構	備考
8月	<p>O-13・14区, P-14区, Q-13・14・15区の調査</p> <p>.....</p> <p>O-13・14区, VI層掘り下げ。遺物は、わずかしか出土しない。終了。</p> <p>P-14区, 掘立柱建物跡実測。</p> <p>Q-13・14区, VI層掘り下げ。遺物が多い。</p> <p>Q-15区, 表土剥ぎ。IV層上面で落ち込み検出。</p>	<p>集石遺構</p> <p>Q-13区, 8基</p> <p>陥し穴</p> <p>Q-15区, 4基</p>	
9月	<p>O-13区, P-15・16区, Q-13・14・15区の調査</p> <p>.....</p> <p>O-13区, 弥生時代の竪穴住居掘り下げ。</p> <p>P-15・16区, III・IV層掘り下げ。掘立柱建物跡2棟検出。縄文後期と思われる土器片出土。</p> <p>Q-13・14区, VI層掘り下げ。終了する。</p> <p>Q-15区, 表土剥ぎ。IV層上面において, 落ち込み検出。</p>	<p>掘立柱建物跡</p> <p>P-15区, 2棟</p> <p>陥し穴</p> <p>Q-15区, 3基</p>	8日, 河口貞徳先生現地指導。
10月	<p>O-15・16区, P-14・15区の調査</p> <p>.....</p> <p>O-15・16区, 表土剥ぎ, III・IV・V・VI層掘り下げ。遺物の出土は少ない。終了。</p> <p>P-14・15区, 北側のVI層掘り下げ。遺物は少ない。集石遺構検出。</p>	<p>集石遺構</p> <p>P-14区, 1基</p> <p>P-15区, 1基</p>	<p>18日, 文化庁の松村恵司調査官現地指導。</p> <p>26日, 健康診断</p> <p>27日, 鹿児島大学上村俊雄・渡辺芳郎・本田道輝各先生現地指導。</p>
11月	<p>N-14・15区, P-14・15区, Q-15区の調査</p> <p>.....</p> <p>N-14・15区, 表土剥ぎ, III層～VI層掘り下げ。III・IV層・VI層共に出土遺物は少ない。</p> <p>P-14・15区, 両方の区とも北側半分をVI層掘り下げ。遺物の出土量は少ない。北側は終了。</p> <p>Q-15区, IV層上面検出の陥し穴掘り下げ。</p>		24日, 東京大学今村啓爾先生現地指導。

調査月	調査概要・出土遺物	検出遺構	備考
12月	<p>P-14・15・16区, O-15・16区の調査</p> <p>P-14・15区, 両方の区共に南側半分のVI層掘り下げ。遺物の出土量は少ない。集石遺構検出。</p> <p>P-16区・O-15・16区, 3つの区にわたって検出された掘立柱建物跡の掘り下げ, 実測。</p>	<p>集石遺構</p> <p>P-14区, 1基</p> <p>P-15区, 3基</p> <p>掘立柱建物跡</p> <p>P-16区・O-15・16区, 2棟</p>	
1月	<p>P-14・15・16区, O-15・16区の調査</p> <p>P-14・15区, VI層掘り下げ。</p> <p>P-16区・O-15・16区, VI層掘り下げ。遺物はほとんど出土せず。</p>		
2月	<p>P-11・12区の調査</p> <p>昨年度の調査区であるが, 陥し穴が検出されたため今年度検出されたものと同時に空中写真を撮影するために残してあった部分の掘り下げを今月から実施する。</p> <p>VI層掘り下げ。遺物の出土量は少ない。集石遺構検出。</p>	<p>集石遺構</p> <p>P-12区, 1基</p>	
3月	<p>O-11・12区, P-11・12区の調査</p> <p>O-11・12区, VI層掘り下げ。遺物の出土量は極端に減少する。</p> <p>P-11・12区, VI層掘り下げ。遺物の出土量は少ない。断面実測用に残してあったベルト部分の調査。</p>		<p>22日, 奈良国立文化財研究所の猪熊兼勝先生, 河口貞徳先生現地指導。</p> <p>24日, 作業終了。</p> <p>第3工区の調査を全て終了する。</p>



## 第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

### 第1節 遺跡の位置

上野原遺跡は、鹿児島県のはぼ中央、西の薩摩半島と東の大隅半島との付け根に位置する国分市の南東部にある。北側は韓国岳や高千穂峰などを主とする火山活動に起源を持つ霧島連山や、シラスを基盤とする台地が広く覆い、南側は霧島方面からの大小河川の流水作用により形成された沖積平野である国分平野が本県屈指の稲作地帯として広がっている。また、国分市とその南の沖に浮かぶ桜島との間の鹿児島湾北部は、本県を広域に厚く覆っているシラスの噴出源として著名な始良カルデラである。

このシラスは粒子の細かい砂質であるため、流水作用により侵食を受けやすく、台地は侵食・崩壊を繰り返し、起伏の大きな地形を形成している。加えて、地味は極端に痩せており、シラス台地の上の耕地も生産性が高いとは言えず、水も得にくいことから決して住みやすい所とは言えなかった。近世になって甘藷が栽培されるようになって、台地上でも安定した生活ができるようになってきている。

国分市は、713年（和同6年）に国府が置かれ大隅国の中心地として発展の基礎ができた。また、その後、1604年（慶長9年）に島津義久が舞鶴城に入り、この地を治めた。そのため、市内各所に数多くの史跡や遺跡が残っている。

上野原遺跡は、国分市街地を北西に見下ろす標高約250mの上野原台地全体に広がっている。この台地は、国分上野原テクノパークの建設地として造成工事が行なわれ、第1工区から第4工区に区画されている。全体としては、南側が高く、北側に向かってやや傾斜をもって下っている。総面積は、ゆうに100haを越し、南東側の狭隘部を経て、再び台地が牧ノ原方面へと繋がっている。

第3工区は、上之段水ヶ迫他にあり、台地の真ん中を西に走る道路の南側で、中央部にあるロータリーの東側を占める。上野原台地の中でも最も眺望の利く一角である。南側には眼下に鹿児島湾を隔てて遠くに桜島を望み、北側は霧島の秀麗な峰々が雄大な景観を見せている。

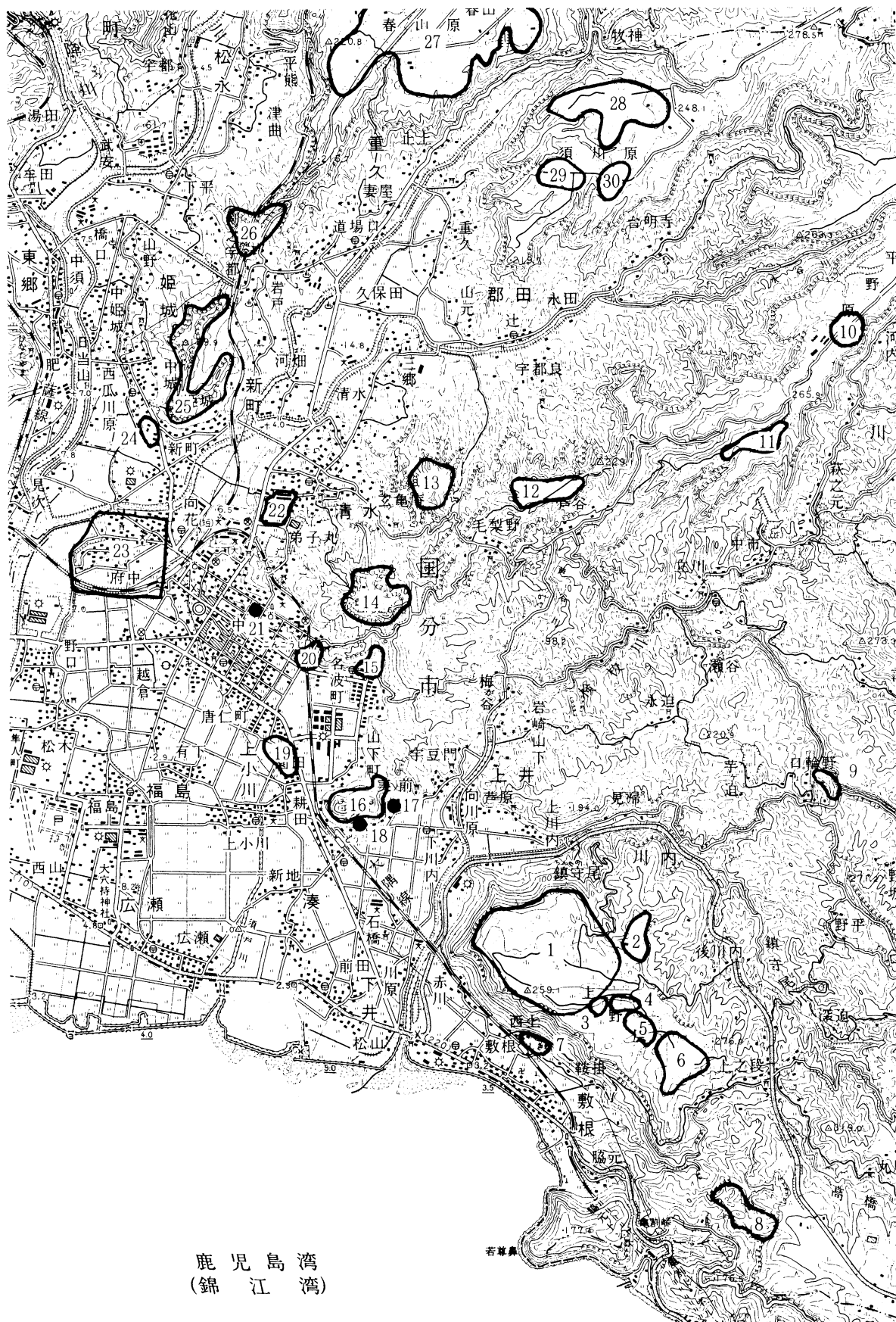
### 第2節 周辺の遺跡

国分市には、平成11年度現在で、74の遺跡が確認されている。旧石器時代の遺跡は発見されていないものの、近隣の福山町や末吉町、溝辺町などで見つかることから、将来、発見される可能性がある。それに対して、縄文時代になると県内にはさほど多くない貝塚を始め、多くの遺跡が現れて来る。早期では本遺跡の中心をなす平椀式土器の指標となる平椀貝塚がある。また、隣接する中畑貝塚からは押型文土器が、北側に約2km離れた城山山頂遺跡からは吉田式土器が見つかるほか、本遺跡からは塞ノ神式土器が出土し、前期では曾畑式土器が確認された。晩期には、黒川式土器が妻山元遺跡とともに、上野原遺跡からも掘立柱建物跡1基、ドングリピット4基などに伴って出土している。

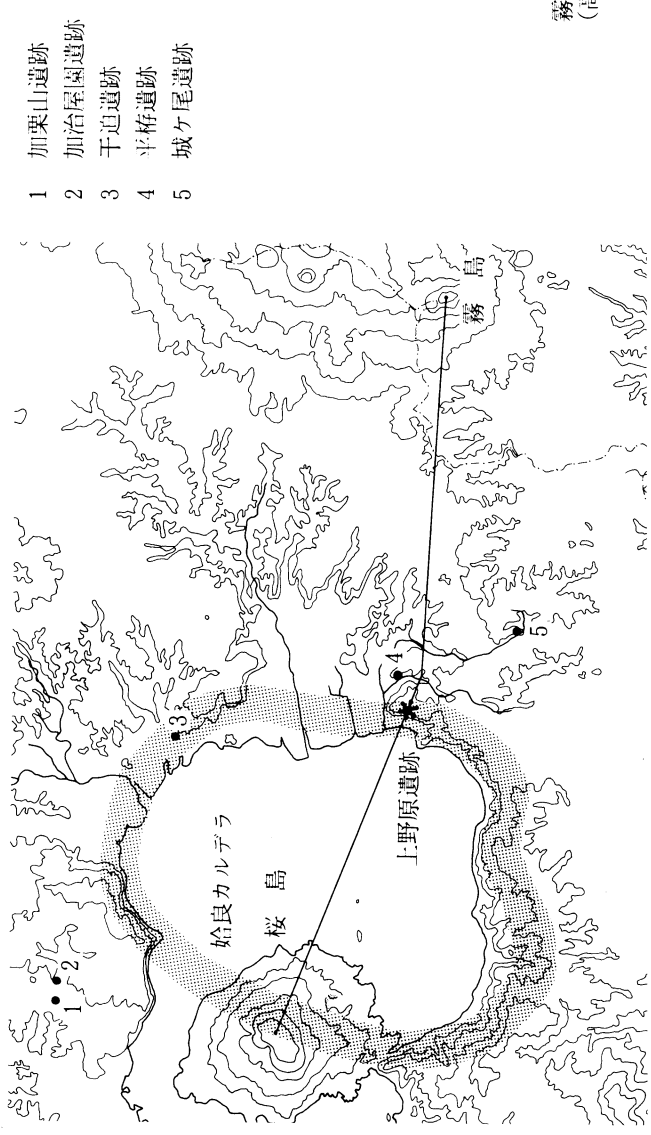
弥生時代の遺跡は口輪野遺跡・園田遺跡・こがの杜遺跡などがあるものの、発掘調査が行なわれていないため、詳細は不明である。その中であって、本遺跡の第1工区から中期後半～後期前半の山ノ口式土器などが間仕切りを持つ竪穴住居跡や棟持ち柱付き掘立柱建物跡などと共に出土している。また山ノ口式土器と共に出土した中溝式土器も含めて、それぞれの地域の編年に重要な位置を占めることになる可能性がでてきている。

古墳時代の遺跡は、多く見られる。本遺跡を含めて周辺でも非常に多く、市内の至る地域に分布しているといつて良い。ただ、この時期の遺跡は平野部よりもそれを見下ろす台地上に多く位置する傾向が窺える。昭和52年に調査が行なわれた城山山頂遺跡からは、在地性の成川式土器とともに布留式土器も出土しており、畿内勢力の浸透と在地勢力のあり方など非常に興味を持たれるところである。そのすぐ麓に位置する昭和59年に調査が行なわれた妻山元遺跡からも住居跡が見つかる。

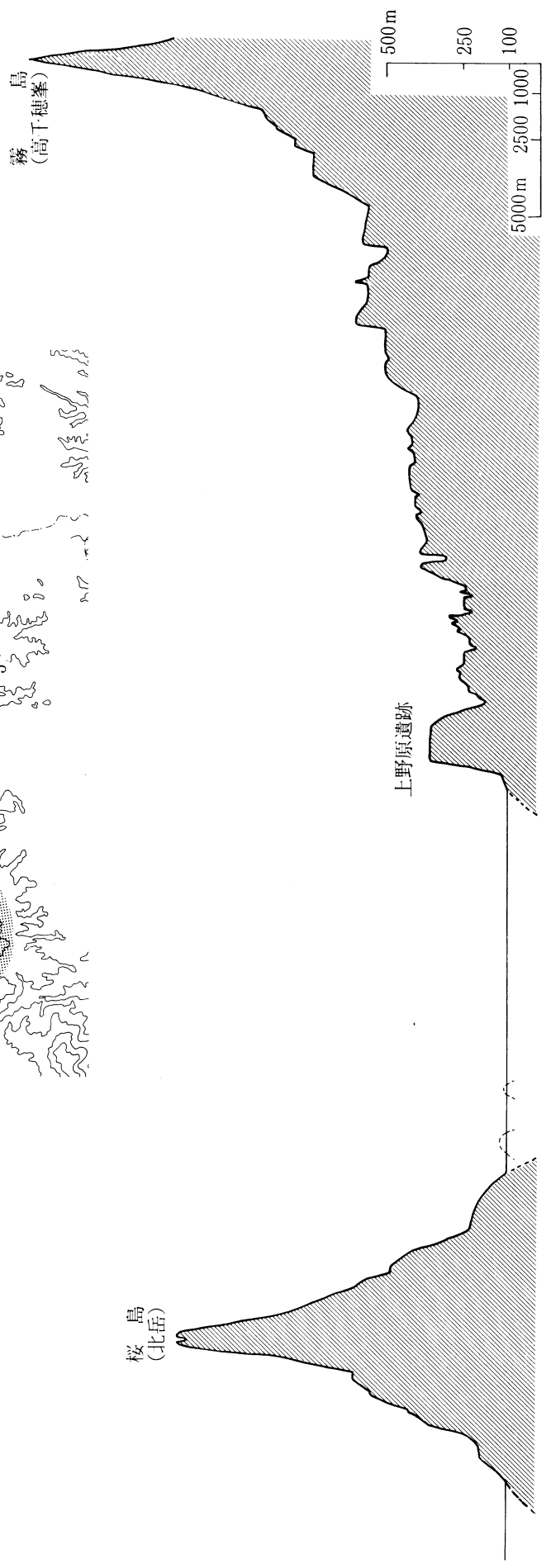
奈良・平安時代になると、大隅国の国府が置かれ国分寺等も創られる。国府跡は府中に置かれた可能性が高いものの、計画的な調査は行なわれておらずまた、国分寺跡も石塔が史跡に指定されているのみであり、今後の解明が待たれる。中世の城跡の調査も、今後の課題である。



第1図 周辺遺跡

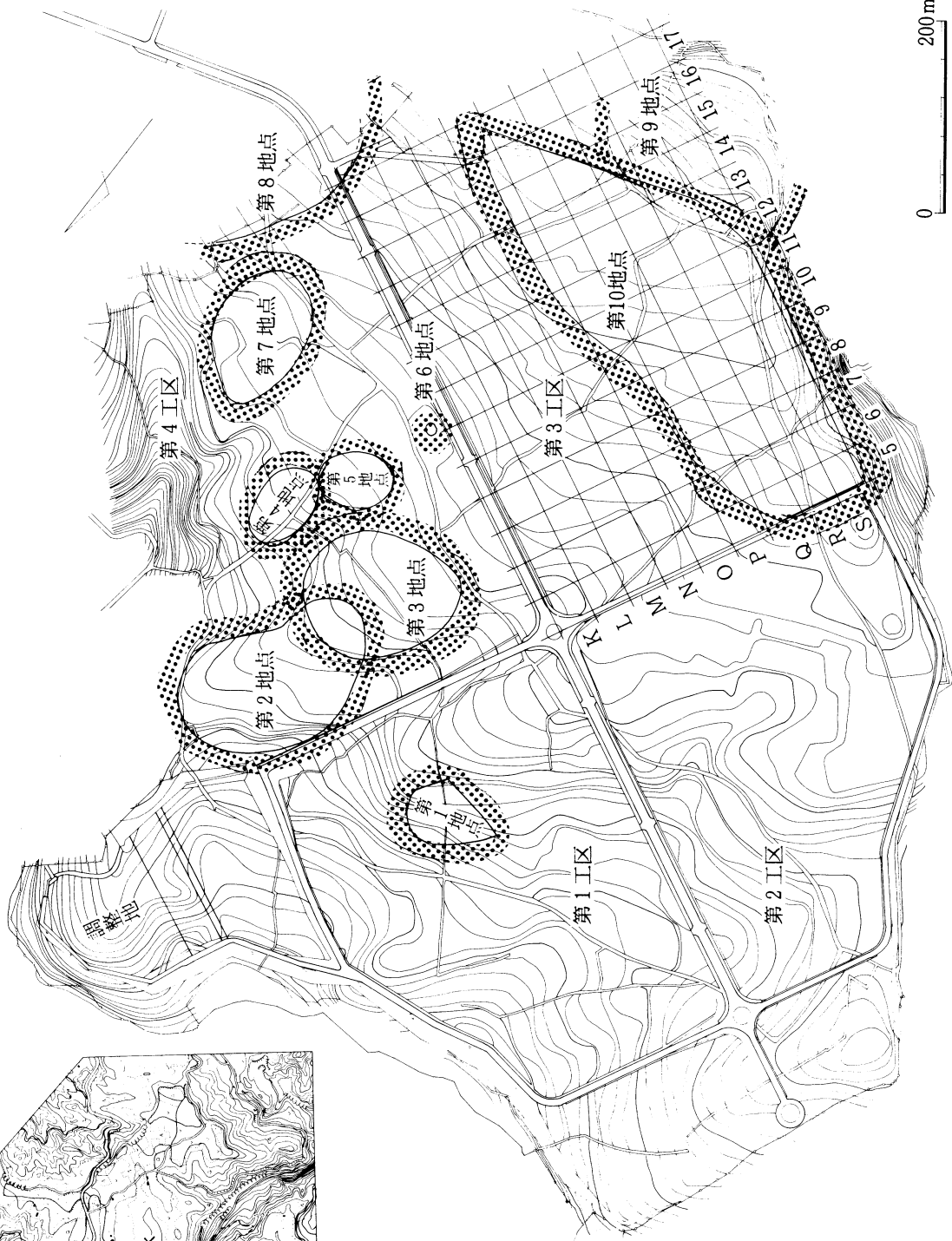
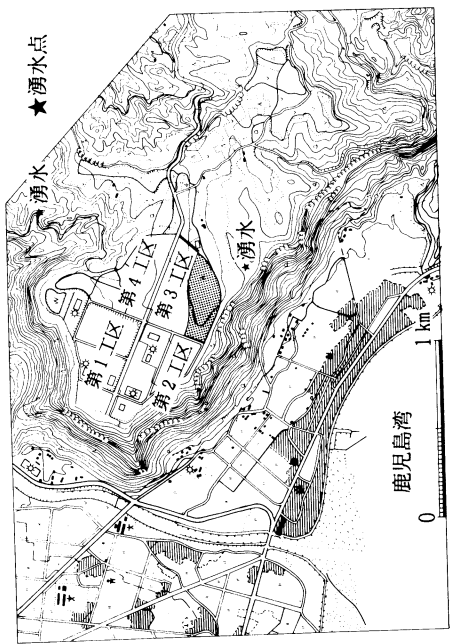


- 1 加栗山遺跡
- 2 加治屋園遺跡
- 3 干迫遺跡
- 4 平梶遺跡
- 5 城ヶ尾遺跡



第2図 霧島・桜島地形断面図





第3図 上野原台地周辺地形図及び上野原テクノパーク旧地形・テクノパーク内遺跡分布図

遺跡地名表

〔凡例 縄；縄文，弥；弥生，古；古墳，歴；奈良・平安，中世；鎌倉・室町〕

番号	遺跡名	所在地	時代	備考
1	上野原	上之段字水ヶ迫ほか	縄・弥・古	本報告
2	鍋迫	上之段鍋尾	縄・古	成川式
3	堂ヶ尾	上之段堂ヶ尾	古	成川式
4	水ヶ迫	上之段水ヶ迫	古	成川式・土師器
5	中原	上之段中原	古	成川式・土師器
6	藤ヶ尾	上之段藤ヶ尾	古	成川式・土師器
7	大王坂	敷根大王坂	古・歴	土師器・青磁
8	敷根城跡	敷根	中世	長尾城・『地理纂考』
9	口輪野	川内口輪野	弥	
10	下外戸	川原下外戸	古	成川式
11	鷹原	川原鷹原	古	成川式
12	白蔵原	川原白蔵原	古	成川式・土師器
13	清水城跡	清水外城	中世	禿倉・通路
14	城山山頂	上小川新城	縄・古・歴	吉田式・布留式・須恵器 昭和52年3月調査
15	大平	上小川大平	弥	
16	上井城跡	上井一条	中世	『国分擬古記地誌』
17	中囲貝塚	上井一条	縄（前）	押型文・石器・人骨等
18	平楯	上井一条	縄（前）	平楯式
19	園田	上小川園田	弥	
20	妻山元	中央2丁目	縄・古	黒川式・成川式・須恵器 昭和59年市教委調査
21	大隅国分寺跡	中央1丁目	歴	瓦・層塔・自然形塔婆 国指定史跡
22	智尾岡	清水弟子丸本町？	弥	勾玉出土・『清水村史』
23	大隅国跡	府中亀ノ甲	歴	瓦
24	こがの杜	姫城木ヶ森	弥	
25	姫木城跡	姫城城山	中世	
26	橘木城跡	重久吉永	中世	骨壺・経筒・禿倉・墓 『東襲山村史』
27	内野々	重久内野々	縄・古	土器・成川式・須恵器
28	星熊原	重久星熊原	古	成川式・土師器
29	立山原	重久立山原		
30	白蔵原	重久白蔵原	古	成川式・土師器

## 参考・引用文献

『上野原遺跡』 1997年11月 鹿児島県立埋蔵文化財センター (第四工区)

## 参考資料

参考資料として、国分市にこれまで発掘調査の行なわれた3遺跡について概要を述べる。

# 国府（小路）遺跡

国府（小路）遺跡は、国分市中央一丁目1930外30筆（大字向花 小字小路）に所在する。遺跡地は国分市街地の北側に位置しており、後に鼻連山（通称ハナヅラセコ）標高43.2m、愛宕山（通称アタゴヤマ）標高62.7mを控え、南側は鹿児島湾に面した沖積平野へと広がる標高12～14mの微高地上に占地する。

本遺跡地は、以前から大隅国分寺に関連すると考えられる布目瓦片が出土するとの報告のある場所であり、所在する場所から見ても、大隅国分寺跡と国府（推定地）の中間地点に立地している。

そのため、発掘調査は、遺物包含層の確認と、それに伴う遺構の検出を主眼において調査をおこなった。

遺跡周辺は、宅地建設や植木などの植生、移植等によって攪乱・削平を受けており、既設道路の大部分は道路建設時に法面のカットや路床の床掘りのため、おおかたの自然地形は損なわれていた。このような状況のため遺跡の遺存度は必ずしも十分ではなかったが、調査を進めるうちに奈良・平安時代、江戸時代の遺構を検出し、それに伴って遺物も出土した。

発掘調査によって検出した遺構には溝状遺構20条および土坑2基がある。このうち、溝状遺構は検出状況や出土遺物から見て、何らかの意味で大隅国分寺に関する遺構であることが明らかとなった。また遺構の時期から見ても、軒丸瓦や軒平瓦といった出土遺物によって大隅国分寺跡、鍛冶屋馬場遺跡で検出した溝状遺構と同時期であることが判明した。しかし、時代の特定については、①大隅国分寺の建立時期が不明であること、②土師器・須恵器等の土器

類の出土例が極端に少なかったことから、明らかにすることはできていない。また、遺構の性格についても、既設の道路部分が削平されていたこと、検出面がわずかで遺構の広がりを確認することができなかったことなどから、明らかにすることができなかった。

調査区からはこの他に、江戸時代末期の頃と思われる土坑5基と井戸1基を検出した。土坑は出土遺物から見て、ゴミ穴の性格を持つものである。

次に、出土遺物についてであるが、軒丸瓦・軒平瓦については、鍛冶屋馬場で出土した瓦と同類のもので、これに先行するものや後続すると考えられるものは確認できなかった。瓦はこの他にも丸瓦、平瓦、熨斗瓦が出土した。

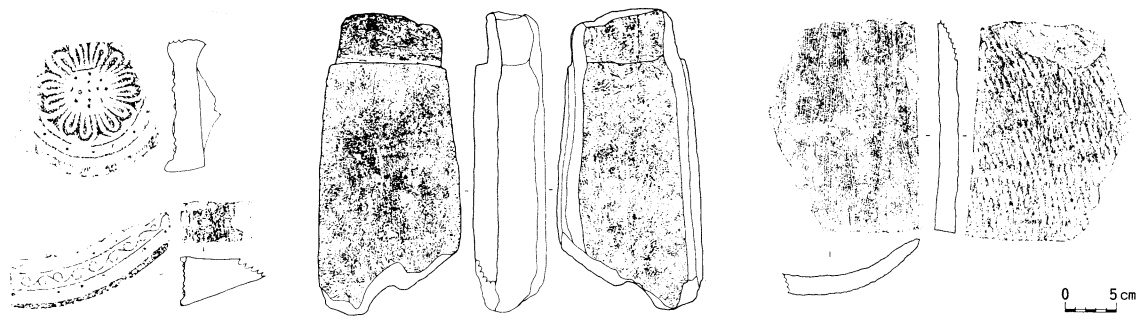
土師器、須恵器については、今後の調査の指標となるべく、形態と法量の面からの分類を試みようとしたが、完形品が少なかったことと、良好な形態を保つ遺構からの出土が少なかったことから、編年には至らなかった。

遺物はこの他に、江戸時代の遺構から青磁、染付、瓦器（摺鉢）、棧瓦の出土をみた。

本調査で、遺構が広がることについては明らかとなったものの、性格については不明のままである。

## 参考・引用文献

『国府（小路）遺跡』 1985年10月 国分市教育委員会  
〔第Ⅱ章 調査の位置と環境 第1節 遺跡の位置 および 第Ⅳ章 まとめ の文章をまとめる形で引用した〕



第4図 国府（小路）遺跡出土遺物

## 城山山頂遺跡

城山山頂遺跡は国分市上小川字新城にあり、国分平野の東端中央部に突出した標高192.6mの山塊の頂上平坦部に位置し、大隅国の中枢部であった国分平野を一望のもとに見渡すことができる天然の要害上に立地した遺跡である。現在、国分市の都市公園城山公園となっているが、遺跡の大半は公園の芝生の下に眠っている。国分平野は天降川（新川）・検校川によって形成された沖積平野で、広さ約1,500ヘクタールの鹿児島湾沿岸最大の平野であり、その昔城山の山麓近くに国府・国分寺が設置された大隅国の中心地であった。

城山山頂遺跡は、その字義どおり、島津家第16代島津義久の居城であった舞鶴城跡背後の山の頂に所在する。国分平野の東端部に屹立する半独立山塊は現在眺望絶景の市民公園として活用されているが、古来天然の要害であり、古代～近世を通じて高地性集落あるいは山城としてそれぞれの役割を果たしてきた。その性格を明らかにしえたのが、昭和52年度・53年度に実施された発掘調査であった。

早い時期の遺物としては、縄文時代早期の前平式土器・吉田式土器の小破片の散布が見られたが遺構は確認されていない。

その後の時期として、5世紀初めごろと、8世紀初めごろおよび16世紀中ごろの時期の遺構・遺物が確認され、殊に5世紀初めごろと、8世紀初めごろの時期のものが本遺跡の主体をなしているといえよう。

5世紀初めごろの遺構として、竪穴住居跡が多数検出され、その立地から高地性集落のひとつと考えられている。それは、その中に介在した畿内の布留式土器の出土を併せて考えると、5世紀初めごろに南九州に軍事的な緊張が展開されたことを示すものとみられ、これは記紀にいういわゆる“クマソ征討”にあてはまるものと考えてよいであろう。

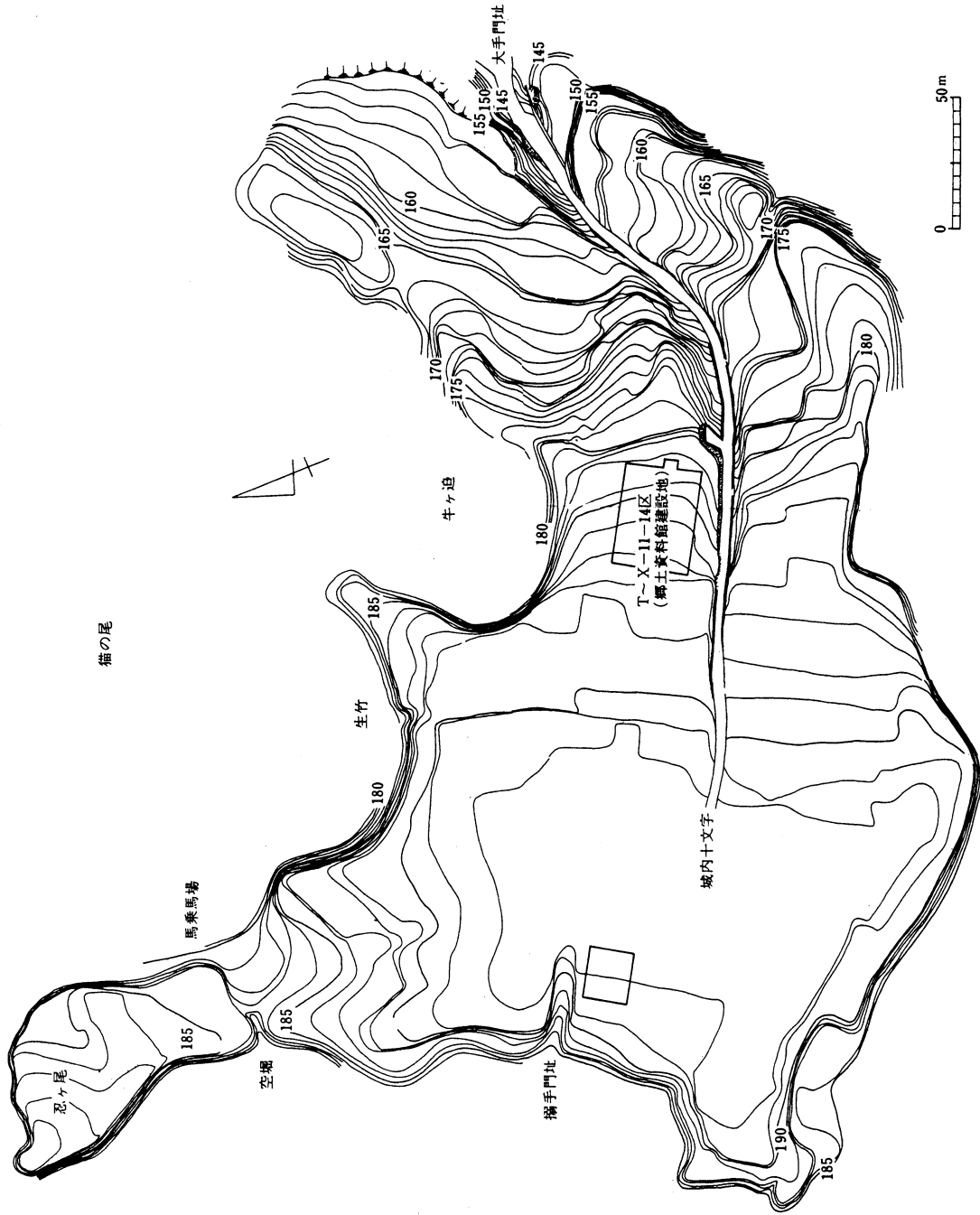
8世紀初めごろの軍事的拠点としてのものについては、大隅国守陽侯史麻呂殺害という大事件に伴う“隼人の反乱”と関連づけて考える以外にない。宇佐八幡託宣集にみえる隼人七城のうち、最後まで隼人たちが抵抗した拠点、すなわち曾於乃岩城が、この城山であったとみてよいであろう。その理由は、周囲を眺めた場合、昔の曾於郡の中での立地条件から考えると、石城の名を与えてよい場所は城山以外には見出すことが出来ないからである。

16世紀中ごろは山城の存在が認められる。その頃の当地方においては、大永七年（1527）、大隅国衛の在庁勢力が守護代本田氏に駆逐され、その後島津氏が本田氏を屈服させる角逐がある。そのような軍事的緊張時に山城として手が加えられたものと推定できる。

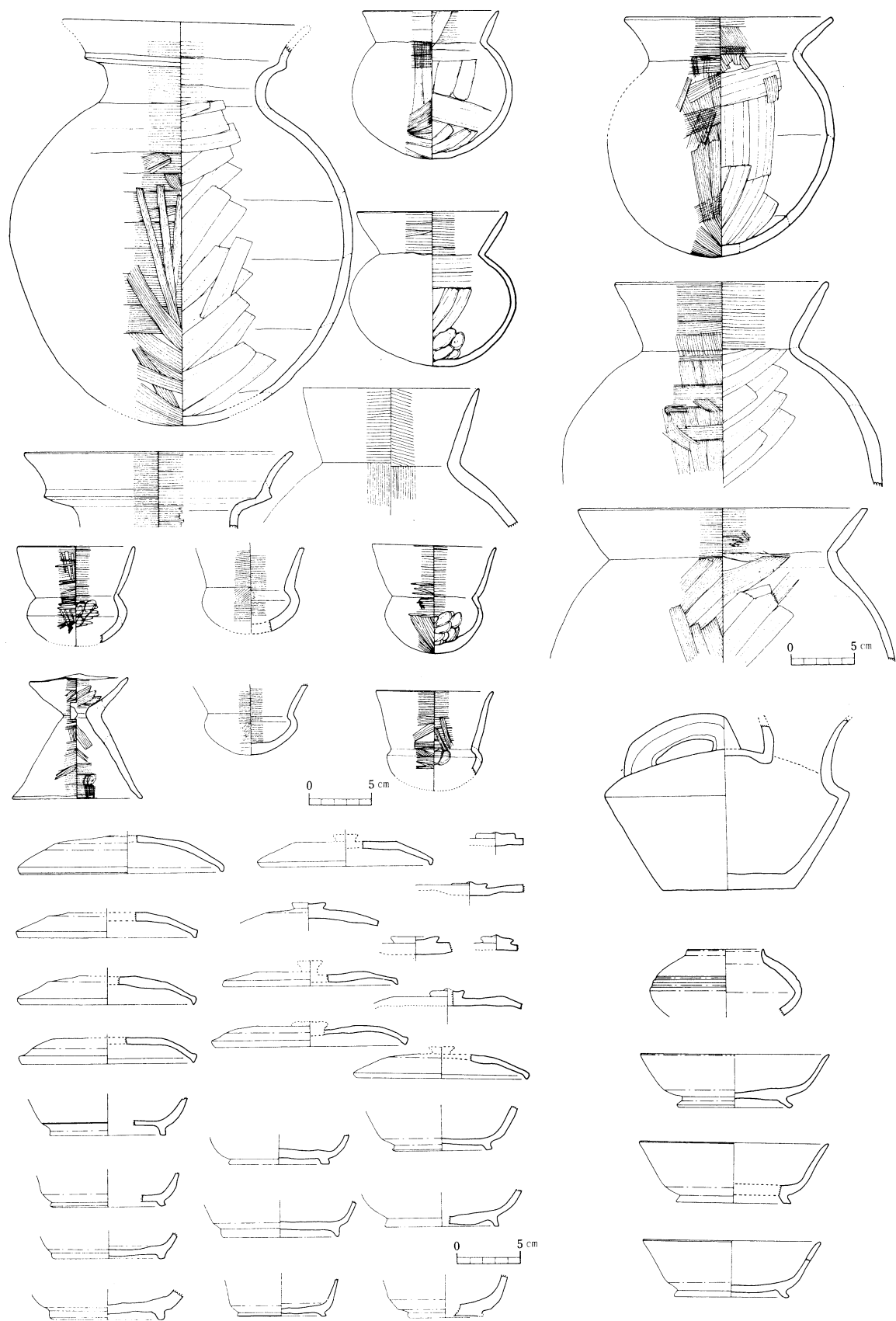
参考・引用文献

『城山山頂遺跡』1985年12月 国分市教育委員会  
〔第2章 遺跡の環境 および 第6章 まとめをまとめる形で引用した〕





第5図 城山山顶遺跡地形図



第6図 城山山頂遺跡出土遺物

## 妻山元遺跡

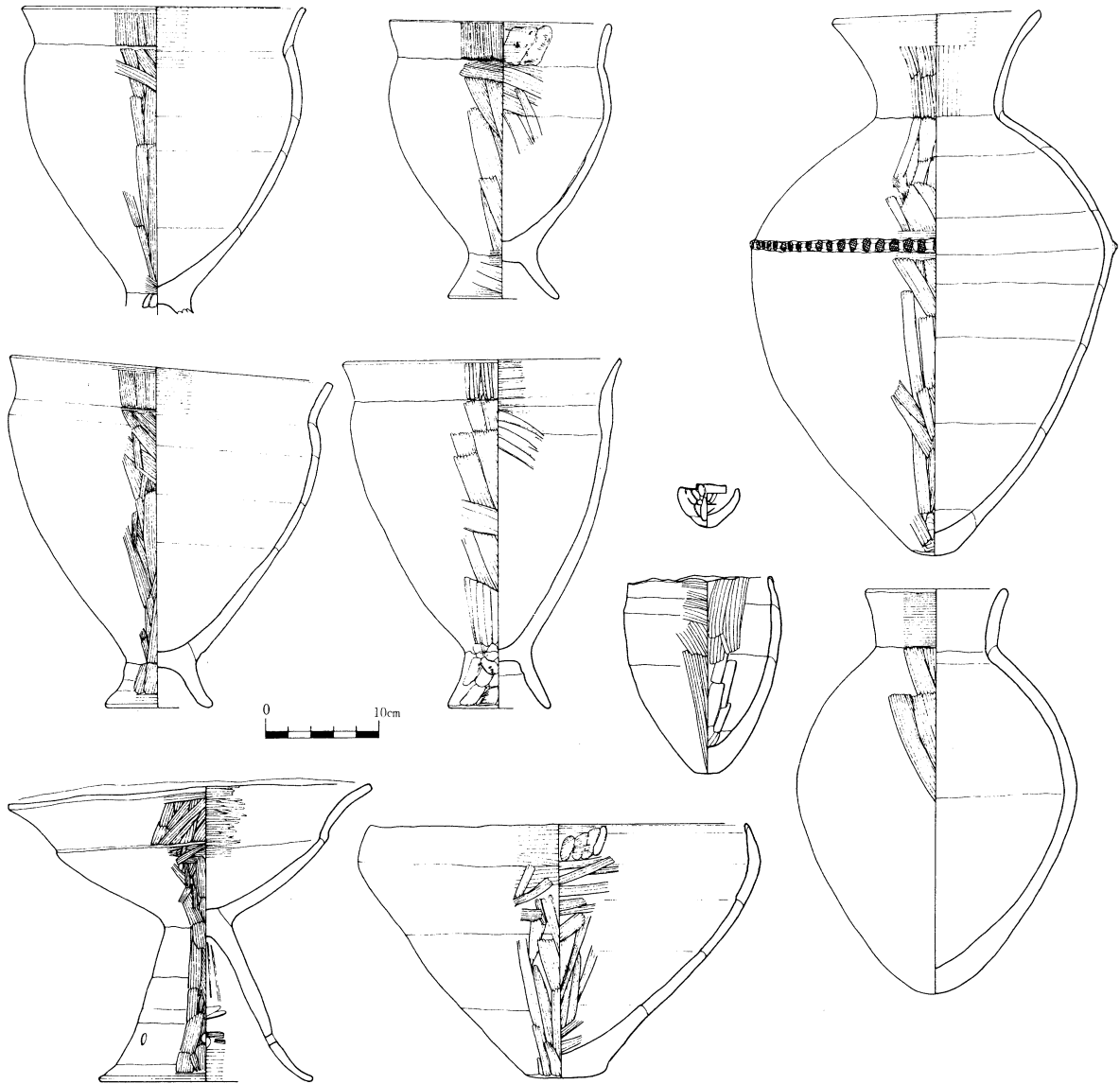
妻山元遺跡は、国分市中央二丁目2819番地（大字上小川 小字妻山元）に所在する。遺跡は、後背地（北東）に標高192.6mの通称城山を控え、西側は穏やかな傾斜で沖積平野へと広がる。遺跡地の標高は10～12mの緩傾斜地である。

妻山元遺跡の包含層は、縄文時代晩期、古墳時代前期・後期が確認されている。縄文時代では晩期の黒川式土器などの遺物が出土している。古墳時代では初頭期の遺物が土坑からセットで出土している。後期では、笹貫式土器を主体とする住居跡群12基と

土坑11基が確認されている。また、石組み遺構・土坑と溝状遺構7条については資料に乏しく、明確な時期設定はできていない。

### 参考・引用文献

『妻山元遺跡』 1985年10月 国分市教育委員会  
[第2章 調査の概要 第1節 調査位置と概要  
および 第5章 まとめ の文章をまとめる形で引用した]



第7図 妻山元遺跡出土遺物

平栴遺跡（平栴貝塚）

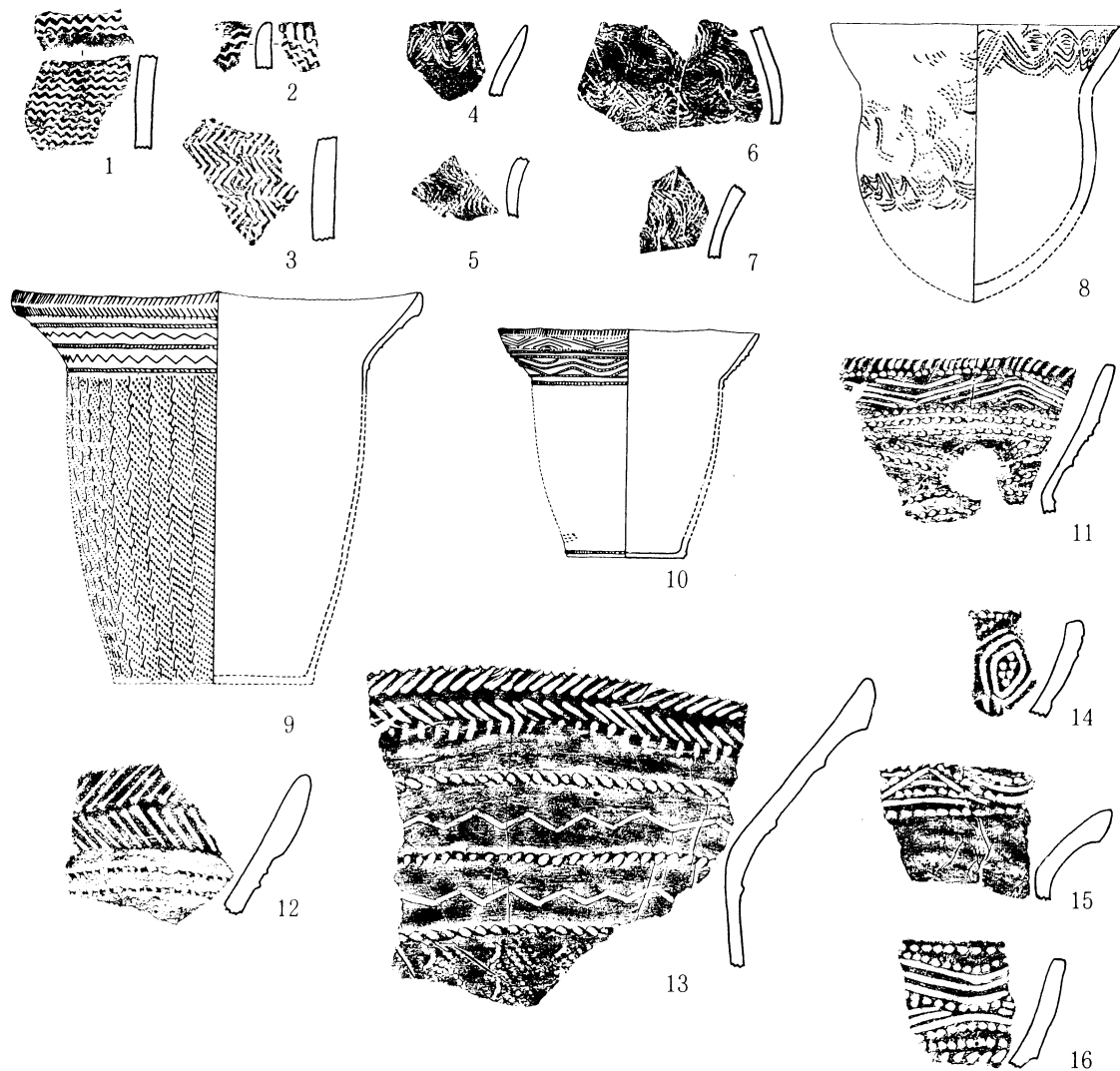
平栴遺跡は、国分市上井一条に所在する。国分平野（沖積平野）に延びた丘陵の末端部南斜面に立地する遺跡で水田面よりの比高が約10mである。1971年に河口貞徳氏により調査が行なわれている。

調査の結果、貝層が認められたため貝塚ともいわれる。出土した遺物は、縄文時代早期の吉田式土器・前平式土器・押型文土器・変形撚糸文土器・平栴式土器・塞ノ神式土器等で、その後の鹿児島県の縄文

時代研究に欠くことのできない遺跡として認識されている。

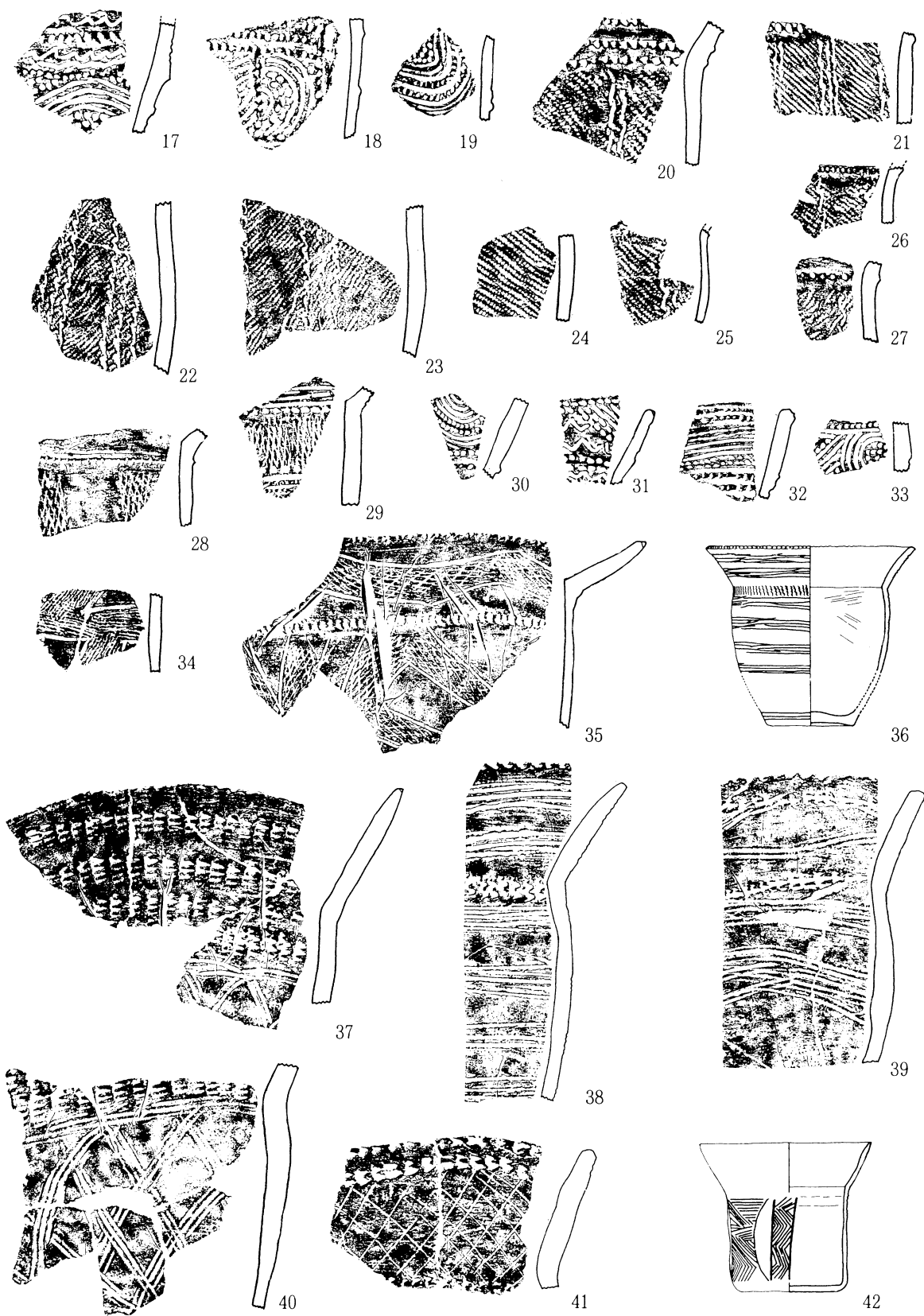
また、平栴式土器の標式遺跡でもあり、今後、上野原遺跡との関係も考慮する必要がある遺跡である。

1～3は、押型文土器。4～8は、変形撚糸文土器。9～27は、平栴式土器。28～33は塞ノ神A式a土器。34・35は、塞ノ神A式b土器。36～38は塞ノ神B式c土器。39～41は塞ノ神B式d土器。42は、平栴I式土器である。



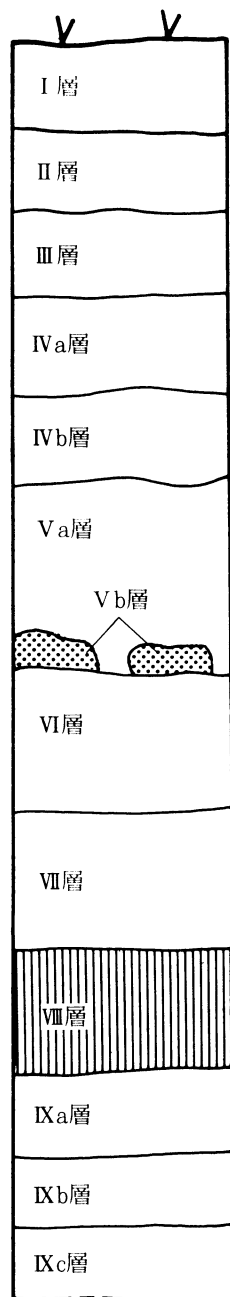
第8図 平栴遺跡出土遺物 1





第9图 平棊遺跡出土遺物2

### 第三章 層位



- I 層 灰黒色土，耕作土（I b層：白色火山灰，I c層：1 cmの軽石を多く含む）。
- II 層 黒色土。
- III 層 暗茶褐色火山灰土，古墳時代・弥生時代遺物包含層。
- IV a層 黄褐色土，縄文時代後期（市来式・指宿式土器）遺物包含層。
- IV b層 黄白色火山灰。
- V a層 黄橙色火山灰土，縄文時代前期（曾畑式土器）遺物包含層。
- V b層 黄橙色軽石（アカホヤ火山灰，鬼界カルデラ起源で約6,300年前）。
- VI 層 黒茶褐色土，軽石を多く含む。
- VII 層 黒褐色土，軽石を含むがVI層に比べてやや少なくなる，VI層とともに縄文時代早期（平椀式・塞ノ神式・押型文系土器等）遺物包含層。
- VIII 層 明黄褐色パミス（サツマ火山灰，桜島起源で約11,500年前）。
- IX a層 黒褐色粘質土（チョコ層）。
- IX b層 明黒茶褐色粘質土。
- IX c層 暗黒茶褐色粘質土。

第10図 模式柱状図

## 第Ⅳ章 発掘調査

### 第1節 調査の概要

#### 1. 平成3年度（確認調査）

平成3年度は、第3工区全域にわたる確認調査を実施した。確認調査は、40mグリッドを基準にし、2m×20mのトレンチを設定して実施した。グリッド名称は、将来第4工区の調査も想定されるため第4工区の北側よりA・B・C……とし、第1・第2工区と第3・第4工区間の南北に走る道路を起点として1・2・3……とした。

トレンチは35箇所設定した。調査の結果は下表のとおりである。

トレンチ	遺構・遺物	出土層位	備考
1	なし		
2	なし		
3	土器・石器	3・6	縄文後期・早期
4	土器・石器	3・6	縄文後期・早期
5	土器	6	縄文早期
6	土器	6	縄文早期
7	土器・石器	3・6	縄文後期・早期
8	土器	3・6	縄文後期・早期
9	土器	3・6	縄文後期・早期
10	土器	3・6	縄文後期・早期
11	土器・集石	3・6	縄文後期・早期
12	土器	3・6	縄文後期・早期
13	土器	3・6	縄文後期・早期
14	土器・集石	6	縄文早期

トレンチ	遺構・遺物	出土層位	備考
15	土器	5・6	縄文前期・早期
16	土器	6	縄文早期
17	なし		
18	集石	5	縄文前期
19	なし		
20	なし		
21	土器	6	縄文早期
22	土器・石器	3	縄文後期
23	なし		
24	土器	6	縄文早期
25	なし		
26	なし		
27	なし		
28	土器・石器	3	縄文後期
29	土器	3・6	縄文後期・早期
30	なし		
31	土器	3	縄文後期
32	なし		
33	なし		
34	なし		
35	なし		

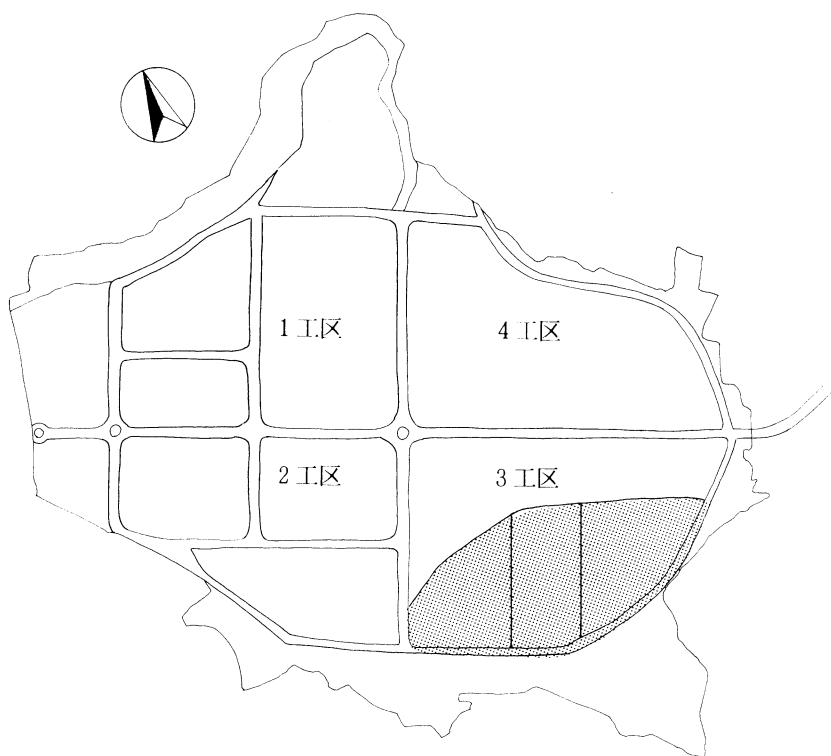
Ⅲ層出土の縄文時代後期の土器は、小片のため型式は判明しない。Ⅳ層出土の土器は、大半が平椀式土器であるが、塞ノ神式土器・石坂式土器も出土する。その範囲は、第11図のとおりで約90,000㎡という広大な面積になる。

12月までに確認調査をほぼ終了したため、一部面調査を実施した。面調査は、K・L・M・N-8・9区と東西に走る支線道路の予定部分を行った。

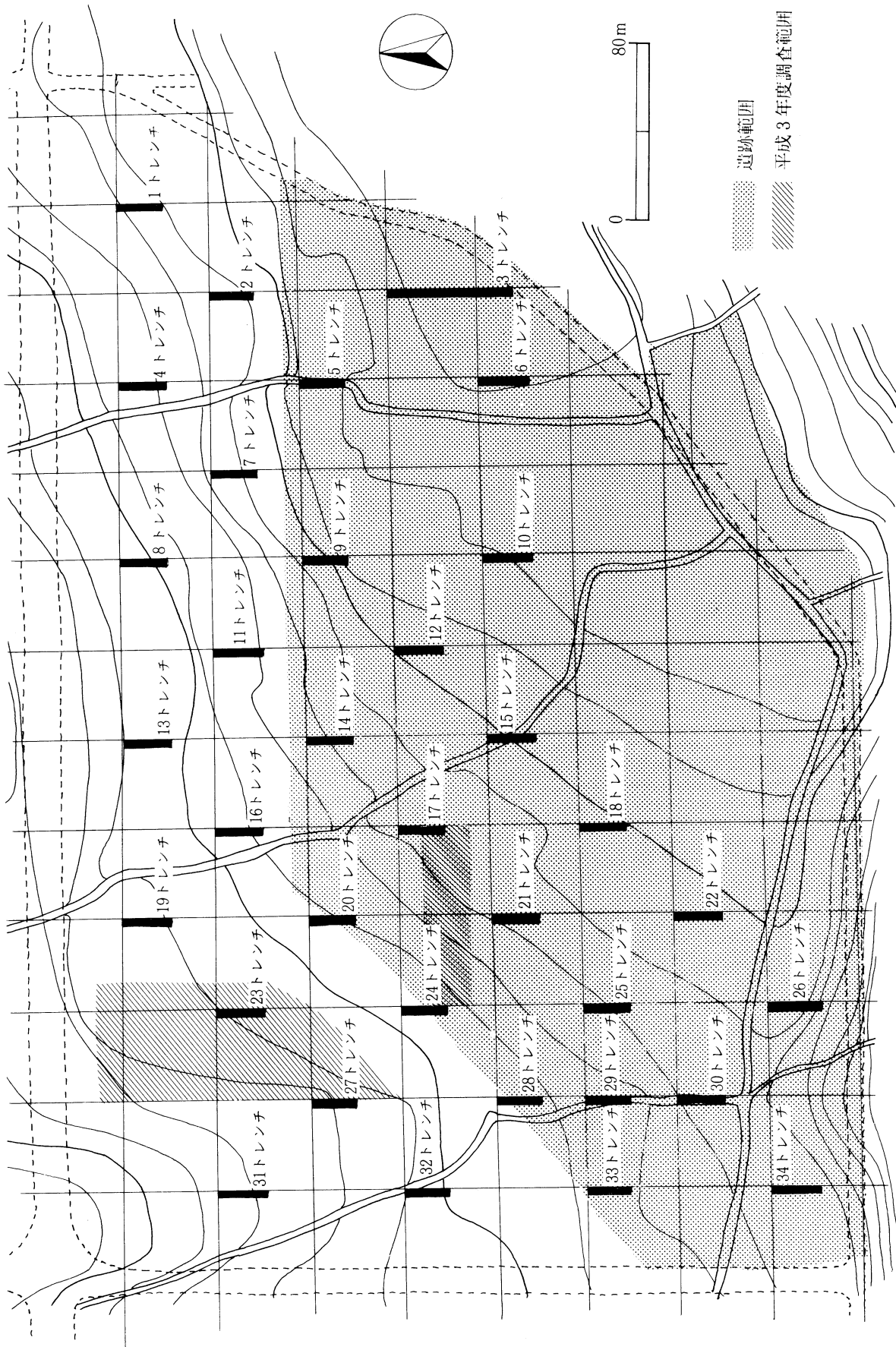
K・L・M・N-8・9区においては、縄文時代後期の遺物が出土していたが、表土を剥いだ結果、包含層であるⅢ層は、大半が畑地として使用する際に削除されており遺物・遺構は検出されなかった。

支線道路部分については、O-8・9区の幅20m・長さ80mを対象として調査を実施した。その結果Ⅲ層では、縄文時代後期の土器片・石匙が出土し、径1.3m・深さ1.8mの落ち込み（陥し穴）が検出された。Ⅵ層からは、縄文時代早期の土器片（石坂式・平椀式）が出土し、集石遺構1基が検出された。

確認調査の結果に基づいて、鹿児島県開発公社と県教育委員会とで協議を行い、平成4年度から3カ年で第3工区の発掘調査を実施することとした。また、西側から30,000㎡ずつ調査をすることも決まった。



第11図 第3工区遺跡範囲図



第12図 第3工区遺跡確認調査トレンチ配置図



## 2. 平成4年度

4年度は、第3工区の西部（O・P・Q・R・S-5～9区）の調査を実施した。

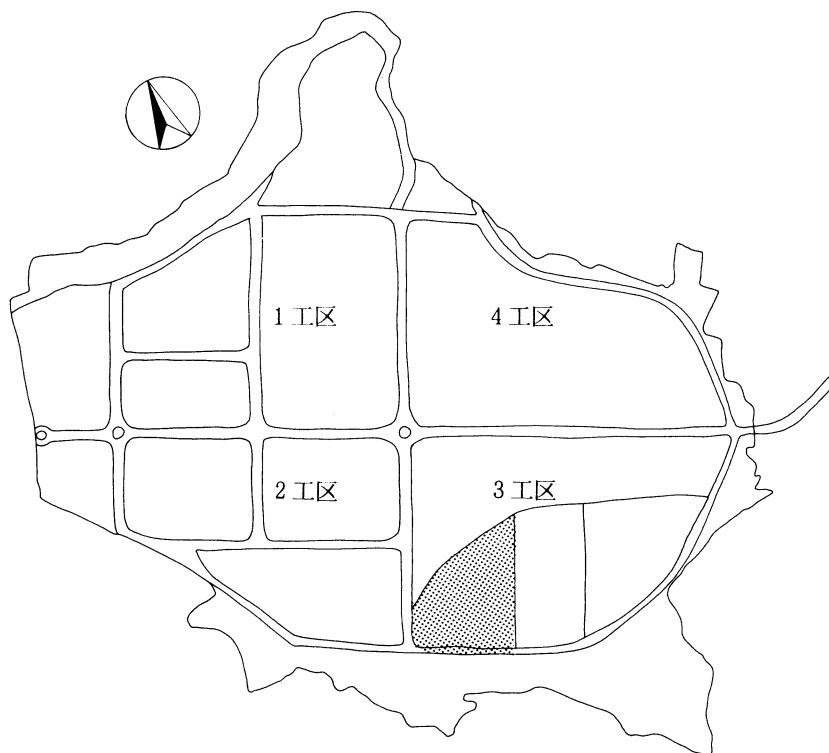
包含層はⅡ・Ⅲ・Ⅳ層およびⅥ・Ⅶ層である。

Ⅱ層からは、Q-5区より古墳時代の土器が少量出土した。Ⅲ層の遺物は、R-8区から弥生時代の土器が少量出土した。Ⅳ層の遺物は、調査区全域にわたって縄文時代後期の市来式土器を始めとして、晩期にかけての土器が出土した。また、石匙などの石器も出土している。S-5区からは、縄文時代前期の曾畑式土器のほか黒曜石製の石鏃や制作途中に出た屑片が多量に出土した。

Ⅳ層の時期の遺構としては、集石遺構4基と、2タイプの掘り込み遺構306基を確認した。集石は、縄文時代後期から晩期のもの2基（Q-5・Q-9区）と、前期のもの2基（P-6・R-6区）とがあった。掘り込み遺構のうちの1つめのタイプは、直径が約1.5mの円形で、深さは約2m、床面にはさらに1～2つのピットを持ち、22基検出した。埋土は人工的に埋められたものではなく、自然の堆積

である。用途としては陥し穴と考えられる。2つめのタイプは、長径1m程の楕円形で、深さは約80cmで、壁ぎわにそって深さ約1mのピットを1～2つ持っている。埋土の状態は1つめのタイプに類似しており、時期も縄文時代後期～晩期のものと考えられる。用途は不明であるが、植物の根を掘り出した痕跡の可能性も考えられる。

Ⅵ・Ⅶ層の遺物は約62,000点で、何れも縄文時代早期の平椀式土器・塞ノ神式土器・押型文土器（楕円・山形など）・桑ノ丸式土器と、石鏃・打製石斧・局部磨製石斧・スクレーパー・磨石・敲石・石皿・剥片などの石器類が出土している。Q・R-9区とS-8区では多量の黒曜石の碎片に混じり、石鏃などの製品も確認され、石器製作所跡と考えられる。この時期の遺構としては、集石遺構が89基検出された。多くの集石はⅦ層上面で検出され、その中には平椀式土器が出土したものもある。集石を構成する礫は安山岩質の角礫が多いが、上野原台地の基盤がそれであることから、そこから調達したことが考えられる。形態的に4タイプである。



第13図 平成4年度調査範囲図

### 3. 平成5年度

平成5年度は、中央部（N・O・P・Q・R・S-10・11・12区）の調査を実施した。

遺物包含層はⅢ・Ⅳ層およびⅥ層である。

Ⅲ・Ⅳ層からは、縄文時代後期・晩期の土器片が出土するが、量は極めて少ない状況である。また、縄文時代早期の平椀式土器も出土しているが、地層の横転している部分に多く出土していることから、地層の横転により下の層（Ⅵ層）の遺物が上に上がってきたものと考えられる。

Ⅲ・Ⅳ層の遺構についてみると、Ⅲ層上面において掘立柱建物跡（2間×2間）が1棟検出された。遺物が伴わないため時期設定の決め手が無いが、古代あるいは中世と考えられる。Ⅳ層上面では平成4年度と同様、陥し穴と思われる掘り込みが多数検出された。掘り込みは深さにより3つのタイプに類別される。Aタイプは深さ170~280cmで15基検出された。Bタイプは深さ100~130cmで12基検出された。Cタイプは深さ70~80cmで31基が検出された。このタイプは掘り込みが浅いため、陥し穴としての用途が考えにくいものである。これらも土器等の遺物が伴わないので時期を設定する決め手がないが、周辺

からわずかに出土している縄文時代後期~晩期に比定できるのではないだろうか。

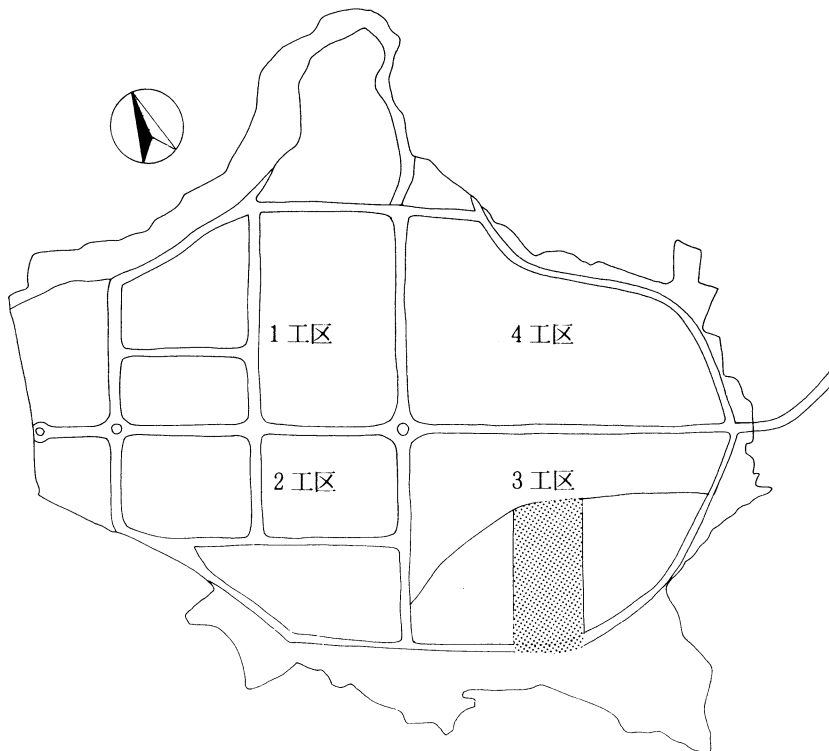
Ⅵ層は、縄文時代早期の遺物包含層で出土遺物の総数は6万点を超す膨大な量である。土器の大半は平椀式土器で、その外に塞ノ神式土器・押型文土器・桑ノ丸Ⅲ類土器・下剥峯式土器・苦浜式土器等が見られる。平椀式土器のなかには壺形土器も数多く見られる。

石器についても、石鏃・石匙・石錐・スクレイパー・石斧・磨石・凹石・敲石・石皿・石核・環状石斧・異形石器等多くの石器が出土している。石材も黒曜石・安山岩・チャート等が使用されている。

また、特殊な遺物として、土偶・耳栓・環状石斧・異形石器が見られる。

Ⅵ層の遺構は、集石遺構（蒸し焼き料理の跡？）があげられるが、今年度は78基も検出された。それらは、掘り込みを有しないもの・掘り込みを有するもの・側壁および根石を有するものの3つのタイプに分けられる。

また、壺形土器を2個体並べて埋納した土坑も検出された。



第14図 平成5年度調査範囲図

平成6年度

平成6年度は、第3工区の残り（N～R-13区・N～Q-14区・N～P-15・16区）の調査を実施した。

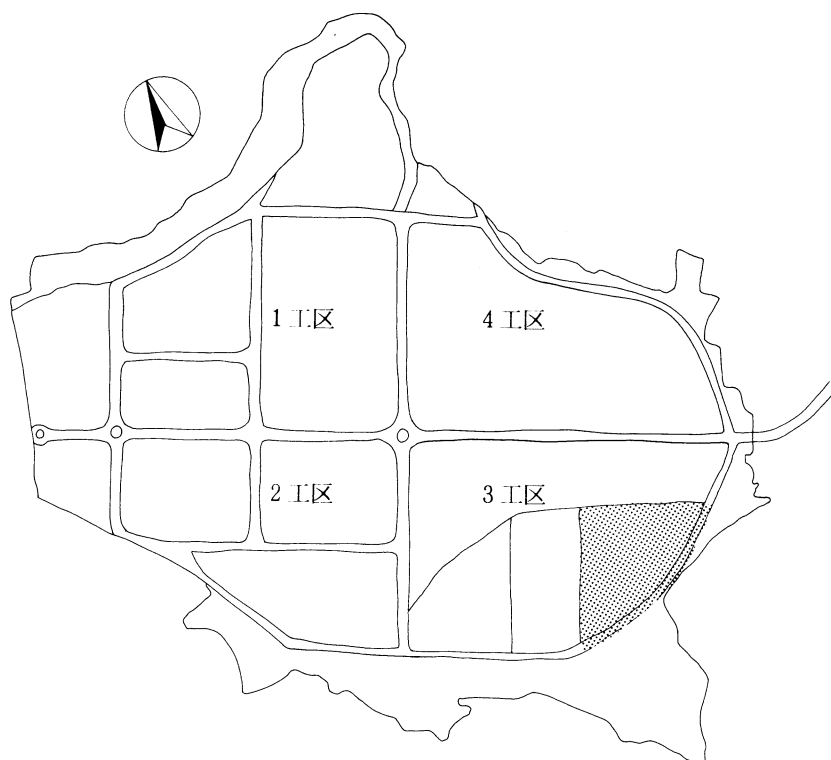
遺物包含層は、これまでと同様Ⅲ・Ⅳ層およびⅥ層である。

Ⅲ・Ⅳ層においては、遺物の出土量は少なかったが、歴史時代の土師器・古墳時代の成川式土器・弥生時代の山ノ口式土器・縄文時代後期・晩期の土器が出土している。

Ⅲ・Ⅳ層の遺構についてみると、歴史時代・古墳時代・弥生時代・縄文時代後期の遺構が検出されている。歴史時代では、掘立柱建物跡7棟、弥生時代は竪穴住居跡1基、古墳時代は竪穴住居跡1基、縄文時代は陥し穴と思われる掘り込みが53基（Aタイプ：18基・Bタイプ：10基・Cタイプ：25基）がそれぞれ検出されている。

Ⅵ層は縄文時代早期の遺物包含層である。出土遺物は、これまでと同様に平椀式土器を主として、塞ノ神式土器・押型文土器・桑ノ丸Ⅲ類土器・下剥峰式土器・手向山式土器等が出土している。石器についても石鏃・石匙・スクレイパー・石斧・磨石・凹石・敲石・石皿等数多く出土している。特殊なものとしては、環石・軽石製耳栓・耳栓等が出土している。

Ⅵ層の遺構についてみると、これまで同様集石遺構が数多く検出された。掘りこみを有しないタイプ・掘り込みを有するタイプ・側壁および根石を持つタイプの3つに分けられることもこれまでとおなじである。平成6年度は68基が検出され、3工区全体で252基という膨大な数の集石遺構が検出されたことになる。

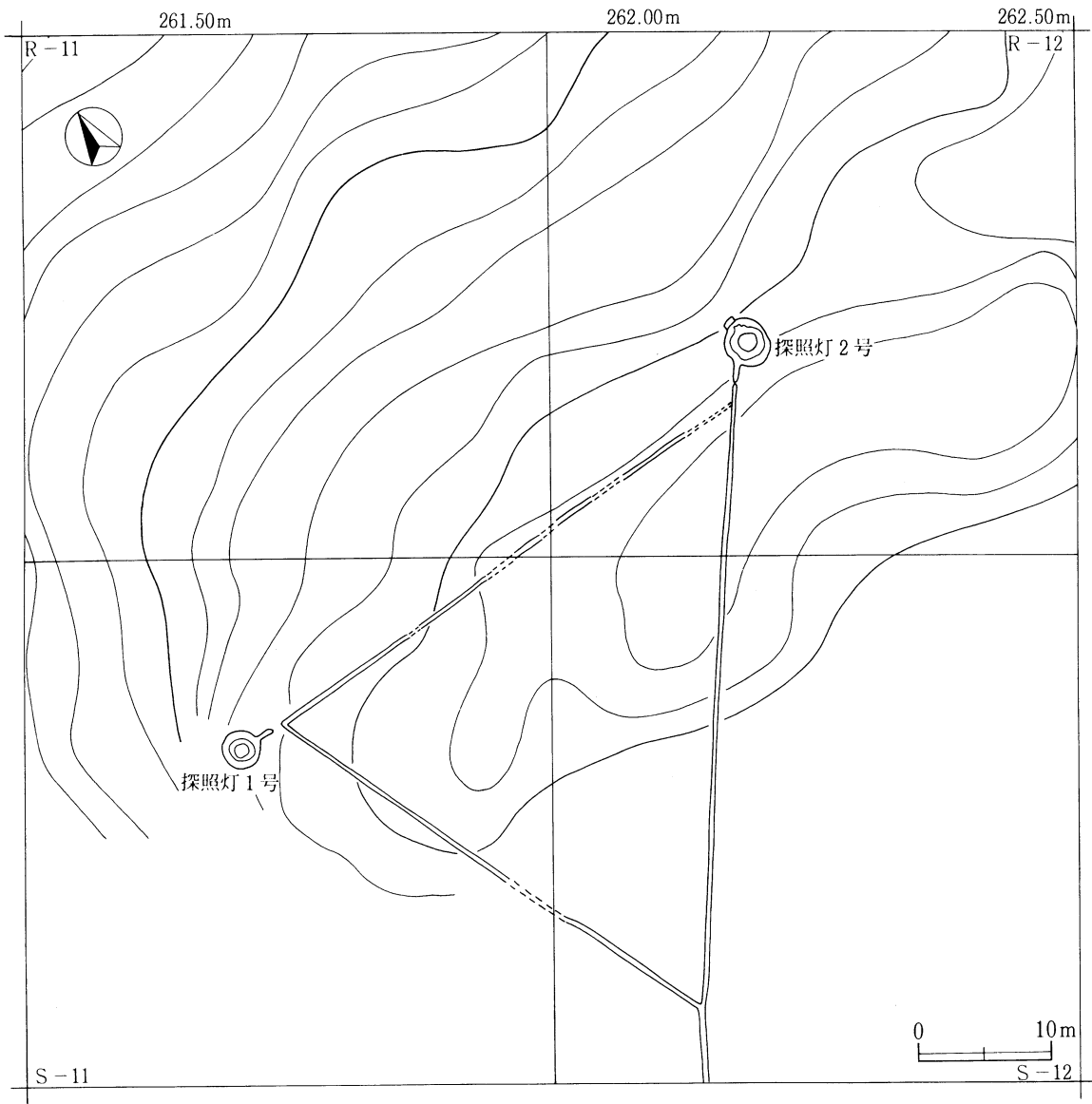


第15図 平成6年度調査範囲図

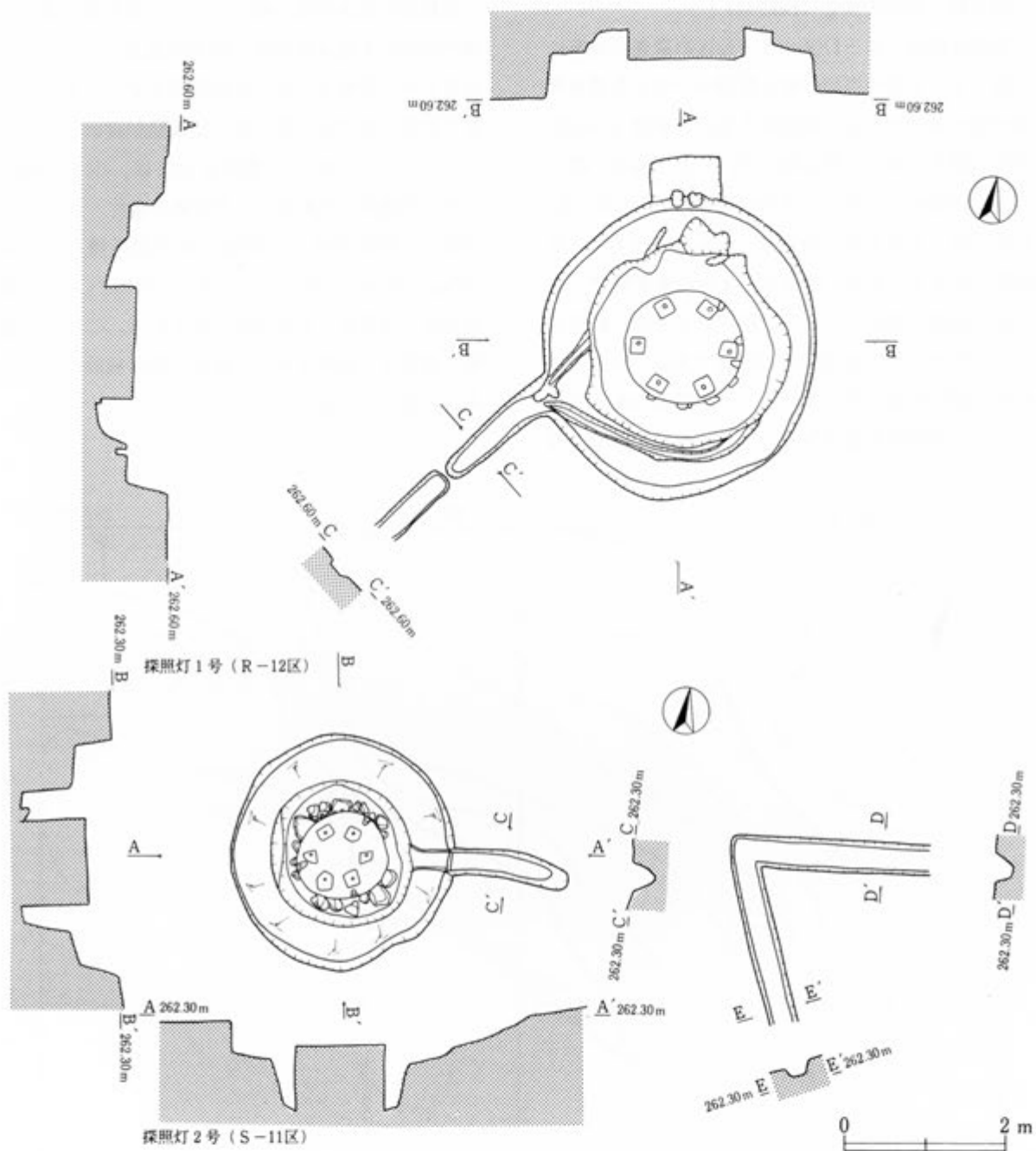
## 第2節 近代の調査（探照灯）

探照灯跡は、R-11区～S-12区の調査区南端に位置する。2基の探照灯跡と配線ケーブルを埋めた溝が検出されている。探照灯1号は、直径3.5mの円形の掘り込みが二段に掘り下げられており、礎石の上に円形のコンクリートの台座が据えられている。台座にはボルトが6ヶ所あり、台座縁の3ヶ所に欠損部分がある。また、床面から2本の溝が伸び、掘り込み外部へ連結している。探照灯2号は、直径3mの円形で1号とほぼ同様の形状である。床面には砂利・礎石が敷かれ、1号よりやや厚みのあるコンクリートの台座を安定させている。溝は1本で1号

と同様掘り込み外部へ延びている。配線用の溝は2基の探照灯を結ぶ直線を三角形の底辺とし、S-11区で1本に繋がり、さらに台地の下方へと延びている（古老の話では、崖の下に発電機が設置してあったということである）。遺物としては、厚さ10mmのガラスの破片（反射鏡？）や金属の破片・ケーブルのほか、昭和19年12月製造の四式電話機のラベル（3.5cm×2cm）も出土している。このラベルには製造会社（沖電気）名も明記されている。これらの遺構・遺物は、太平洋戦争に関わる軍事施設の一部であると考えられる。



第16図 探照灯配置図



第17図 探照灯平面図

探照灯計測表

	計測部分	掘込み(外)直径	深さ	掘込み(内)直径	深さ	コンクリート直径	厚さ
1号	A-A'	378	52	260	90	143	40
	B-B'	335	60	235	85	143	40
2号	A-A'	280	60	172	120	112	82
	B-B'	300	60	183	120	110	85



第18図 探照灯内出土電話機ラベル



### 第3節 歴史時代の調査

歴史時代については、遺物包含層自体は残存するものの、遺物の出土は少なかった。遺構は掘立柱建物跡が検出された。

#### 1 遺構

遺構は掘立柱建物跡が8棟検出された。1号掘立柱建物跡は平成5年度、2号～8号掘立柱建物跡は平成6年度に検出されている。時代については遺物が伴わないため明らかでないが、室町時代から江戸時代頃のものではないかと思われる。形態について見てみると、1間×1間のもの1棟、1間×2間のもの2棟、1間×3間のもの1棟、2間×2間のもの1棟、2間×3間のものが3棟である。また、周辺に軒や柵ではないかと思われる柱穴が、検出されている建物もある。

##### (1) 1号掘立柱建物跡 (第20図)

1号掘立柱建物跡は、P-12区に位置する2間×2間の建物である。この建物の周辺にはほかの建物は確認されず、3号掘立柱建物跡までの距離は約60mである。桁行西側には建て直しと思われる柱穴が

それぞれ並存する。柱穴4は斜めに掘り込む。桁行方位はN-31°-Wである。

##### (2) 2号掘立柱建物跡 (第21図)

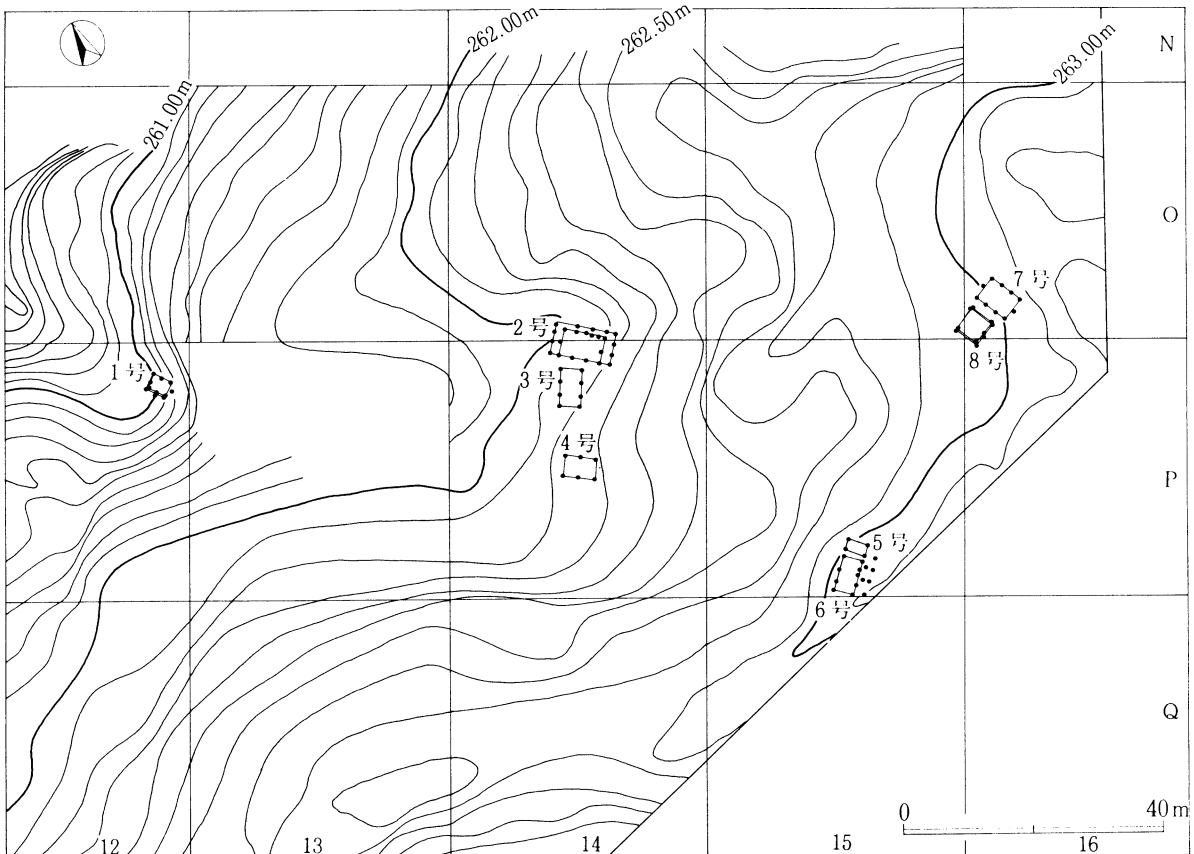
2号掘立柱建物跡はO・P-14区に位置する2間×3間の建物である。この建物の南西側に3号掘立柱建物跡が近接している。桁行の南北にそれぞれ約1間、梁行の東側に約半間の庇がつくものである。庇部分の柱穴は比較的浅い。柱穴16は2段掘り状を呈している。桁行方位はN-48°-Wである。

##### (3) 3号掘立柱建物跡 (第22図)

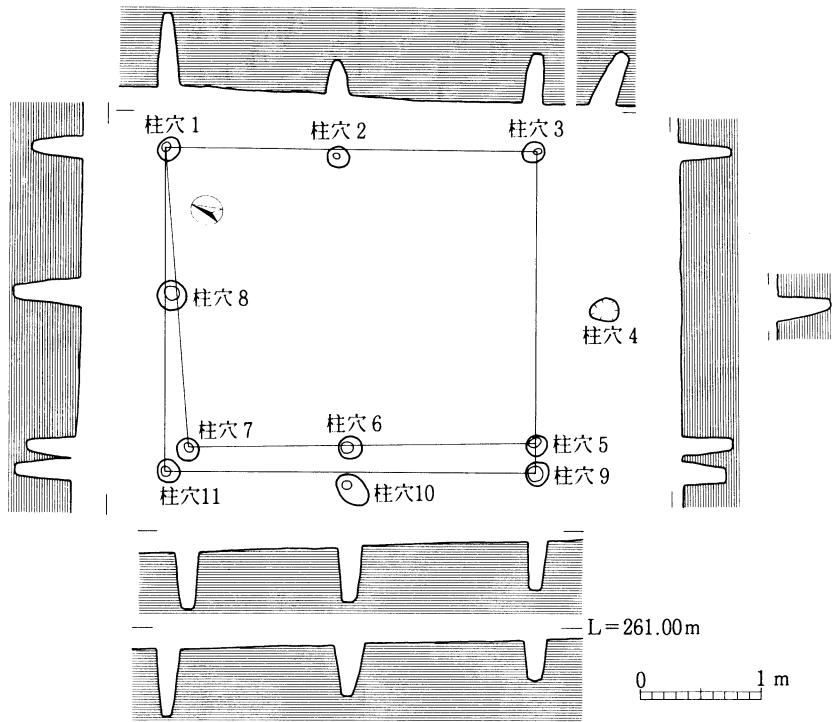
3号掘立柱建物跡はP-14区に位置する1間×3間の長方形の建物で、柱穴の配置は整然としている。柱穴2, 4, 6, 8, は柱痕跡と思われるものが観察される。桁行方位はN-34°-Eである。

##### (4) 4号掘立柱建物跡 (第23図)

4号掘立柱建物跡は、P-14区のほぼ中央、3号掘立柱建物跡の南西に位置する1間×2間の長方形の建物で、柱穴の配置は整然としている。柱穴2, 3は柱痕跡と思われるものが観察される。桁行方位はN-53°-Wである。



第19図 歴史時代掘立柱建物跡配置図



第20図 1号掘立柱建物跡

1号掘立柱建物跡計測表

柱穴計測表

(単位はcm)

柱穴番号	長径	短径	深さ	備考
1	20.0	17.0	41.6	
2	18.0	17.0	27.4	
3	19.0	17.0	41.4	
4	24.0	18.0	43.5	斜方向
5	17.0	16.0	40.6	
6	20.0	19.0	47.3	
7	19.0	18.0	48.2	
8	25.0	24.0	55.3	
9	19.0	18.0	35.1	
10	31.0	21.0	45.7	
11	21.0	19.0	56.9	

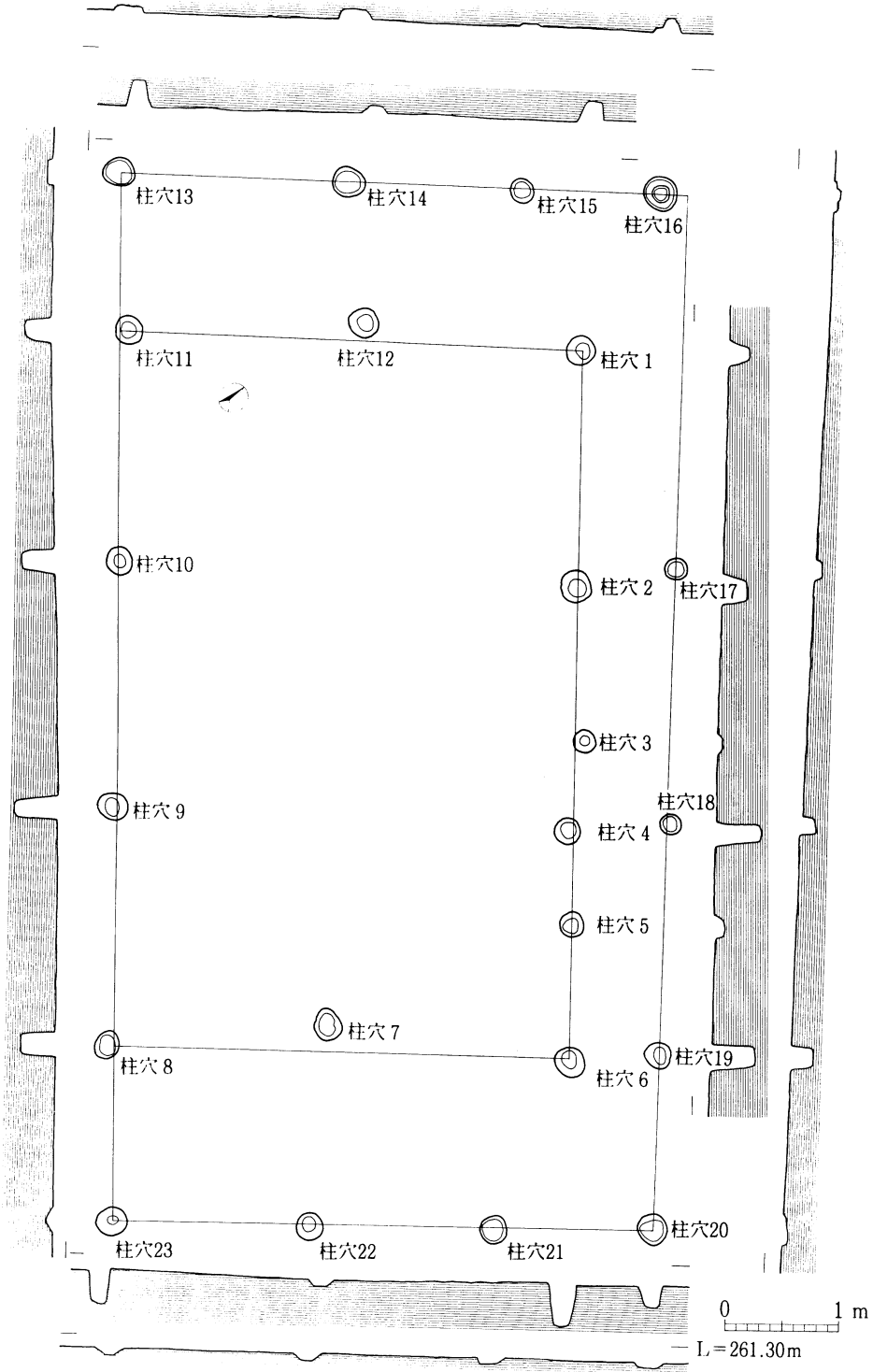
柱間計測表 (計測値は柱穴の心心・単位はcm)

	柱穴番号	柱間		柱穴番号	柱間
棟	1~2	141.0	梁	3~4	145.0
	2~3	164.0		4~5	136.0
	1~3	305.0		3~5	239.0
	5~6	153.0		4~9	157.0
	6~7	132.0		3~9	213.0
	5~7	284.0		1~8	121.0
	9~10	155.0		7~8	125.0
	10~11	150.0		1~7	247.0
	9~11	305.0		8~11	145.0
					1~11

(5) 5号掘立柱建物跡 (第24図)

5号掘立柱建物跡はP-15区に位置する1間×1間の長方形の建物である。この建物の南西側に6号掘立柱建物跡が並ぶように存在する。柱穴はいずれ

も柱痕跡と思われるものが観察される。検出された建物の中で最も小さいものである。桁行方位はN-41°-Wである。



第21图 2号掘立柱建物跡

## 2号掘立柱建物跡計測表

柱穴計測表

(単位はcm)

柱穴番号	長 径	短 径	深 さ	備 考
1	27.0	26.0	19.2	
2	29.0	26.0	22.8	
3	21.0	20.0	6.2	
4	24.0	24.0	41.5	
5	23.0	22.0	9.3	
6	29.0	26.0	40.0	
7	29.0	25.0	11.2	
8	27.0	22.0	31.9	
9	29.0	24.0	39.4	
10	26.0	23.0	30.0	
11	27.0	25.0	23.8	
12	29.0	27.0	8.9	
13	28.0	26.0	7.1	
14	30.0	27.0	10.2	
15	23.0	21.0	4.0	
16	33.0	30.0	14.8	
17	22.0	22.0	7.4	
18	19.0	19.0	14.9	
19	24.0	23.0	19.8	
20	29.0	26.0	20.5	
21	26.0	24.0	6.6	
22	25.0	24.0	7.8	
23	28.0	25.0	6.7	

柱間計測表 (計測値は柱穴の心心・単位はcm)

	柱穴番号	柱 間		柱穴番号	柱 間
棟	1 ~ 2	209.0	梁	1 ~ 12	192.0
	2 ~ 3	133.0		11 ~ 12	208.0
	3 ~ 4	79.0		1 ~ 11	400.0
	2 ~ 4	212.0		6 ~ 7	214.0
	4 ~ 5	85.0		7 ~ 8	193.0
	5 ~ 6	115.0		6 ~ 8	406.0
	4 ~ 6	200.0		13 ~ 14	199.0
	1 ~ 6	623.0		14 ~ 15	153.0
	8 ~ 9	209.0		15 ~ 16	122.0
	9 ~ 10	217.0		13 ~ 16	474.0
	10 ~ 11	202.0		20 ~ 21	140.0
	8 ~ 11	628.0		21 ~ 22	162.0
	8 ~ 23	153.0		22 ~ 23	172.0
	11 ~ 13	139.0		20 ~ 23	474.0
	13 ~ 23	920.0		6 ~ 19	79.0
	16 ~ 17	330.0		4 ~ 18	89.0
	17 ~ 18	224.0		2 ~ 17	89.0
	18 ~ 19	203.0			
	19 ~ 20	154.0			
	16 ~ 20	911.0			

## 3号掘立柱建物跡計測表

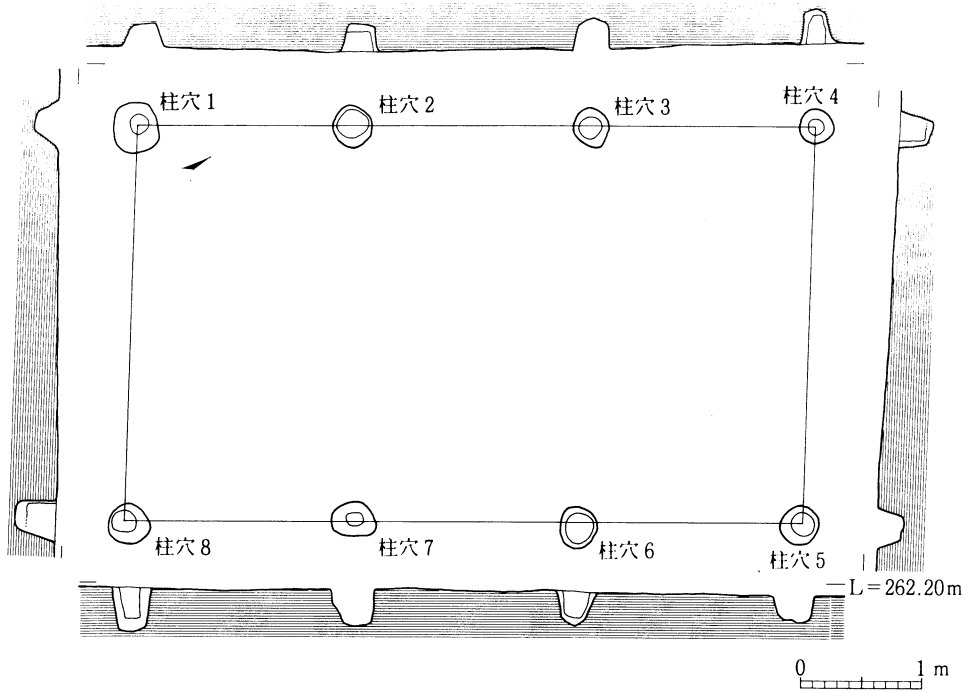
柱穴計測表

(単位はcm)

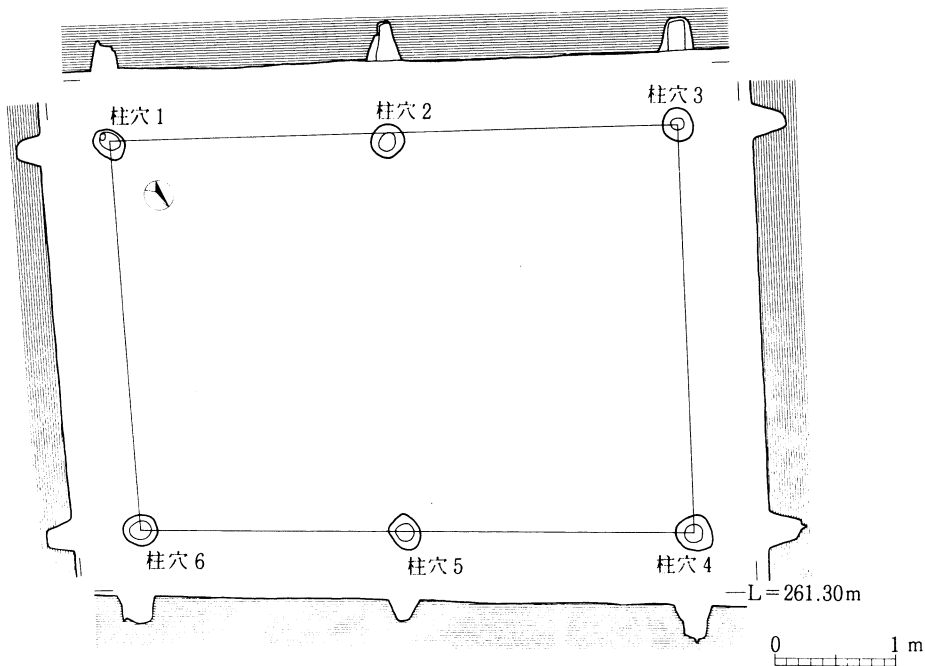
柱穴番号	長 径	短 径	深 さ	備 考
1	42.0	36.0	18.5	
2	36.0	33.0	21.7	
3	34.0	29.0	26.3	
4	29.0	28.0	28.2	柱痕跡?
5	32.0	31.0	21.6	
6	35.0	31.0	28.1	柱痕跡?
7	38.0	28.0	29.8	
8	36.0	32.0	35.7	柱痕跡?

柱間計測表 (計測値は柱穴の心心・単位はcm)

	柱穴番号	柱 間		柱穴番号	柱 間
棟	1 ~ 2	177.0	梁	1 ~ 8	325.0
	2 ~ 3	195.0		4 ~ 5	325.0
	3 ~ 4	184.0			
	1 ~ 4	556.0			
	5 ~ 6	183.0			
	6 ~ 7	185.0			
	7 ~ 8	191.0			
	5 ~ 8	557.0			



第22図 3号掘立柱建物跡



第23図 4号掘立柱建物跡

(6) 6号掘立柱建物跡 (第25図)

6号掘立柱建物跡はP-15区に位置する2間×3間の長方形の建物である。5号掘立柱建物跡と並んだ状態で存在する。柱穴4, 7, 11は浅く、柱穴5

は後世の攪乱を受けている。建物の南東側桁行の外側には軒あるいは柵と思われる柱穴が検出されている。桁行方位はN-44°-Eである。



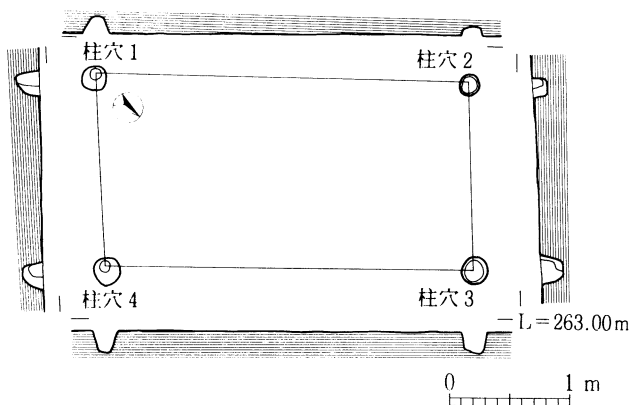
4号掘立柱建物跡計測表

柱穴計測表 (単位はcm)

柱穴番号	長径	短径	深さ	備考
1	30.0	22.0	25.3	
2	28.0	28.0	34.2	柱痕跡?
3	29.0	25.0	29.0	柱痕跡?
4	33.0	28.0	30.5	
5	29.0	23.0	17.3	
6	29.0	24.0	22.6	

柱間計測表 (計測値は柱穴の中心・単位はcm)

	柱穴番号	柱間		柱穴番号	柱間
	棟	1~2		230.0	梁
2~3		238.0	3~4	335.0	
1~3		468.0			
4~5		237.0			
5~6		218.0			
4~6		455.0			



5号掘立柱建物跡計測表

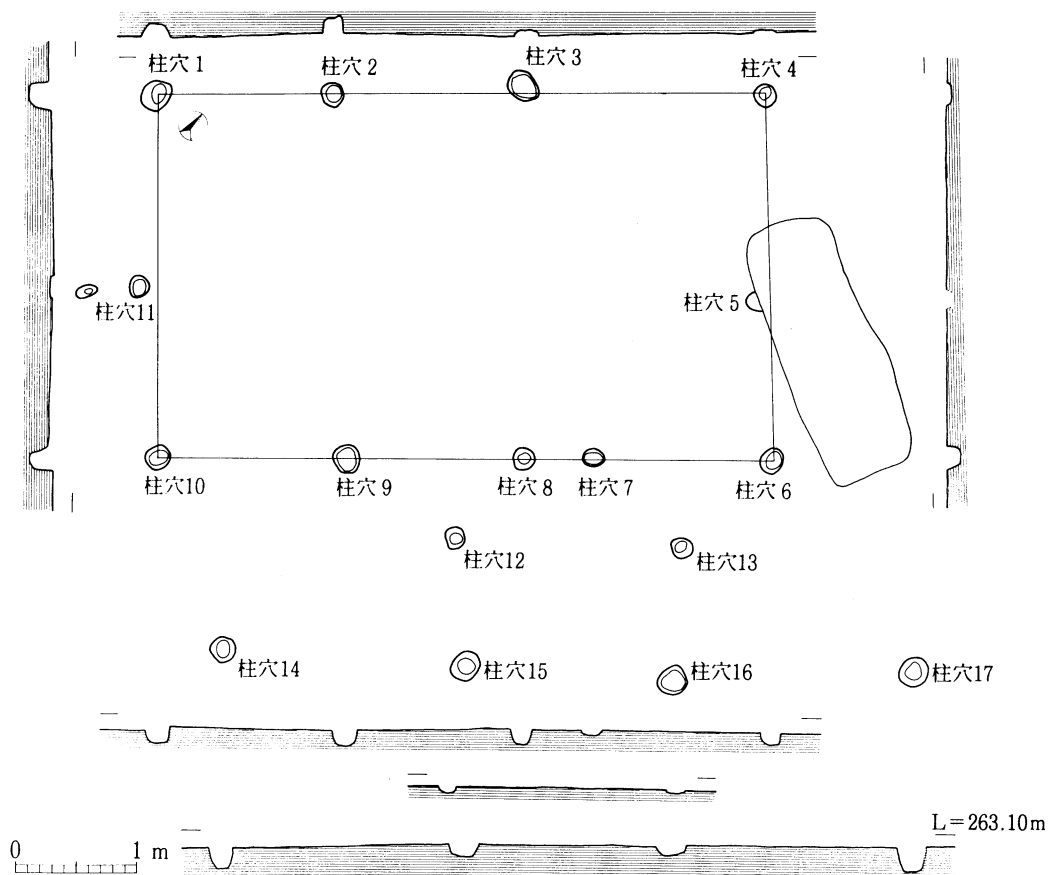
柱穴計測表 (単位はcm)

柱穴番号	長径	短径	深さ	備考
1	21.0	21.0	14.2	柱痕跡?
2	19.0	17.0	12.3	柱痕跡?
3	23.0	23.0	18.5	柱痕跡?
4	24.0	23.0	17.4	柱痕跡?

柱間計測表 (計測値は柱穴の中心・単位はcm)

	柱穴番号	柱間		柱穴番号	柱間
	棟	1~2		307.0	梁
3~4		303.0	2~3	155.0	

第24図 5号掘立柱建物跡



第25図 6号掘立柱建物跡

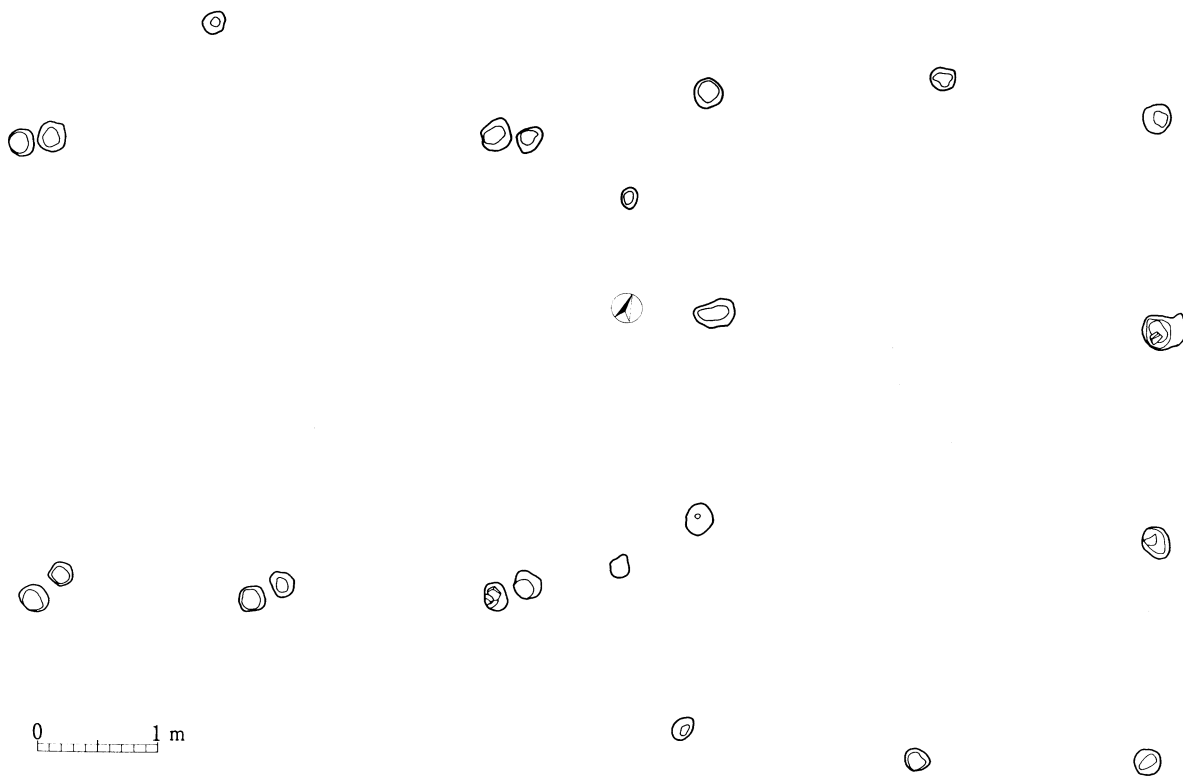
6号掘立柱建物跡計測表

柱穴計測表 (単位はcm)

柱穴番号	長 径	短 径	深 さ	備 考
1	25.0	23.0	19.2	
2	22.0	18.0	13.3	
3	29.0	22.0	6.2	
4	19.0	18.0	3.8	
5				
6	22.0	19.0	12.7	
7	18.0	15.0	5.9	
8	19.0	18.0	13.3	
9	24.0	22.0	14.6	
10	21.0	19.0	20.4	
11	19.0	17.0	3.8	
12	18.0	17.0	7.0	
13	19.0	16.0	2.3	
14	21.0	20.0	18.6	
15	25.0	21.0	11.2	
16	25.0	24.0	9.7	
17	25.0	23.0	21.4	

柱間計測表 (計測値は柱穴の心心・単位はcm)

	柱穴番号	柱 間		柱穴番号	柱 間
棟	1 ~ 2	144.0	梁	1 ~ 11	159.0
	2 ~ 3	155.0		10 ~ 11	141.0
	3 ~ 4	200.0		1 ~ 10	298.0
	1 ~ 4	500.0		4 ~ 5	171.0
	6 ~ 7	148.0		5 ~ 6	143.0
	7 ~ 8	58.0		4 ~ 6	302.0
	8 ~ 9	147.0		12 ~ 15	105.0
	6 ~ 10	506.0		13 ~ 16	110.0
	12 ~ 13	186.0			
	14 ~ 15	201.0			
	15 ~ 16	171.0			
	16 ~ 17	198.0			
	14 ~ 17	568.0			

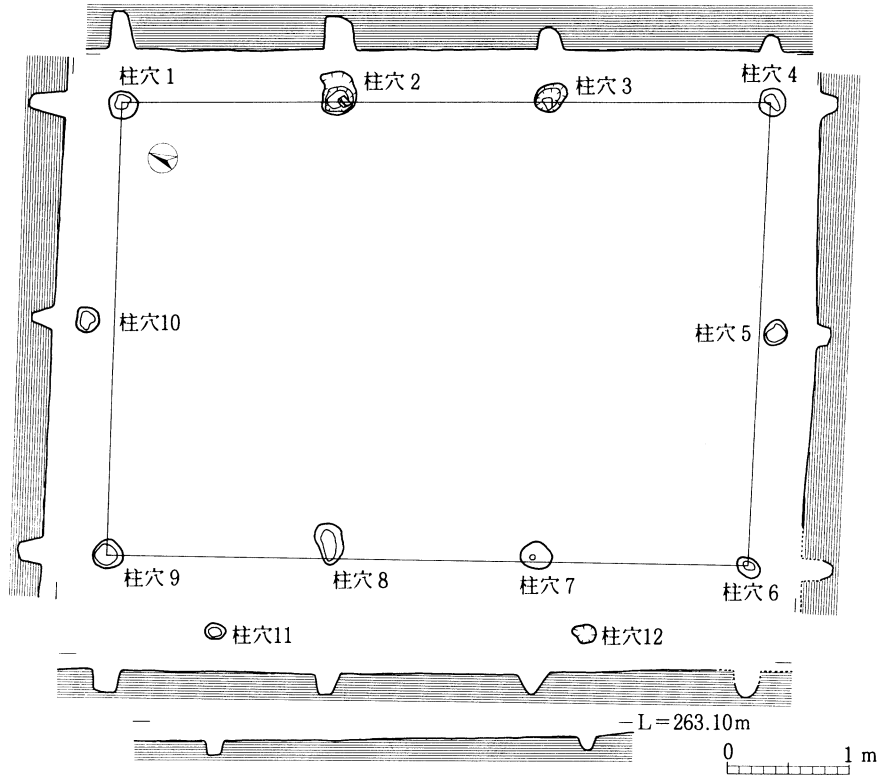


第26図 7, 8号掘立柱建物跡

(7) 7号掘立柱建物跡 (第27図)

7号掘立柱建物跡はO-16区西側に位置する2間×3間の長方形で、柱穴の配置は整然としている。この建物の西側に8号掘立柱建物跡が並ぶように存

在している。西側桁行の西側、8号掘立柱建物跡との境には8号掘立柱建物跡との関連を思わせる柱穴が存在する。柱穴2には礫が入っている。桁行方位はN-22°-Wである。



第27図 7号掘立柱建物跡

7号掘立柱建物跡計測表

柱穴計測表 (単位はcm)

柱穴番号	長径	短径	深さ	備考
1	26.0	25.0	31.3	
2	36.0	27.0	28.4	礫
3	29.0	23.0	19.8	
4	23.0	22.0	13.9	
5	23.0	19.0	12.2	
6	22.0	15.0	(27.0)	
7	27.0	23.0	19.7	
8	35.0	23.0	18.4	
9	25.0	25.0	19.6	
10	21.0	19.0	18.9	
11	17.0	13.0	14.5	
12	21.0	17.0	11.4	

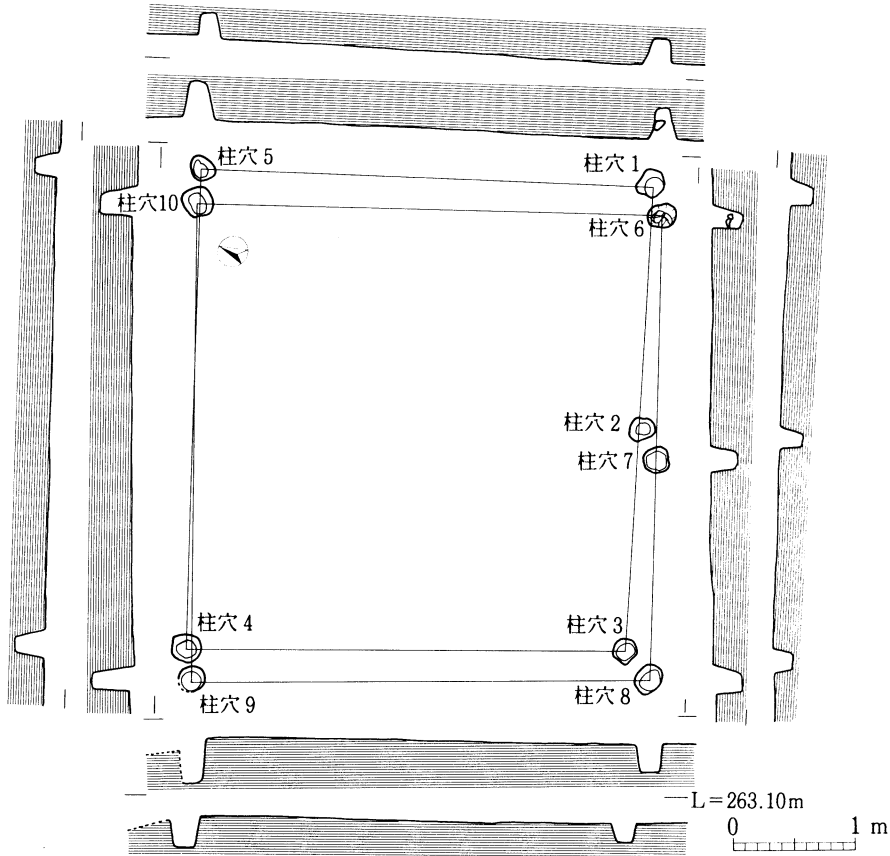
柱間計測表 (計測値は柱穴の中心・単位はcm)

	柱穴番号	柱間		柱穴番号	柱間
棟	1~2	177.0	梁	4~5	190.0
	2~3	173.0		5~6	192.0
	3~4	184.0		4~6	381.0
	1~4	533.0		1~10	171.0
	6~7	176.0		9~10	195.0
	7~8	167.0		1~9	372.0
	8~9	182.0			
	6~9	527.0			
	11~12	305.0			

(8) 8号掘立柱建物跡(第28図)

8号掘立柱建物跡はO-16区に位置する1間×2間のほぼ正方形の建物である。7号掘立柱建物跡と並んだ状態で存在する。建て直しを思わせるよう

にそれぞれの柱穴は2基ずつ存在する。柱穴6には中に礫が入っている。隣接する7号掘立柱建物跡との間には相互の関連を思わせる柱穴が2基存在する。桁行方位はN-22°-Wである。



第28図 8号掘立柱建物跡

8号掘立柱建物跡計測表

柱穴計測表

(単位はcm)

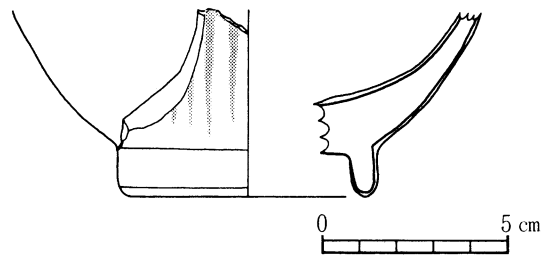
柱穴番号	長径	短径	深さ	備考
1	27.0	23.0	22.6	
2	23.0	19.0	20.0	
3	22.0	21.0	17.2	
4	25.0	24.0	25.9	
5	23.0	20.0	21.2	
6	25.0	20.0	27.0	礫
7	24.0	23.0	23.8	
8	26.0	21.0	26.1	
9	24.0	21.0	36.0	
10	28.0	25.0	32.3	

柱間計測表(計測値は柱穴の心心・単位はcm)

	柱穴番号	柱間	梁	柱穴番号	柱間
	棟	1~2		198.0	3~4
2~3		172.0	1~5	373.0	
1~3		380.0	8~9	376.0	
4~5		394.0	6~10	381.0	
6~7		200.0			
7~8		180.0			
6~8		380.0			
9~10		391.0			

## 2 遺物

遺物の出土は少なく、小破片であり図化し得たのは1点のみであった。第29図はO-13区表層から出土した竜泉窯系青磁の底部である。外面には蓮弁が見られる。丸みをおびる高台で高台の内側まで釉が施される。底部径は7.0cmを測る。



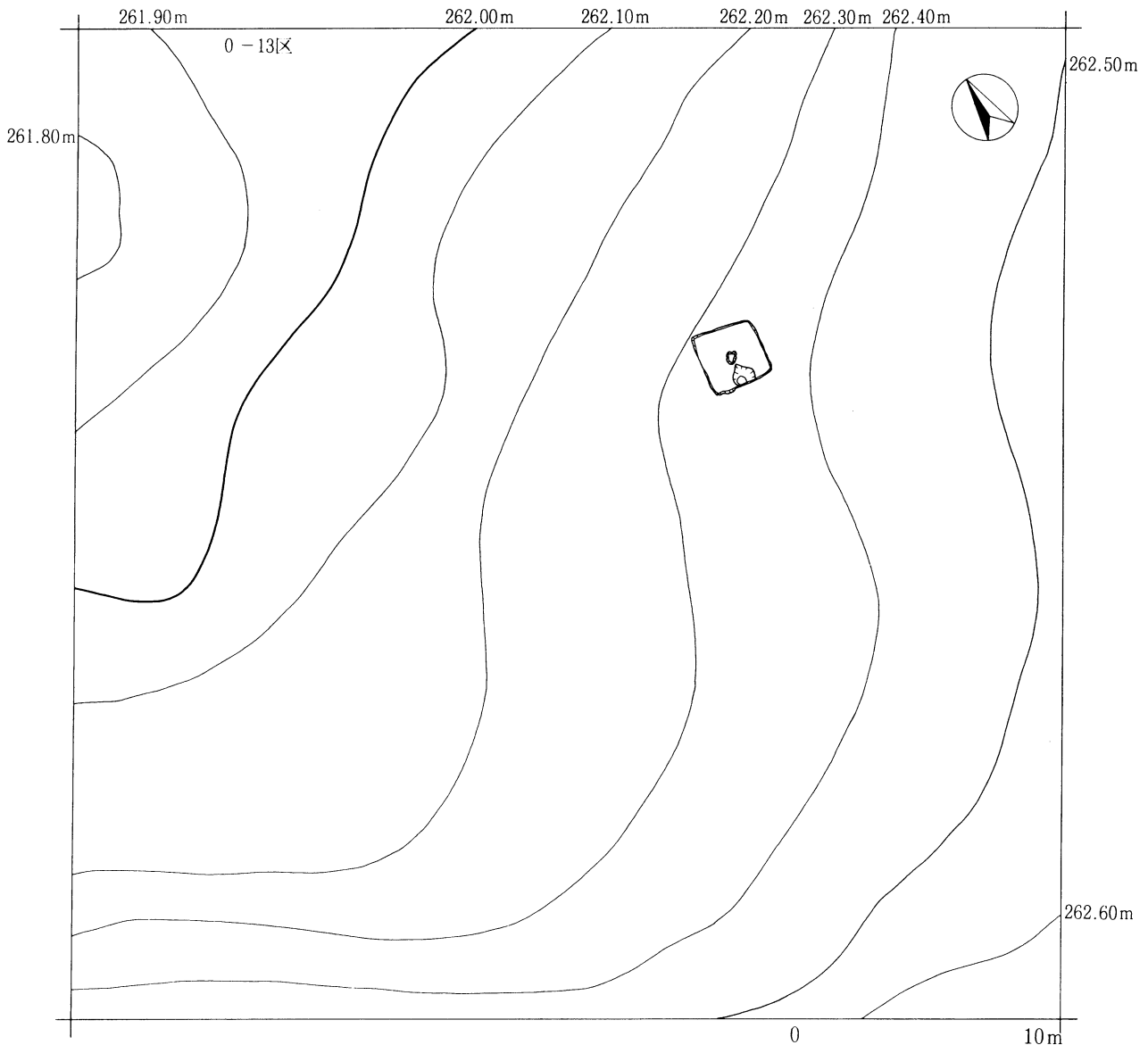
第29図 歴史時代出土遺物

### 第4節 古墳時代の遺構・遺物（第31図～第33図）

古墳時代の遺構（第31図）

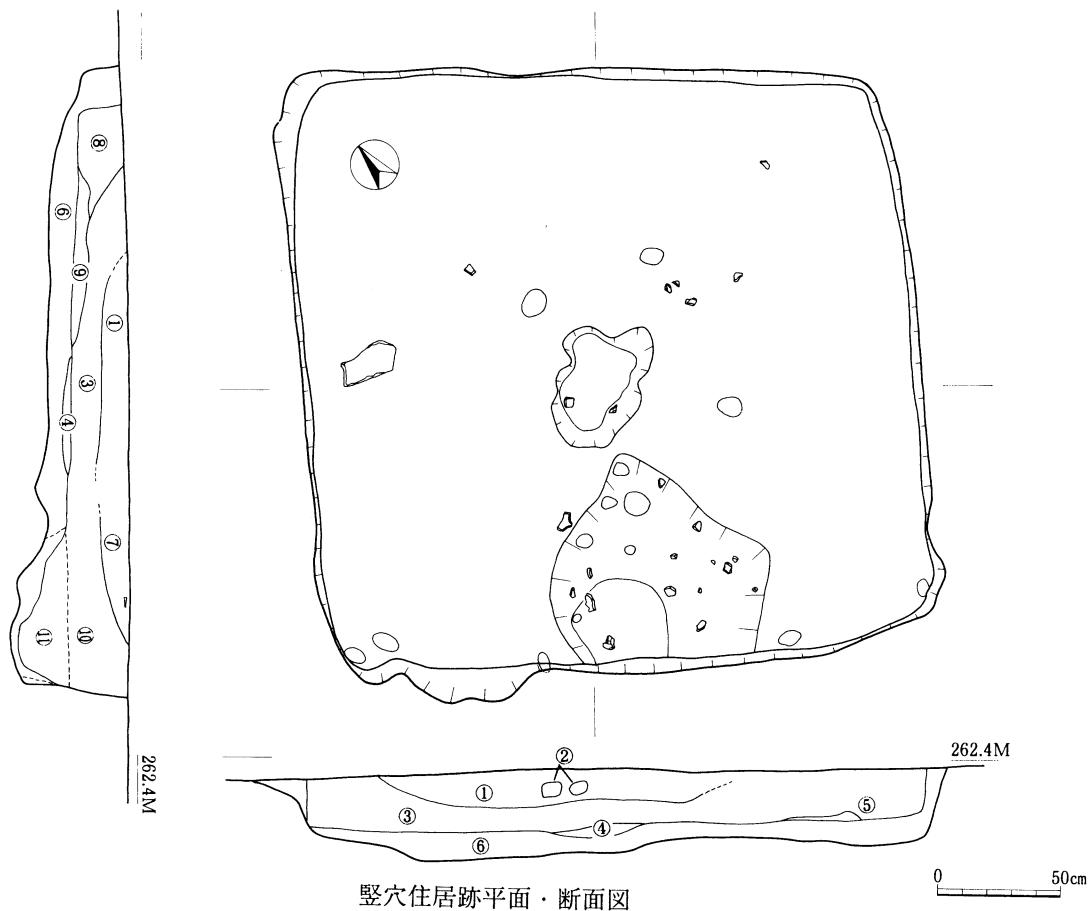
P-14区IV層上面において、古墳時代の竪穴住居跡1基を検出した。検出面の標高は約262.4mで、

検出面から床面まで約25cmある。一辺が約2.4mの略方形のプランを有する。埋土は黒色土で床面には少量の炭化木が検出された。



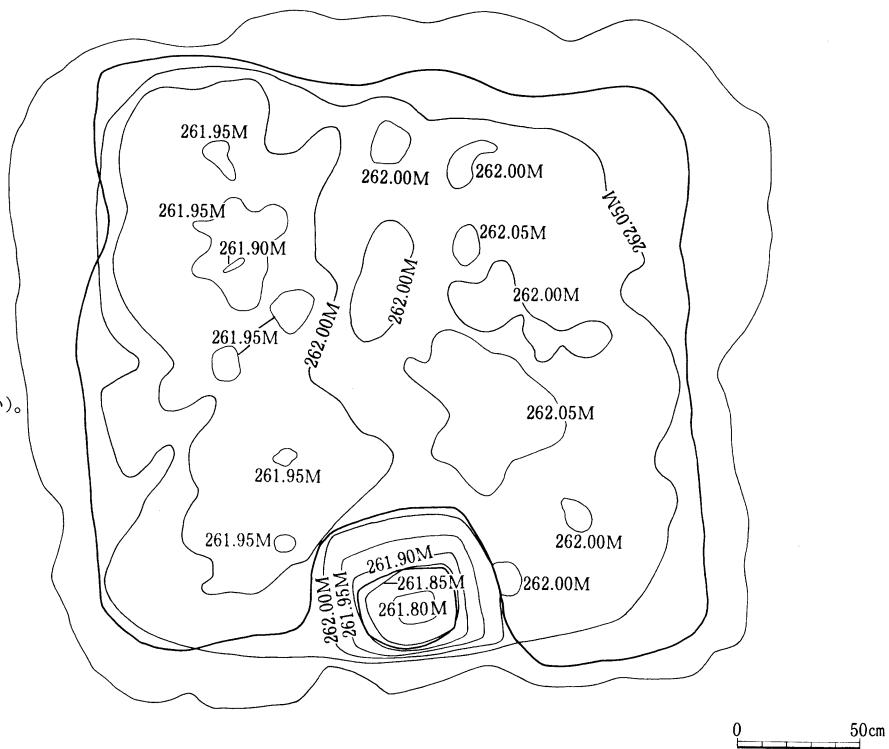
第30図 古墳時代住居跡配置図





竪穴住居跡平面・断面図

- ①Ⅲ層混じりの黒色土
- ②黄色土
- ③黒色土（木炭粒を含み黄色のパミスが多い）。
- ④黒色土（赤色の焼土を含む）
- ⑤黄褐色土（Ⅳ層相当）
- ⑥黄褐色土（Ⅳ層相当）と黒色土との混土
- ⑦やや粘質がかった黒色土
- ⑧黒色土（Ⅳ層土のブロックが多い）
- ⑨黒色土（Ⅳ層土のブロックを少し含む）
- ⑩黒色土（Ⅲ層土の小さなブロックを含む）
- ⑪やや粘質がかった黒色土（Ⅳ層土ブロックよりも赤茶がかった固いブロックを含む。木炭粒を若干含む）



竪穴住居跡掘り方平面図・掘り方底面コンター図

第31図 古墳時代住居跡平面図

竪穴住居跡から出土した遺物は、成川式土器の小破片が24点、礫が1点床面着で出土した。この内土器の数点は接合が可能であったが、図化できるものはなかった。成川式土器が出土していることから、本遺構は古墳時代の竪穴住居跡と判断される。

中央部には炉跡、南西隅には貯蔵穴ではないかと思われる落ち込みを有する。炉跡部分には、赤色化した焼土が見られた。遺物の多くは、貯蔵穴と思われる落ち込みの周辺に集中して出土した。柱穴等は検出されなかった。

上野原遺跡において、古墳時代の住居跡としては初めての検出である（この後第4工区において1基検出された）。

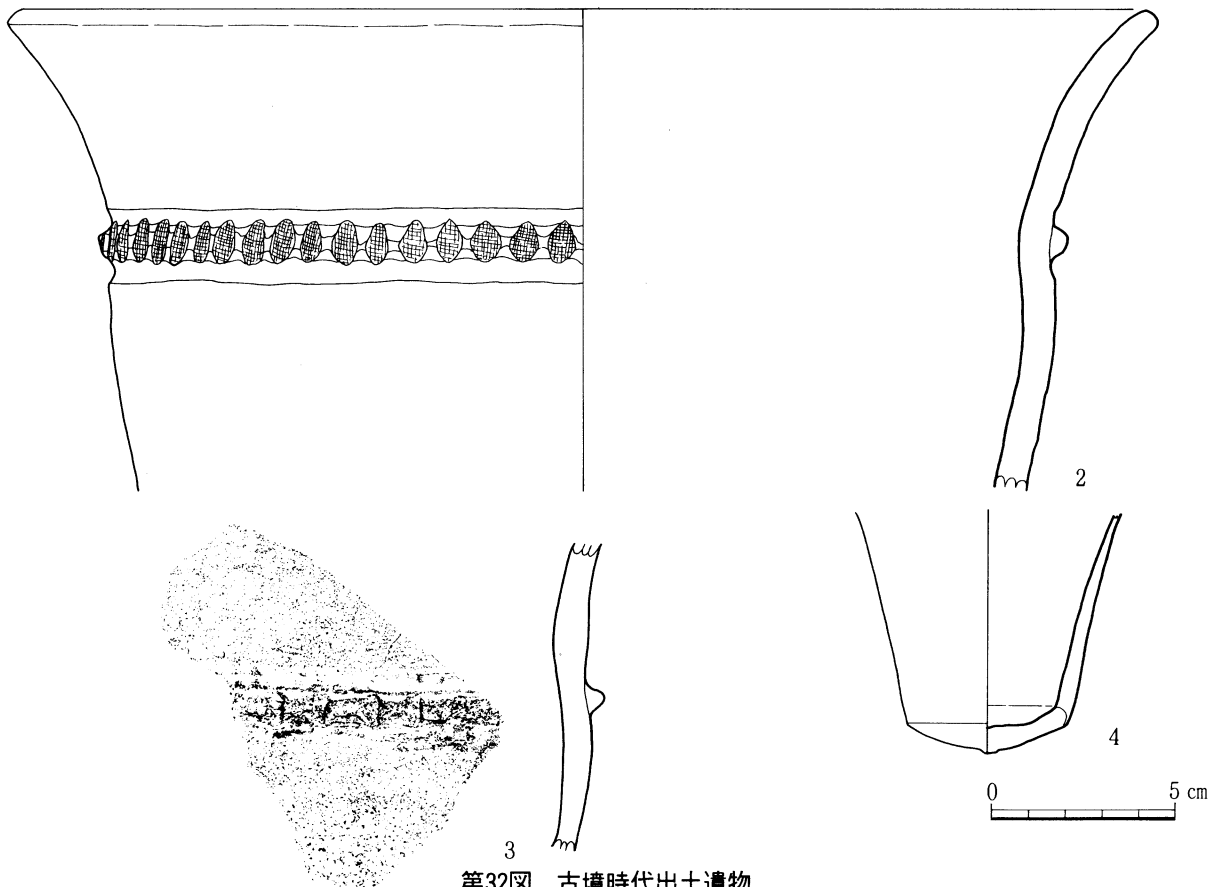
#### 古墳時代の遺物（第32図の2～4）

古墳時代の遺物は非常に少なく、図化できるものも3点のみである。ここでは成川式土器（第32図の2～4）の3点を掲載した。いずれもP-12区出土で、2・3は攪乱層から、4は第1層からの出土である。

2は、甕形土器の口縁部で復元口縁部径31cmを測る。口縁部はやや外反し、頸部には厚さ約1cmの1条の貼付刻目突帯を巡らす。刻目には布目が残ることから、工具に布を巻き付けて押し付けたものと考えられる。外面にはさすが若干付着している。

3は甕形土器の頸部である。口縁部はやや外反するもので、頸部にはヘラによる刻目を施した貼付突帯を巡らす。

4は、埴形土器である。口縁部を欠損するものの全体形状は認められる。器壁は薄く焼成は堅緻である。いわゆる一般の埴形土器の形態（頸部のくびれにより胴部と口縁部に分かれる）とは異なり、体部と口縁部は明瞭に区別できないものである。底部に近い部分に稜線が認められ、口縁部は稜線の位置からほぼ直線的に立ち上がる。同様のものは、枕崎市の松之尾遺跡・始良郡始良町の萩原遺跡等でも見られる。



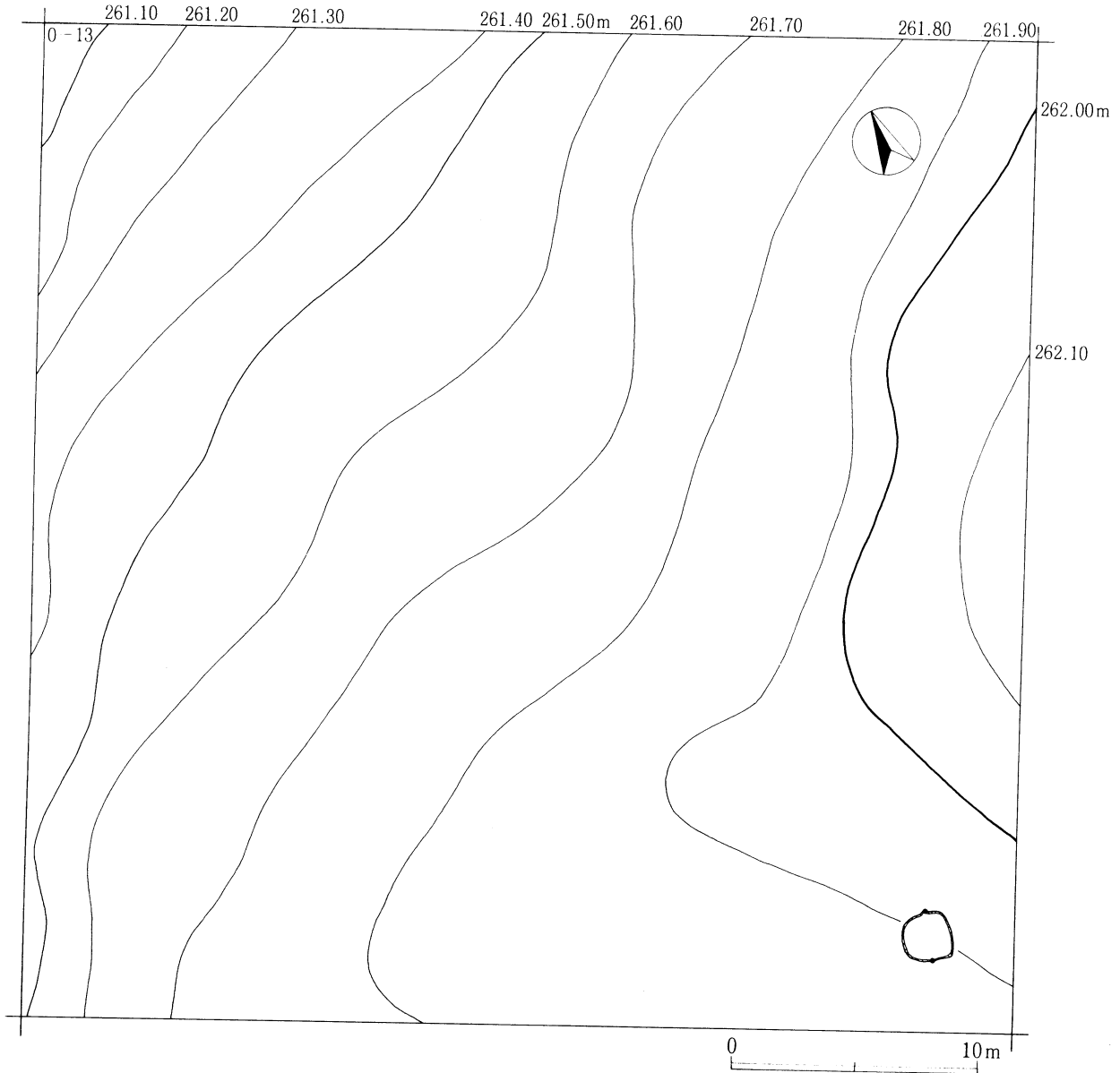
第32図 古墳時代出土遺物

第5節 弥生時代の調査（第33図～第35図）

1 弥生時代の遺構・遺物（第33図～第35図）

弥生時代の遺物包含層であるⅡ層は、大半が削除

されているため、遺物・遺構はほとんど検出されなかった。ただ、O-13区において、竪穴住居跡1基が検出された。

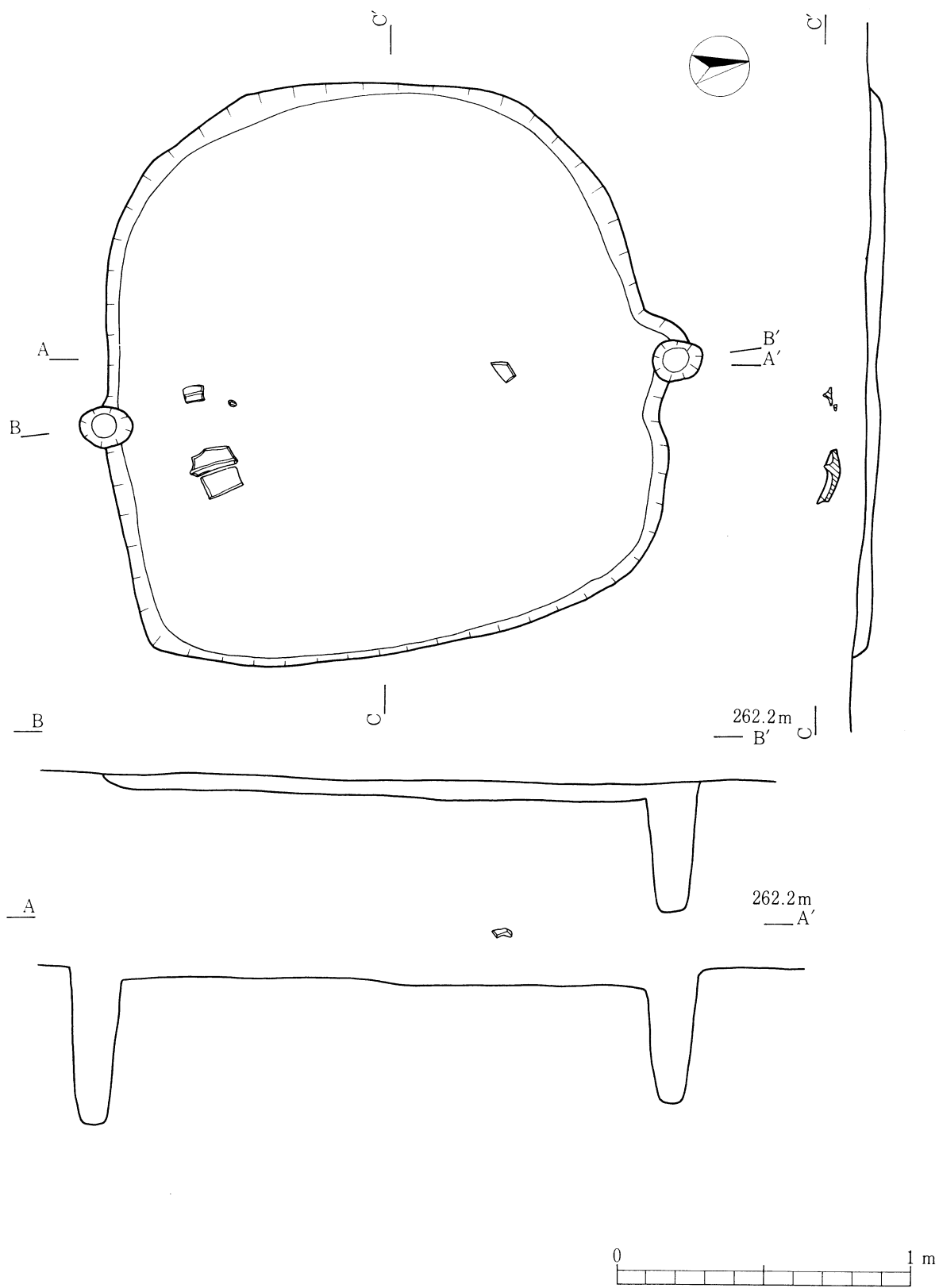


第33図 弥生時代住居跡配置図

竪穴住居跡が検出された地域の、表土下は、黄褐色のⅢ層土であるが、そこにⅡ層の黒色土が略方形に落ち込んでいたものである。上部の層がかなり削除されているため全体の形状は把握できない。現状では、一辺2mの略方形プランで深さが8cmと非常に浅いものである。柱穴は検出面からの深さが50cmのしっかりしたものが南北に2箇所認められる。この竪穴住居跡は、上部が削除されているため確実な

形状や深さは不明であるが、南九州特有の張り出しを有する住居であった可能性が高いものである。

遺物は埋土中に大型甕形土器の破片が4点（同一固体）出土したのみである。5は復元口縁径50.6cmを測るもので、口縁部は「く」字状に外反する。また、口縁部下位には大きめの貼付突帯を巡すものである。器面調整は、外面がナデとハケ目調整、内面がナデと荒いハケ目調整である。

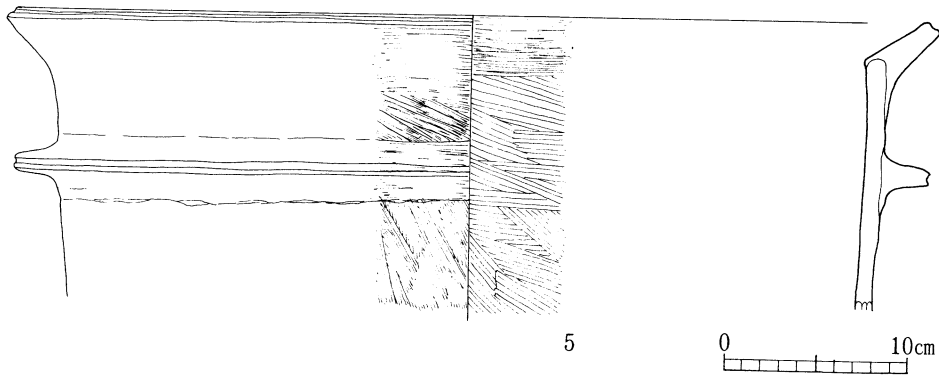


第34図 弥生時代住居跡平面図

弥生時代の遺構は、昭和60年度に実施された1工区の調査において、張り出しを有する竪穴住居跡5基と掘立柱建物跡3棟（棟持柱を有するもの2棟）が発見されているが、3工区においては唯一の遺構である。

この竪穴住居跡の時期については、住居内出土の大型甕形土器と住居の形状から判断することができ

るが、大型甕形土器は、口縁部が外反するもので弥生時代中期後半と考えられる。また、住居形状も南九州の弥生時代から古墳時代へかけて見られる張り出しを有する可能性のあるもので、大型甕形土器の年代観と符号し、弥生時代中期後半と考えられるものである。



第35図 弥生時代住居内出土遺物

## 第6節 縄文時代後期の調査

縄文時代後期の遺物包含層はⅢ層であるが遺物の出土量は少なかった。遺構は、Ⅳ層上面において、掘り込み、集石遺構等が検出された。掘り込みについては、深さや形状において3類に分類される。2つの類は陥し穴として考えられるもので、いま1類は用途が色々と考えられるものである。

### 1 縄文時代後期の陥し穴（第36図～第68図）

陥し穴は、79基が検出されたが、深さによりA類（60基）・B類（19基）の2種類に分類される。深さがおおむね150cm以上のものをA類、150cm以下のものをB類とした。

陥し穴は、基本的にはⅣ層上面において黒褐色土もしくは黒色土の落ち込みとして検出されるが、Ⅳ層面で検出できずにⅥ層・Ⅶ層面で検出されたものもある。

#### (1) 陥し穴A類（第37図～第63図）

A類の陥し穴は、遺跡の中央を東西方向に2列に並んだ状況で検出された。1列は、O-7区からQ-13区にかけて33基、いま1列は、Q-6区からR-13区にかけて27基である。Q-15区、R-13区以東は調査区外になるために実態はつかめないが、地形に沿って湾曲しながら南へ伸びていくものと考えられる。

形状は、上面が径2m前後で、深さ150cm～290cmの円形の掘り込みで床面に小ピットを有するものもある。上部は、深さ30cm程度の浅鉢状のゆるやかな

掘り込みで、その下部は径1mの円筒状を呈するものである。この形状はⅥ層・Ⅶ層で検出されたものを除いてほぼ同じである。

底面に小ピットを有するものは、10号・33号・34号・35号（2個）・37号（2個）・38号（2個）・39号・40号・41号・42号・43号・44号・45号・46号・52号・53号・55号・59号（2個）である。小ピットを有する陥し穴は、深さが160cm前後とA類の中では浅いものが多いことが特徴である。

また、1号・7号・12号・43号は本体の掘り込みの横にもう一つの掘り込みがあり、2つの掘り込みが連結しているものである。

17号と52号は連結している陥し穴と類似しているものであるが、形態としては2段掘りと考えられるものである。

60号陥し穴は、Q-14区の壁面において検出されたものであるが、Ⅳ層中の桜島火山灰（P-5約4900年前）より下層において検出されたもので、他の陥し穴（Ⅳ層上部検出）よりは时期的に古いのではないかと考えられる。上野原遺跡のⅣ層下部においては遺物の出土は非常に少ないが、S-5区を中心に縄文時代前期の曾畑式土器が出土していることから、60号陥し穴の時期は縄文時代前期に近いものではないかと思われる。形状については、半分だけのため詳細は不明であるが、上面がやや広がるもので、他の陥し穴と大きくは変わらないようである。

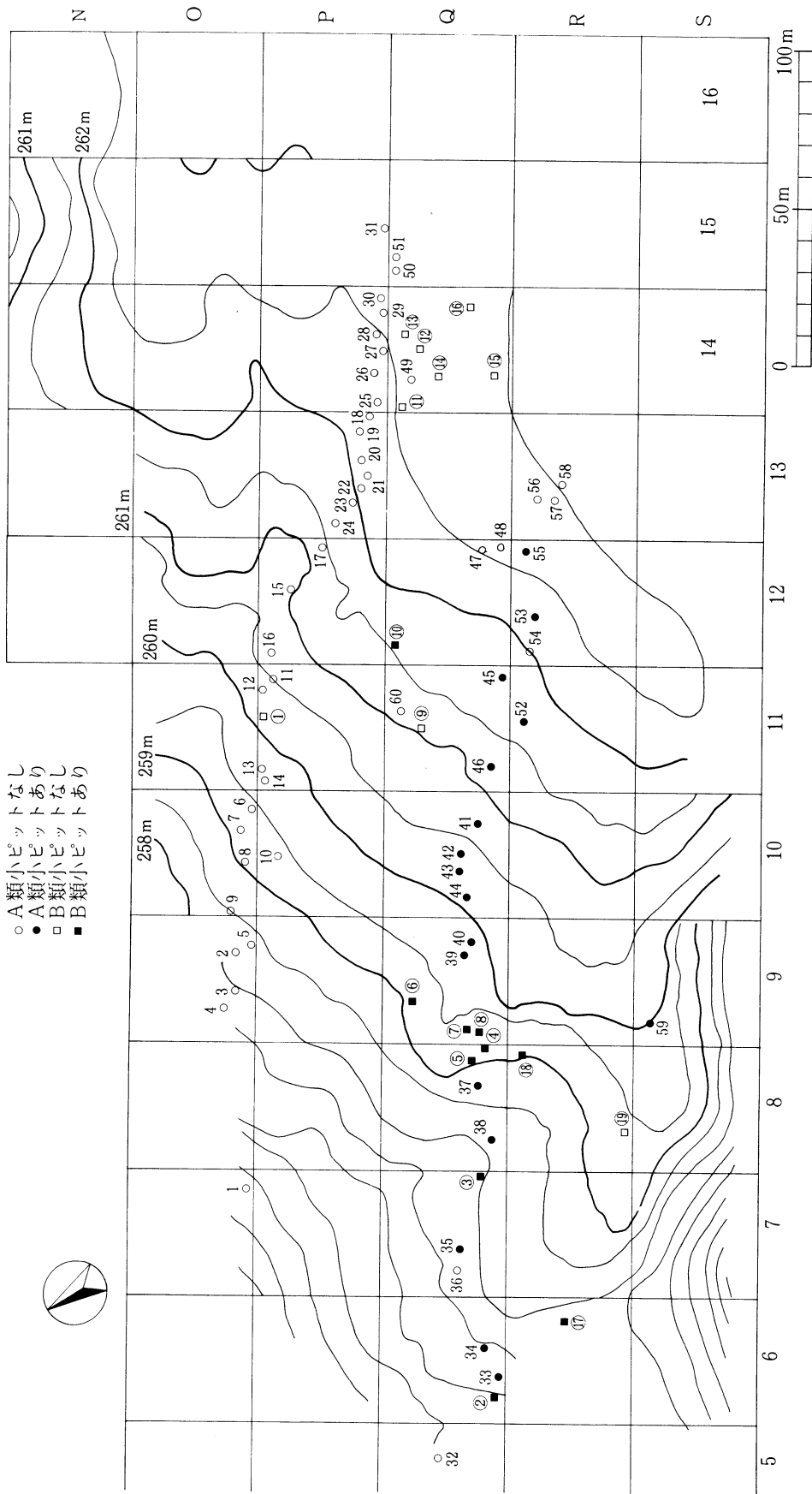


陥し穴一覧表（A類）No.1

番号	挿図番号	区 - 番号	検出層	長径	短径	深さ	小ピット		備考
							径	深さ	
1	第37図	O-7-1	IV層	405	283	268			径95cmの土坑と連結
2		O-9-3	IV層	269	200	290			
3		O-9-4	V層	200	200	260			
4	第38図	O-9-9	VII層	173	166	165			
5		O-9-12	VI層下	85	83	158			
6		O-10-1	IV層	296	263	273			
7	第39図	O-10-2	IV層	280	180	270			
8		O-10-3	IV層	238	196	275			
9	第40図	O-10-4	IV層	200	158	280			
10	第39図	P-10-1	IV層	198	140	136			
11	第42図	P-11-1	IV層	235	194	248			
12		P-11-2	IV層	215	132	230			
13	第43図	P-11-5	IV層	283	262	247			
14		P-11-6	IV層	268	251	271			
15	第44図	P-12-1	IV層	311	278	244			
16		P-12-2	IV層	222	221	221			
17	第45図	P-12-3	IV層	252	167				
18		P-13-1	IV層	209	192	281			
19		P-13-2	IV層	227	215	273			
20	第46図	P-13-3	IV層	243	236	203			
21		P-13-4	IV層	193		260			
22		P-13-5	IV層	242	235	265			
23	第47図	P-13-6	IV層	190	182	137			
24		P-13-7	IV層	248	208	265			
25	第48図	P-14-1	IV層	268	209	280			
26	第47図	P-14-2	IV層	219	197	246			
27	第48図	P-14-3	IV層	258	253	261			
28	第49図	P-14-4	IV層	326	269	262			
29		P-14-5	IV層	207	198	242			
30	第50図	P-14-6	IV層	329	303	290			
31		P-15-3	IV層	273	265	265			

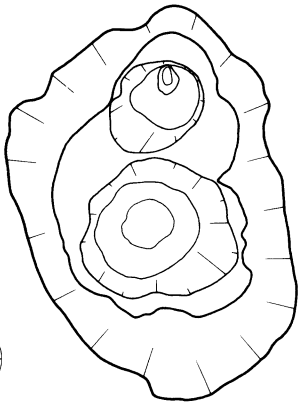
陥し穴一覧表（A類）No.2

番号	挿図番号	区 - 番号	検出層	長径	短径	深さ	小ピット		備考
							径	深さ	
32	第51図	Q-5-1	IV層	153	149	163			
33		Q-6-1	V層	129	112	176	20	22	
34		Q-6-3	VI層	143	137	138	14	21	
35	第52図	Q-7-2	IV層	268	246	162	19 20	23 30	
36		Q-7-5	IV層	270	165	210			
37	第53図	Q-8-1	V層	258	250	136	15 18	35 35	
38		Q-8-2	IV層	285	248	168	15 14	34 34	
39	第54図	Q-9-1	IV層	372	285	207	22	43	
40		Q-9-2	IV層	360	333	180	26	42	
41	第55図	Q-10-1	IV層	213	201	194	21	32	
42		Q-10-2	IV層	206	178	199	26	38	
43	第56図	Q-10-3	IV層	250	220	181	23	33	
44		Q-10-6	IV層	200	165	185	16	48	
45	第57図	Q-11-4	IV層	286	251	161	22	22	
46		Q-11-5	IV層	198		154	18	21	
47	第58図	Q-12-8	IV層	227	138	158			
48		Q-12-9	IV層	227	224	130			
49		Q-14-2	IV層	161	136	125			
50	第60図	Q-15-1	IV層	209	199	247			
51	第59図	Q-15-2	IV層	274		284			
52	第60図	R-11-3	IV層	218	150	158	20	20	
53		R-12-1	IV層	255	236	160	28	20	
54	第61図	R-12-2	IV層	248	224	187			
55		R-12-3	V層	183		164	12	6	
56		R-13-3	IV層	256	218	186			
57	第62図	R-13-4	IV層	214	197	130			
58		R-13-5	IV層	180	137	148			
59		S-9-1	IV層	172	132	164	15 48	48 87	
60	第63図	Q-11-10	IV層下部	80 + $\alpha$	110	130			

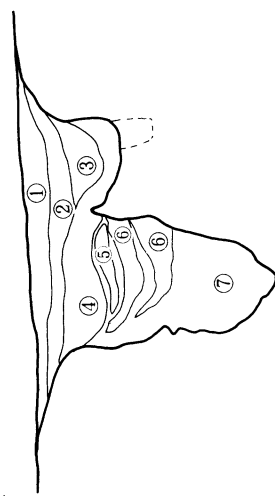


第36図 陥し穴配置図

No.1 O-7



256.0m

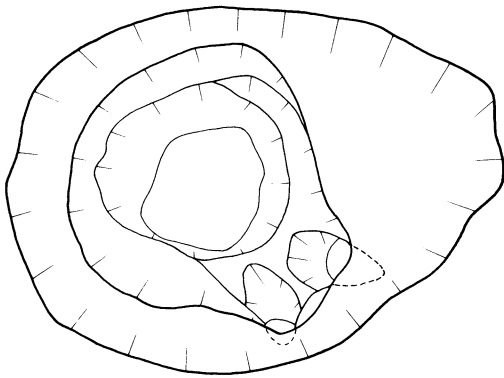


1号 (O-7区)

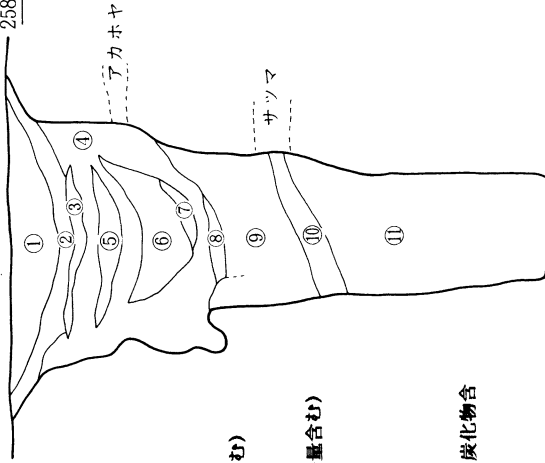
- ① 黒色土 (軽石少量含む)
- ② 黒茶褐色土 (軽石多く含む)
- ③ 暗茶褐色土
- ④ 黄茶褐色土 (軽石多く含む)
- ⑤ 黄褐色土
- ⑥ 黄褐色土 (やや粘質, 乳白色ブロックを含む)
- ⑦ 黄茶褐色土 (粘質, 炭化物含む)



No.2 O-9



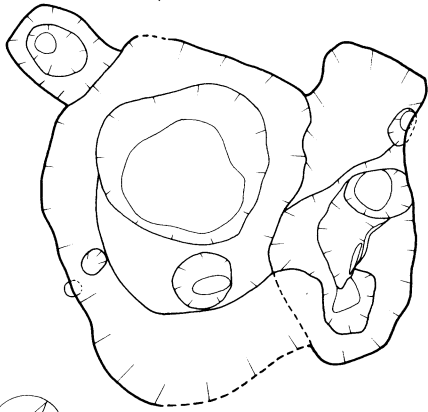
258.0m



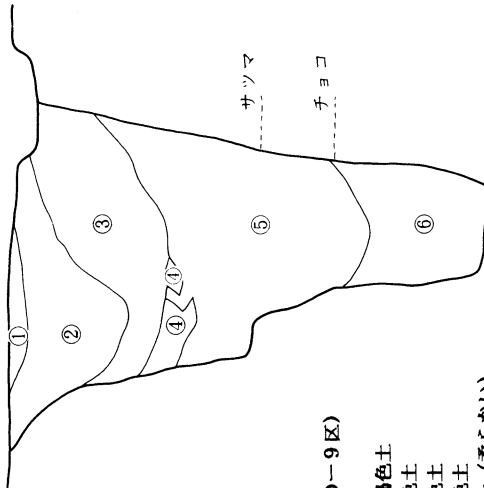
2号 (O-9区)

- ① 黒褐色土 (軽石含む)
- ② 暗黒茶褐色土 (軽石含む)
- ③ 黒褐色土 (軽石含む)
- ④ 暗黄褐色土
- ⑤ 黄茶褐色土 (黒色土少量含む)
- ⑥ 茶褐色土
- ⑦ 黒褐色土
- ⑧ 黄褐色土 (柔らかい)
- ⑨ 黄褐色土 (粘質)
- ⑩ 黄茶褐色土 (粘質)
- ⑪ 黄褐色土 (柔らかい, 炭化物含む)

No.3 O-9



258.0m

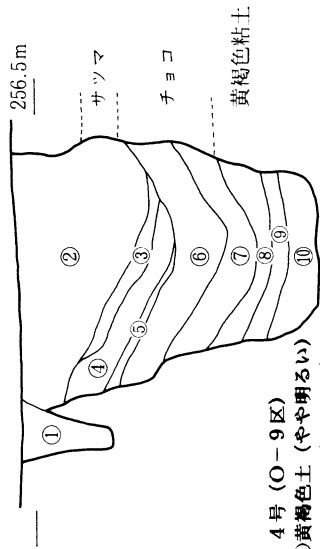
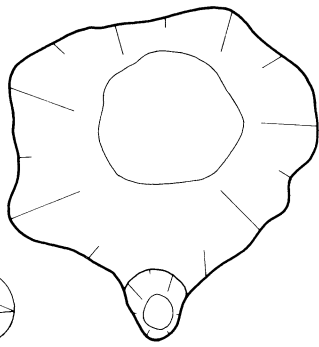


3号 (O-9区)

- ① 黒色土
- ② 暗黄茶褐色土
- ③ 黄茶褐色土
- ④ 黒茶褐色土
- ⑤ 暗黄褐色土
- ⑥ 黄褐色土 (柔らかい)

第37図 陥し穴実測図 (A類)

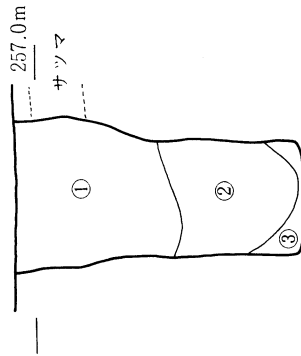
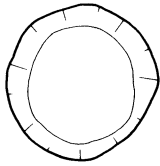
No. 4 O-9



4号 (O-9区)

- ①黄褐色土 (やや明るい)
- ②黄褐色土 (柔らかい)
- ③暗黄褐色土 (黒色ブロック含む)
- ④茶褐色土 (黄色ブロック含む)
- ⑤黄茶褐色土 (柔らかい)
- ⑥黒茶褐色土 (柔らかい)
- ⑦黒茶褐色土 (粘質, 柔らかい)
- ⑧黒茶褐色土 (粘質, 柔らかい)
- ⑨暗黄褐色土 (粘質, 柔らかい)
- ⑩明茶褐色土 (粘質, 柔らかい)

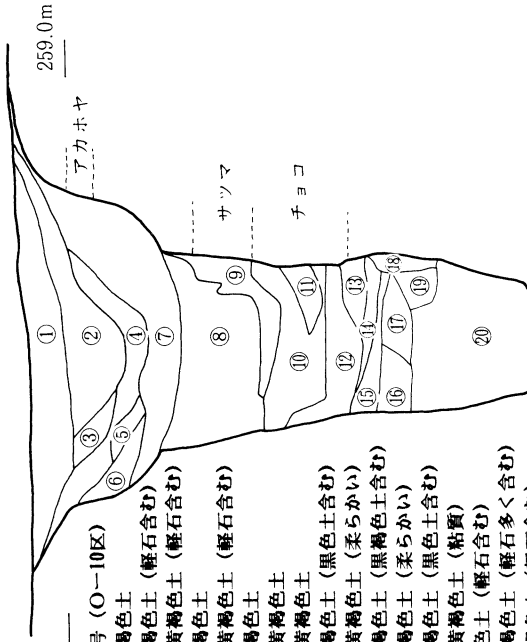
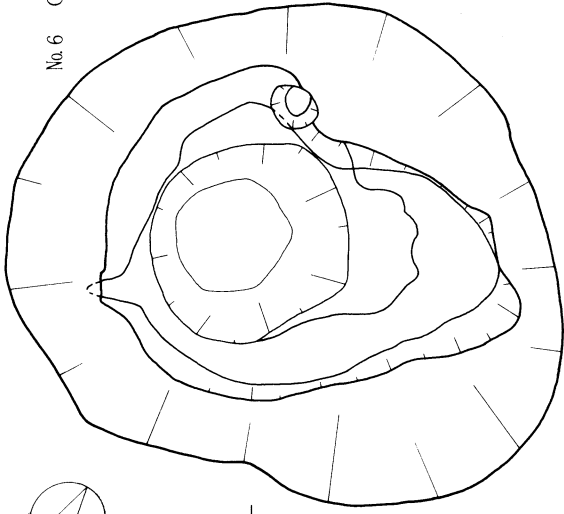
No. 5 O-9



5号 (O-9区)

- ①暗黄褐色土 (柔らかい, 下部は粒子が大まい)
- ②暗白茶褐色土 (粘質, 柔らかい)
- ③暗白茶褐色土 (粘質, 柔らかい)

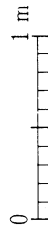
No. 6 O-10



6号 (O-10区)

- ①黒褐色土
- ②暗褐色土 (軽石含む)
- ③暗黄褐色土 (軽石含む)
- ④黄褐色土
- ⑤暗黄褐色土 (軽石含む)
- ⑥黄褐色土
- ⑦明黄褐色土
- ⑧明黄褐色土
- ⑨黄褐色土 (黒色土含む)
- ⑩明黄褐色土 (柔らかい)
- ⑪黄褐色土 (黒褐色土含む)
- ⑫黄褐色土 (柔らかい)
- ⑬黄褐色土 (黒色土含む)
- ⑭暗黄褐色土 (粘質)
- ⑮黒褐色土 (軽石含む)
- ⑯黒褐色土 (軽石多く含む)
- ⑰黒褐色土 (軽石含む)
- ⑱黄白褐色土 (粘質)
- ⑳暗茶褐色土 (粘質)
- ㉑暗紅褐色土

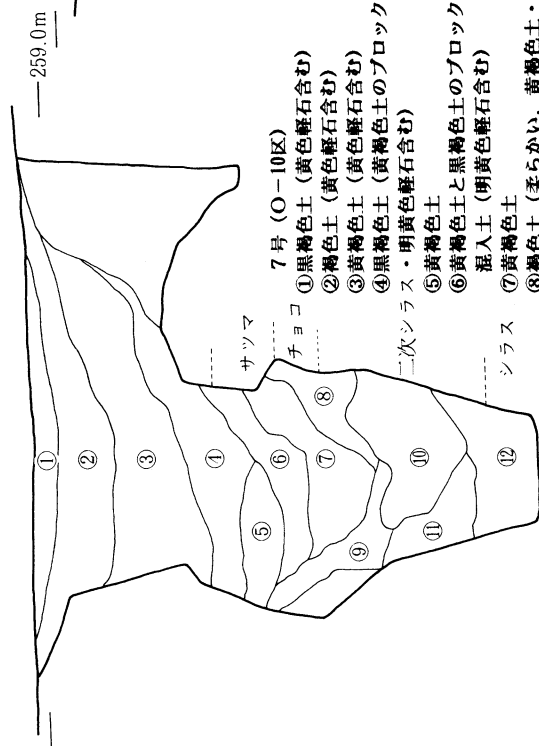
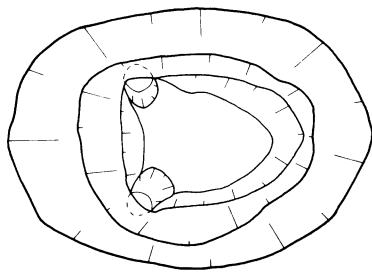
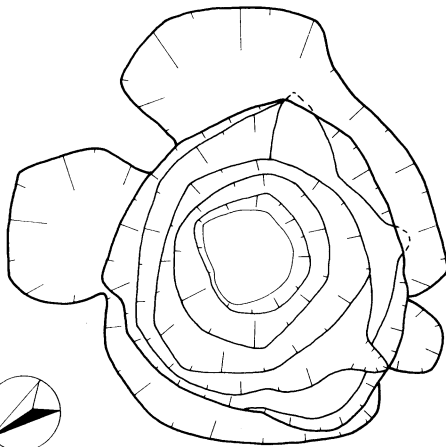
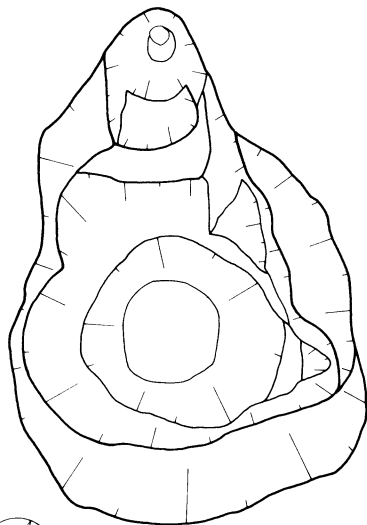
第38図 陥し穴測図 (A類)



No.7 O-10

No.8 O-10

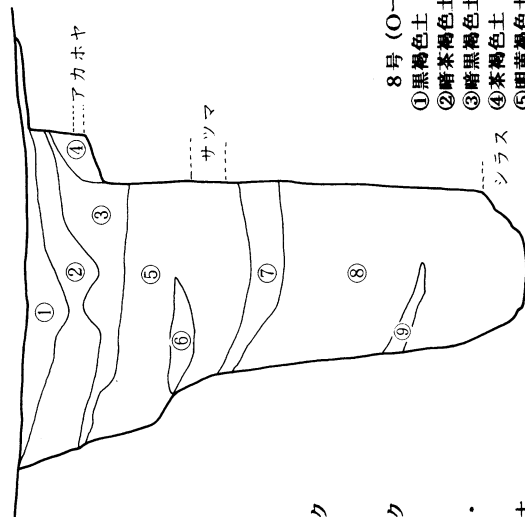
No.10 P-10



7号 (O-10区)

- ①黒褐色土 (黄色軽石含む)
- ②褐色土 (黄色軽石含む)
- ③黄褐色土 (黄色軽石含む)
- ④黒褐色土 (黄褐色土のプロック含む)
- ⑤黄褐色土
- ⑥黄褐色土と黒褐色土のプロック混入土 (明黄色軽石含む)
- ⑦黄褐色土
- ⑧褐色土 (柔らかい, 黄褐色土・黒褐色土のプロック混入)
- ⑨淡褐色土 (柔らかい, 黄褐色土のプロック混入)
- ⑩黄褐色土 (やや明るい)
- ⑪淡褐色土 (柔らかい)
- ⑫黄褐色土粘質土 (柔らかい)

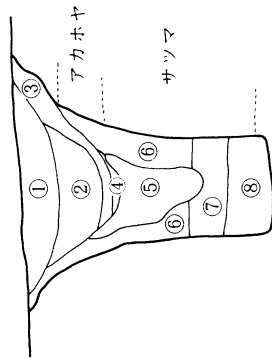
259.0m



8号 (O-10区)

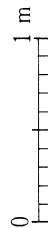
- ①黒褐色土
- ②暗茶褐色土 (軽石含む)
- ③暗黒褐色土 (軽石含む)
- ④茶褐色土 (軽石含む)
- ⑤明黄褐色土
- ⑥明黄褐色土 (軽石含む)
- ⑦暗茶褐色土 (柔らかい)
- ⑧暗黒褐色土 (柔らかい)
- ⑨黒色土

259.4m



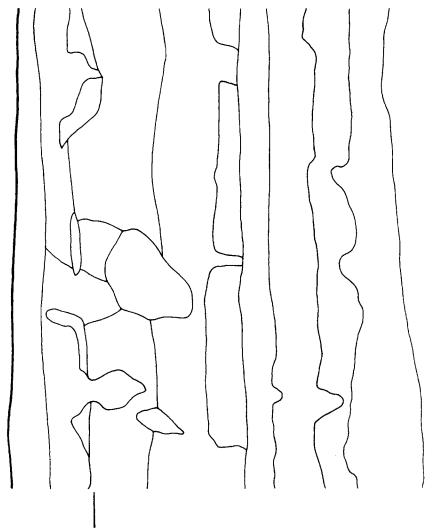
10号 (P-10区)

- ①黒褐色土 (軽石含む)
- ②暗茶褐色土 (軽石含む)
- ③黒茶褐色土 (軽石含む)
- ④暗茶褐色土
- ⑤黒茶褐色土 (柔らかい)
- ⑥茶褐色土 (下部は柔らかい)
- ⑦暗茶褐色土 (柔らかい)
- ⑧茶褐色土 (柔らかい)



第39図 陥し穴実測図 (A類)

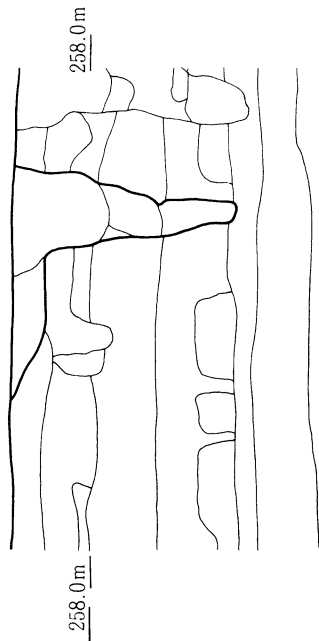
No. 9 O-10



2回目



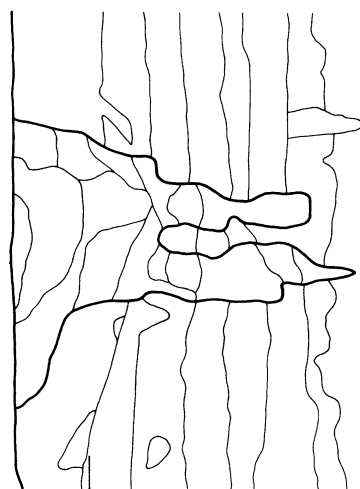
4回目



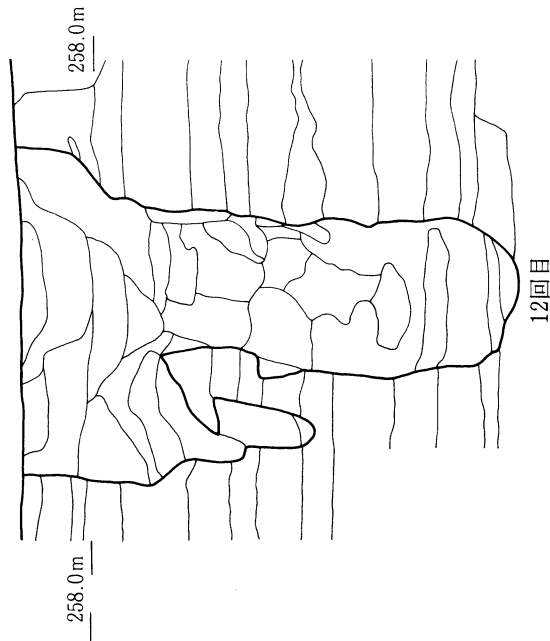
6回目



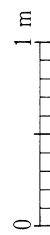
8回目



10回目



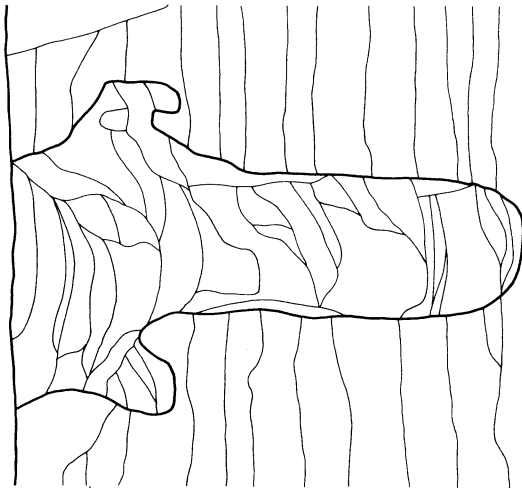
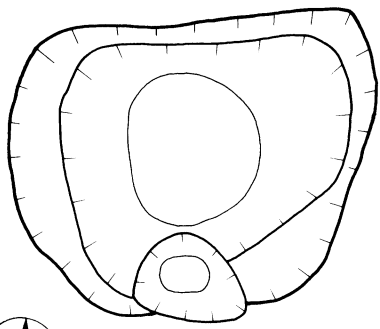
12回目



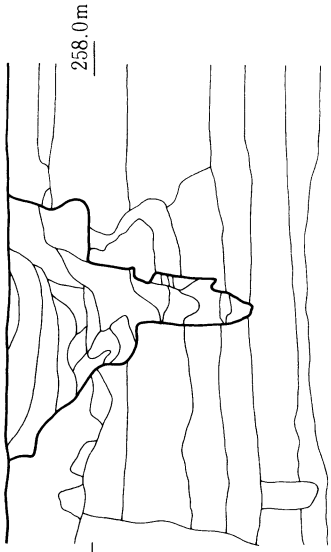
第40図 陥し穴実測図 (A類)



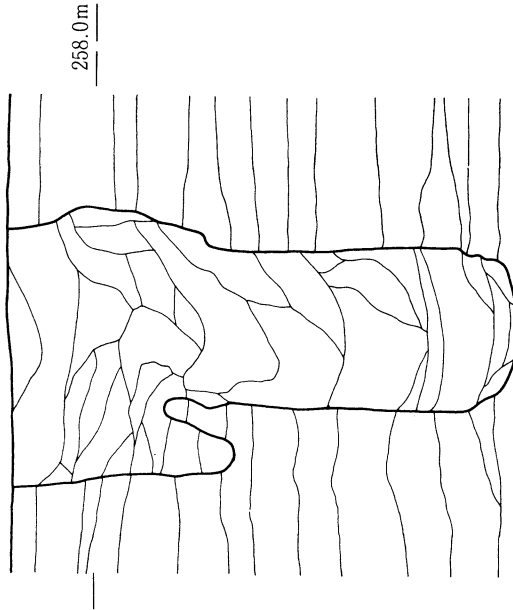
No. 9 -- 2



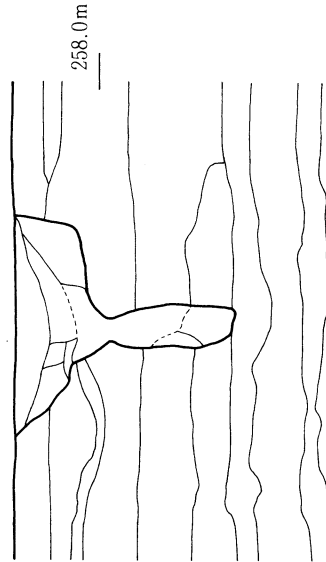
16回目



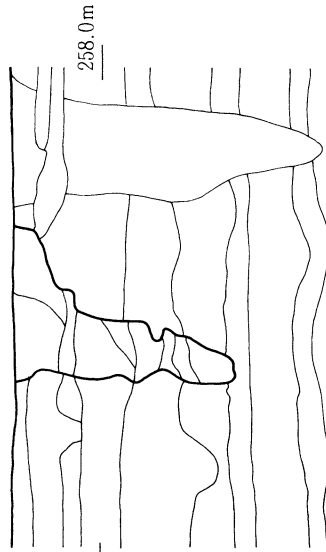
18回目



13回目



20回目

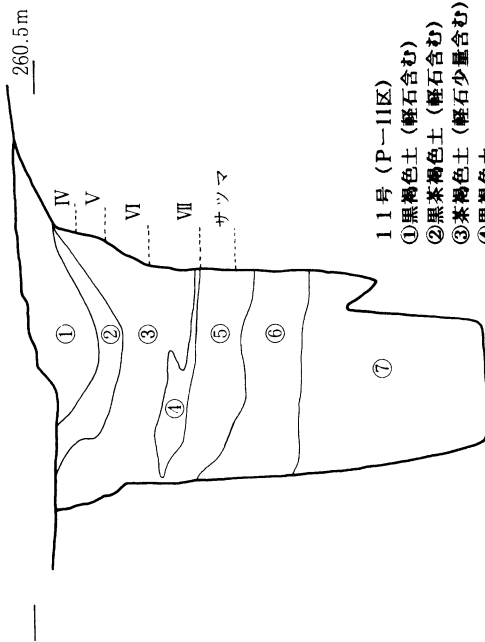
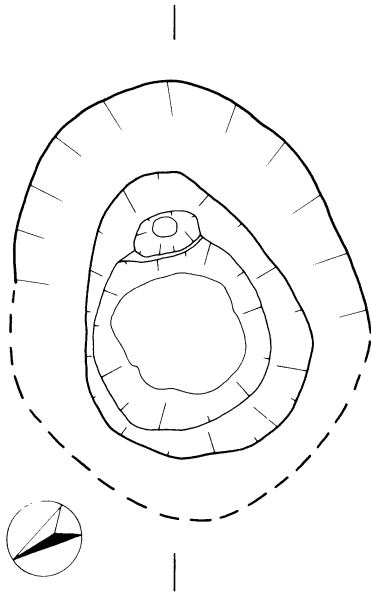


22回目



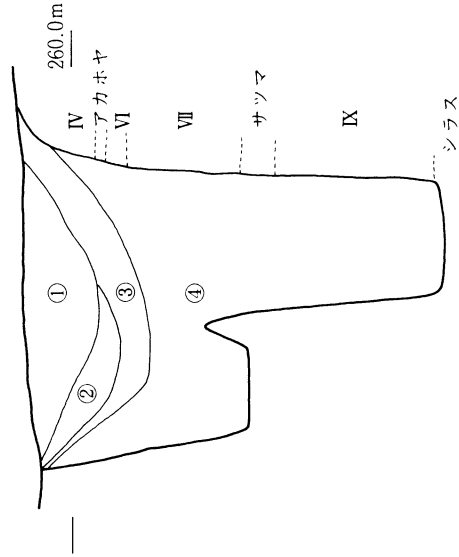
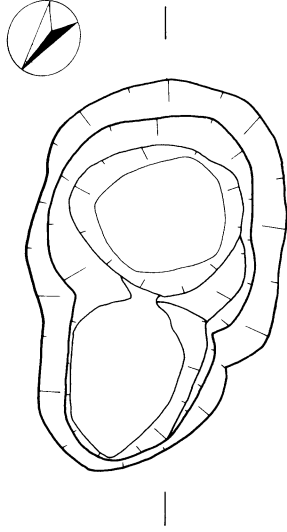
第41図 陥し穴実測図 (A類)

No.11 P-11



- 11号 (P-11区)
- ① 黒褐色土 (軽石含む)
  - ② 黒茶褐色土 (軽石含む)
  - ③ 茶褐色土 (軽石少量含む)
  - ④ 黒褐色土
  - ⑤ 茶褐色土 (柔らかい)
  - ⑥ 暗茶褐色土 (柔らかい)
  - ⑦ 茶褐色土 (柔らかい)

No.12 P-11

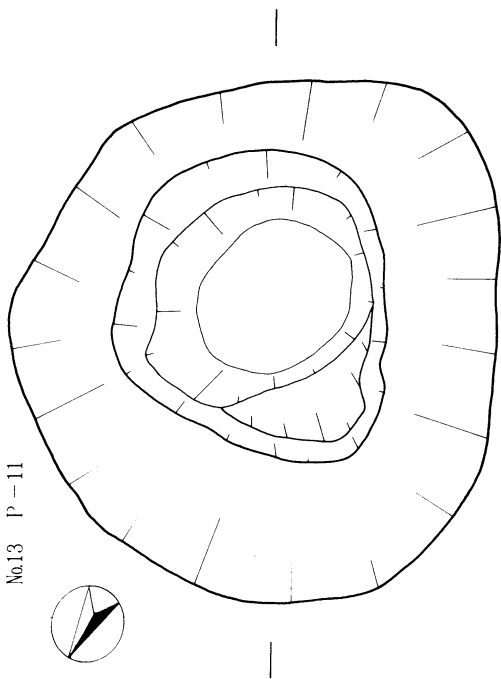


- 12号 (P-11区)
- ① 黒褐色土 (軽石含む)
  - ② 暗茶褐色土 (やや硬質, 軽石含む)
  - ③ 茶褐色土 (軽石含む)
  - ④ 黄褐色土 (柔らかい, 軽石含む)

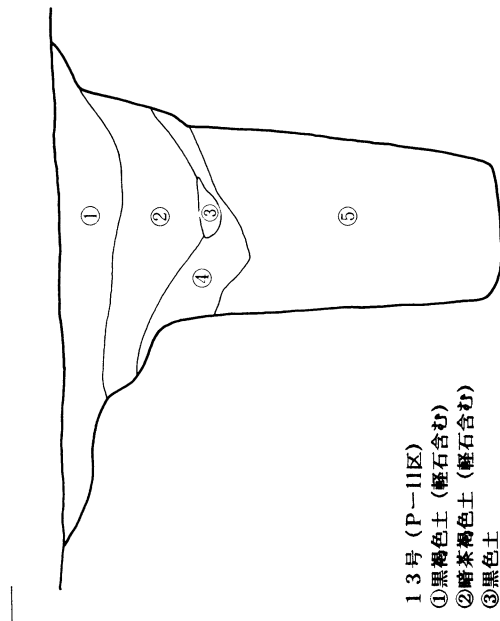


第42図 陥し穴実測図 (A類)

No.13 P-11

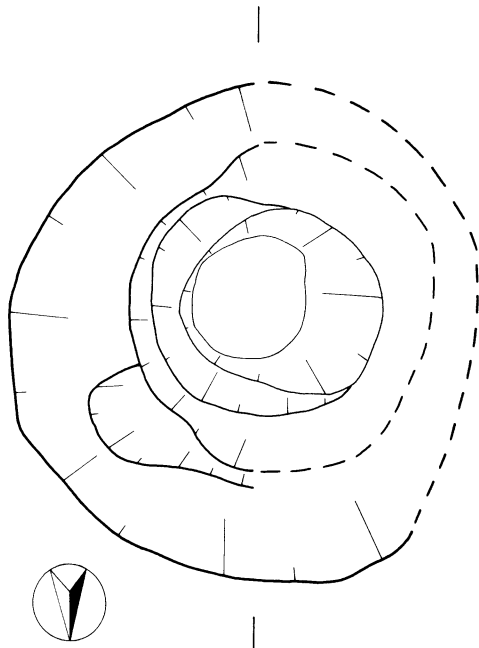


260.0m

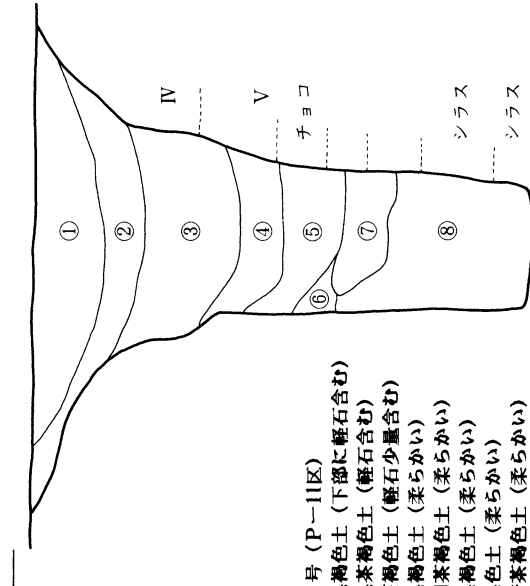


- 13号 (P-11区)
- ① 黒褐色土 (軽石含む)
  - ② 暗茶褐色土 (軽石含む)
  - ③ 黒色土
  - ④ 茶褐色土 (軽石少量含む)
  - ⑤ 淡茶褐色土 (柔らかい)

No.14 P-11



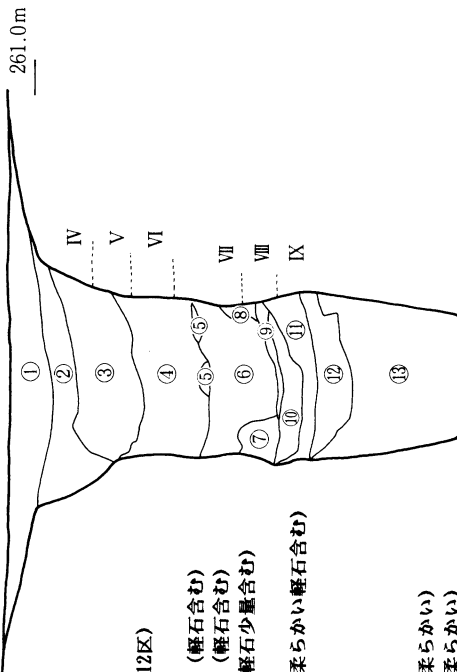
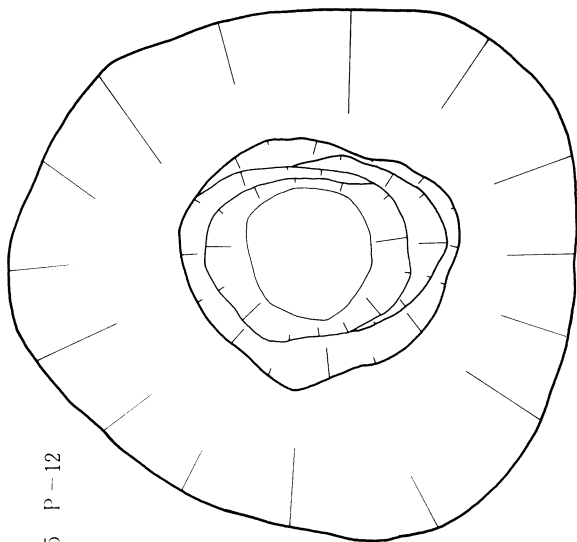
259.7m



- 14号 (P-11区)
- ① 黒褐色土 (下部に軽石含む)
  - ② 黒茶褐色土 (軽石含む)
  - ③ 茶褐色土 (軽石少量含む)
  - ④ 黒褐色土 (柔らかい)
  - ⑤ 明茶褐色土 (柔らかい)
  - ⑥ 黒褐色土 (柔らかい)
  - ⑦ 黒色土 (柔らかい)
  - ⑧ 暗茶褐色土 (柔らかい)

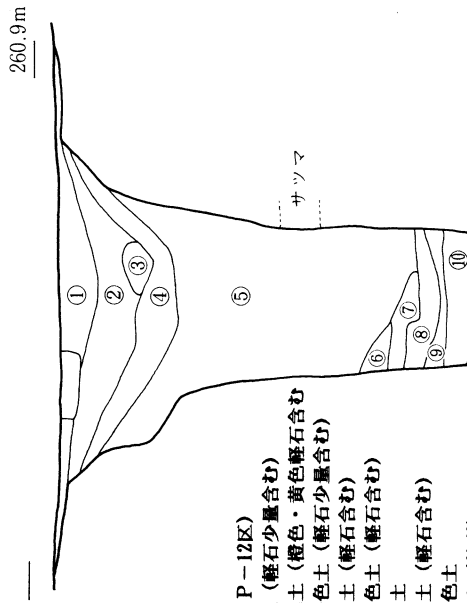
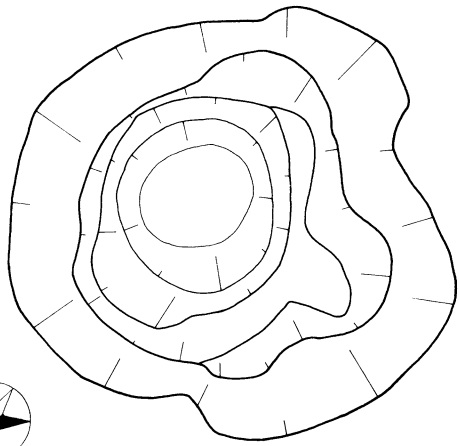
第43図 陥し穴実測図 (A類)

No.15 P-12

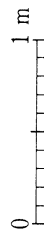


- 15号 (P-12区)
- ①黒褐色土
  - ②淡黒褐色土 (軽石含む)
  - ③明茶褐色土 (軽石含む)
  - ④黄褐色土 (軽石少量含む)
  - ⑤淡黒褐色土
  - ⑥黄褐色土 (柔らかい軽石含む)
  - ⑦淡黒褐色土
  - ⑧淡黒褐色土
  - ⑨茶褐色土
  - ⑩黄褐色土
  - ⑪黒褐色土 (柔らかい)
  - ⑫茶褐色土 (柔らかい)
  - ⑬暗茶褐色土 (柔らかい)

No.16 P-12

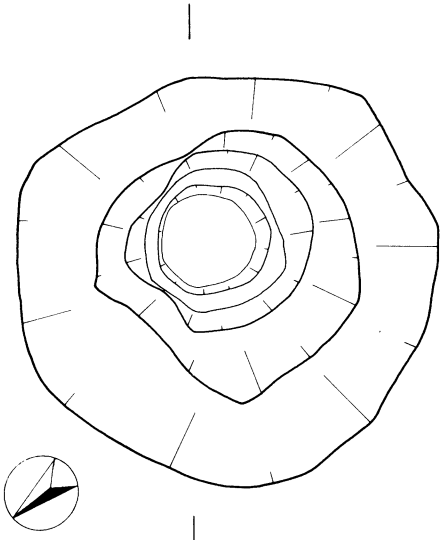


- 16号 (P-12区)
- ①黒色土 (軽石少量含む)
  - ②黒褐色土 (橙色・黄色軽石含む)
  - ③暗黒褐色土 (軽石少量含む)
  - ④明黄色土 (軽石含む)
  - ⑤明黄褐色土 (軽石含む)
  - ⑥茶褐色土
  - ⑦黒褐色土 (軽石含む)
  - ⑧暗黄褐色土
  - ⑨黒褐色土 (粘質)
  - ⑩白黄色土 (粘質)

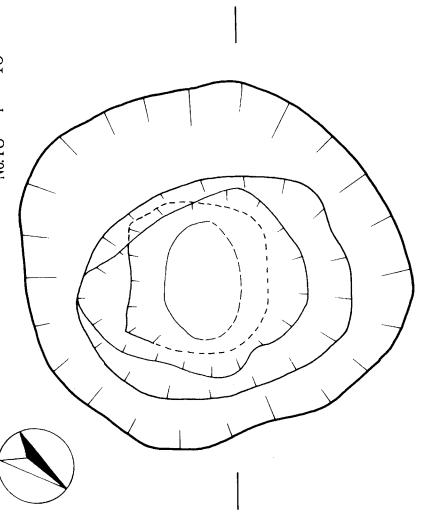


第44図 陥し穴実測図 (A類)

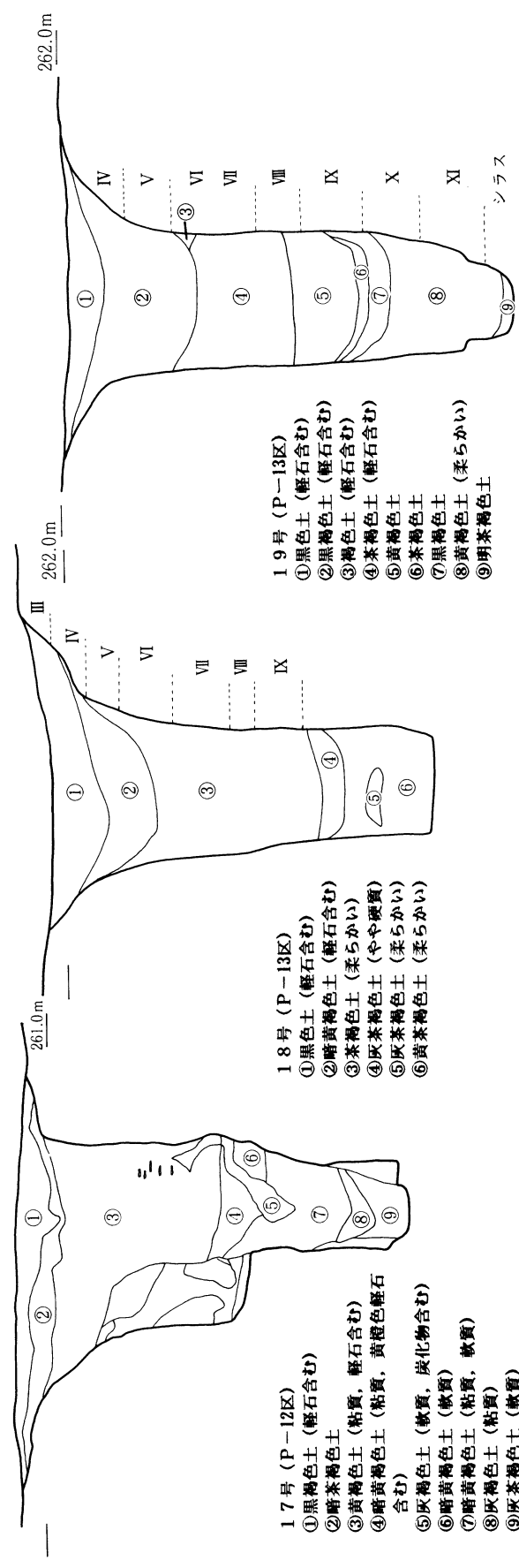
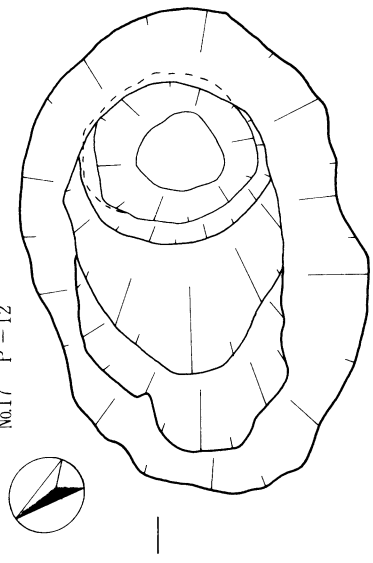
No.19 P-13



No.18 P-13



No.17 P-12



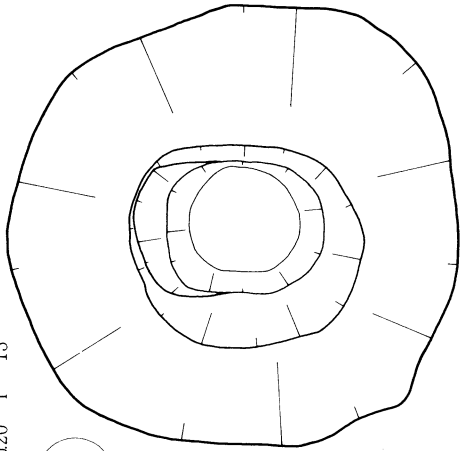
- 17号 (P-12区)
- ①黒褐色土 (軽石含む)
  - ②暗茶褐色土
  - ③黄褐色土 (粘質, 軽石含む)
  - ④暗黄褐色土 (粘質, 黄褐色軽石含む)
  - ⑤灰褐色土 (軟質, 炭化物含む)
  - ⑥暗黄褐色土 (軟質)
  - ⑦暗黄褐色土 (粘質, 軟質)
  - ⑧灰褐色土 (粘質)
  - ⑨灰茶褐色土 (軟質)

- 18号 (P-13区)
- ①黒色土 (軽石含む)
  - ②暗黄褐色土 (軽石含む)
  - ③茶褐色土 (柔らかい)
  - ④灰茶褐色土 (やや硬質)
  - ⑤灰茶褐色土 (柔らかい)
  - ⑥黄茶褐色土 (柔らかい)

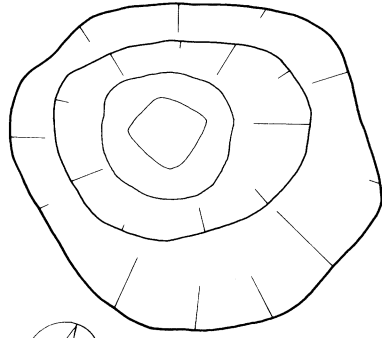
- 19号 (P-13区)
- ①黒色土 (軽石含む)
  - ②黒褐色土 (軽石含む)
  - ③褐色土 (軽石含む)
  - ④茶褐色土 (軽石含む)
  - ⑤黄褐色土
  - ⑥茶褐色土
  - ⑦黒褐色土
  - ⑧黄褐色土 (柔らかい)
  - ⑨明茶褐色土

第45図 陥し穴実測図 (A類)

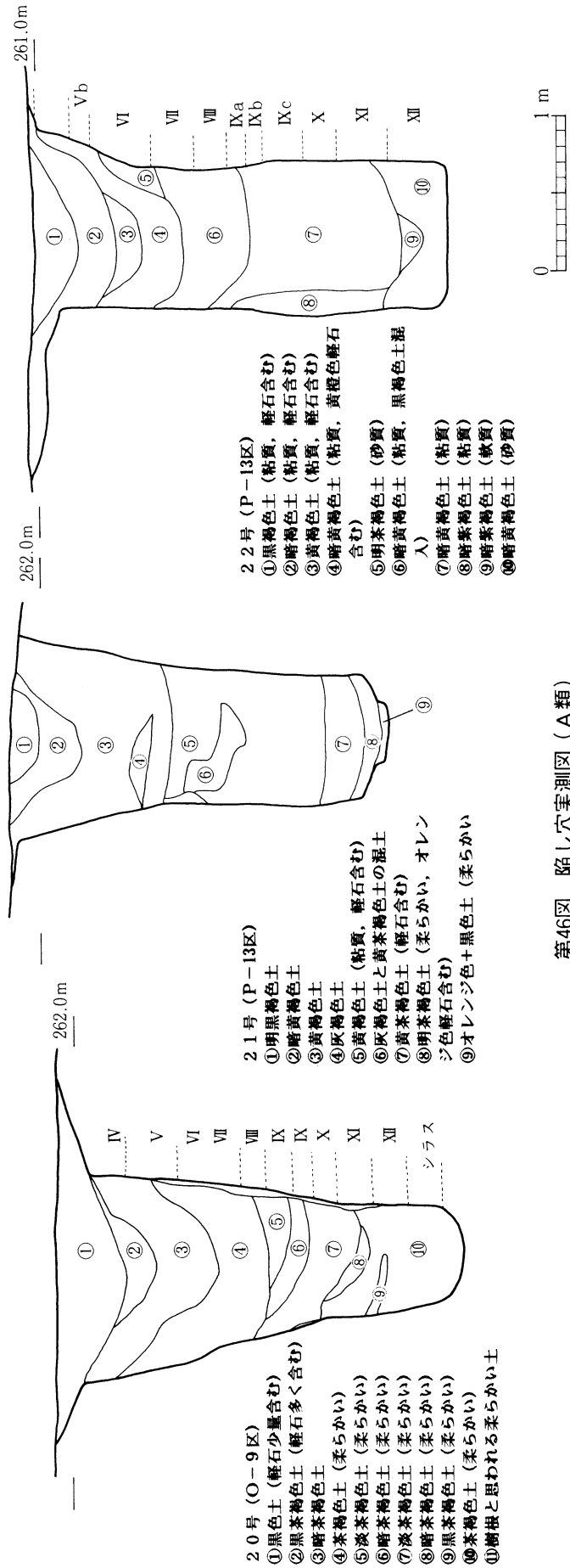
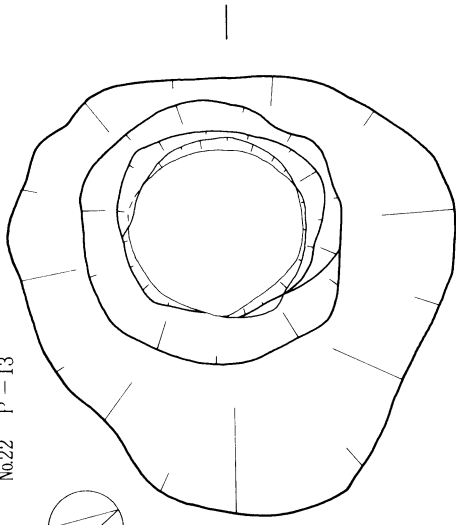
No.20 P-13



No.21 P-13

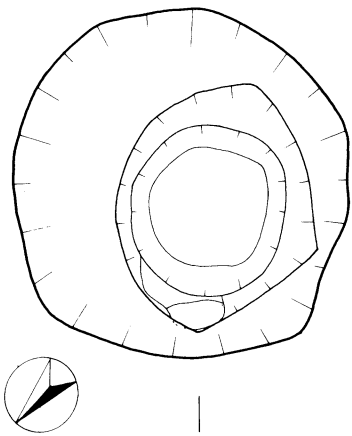


No.22 P-13

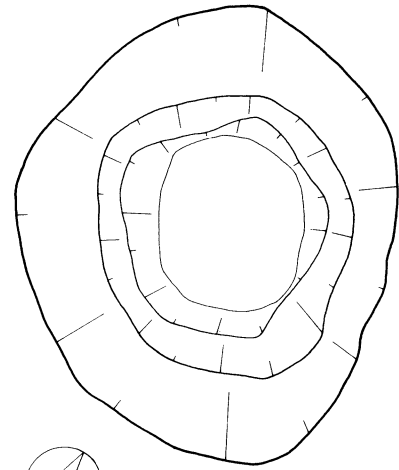


第46図 陥し穴実測図 (A類)

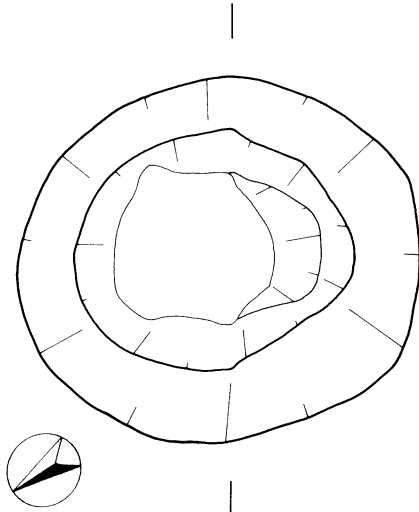
No.23 P-13



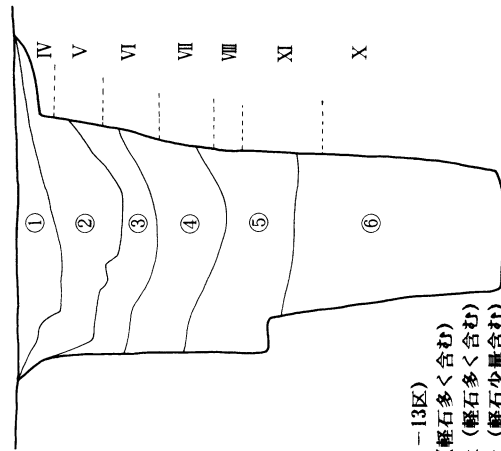
No.24 P-13



No.26 P-14

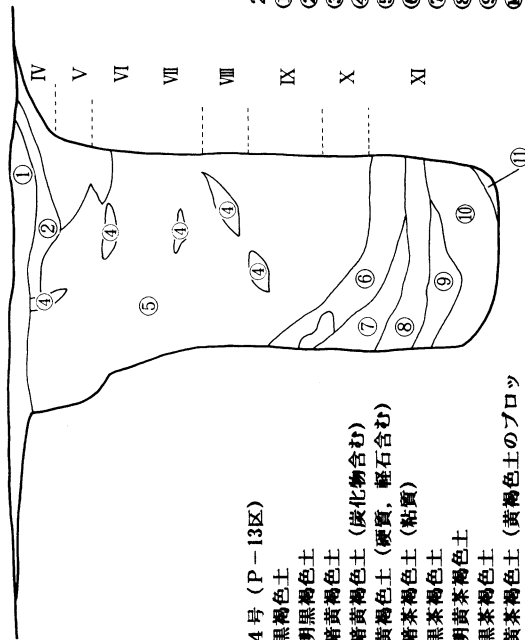


262.0m



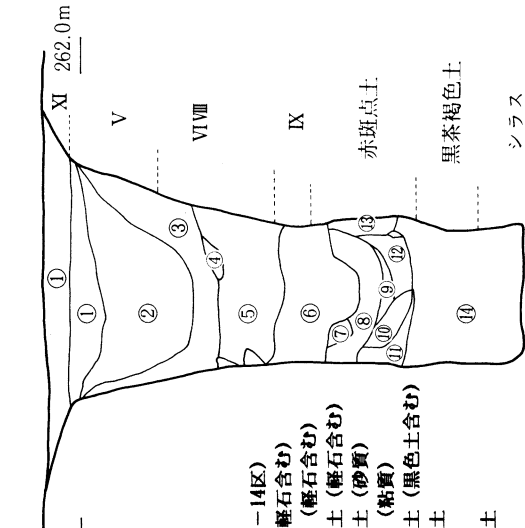
- 23号 (P-13区)
- ①黒色土 (軽石多く含む)
  - ②黒褐色土 (軽石多く含む)
  - ③黄褐色土 (軽石少量含む)
  - ④暗茶褐色土 (粘質, 軽石含む)
  - ⑤茶褐色土 (軽石含む)
  - ⑥暗黄褐色土 (柔らかい)

261.5m



- 24号 (P-13区)
- ①黒褐色土
  - ②明黒褐色土
  - ③暗黄褐色土 (炭化物含む)
  - ④暗黄褐色土 (硬質, 軽石含む)
  - ⑤黄褐色土 (粘質)
  - ⑥暗茶褐色土 (粘質)
  - ⑦黒茶褐色土
  - ⑧明黄茶褐色土
  - ⑨黒茶褐色土
  - ⑩黄茶褐色土 (黄褐色土のプロック含む)
  - ⑪乳白色土

262.0m

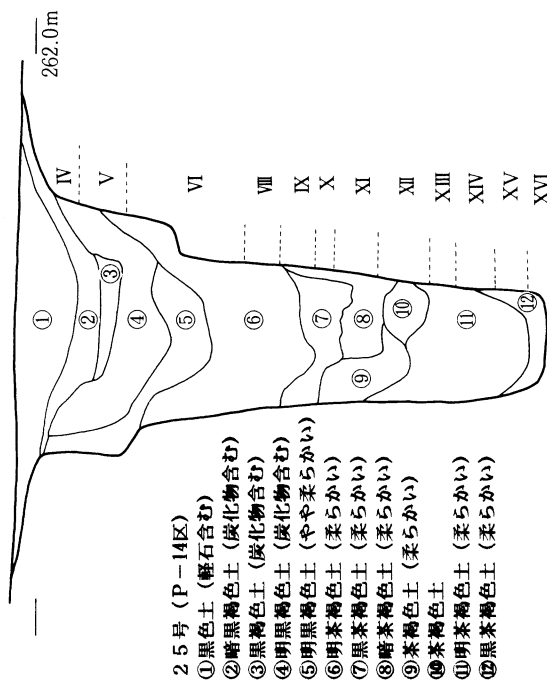
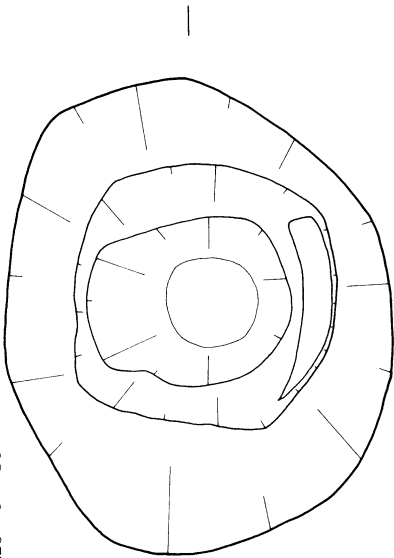


- 26号 (P-14区)
- ①黒色土 (軽石含む)
  - ②黄褐色土 (軽石含む)
  - ③黄茶褐色土 (軽石含む)
  - ④明黄褐色土 (砂質)
  - ⑤黄褐色土 (粘質)
  - ⑥暗黄褐色土 (黒色土含む)
  - ⑦暗紫褐色土
  - ⑧黄褐色土
  - ⑨暗茶褐色土
  - ⑩黄褐色土
  - ⑪暗紫褐色土
  - ⑫暗紫褐色土
  - ⑬暗黄褐色土
  - ⑭黄褐色土 (柔らかい)
- 赤斑点土  
黒茶褐色土  
シラス

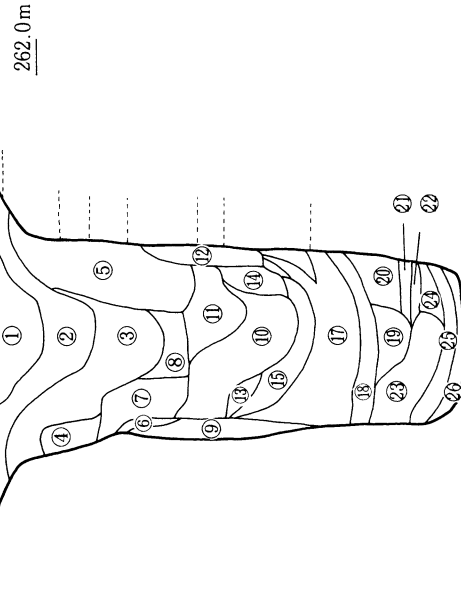
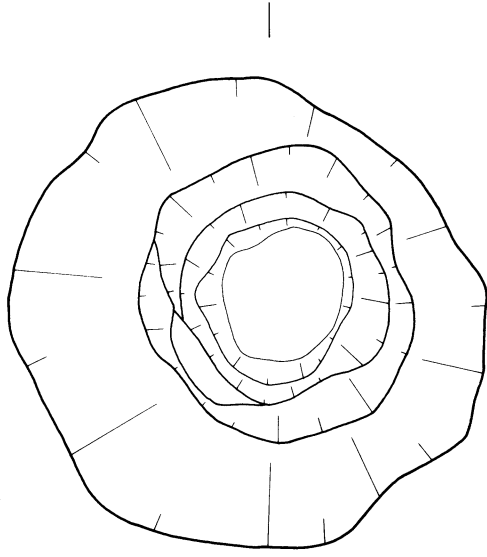
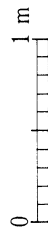


第47図 陥し穴実測図 (A類)





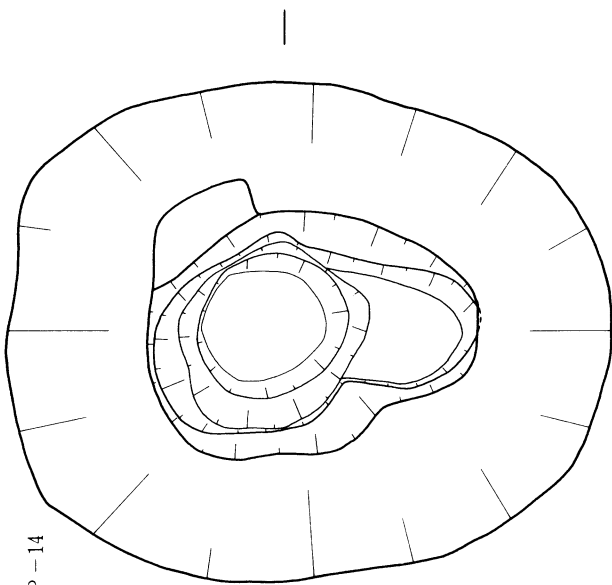
- 25号 (P-14区)
- ①黒色土 (軽石含む)
  - ②暗黒褐色土 (炭化物含む)
  - ③黒褐色土 (炭化物含む)
  - ④明黒褐色土 (炭化物含む)
  - ⑤明黒褐色土 (やや柔らかい)
  - ⑥明茶褐色土 (柔らかい)
  - ⑦黒茶褐色土 (柔らかい)
  - ⑧暗茶褐色土 (柔らかい)
  - ⑨茶褐色土 (柔らかい)
  - ⑩茶褐色土
  - ⑪明茶褐色土 (柔らかい)
  - ⑫黒茶褐色土 (柔らかい)



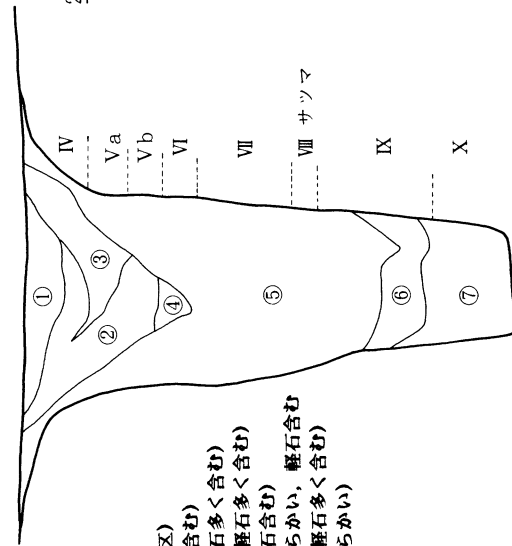
- 27号 (P-14区)
- ①黒褐色土 (軽石含む)
  - ②暗褐色土 (粘質, 軽石含む)
  - ③暗黄褐色土 (軽石含む)
  - ④暗褐色土 (粘質)
  - ⑤黄褐色土 (軽石含む)
  - ⑥暗紫褐色土 (粘質, 軽石含む)
  - ⑦黄褐色土
  - ⑧暗紫褐色土 (砂質)
  - ⑨暗黄褐色土 (軽石含む)
  - ⑩暗紫褐色土 (砂質)
  - ⑪暗紫褐色土 (粘質)
  - ⑫暗紫褐色土 (粘質)
  - ⑬暗紫褐色土 (粘質)
  - ⑭暗紫褐色土 (粘質)
  - ⑮暗紫褐色土 (粘質)
  - ⑯明黄白色土 (粘質, 軽石含む)
  - ⑰明黄白色土 (粘質)
  - ⑱暗紫褐色土 (粘質)
  - ⑲明黄白色土 (砂質, 軽石含む)
  - ⑳明黄白色土
  - ㉑白色土 (砂質)
  - ㉒明黄白色土 (砂質)
  - ㉓明黄白色土 (砂質)
  - ㉔暗紫褐色土 (粘質)
  - ㉕明黄白色土 (砂質)

第48図 陥し穴実測図 (A類)

No.28 P-14

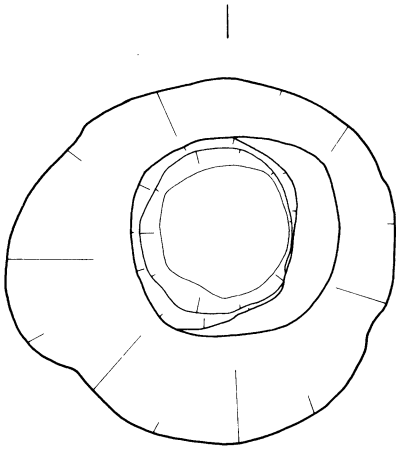


262.0m

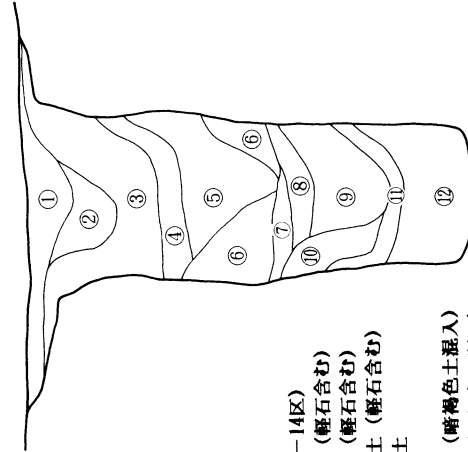


- 28号 (P-14区)
- ①黒色土 (軽石含む)
  - ②黒褐色土 (軽石多く含む)
  - ③暗茶褐色土 (軽石多く含む)
  - ④黒褐色土 (軽石含む)
  - ⑤茶褐色土 (柔らかい, 軽石含む)
  - ⑥暗茶褐色土 (軽石多く含む)
  - ⑦茶褐色土 (柔らかい)

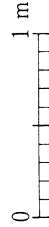
No.29 P-14



262.5m

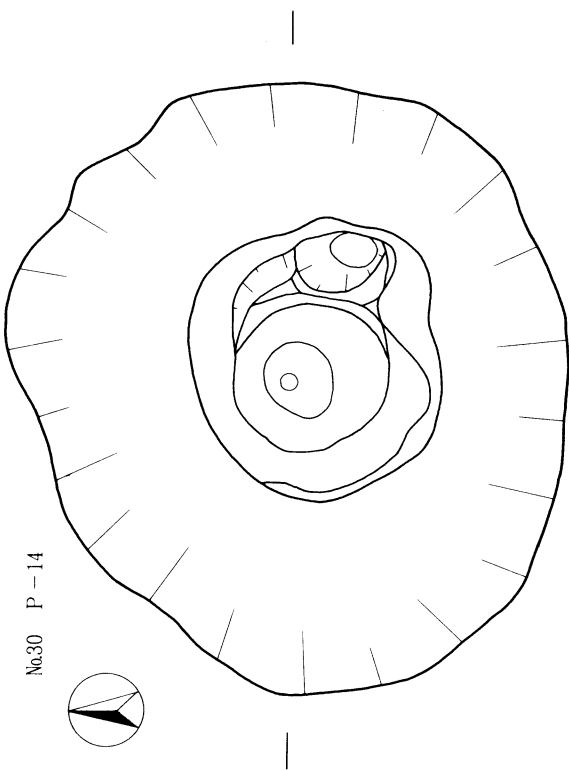


- 29号 (P-14区)
- ①黒褐色土 (軽石含む)
  - ②暗褐色土 (軽石含む)
  - ③暗黄褐色土 (軽石含む)
  - ④暗茶褐色土
  - ⑤暗褐色土
  - ⑥黄褐色土 (暗褐色土混入)
  - ⑦黄褐色土 (黄褐色土混入)
  - ⑧暗茶褐色土
  - ⑨暗褐色土 (軽石含む)
  - ⑩暗茶褐色土
  - ⑪暗紫褐色土 (柔らかい)
  - ⑫暗茶褐色土 (砂質, 柔らかい)

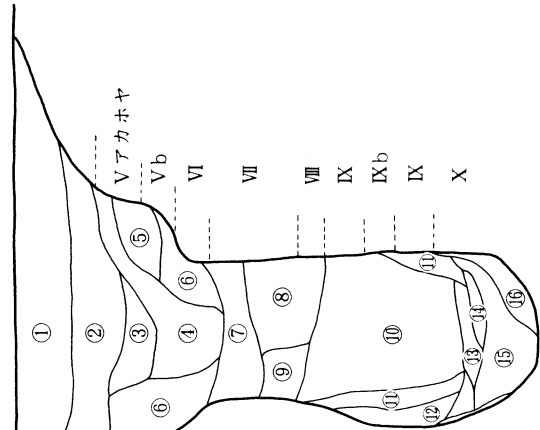


第49図 陥し穴実測図 (A類)

No.30 P-14

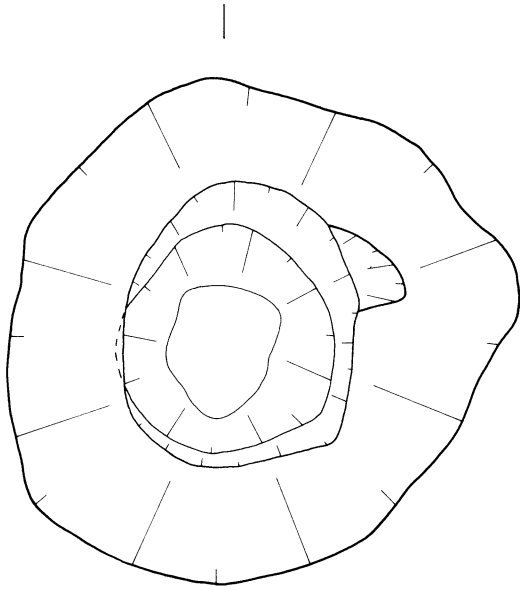


263.0m

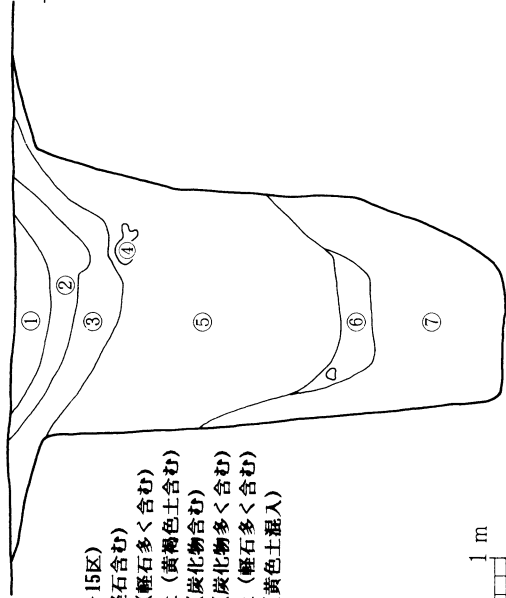


- 30号 (P-14区)
- ①黒褐色土 (軽石含む)
  - ②暗褐色土 (軽石含む)
  - ③暗黄褐色土 (黄褐色土含む)
  - ④黄褐色土 (軽石含む)
  - ⑤暗褐色土 (軽石含む)
  - ⑥暗黄褐色土 (軽石含む)
  - ⑦暗褐色土 (軽石含む)
  - ⑧暗褐色土 (黄褐色土含む)
  - ⑨黒褐色土
  - ⑩暗黄褐色土 (白色土含む)
  - ⑪暗黄褐色土 (暗紫褐色土含む)
  - ⑫暗紫褐色土 (砂質)
  - ⑬暗茶褐色土 (砂質)
  - ⑭暗紫褐色土
  - ⑮暗茶褐色土 (黒褐色土含む)
  - ⑯暗褐色土

No.31 P-15



262.0m

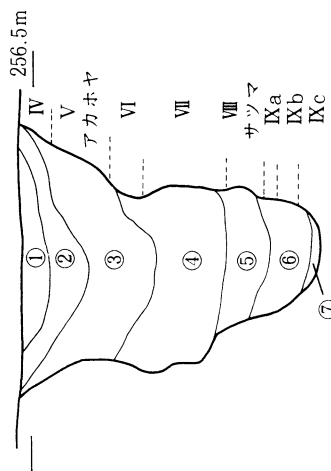
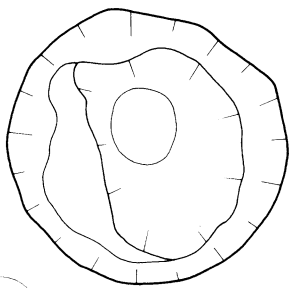


- 31号 (P-15区)
- ①黒色土 (軽石含む)
  - ②黒褐色土 (軽石多く含む)
  - ③暗茶褐色土 (黄褐色土含む)
  - ④黒褐色土 (炭化物含む)
  - ⑤茶褐色土 (炭化物多く含む)
  - ⑥暗茶褐色土 (軽石多く含む)
  - ⑦暗褐色土 (黄色土混入)



第50図 陥し穴実測図 (A類)

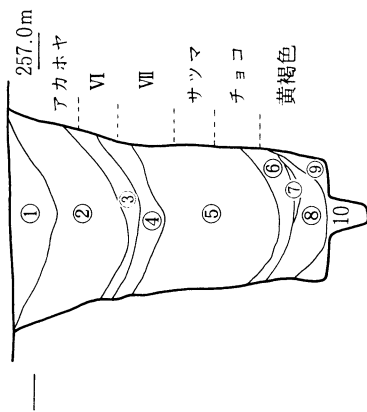
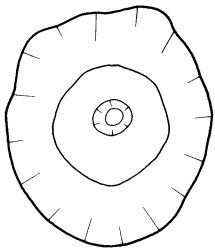
No.32 Q-5



32号 (Q-5区)

- ① 黒褐色土 (軽石含む)
- ② 黄茶褐色土 (軽石多く含む)
- ③ 暗黄褐色土 (軽石含む)
- ④ 暗黄褐色土 (黄白色土混入)
- ⑤ 黒褐色土
- ⑥ 黒茶褐色土 (軽石含む)
- ⑦ 淡茶褐色土 (柔らかい)

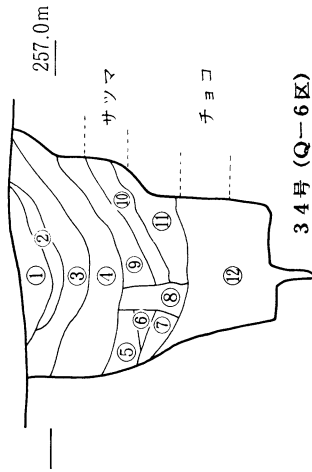
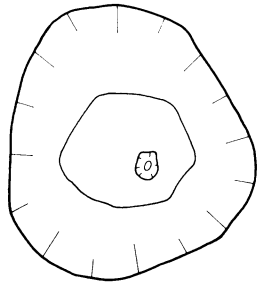
No.33 Q-6



33号 (Q-6区)

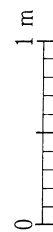
- ① 黒褐色土
- ② 暗茶褐色土 (軽石含む)
- ③ 黒茶褐色土
- ④ 黄茶褐色土
- ⑤ 淡茶褐色土 (柔らかい)
- ⑥ 黒茶褐色土 (柔らかい)
- ⑦ 暗黄褐色土
- ⑧ 黄茶褐色土
- ⑨ 黄灰褐色土
- ⑩ 黄褐色土

No.34 Q-6



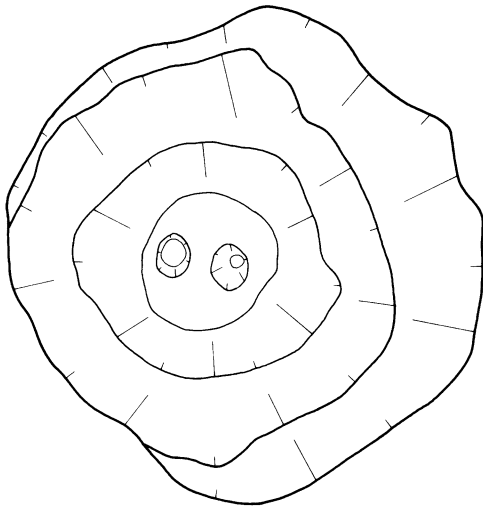
34号 (Q-6区)

- ① 黄褐色土 (軽石含む)
- ② 明黒褐色土 (軽石含む)
- ③ 明黒褐色土 (軽石多く含む)
- ④ 黄褐色土 (軽石多く含む)
- ⑤ 黄茶褐色土
- ⑥ 明黒褐色土
- ⑦ 黄褐色土
- ⑧ 茶褐色土 (柔らかい)
- ⑨ 黒黄褐色土
- ⑩ 暗黄褐色土
- ⑪ 黒褐色土
- ⑫ 暗茶褐色土

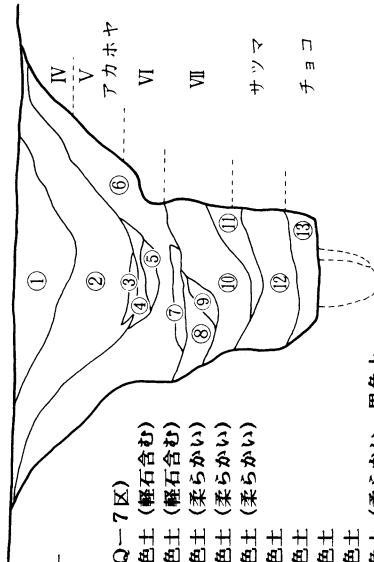


第51図 陥し穴実測図 (A類)

No.35 Q-7

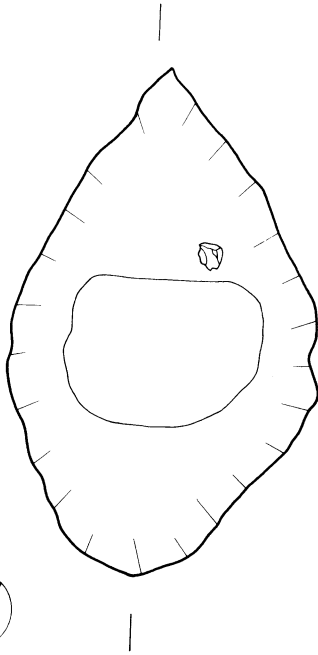


257.5m

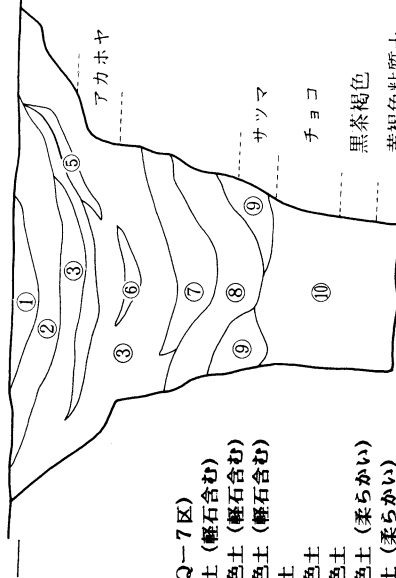


- 35号 (Q-7区)
- ①黒茶褐色土 (軽石含む)
  - ②暗茶褐色土 (軽石含む)
  - ③黒茶褐色土 (柔らかい)
  - ④暗茶褐色土 (柔らかい)
  - ⑤暗黄褐色土 (柔らかい)
  - ⑥暗黄褐色土
  - ⑦黒茶褐色土
  - ⑧明黄褐色土
  - ⑨黒黄褐色土
  - ⑩暗黄褐色土 (柔らかい, 黒色土ブロック混入)
  - ⑪黄褐色土
  - ⑫白黄褐色土 (柔らかい)
  - ⑬茶褐色土 (粘質)

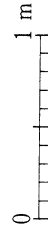
No.36 Q-7



257.5m

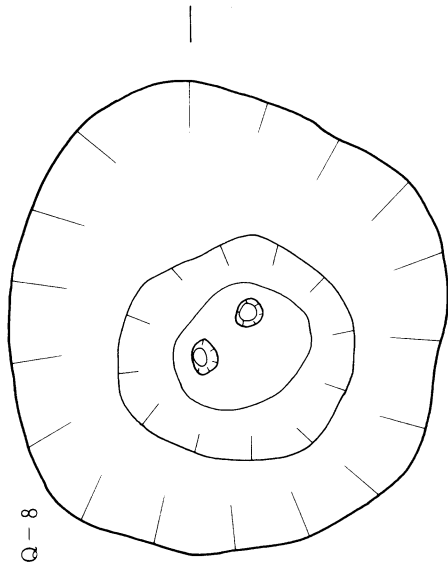


- 36号 (Q-7区)
- ①黒褐色土 (軽石含む)
  - ②黒茶褐色土 (軽石含む)
  - ③暗黄褐色土 (軽石含む)
  - ④茶褐色土
  - ⑤暗茶褐色土
  - ⑥黄茶褐色土
  - ⑦黄茶褐色土 (柔らかい)
  - ⑧黄褐色土 (柔らかい)
  - ⑨淡黒茶褐色土
  - ⑩明茶褐色土 (粘質)

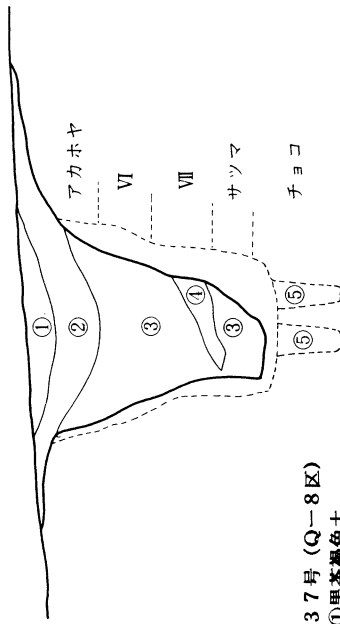


第52図 陥し穴実測図 (A類)

No.37 Q-8

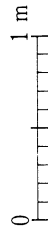


259.0m

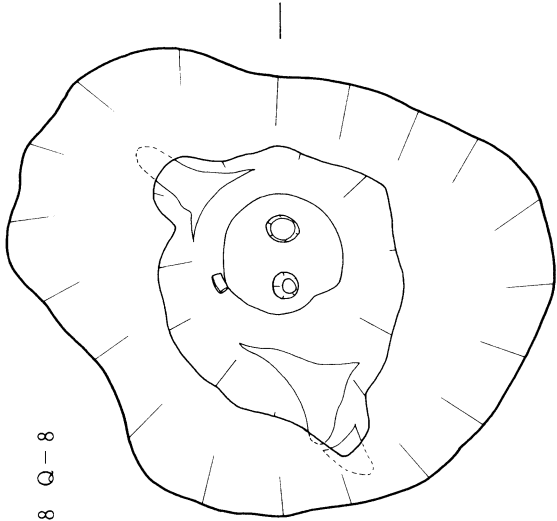


37号 (Q-8区)

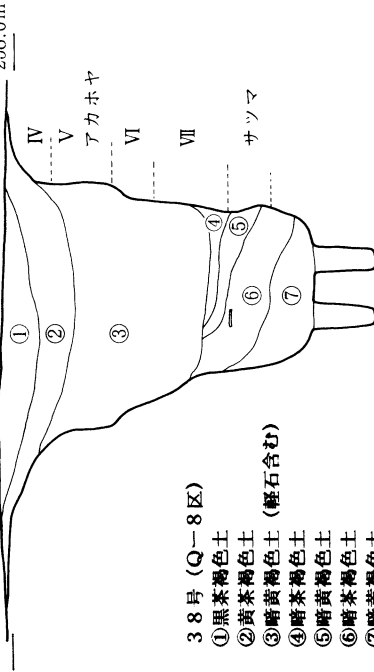
- ①黒茶褐色土
- ②黄茶褐色土
- ③暗黄褐色土
- ④黄茶褐色土 (柔らかい)
- ⑤明茶褐色土 (ピット内埋土)



No.38 Q-8



258.0m

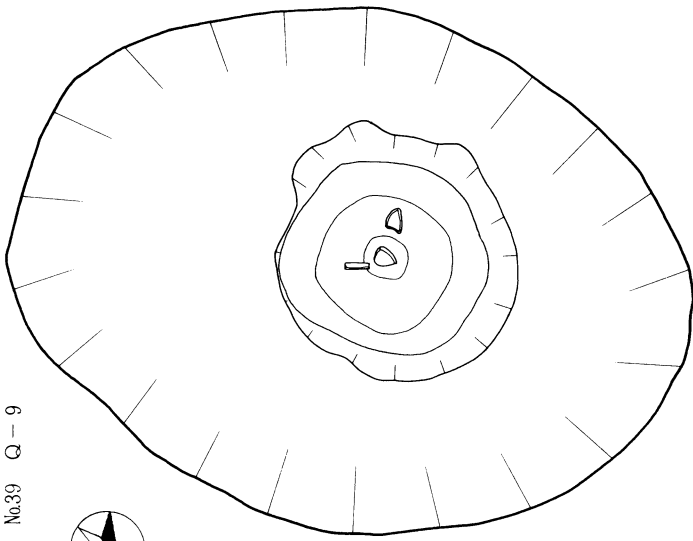


38号 (Q-8区)

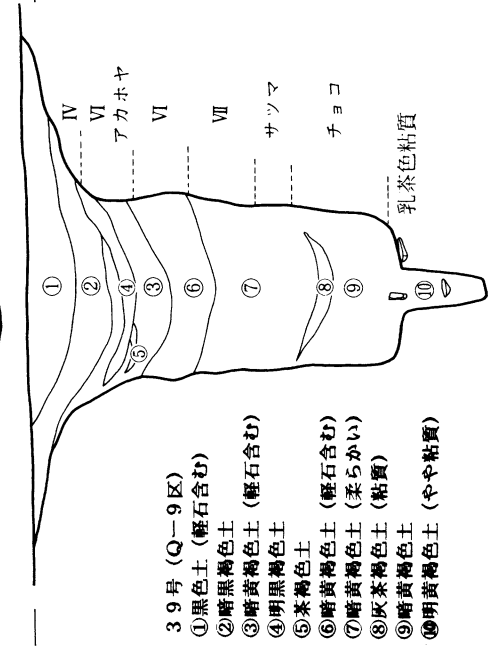
- ①黒茶褐色土
- ②黄茶褐色土
- ③暗黄褐色土 (軽石含む)
- ④暗茶褐色土
- ⑤暗黄褐色土
- ⑥暗茶褐色土
- ⑦暗黄褐色土

第53図 陥し穴実測図 (A類)

No.39 Q-9

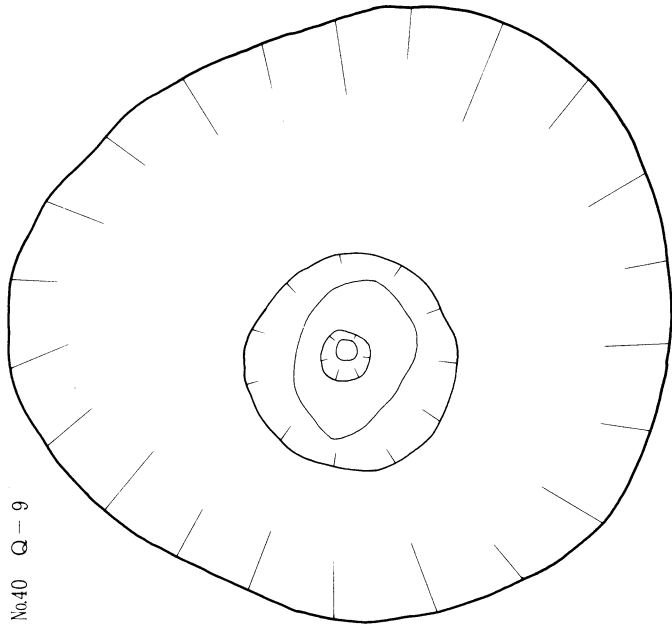


259.5m

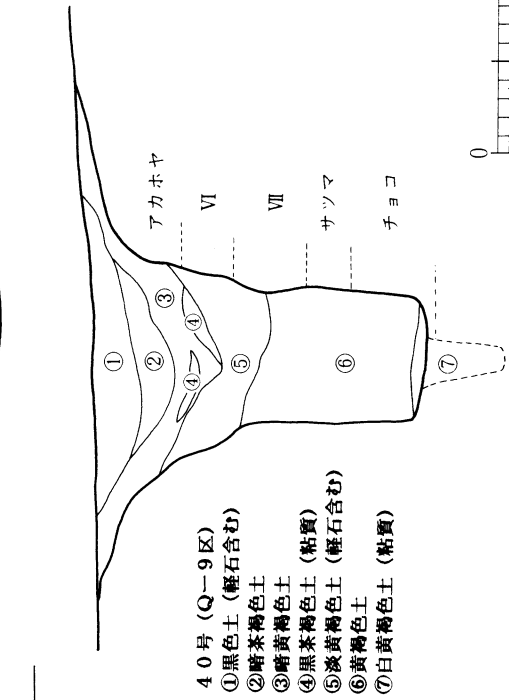


- 39号 (Q-9区)
- ① 黒色土 (軽石含む)
  - ② 暗黒褐色土
  - ③ 暗黄褐色土 (軽石含む)
  - ④ 明黒褐色土
  - ⑤ 茶褐色土
  - ⑥ 暗黄褐色土 (軽石含む)
  - ⑦ 暗黄褐色土 (柔らかい)
  - ⑧ 灰茶褐色土 (粘質)
  - ⑨ 暗黄褐色土
  - ⑩ 明黄褐色土 (やや粘質)

No.40 Q-9



260.0m

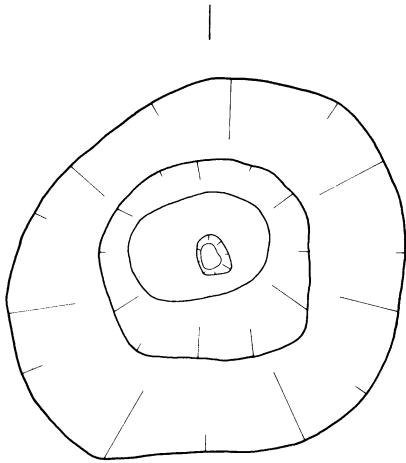


- 40号 (Q-9区)
- ① 黒色土 (軽石含む)
  - ② 暗茶褐色土
  - ③ 暗黄褐色土
  - ④ 黒茶褐色土 (粘質)
  - ⑤ 淡黄褐色土 (軽石含む)
  - ⑥ 黄褐色土
  - ⑦ 白黄褐色土 (粘質)

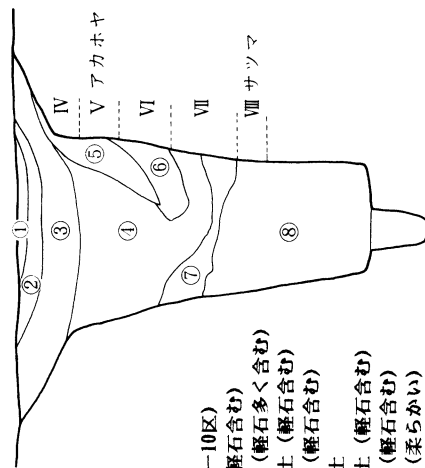


第54図 陥し穴実測図 (A類)

No.41 Q-10

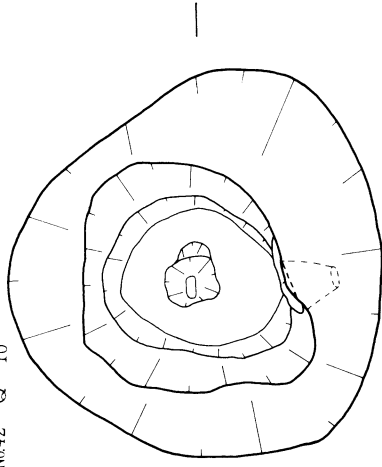


260.5m

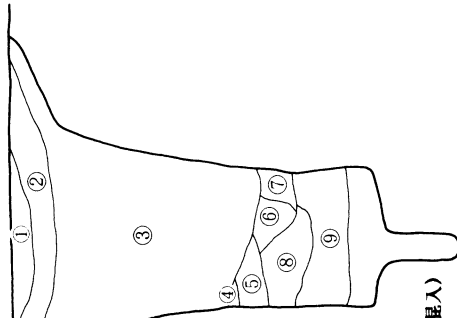


- 41号 (Q-10区)
- ① 黒色土 (軽石含む)
  - ② 黒褐色土 (軽石多く含む)
  - ③ 暗茶褐色土 (軽石含む)
  - ④ 黒褐色土 (軽石含む)
  - ⑤ 黒茶褐色土
  - ⑥ 暗茶褐色土 (軽石含む)
  - ⑦ 黄褐色土 (軽石含む)
  - ⑧ 茶褐色土 (柔らかい)

No.42 Q-10



260.3m



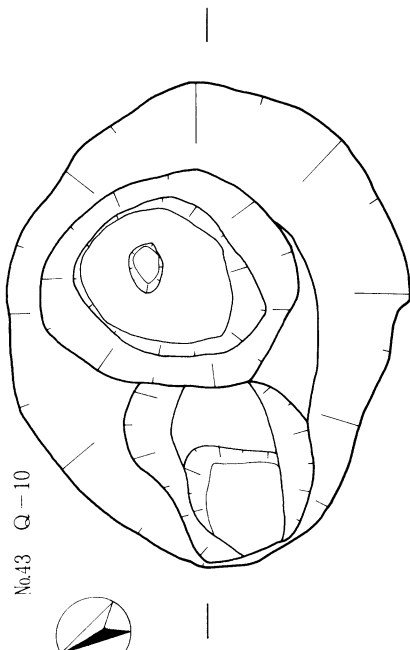
- 42号 (Q-10区)
- ① 黒色土 (軽石含む)
  - ② 暗黒褐色土
  - ③ 明黄褐色土
  - ④ 黄褐色土
  - ⑤ 茶褐色土
  - ⑥ 明茶褐色土
  - ⑦ 暗茶褐色土
  - ⑧ 暗茶褐色土 (黒褐色土混入)
  - ⑨ 黒褐色土



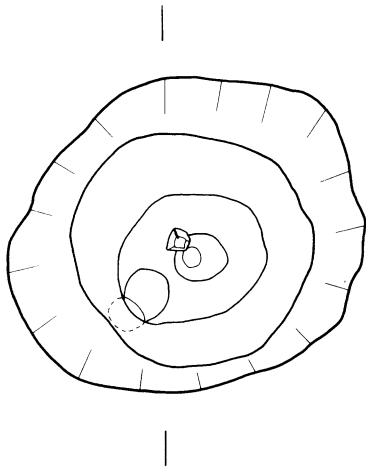
第55図 陥し穴実測図 (A類)



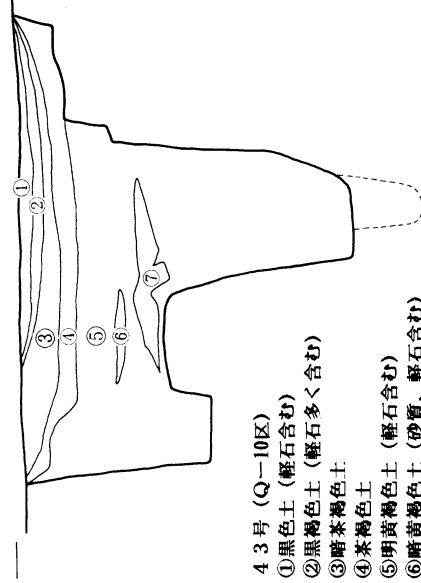
No.43 Q-10



No.44 Q-10



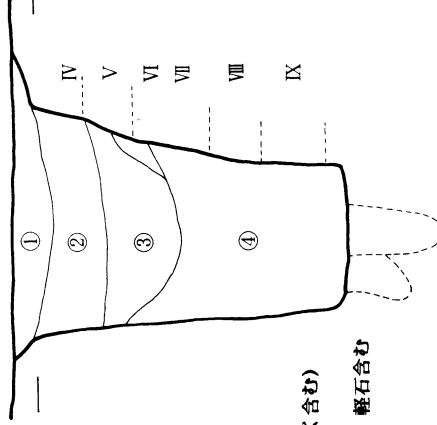
260.0m



43号 (Q-10区)

- ① 黒色土 (軽石含む)
- ② 黒褐色土 (軽石多く含む)
- ③ 暗茶褐色土
- ④ 茶褐色土
- ⑤ 明黄褐色土 (軽石含む)
- ⑥ 暗黄褐色土 (砂質, 軽石含む)
- ⑦ 暗黄褐色土 (砂質, 軽石含む)

260.5m



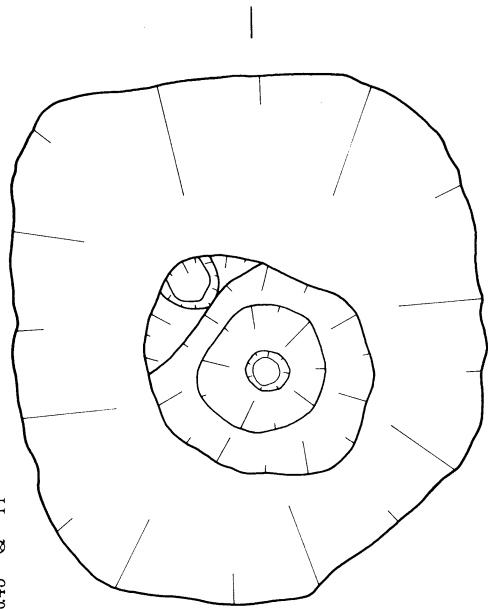
44号 (Q-10区)

- ① 黒褐色土 (軽石含む)
- ② 暗茶褐色土 (軽石多く含む)
- ③ 茶褐色土 (軽石含む)
- ④ 茶褐色土 (柔らかい, 軽石含む)

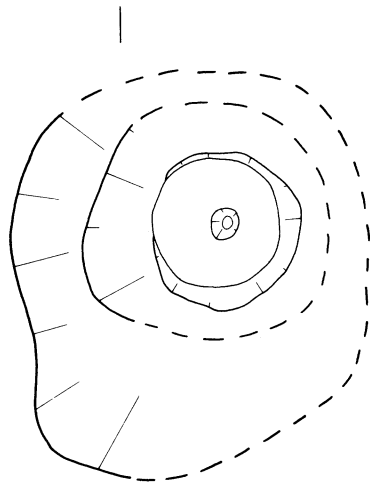


第56図 陥し穴実測図 (A類)

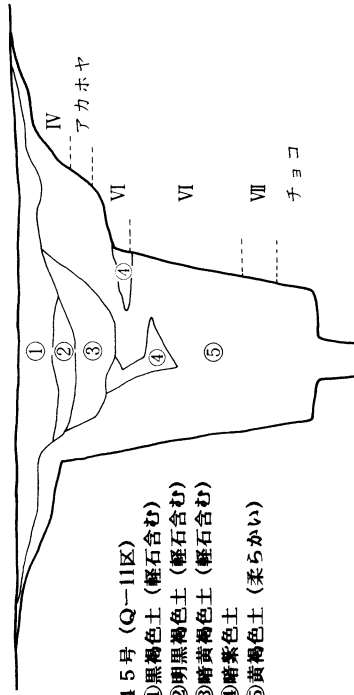
No.45 Q-11



No.46 Q-11

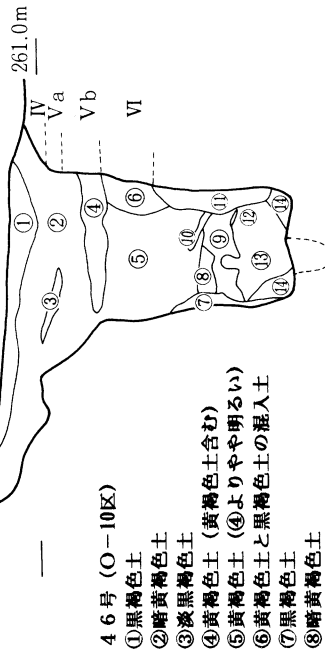
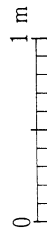


262.0m



45号 (Q-11区)

- ①黒褐色土 (軽石含む)
- ②明黒褐色土 (軽石含む)
- ③暗黄褐色土 (軽石含む)
- ④暗紫色土
- ⑤黄褐色土 (柔らかい)

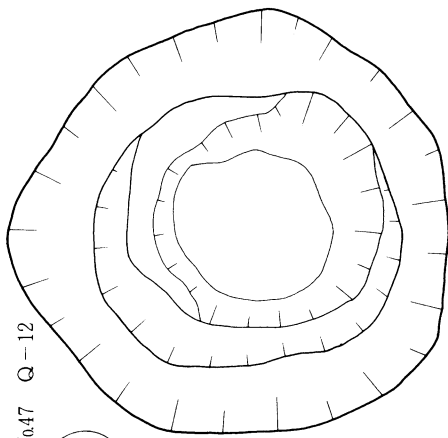


46号 (O-10区)

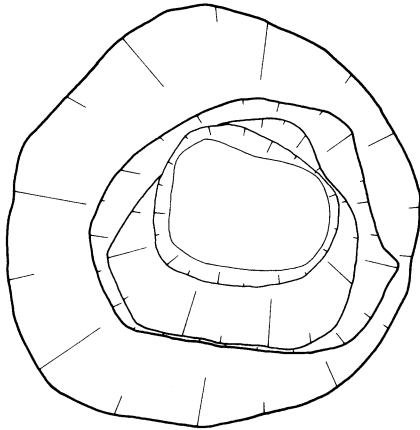
- ①黒褐色土
- ②暗黄褐色土
- ③淡黒褐色土
- ④黄褐色土 (黄褐色土含む)
- ⑤黄褐色土 (④よりやや明るい)
- ⑥黄褐色土と黒褐色土の混入土
- ⑦黒褐色土
- ⑧暗黄褐色土
- ⑨褐色土 (柔らかい)
- ⑩黒褐色土
- ⑪黒褐色土 (柔らかい)
- ⑫黒褐色土 (柔らかい)
- ⑬暗黄褐色土
- ⑭黒褐色土 (白色軽石含む)

第57図 陥し穴実測図 (A類)

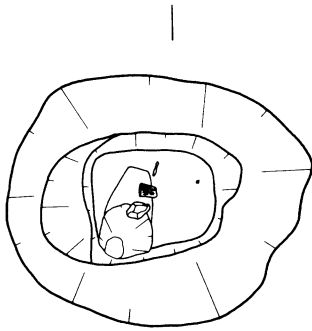
No.47 Q-12



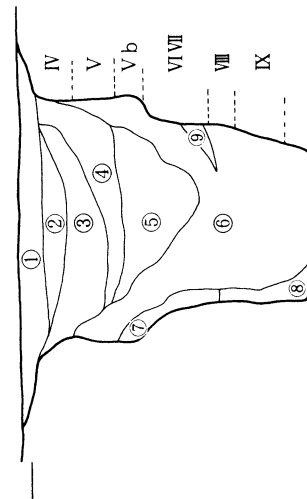
No.48 Q-12



No.49 Q-14

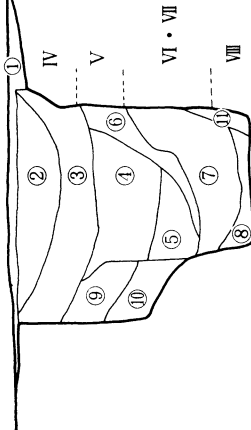


262.5m



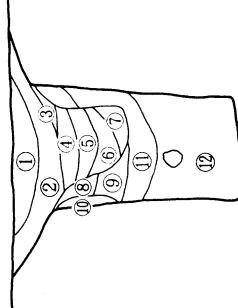
- 47号 (Q-12区)
- ①黒褐色土 (軽石含む)
  - ②暗褐色土 (軽石含む)
  - ③暗黄褐色土 (粘質, 軽石含む)
  - ④暗茶褐色土 (軽石含む)
  - ⑤暗黄褐色土 (軽石・黒褐色土含む)
  - ⑥暗黄褐色土 (白色軽石・黄色軽石含む)
  - ⑦暗褐色土 (黄褐色土含む)
  - ⑧暗褐色土 (粘質)
  - ⑨暗紫褐色土 (粘質)

262.5m

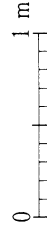


- 48号 (Q-12区)
- ①黒褐色土
  - ②黒褐色土 (10cm大の軽石含む)
  - ③茶褐色土 (軽石含む)
  - ④暗茶褐色土 (軽石多く含む)
  - ⑤暗黄褐色土 (黄色土混入, 軽石少ない)
  - ⑥黄褐色土 (軽石を少量含む)
  - ⑦暗褐色土 (軽石含む)
  - ⑧黄褐色土 (軽石含む)
  - ⑨黄褐色土 (軽石含む)
  - ⑩茶褐色土 (軽石含む)
  - ⑪黒茶褐色土 (軽石含む)

262.4m

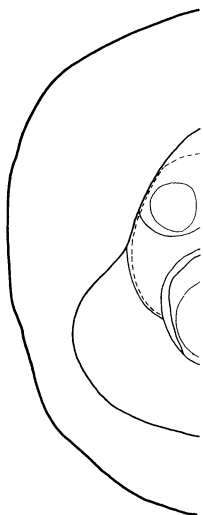


- 49号 (Q-14区)
- ①黒色土 (軽石含む)
  - ②暗茶褐色土 (軽石含む)
  - ③茶褐色土
  - ④黒茶褐色土 (軽石含む)
  - ⑤暗茶褐色土 (軽石含む)
  - ⑥黒褐色土 (軽石含む)
  - ⑦黒色土
  - ⑧茶褐色土
  - ⑨暗茶褐色土 (軽石含む)
  - ⑩黒褐色土
  - ⑪茶褐色土 (軟質, 軽石含む)
  - ⑫暗茶褐色土 (柔らかい)



第58図 陥し穴実測図 (A類)

No.51 Q-15



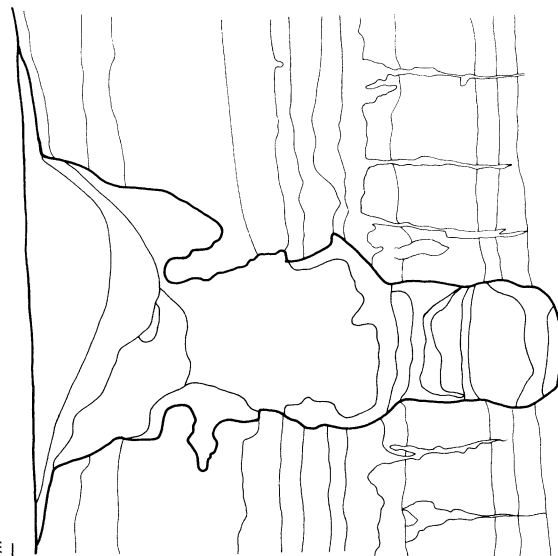
263.0m



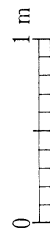
Q-15 3-①



Q-15 3-②

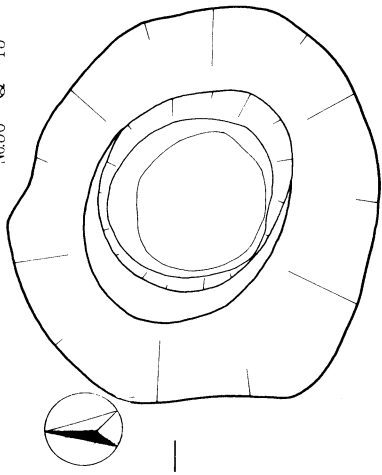


Q-15 3-③

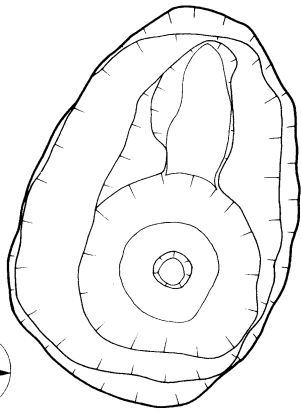


第59図 陥し穴実測図 (A類)

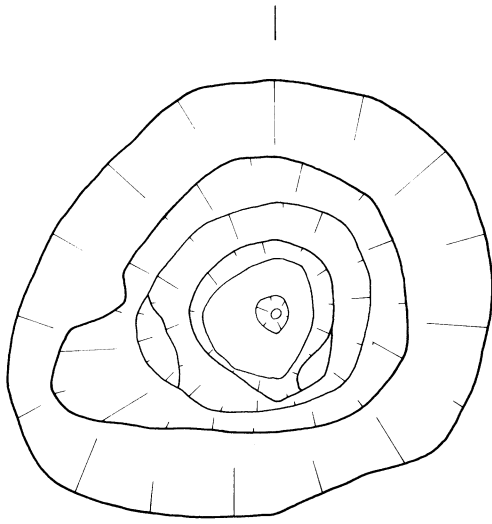
No.50 Q-15



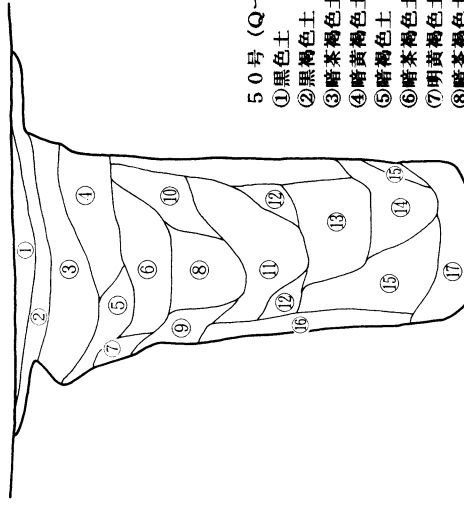
No.52 R-11



No.53 R-12



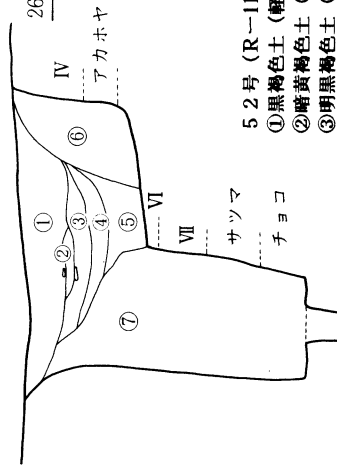
263.0m



50号 (Q-15区)

- ① 黒色土
- ② 黒褐色土 (軽石含む)
- ③ 暗茶褐色土 (軽石含む)
- ④ 暗黄褐色土 (粘質, 軽石含む)
- ⑤ 暗褐色土 (軽石含む)
- ⑥ 暗茶褐色土 (粘質, 軽石含む)
- ⑦ 明黄褐色土 (粘質, 軽石含む)
- ⑧ 暗茶褐色土 (粘質, 軽石含む)
- ⑨ 暗褐色土
- ⑩ 暗茶褐色土 (軽石含む)
- ⑪ 暗茶褐色土 (粘質, 軽石含む)
- ⑫ 暗黄褐色土
- ⑬ 暗茶褐色土 (粘質, 柔らかい)
- ⑭ 暗茶褐色土 (粘質)
- ⑮ 明茶褐色土 (粘質)
- ⑯ 暗茶褐色土 (砂質)
- ⑰ 暗茶褐色土 (粘質)

261.5m



52号 (R-11区)

- ① 黒褐色土 (軽石含む)
- ② 暗黄褐色土 (軽石含む)
- ③ 明黒褐色土 (軽石, 炭化物含む)
- ④ 暗黄褐色土 (軽石含む)
- ⑤ 暗茶褐色土 (軽石含む)
- ⑥ 黄褐色土 (軽石含む)
- ⑦ 黄褐色土 (軽石, 炭化物含む)
- ⑧ 灰褐色土 (粘質, 柔らかい)

53号 (R-12区)

- ① 黒褐色土
- ② 黒茶褐色土 (軽石含む)
- ③ 暗黄褐色土 (軽石含む)
- ④ 淡黄褐色土 (軽石含む)
- ⑤ 黒褐色土
- ⑥ 黄褐色土
- ⑦ 暗茶褐色土 (柔らかい)

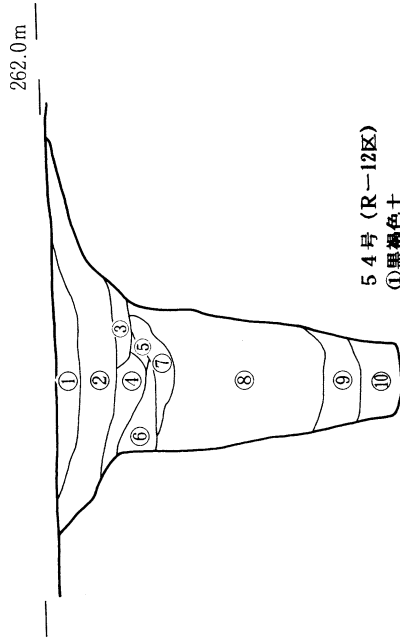
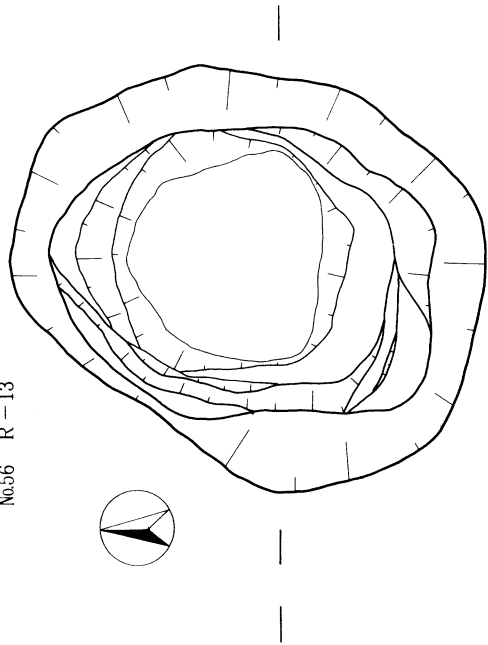
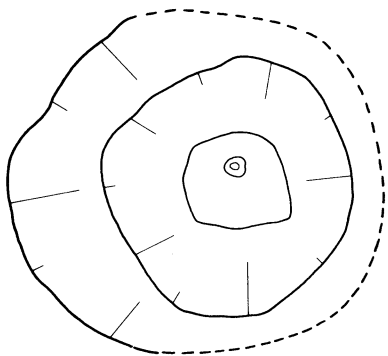
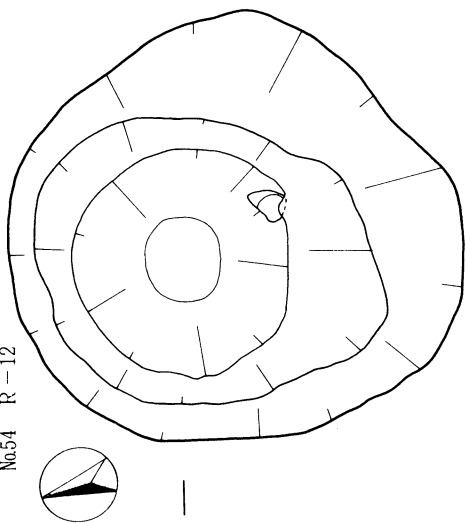


第60図 陥し穴実測図 (A類)

No.54 R-12

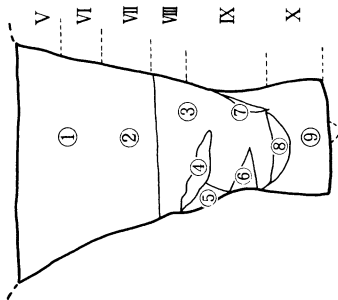
No.55 R-12

No.56 R-13



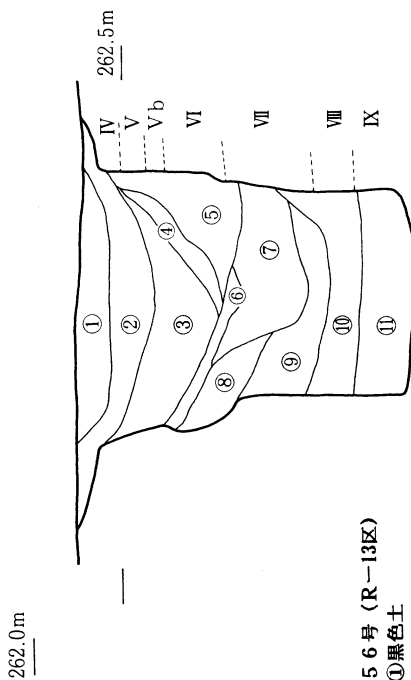
54号 (R-12区)

- ① 黒褐色土
- ② 黒茶褐色土 (軽石含む)
- ③ 淡黄褐色土
- ④ 黒褐色土
- ⑤ 淡黒褐色土
- ⑥ 黄褐色土
- ⑦ 黒褐色土
- ⑧ 黄褐色土 (柔らかい)
- ⑨ 茶褐色土 (柔らかい)
- ⑩ 黄褐色土 (柔らかい)



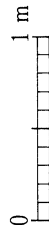
55号 (R-12区)

- ① 黒褐色土
- ② 暗茶褐色土
- ③ 黄褐色土
- ④ 黄褐色土 (アカホヤ含む)
- ⑤ 茶褐色土
- ⑥ 黄褐色土
- ⑦ 茶褐色土
- ⑧ 暗茶褐色土 (柔らかい)
- ⑨ 黄褐色土



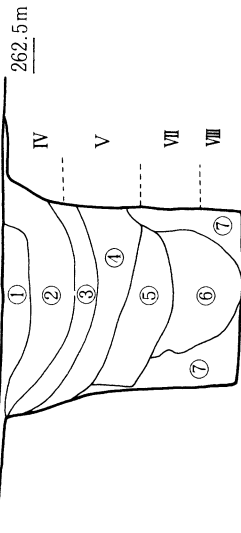
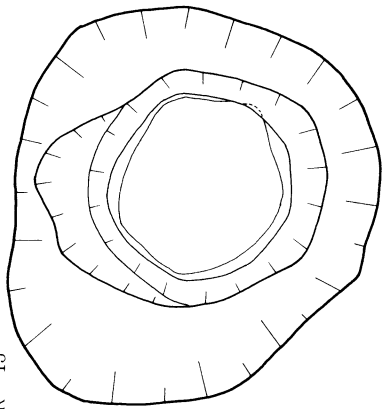
56号 (R-13区)

- ① 黒色土
- ② 黒褐色土 (軽石含む)
- ③ 暗黄褐色土 (軽石含む)
- ④ 暗茶褐色土 (粘質, 軽石含む)
- ⑤ 暗黄褐色土 (粘質)
- ⑥ 暗紫褐色土 (粘質)
- ⑦ 暗黄褐色土 (粘質)
- ⑧ 茶褐色土 (粘質)
- ⑨ 暗茶褐色土
- ⑩ 暗紫褐色土
- ⑪ 橙褐色土 (砂質)



第61図 陥し穴実測図 (A類)

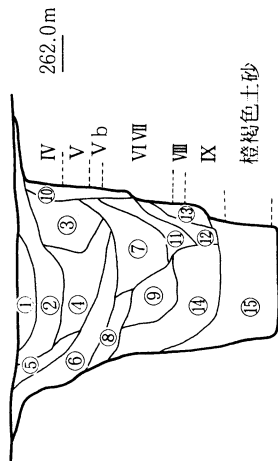
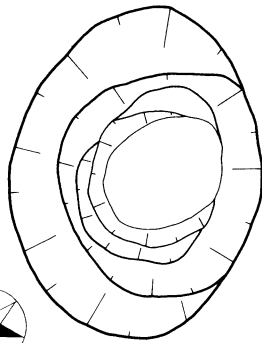
No.57 R-13



57号 (R-13区)

- ① 黒色土
- ② 黒褐色土 (軽石含む)
- ③ 暗黄茶褐色土 (軽石含む)
- ④ 黄茶褐色土 (軽石含む)
- ⑤ 暗黄褐色土 (軽石含む)
- ⑥ 暗茶褐色土 (粘質, 軽石含む)
- ⑦ 暗黄褐色土 (粘質)

No.58 R-13

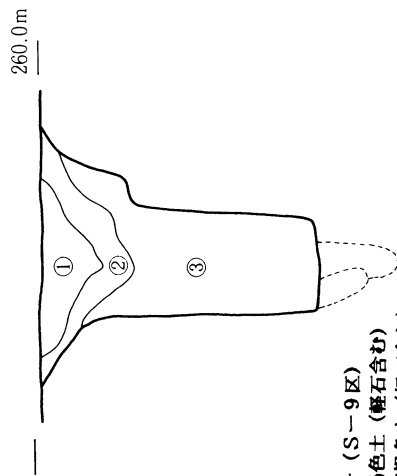
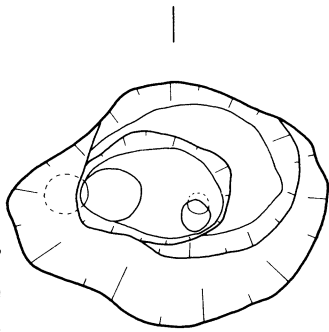


58号 (R-13区)

- ① 黒褐色土 (粘質)
- ② 暗褐色土 (軽石含む)
- ③ 暗黄褐色土 (軽石含む)
- ④ 暗褐色土 (粘質, 軽石含む)
- ⑤ 暗黄褐色土 (軽石含む)
- ⑥ 暗黄褐色土 (粘質, 軽石含む)
- ⑦ 暗褐色土 (粘質, 軽石含む)
- ⑧ 暗茶褐色土 (粘質, 軽石含む)
- ⑨ 暗黄褐色土 (粘質, 軽石含む)
- ⑩ 黄褐色土
- ⑪ 暗黄褐色土 (粘質)
- ⑫ 暗黄褐色土 (黒色土含む)
- ⑬ 暗茶褐色土
- ⑭ 暗褐色土 (砂質, 軽石含む)
- ⑮ 橙褐色土 (砂質)

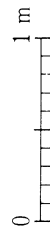
橙褐色土砂

No.59 S-9

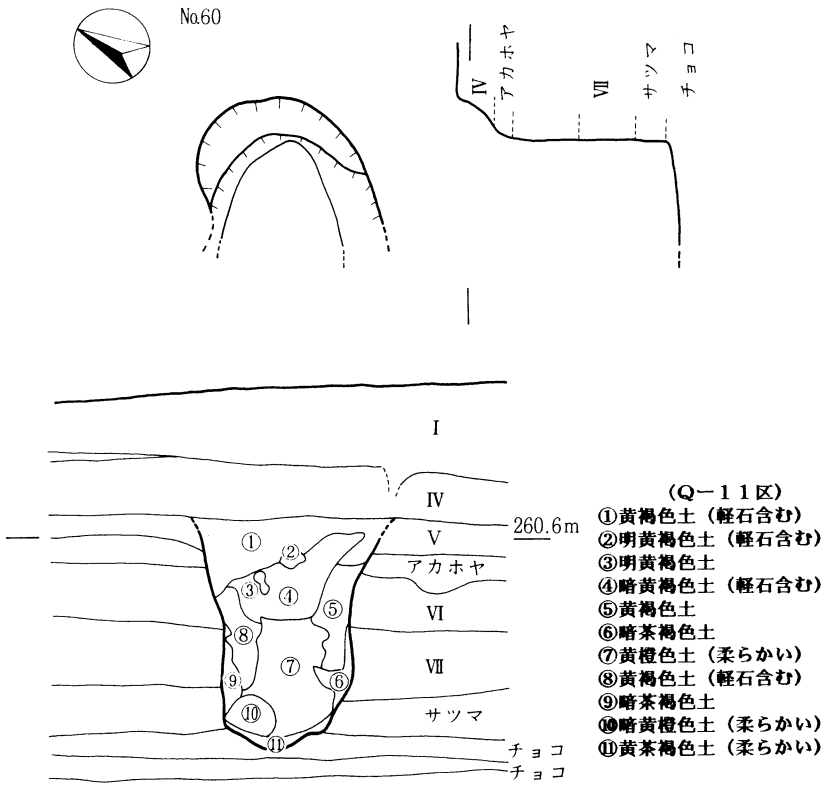


59号 (S-9区)

- ① 黒褐色土 (軽石含む)
- ② 暗茶褐色土 (軽石含む)
- ③ 黄茶褐色土 (柔らかい)



第62図 陥し穴実測図 (A類)



第63図 陥し穴実測図 (A類)



(2) 陥し穴B類 (第64図～第68図)

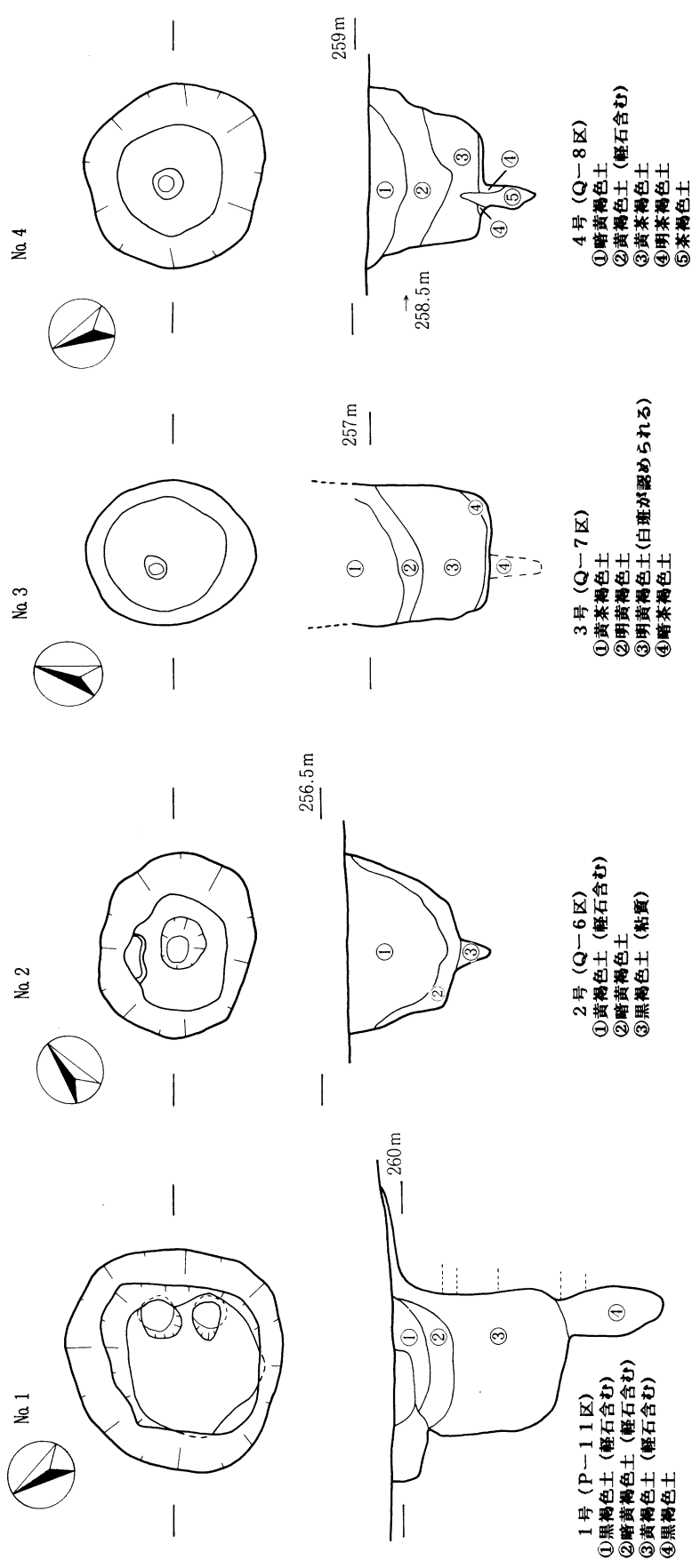
B類はQ区の列を中心に東西に並んで分布しており、A類の陥し穴と近接している。

形状は、上面が130～190cmの円形および楕円形で、IV層検出の陥し穴については、A類と同様上部が浅鉢状を呈しているものが多い。深さは100～130cmくらいでA類に比して浅いものである。底面には1～

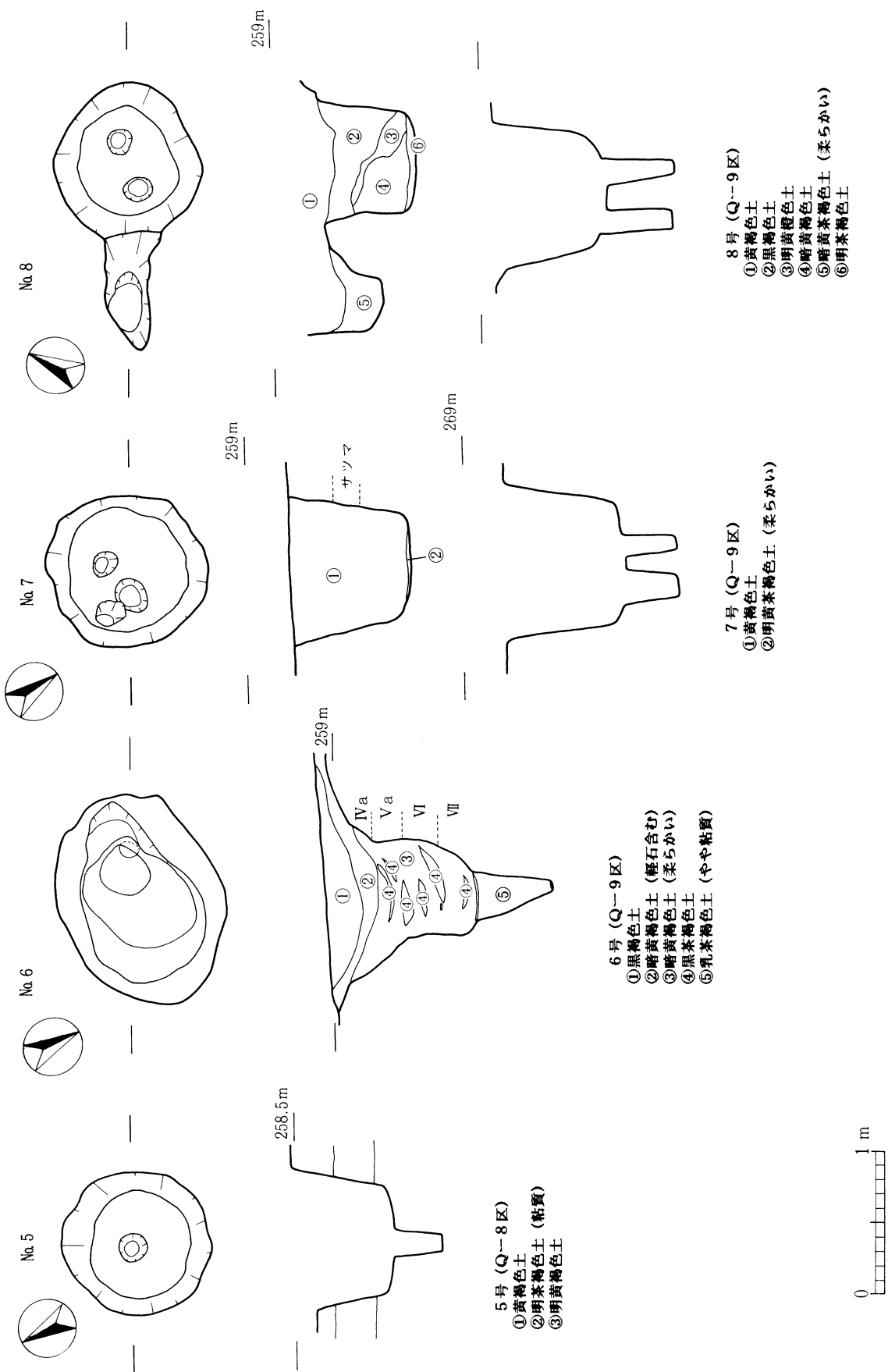
3個の小ピットを有するものが多い。小ピットが1個のものは、2号・3号・4号・5号・6号・9号・15号・18号で、ほぼ垂直に掘ってある。2個のものは1号・8号・17号で、3個のものは7号のみである。また、小ピットの大半は底面の中央もしくは中央部付近であるが、1号は底面の隅で、17号の1個は側壁に近い所に斜めに掘ってある。

陥し穴一覧表 (B類) No. 1

番号	挿図番号	区 - 番号	検出層	長径	短径	深さ	小ピット		備考
							径	深さ	
1	第64図	P-11-3	IV層	140	130	111			
2		Q-6-4	VI層	114	96	68	14 30	18 32	
3		Q-7-1	VI層	105	89	85	15	32	
4		Q-8-4	VII層	113	110	70	17	31	
5	第65図	Q-8-5	VI層下	103	100	70	20	35	
6		Q-9-5	IV層	236	215	108	34	52	
7		Q-9-6	VII層	110	106	85	25 15	40 38	
8		Q-9-7	VII層	113	98	80	16 17	50 50	
9	第66図	Q-11-10	IV層	94		122			
10		Q-12-1	IV層	184	171	77	22	59	
11		Q-14-1	IV層	152	143	99			
12	第67図	Q-14-3	IV層	179	126	120			
13		Q-14-4	IV層	139	130	99			
14		Q-14-5	IV層	191	173	77			
15		Q-14-8	IV層	132	131	101			
16	第68図	Q-14-18	VII層	86	86	61			
17		R-6-1	IV層	148	112	128	24 32	32 30	
18		R-8-1	VII層	172	160	100	32	48	
19		R-8-7	VII層	116	108	108			

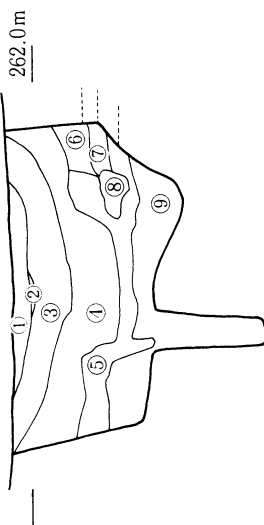
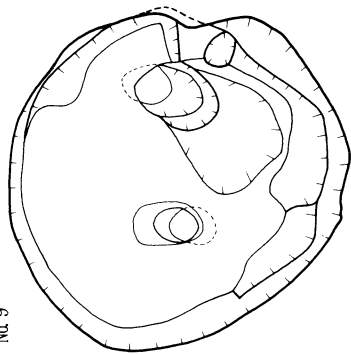


第64図 陥し穴実測図 (B類)



第65図 陥し穴実測図 (B類)

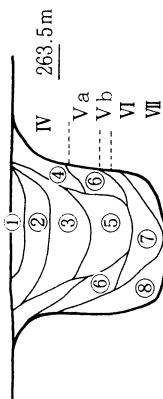
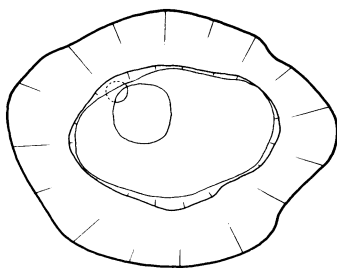
No. 9



9号 (Q-12区)

- ① 黒色土 (軽石含む)
- ② 黒褐色土 (軽石含む)
- ③ 茶褐色土 (軽石含む)
- ④ 黄褐色土 (軽石含む)
- ⑤ 暗茶褐色土
- ⑥ 明茶褐色土 (軽石少量含む)
- ⑦ 明茶褐色土
- ⑧ 黄褐色土
- ⑨ 暗黄褐色土

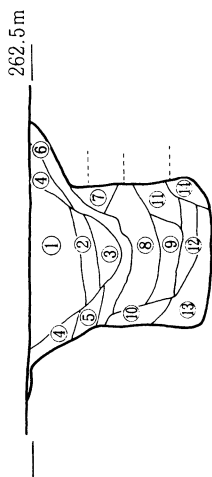
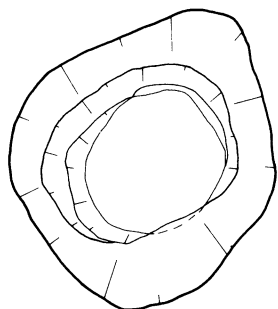
No.10



10号 (Q-12区)

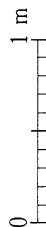
- ① 黒色土
- ② 黒色土 (軽石含む)
- ③ 黒褐色土 (軽石含む)
- ④ 茶褐色土 (軽石含む)
- ⑤ 暗茶褐色土 (軽石含む)
- ⑥ 暗茶褐色土
- ⑦ 黄褐色土 (軽石含む)
- ⑧ 茶褐色土

No.11



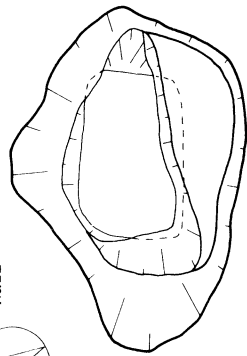
11号 (Q-14区)

- ① 黒褐色土
- ② 暗黒褐色土 (軽石含む)
- ③ 黒茶褐色土
- ④ 暗茶褐色土
- ⑤ 暗茶褐色土 (軽石含む)
- ⑥ 黄褐色土
- ⑦ 明黄褐色土
- ⑧ 暗黒褐色土
- ⑨ 黒茶褐色土
- ⑩ 黄褐色土
- ⑪ 暗褐色土
- ⑫ 明黄褐色土
- ⑬ 暗褐色土 (柔らかい)
- ⑭ 暗褐色土

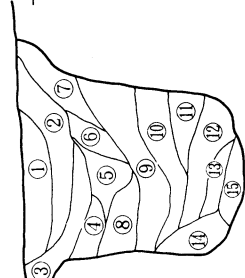


第66図 陥し穴実測図 (B類)

No.12



262.5m

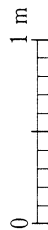


12号 (Q-14区)

- ①黒褐色土
- ②暗黄褐色土 (軽石含む)
- ③暗黄褐色土
- ④黄褐色土 (軽石含む)
- ⑤暗黄褐色土 (軽石含む)
- ⑥暗黄褐色土
- ⑦黄褐色土 (軽石含む)
- ⑧暗黄褐色土 (軽石含む)
- ⑨黄褐色土
- ⑩暗紫褐色土
- ⑪暗褐色土
- ⑫暗褐色土
- ⑬暗黄褐色土
- ⑭黄褐色土
- ⑮黒茶褐色土

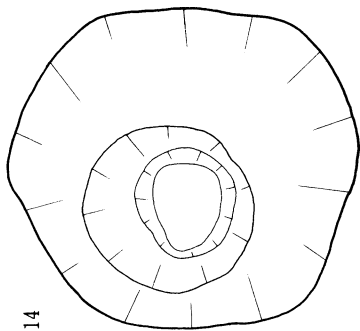
15号 (Q-14区)

- ①黒褐色土
- ②暗黄褐色土 (軽石含む)
- ③暗褐色土
- ④黄褐色土
- ⑤暗茶褐色土
- ⑥黄褐色土
- ⑦黄褐色土
- ⑧暗黄褐色土 (軽石含む)
- ⑨暗黄褐色土
- ⑩黄褐色土
- ⑪暗紫褐色土

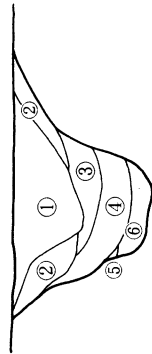


第67図 陥し穴実測図 (B類)

No.14



262m



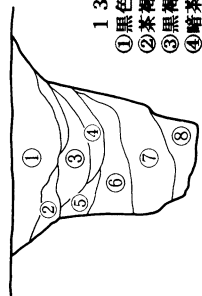
14号 (Q-14区)

- ①黒色土 (軽石含む)
- ②茶褐色土 (軽石含む)
- ③暗茶褐色土 (軽石含む)
- ④黒茶褐色土
- ⑤茶褐色土
- ⑥黒褐色土 (柔らかい)

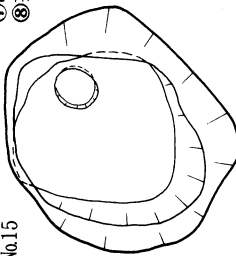
13号 (Q-14区)

- ①黒色土 (軽石含む)
- ②茶褐色土 (軽石含む)
- ③黒褐色土 (軽石含む)
- ④暗茶褐色土 (軽石含む)
- ⑤茶褐色土 (軽石含む)
- ⑥茶褐色土
- ⑦暗茶褐色土
- ⑧茶褐色土

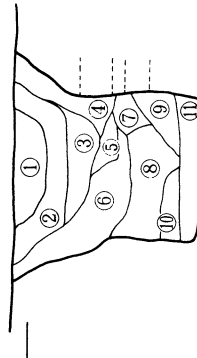
262.5m

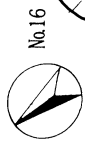


No.15

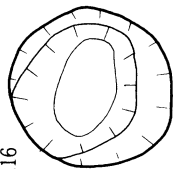


265.5m

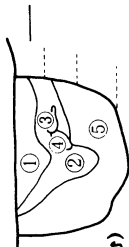




No.16



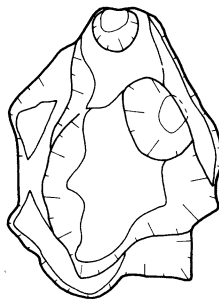
262.0m



16号 (Q-14区)

- ①暗黄褐色土 (軽石含む)
- ②暗黄褐色土
- ③灰褐色土 (白色軽石含む)
- ④黄褐色土 (アカホヤ)
- ⑤明黄褐色土

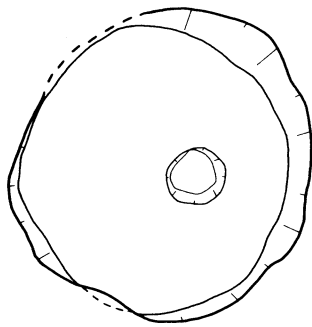
No.17



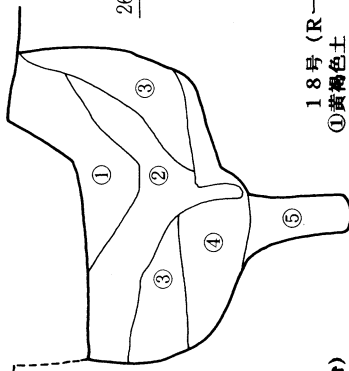
17号 (R-6区)

- ①黒褐色土 (軽石含む)
- ②黒褐色土 (軽石含む)
- ③茶褐色土 (軽石含む)
- ④黄褐色土 (軽石含む)
- ⑤黒褐色土 (軽石含む)
- ⑥黄褐色土
- ⑦黒褐色土 (軽石含む)
- ⑧黄褐色土 (軽石含む)
- ⑨黒茶褐色土
- ⑩黄白色土 (火山灰)
- ⑪黒褐色土
- ⑫黒褐色土
- ⑬明黒茶褐色土

No.18



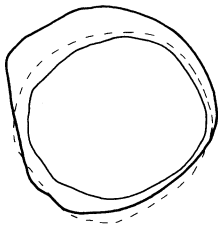
268.0m



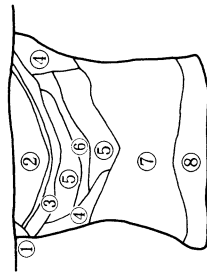
18号 (R-8区)

- ①黄褐色土
- ②黄茶褐色土
- ③茶褐色土
- ④暗茶褐色土 (粘質)
- ⑤暗茶褐色土

No.19

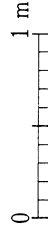


259.0m



19号 (R-8区)

- ①黒茶褐色土
- ②黄褐色土
- ③
- ④暗黄褐色土
- ⑤淡茶褐色土 (柔らかい)
- ⑥暗茶褐色土 (柔らかい)
- ⑦黒茶褐色土
- ⑧白黄色土



第68図 陥し穴実測図 (B類)

### (3) 小 結

1960年代に長野県や北海道で陥し穴ではないかと思われる底面にピットのある楕円形の土壌や、細長い溝状の土壌「トラップ・ピット (Tピット)」が発見されているが、1970～1971年に調査が行なわれた神奈川県横浜市「霧ヶ丘遺跡」<sup>註1</sup>では、縄文時代早期後半を中心とした時期の陥し穴が116基も検出され、その後の陥し穴の調査・研究の基礎となった。

また、「霧ヶ丘遺跡」の調査担当者である今村啓爾氏は、『陥し穴 (おとしあな) 縄文文化の研究 2 1983年』<sup>註2</sup>他で、陥し穴の年代や類別、および民族誌との比較等を精力的に研究・発表し、陥し穴による狩猟が行なわれていたことを実証した。また、稲田孝司氏は、「西日本の縄文時代落とし穴」<sup>註3</sup>において、中国・四国・九州の落とし穴を集成・分析している。

鹿児島県における陥し穴は、1980年代に末吉町土合原遺跡<sup>註4</sup>・枕崎市奥木場遺跡<sup>註5</sup>・志布志町倉園B遺跡<sup>註6</sup>等で検出されているが単発的な検出でしかなかった。しかし、1990年に調査が実施された松元町仁田尾遺跡<sup>註7</sup>では、約11,500年前の「薩摩火山灰層」より下層において、底面に複数の小ピットを有する土坑が17基も検出され、旧石器時代の陥し穴群が存在することがあきらかになった。さらに仁田尾遺跡での陥し穴の発見を引き金にしたごとく出水市上場高原の大久保遺跡<sup>註8</sup>、入来町鹿村ヶ遺跡<sup>註9</sup>、伊集院町竹ノ山B遺跡<sup>註10</sup>等で相次いで旧石器時代の陥し穴が発見された。このことから、鹿児島の旧石器時代においては、広い範囲で陥し穴狩が行なわれていたことが判明した。

また、1997年から始まった東九州自動車道路建設に伴う調査でも、縄文時代中期頃の陥し穴が相次いで発見されている。これらの調査例の増加により、鹿児島県内では陥し穴地名表に見られるように旧石器時代から縄文時代後期まで198基 (旧石器22基・縄文草創期2基・早期7基・前期24基・中期18基・後期108基) もの陥し穴が発見され、各時代を通じて陥し穴狩が行なわれていたことが裏付けられた。

上野原遺跡における陥し穴についてみると、上部を浅鉢状になだらかに約30cm掘込み、途中から径約1mの円筒状の穴を1.5～2.8mも掘るといった特徴的

な形状が目につく。このような形は、これまでに見られなかったものであるが、陥し穴として考えると上部の浅鉢状の部分をも木の枝や草などで覆って目隠しができるのではないだろうか。つまり、地面と同じレベルで目隠しができるため、狩猟対象動物の目をごまかせるという効果があると思われる。ただ、深さが2～3mと異様に深いことが気にかかる点である。対象動物としては、猪や鹿が考えられるが、これほど深い穴を掘る必要があったのかという疑問は残るもので、今後の分類資料の増加とともに今後の検討課題である。宮崎県都城市の岩立遺跡において上野原遺跡の陥し穴と類似した陥し穴が検出されているが、調査者の柴畑氏は、霧島御池軽石層直上から掘込まれていることから、縄文中期以降の陥し穴であるとし、縄文早期の比較的浅い楕円形タイプから縄文中期の明確な方形プランとなり、縄文中期以降は深い円形タイプへといった時期ごとの形態変化をたどることを指摘するとともに、対象動物ごとに形態が変化した可能性も示唆している。<sup>註11</sup>

上野原遺跡の陥し穴の時期についてみると、その性格上周辺に人間の気配が無いもので、当時の人々が残すべき石器や、土器も皆無にちかい。ただ、P-5と呼ばれる約4900年前の桜島火山灰の上から掘込まれていることと、同じ層からわずかではあるが縄文後期の土器が出土していることから、縄文時代後期の所産である可能性が高いものである。

上野原遺跡の陥し穴の群構造について考えてみると、遺跡のほぼ中央 (上野原台地全体から見ると南側の崖に近い) を東西に2列並んでいる状況である。このことから推察するに、本遺跡の陥し穴は、けものみちや水飲み場の周辺に設ける待機型の陥し穴とは異なり、集団で陥し穴の方向へ獣を追い込む狩猟方法が考えられる。

また、南側の列の陥し穴は深さが1.5m前後と比較的浅く、ほとんどが底面に小ピットを有するものである。それに比して、北側の列の陥し穴は、深さが2.5m以上もあり、底面に小ピットを有しないものである。これは、2列の陥し穴が同時には存在していなかったことを顕すものと考えたい。しかしながら、陥し穴列の時期の新旧関係については、証明

する資料がなく不明である。

上野原遺跡の調査区域のなかには、陥し穴と同時期と考えられる縄文時代後期の集落は発見されていないが、これほどの大がかりな陥し穴を営むには、相当の集団があったことは想像に難くない。上野原台地においては、縄文時代早期前半から弥生・古墳時代まで、生活の場として長い期間利用されていたことが実証されている。これまでの調査では、縄文時代後期の住居跡等は発見されていないが、近接地に集落があった可能性を考えたい。

- 註1 今村啓爾「霧ヶ岡遺跡の土壌群に関する考察」霧ヶ岡遺跡調査団 1973年  
 註2 今村啓爾「陥し穴（おとし穴）」『縄文文化の研究2』雄山閣出版 1983年  
 註3 稲田孝司「西日本の縄文時代落とし穴」『論

苑考古学』坪井清足さんの古希を祝う会・天山舎 1993年

- 註4 長野眞一「土合原遺跡」末吉町埋蔵文化財調査報告書9 1990年  
 註5 宮田栄二「奥木場遺跡」枕崎市埋蔵文化財調査報告書3 1987年  
 註6 瀬戸口望「倉園B遺跡」志布志町埋蔵文化財調査報告書7 1984年  
 註7 鹿児島県立埋蔵文化財センター調査1994年  
 註8 岩崎新輔「大久保遺跡」出水市埋蔵文化財調査報告書 1997年  
 註9 藤井法博「鹿村ヶ迫遺跡」入来町埋蔵文化財調査報告書6 1997年  
 註10 鹿児島県立埋蔵文化財センター調査1994年  
 註11 桑畑光博「田谷・尻枝遺跡」都城市文化財調査報告書第38集 都城市教育委員会 1997年

#### 鹿児島県内陥し穴地名表

遺跡名	所在地	時代	基数	形状	底面小ピット	備考	報告書等
仁田尾	日置郡松元町	旧石器	17	長方形	2～10個	打ち込み杭のものと10～15cmの小穴に2・3本の細い杭を埋めたものがある	平成5・7年調査(埋セ) 宮田栄二「仁田尾遺跡」日本考古学年報47
竹ノ山B	日置郡伊集院町	旧石器	2	楕円形			平成10年調査(埋セ)
鹿村ヶ迫	薩摩郡入来町	旧石器	2	略長方形	2個・3個		入来町埋蔵文化財調査報告書6 1997年
大久保	出水市上場	旧石器	1	楕円形	7個(クイ状)	埋土中に剥片・チップ	出水市埋蔵文化財調査報告書 1997年
桐木	曾於郡末吉町	縄文草創期	1	楕円形	2個		平成8～11年調査(埋セ)
城ヶ尾	曾於郡財部町	縄文草創期	1	楕円形	3個		平成11年調査(埋セ)
倉園B	曾於郡志布志町	縄文早期	2	楕円形	各1個		志布志町埋蔵文化財調査報告書7 1984年
奥木場	枕崎市東鹿籠町	縄文早期	1	楕円形	2列8個		枕崎市埋蔵文化財調査報告書3 1987年
城ヶ尾	始良郡福山町	縄文早期	3	楕円形	3～6個		平成10・11年調査(埋セ)
耳取	曾於郡財部町	縄文早期	1	楕円形			平成11年調査(埋セ)
曲迫	始良郡溝辺町	縄文前期	8	略長方形	有するもの(1～3個)		平成9年調査(埋セ)
東免	始良郡溝辺町	縄文前期	16	略長方形	1個・11個	小ピット有しないもの3基	平成9年調査(埋セ)
永磯	始良郡福山町	縄文中期	19	楕円形	有するもの(1～3個)		平成9・10年調査(埋セ)
前原和田	始良郡福山町	縄文中期	1	楕円形			平成10年調査(埋セ)
供養ノ元	始良郡福山町	縄文中期	3	楕円形			平成10・11年調査(埋セ)
耳取	曾於郡財部町	縄文中期	12	楕円形	3個		平成11年調査(埋セ)
供養岡	曾於郡財部町	縄文中期	2	楕円形			平成11調査(埋セ)
土合原	曾於郡末吉町	縄文後期	22 8	円形 楕円形	0～7個	第1地点：1群 第3地点：3群	末吉町埋蔵文化財調査報告書9 1990年
上野原	国分市上之段	縄文後期	79	円形	0～2個	深さで2類に分類	本報告



## 2 縄文時代の掘り込み

### 掘り込みの類別

第3工区で検出された掘り込みは全部で369例あり、形態も時期もそれぞれ異なっているのでⅠ～Ⅷ類に類別し必要によってはさらに細別した。以下それぞれの類について説明をおこなう。

**Ⅰ類**：楕円形あるいは円形の掘り込みの壁際に一つの小穴をもつものである。R 9-2を典型例として平面形が楕円形のをⅠa類、P 11-7を典型例とする平面形が円形のをⅠb類とした。全体の掘り込みの中で最も類例が多く、Ⅰa類が154例でⅠb類が74例である。この類については、後で詳しくみていくことにする。

**Ⅱ類**：掘り込みの壁際に小穴をもつという点はⅠ類と同様であるが、両端に小穴をもつものである。P 7-16を典型例として平面形が楕円形のをⅡa類、O 8-1を典型例とする平面形が円形のをⅡb類とした。Ⅱa類が23例でⅡb類が2例である。

**Ⅲ類**：この類も掘り込みの壁際に複数の小穴をもつものであるが、小穴が一方に片寄るものである。P 8-10を典型例として45例がある。

**Ⅳ類**：この類も小穴を複数もつものであり、壁際だけでなく中央部にも小穴が掘られていたりする複雑な掘り込みである。23例がある。

**Ⅴ類**：平面形は円形でその中央部に小穴があるものである。10例がある。検出面が低い関係で浅いけれども、中には陥し穴に含まれるものもあると考えられる。

**Ⅵ類**：円形もしくは楕円形で小穴を全くもたないものである。平面形が円形のをⅥa類とし楕円形のをⅥb類とした。Ⅵa類が10例でⅥb類が17例である。用途としては明らかでない。

**Ⅶ類**：円形で小穴をもたない掘り込みであり、やや深く掘られている。埋土に火山灰と考えられる層が堆積しているのが特徴である。R 6-12・R 8-5・R 9-4の3例がこの類に含まれる。火山灰の部分は3層に分層できる。一番下は3～8mm大の黄色軽石と1～3mm大の砂が混在する厚さ8cm

の層であり、しまりがなくボロボロと崩れる。中ほどの層は厚さ2cmで、灰白色をした細砂粒が硬く凝固している。一番上の層は厚さ6cmで、白黄色をした砂混じりの土が硬く凝固している。成尾英仁氏によると、下部が火山軽石で上部が成層構造をもつ火山灰層であり、桜島起源のP 5火山灰に相当するものである。上野原遺跡では部分的にP 5火山灰の堆積が見られるが、平坦面ではすでに流されてしまっており、このような窪みの部分で辛うじて観察できる。S 5区ではこのP 5火山灰と曾畑式土器が近接して出土したが、確実な上下関係を捉えることが出来なかった。P 5火山灰の年代は4900年前というデータが提示されており、曾畑式土器に近い年代である。したがって、Ⅶ類の掘り込みはこれらよりも古く、縄文時代前期に掘られたものである。用途としては不明であるが、3例ともR区から検出されており、何らかの目的で同時期に掘り込まれたものであろう。

**Ⅷ類**：円形の浅い掘り込みである。埋土も他の掘り込みと異なり、Ⅲ層の黒褐色土が入っており弥生時代以降の掘り込みであると考えられる。O 7区に3ヶ所、O 14区に5ヶ所の8例がある。並ぶ様相は見られないし、いずれも深さが10cm程度であることから貯蔵穴とも考えられず、用途については今後の事例を待ちたい。

### 掘り込みの計測位置

掘り込みの計測位置については第69図にあるように、Ⅰ類を主にして説明をおこなう。上面長及び上面幅は検出面の数値を示している。したがって、掘り込まれた当時の生活面よりも削平された低い位置での測定値である点に注意を要する。特に深さについては、埋土の色の違いがわかるⅥ層で検出されたものが多く、少なくとも35cmは削平されていることを念頭に置かなければならない。楕円形の場合は長径を上面長として測り、短径の最大値を上面幅として測った。平面形が円形の場合は、小穴の中心を通る直径を上面長として、それに直交する直径を上面幅としている。下面長・下面幅は掘り込みの下ばラインを基に測っていて、小穴がある場合は下ばライ

ンの推定線を入れて計測した。掘り込みの方向は、小穴を含む長径の向きが真北から時計回りに何度回転しているかを示している。したがって180°前後になると小穴が南側を向いていることになり、0°もしくは360°に近くなると、小穴が北側を向いていることになる。小穴の径は先細りする例が多く、小穴の上面径と下面径の差が大きいので中間的な深さでの径を測っている。小穴の角度は垂直におろした線よりも何度傾いて掘られているかを示している。掘り込み内側に傾いている場合はマイナスをつけて示すつもりであったが、このような掘り込みは一例もなかった。小穴の深さは、検出面から小穴最深部までの深さと掘り込みの深さととの差で表した。

#### 分布状況

90,000m<sup>2</sup>という広大な範囲で上野原遺跡第3工区の発掘調査が行われた。今回取り上げる掘り込みは、全部の範囲から検出されたわけではなく、場所によって数の差が著しい。特に多く検出されたのが、S-5・6・7・8・9区の南側斜面とP-6・7・8・9区の北側斜面である。平坦面ではほとんど検出されず、あったとしても数基のみである。このことは、掘り込みを遺すという行為が平坦面よりも傾斜地でより行われるということを示している。さらに、北側斜面よりも南側斜面の方が数が多く、南側斜面の方が適していたと考えられる。

次に掘り込み同士の関係であるが、一列に並ぶとか等間隔に存在するというような恣意的な配置は見受けられない。かなりばらつきがあり、掘り込み同士がセットになって何らかの施設などをつくっていたとは考えられない。全く単独で存在していたと考える方が妥当である。小穴の位置からも規則的な配置はみられない。小穴がどの方向につくかについては、I a類とI b類を対象として第70図小穴の方向に示した。全方向にみられるが、方向別によると北東方向により多く向いていることが解る。第3工区では北東方向が等高線の高い向きになる。これをもう少し明らかにするために、等高線に直交する補助線から小穴の方向が左右に何度回転しているかを示したのが第70図等高線に対する小穴の向きである。

0°に近い方が等高線の高い方に小穴が向き、180°になるにつれて等高線の低い方に小穴が向くことになる。このグラフからも等高線の高い方に小穴が向く掘り込みが多いことが解る。

#### 掘り込みの時期

掘り込みが検出される層はアカホヤ上面のIV層であり、埋土にもアカホヤのブロックが含まれているので、アカホヤ噴出以降に掘り込まれたことは確実である。したがって、アカホヤ火山灰噴出後の縄文時代前期以降の所産である。Ⅶ類の掘り込みの埋土にみられた火山灰の堆積が全く見られないことから、桜島起源のP5火山灰噴出後であると考えられ、縄文時代前期後半よりは後の時期であろう。掘り込み埋土の一番上に堆積した層は黒茶褐色土であり、この層は縄文時代晩期の遺構埋土と同様のものであることから、縄文時代晩期には下らないと考えられる。掘り込みの埋土や周辺から遺物の出土は全くなく、確実な時期は特定できないが、IV層から市来式土器がわずかながら出土しており掘り込みの時期も縄文時代後期頃ではないかと考えている。

上野原台地は縄文時代早期前葉および早期後葉・縄文時代晩期・弥生時代中期・古墳時代・古代に集落が営まれている。したがって、掘り込みが遺された時期には、人里から離れた環境にあり、自然の繁殖に任せた景観であったことが想定される。

#### 陥し穴との関わり

陥し穴と掘り込みは検出状況も埋土の状況もよく似ており、同じ時期に共存していたのではないかと考えられる。ただし、O10-4の陥し穴断面図および県立埋蔵文化財センターに展示されている土層転写を見ると、陥し穴が埋まった後、掘り込みが掘られたことが解る。この一例のみをとって、陥し穴よりも掘り込みの方が新しいとは言えない。掘り込みが一時期に全部掘られたのではなく、数年から数十年かけて掘られたものであると理解したい。陥し穴が二列になって規則正しく並んでいるのに対し、掘り込みはかなりランダムである。掘り込みも小動物を捕獲するための陥し穴ではないかと考えるむきも

あるが、動物の習性を熟知し意図的に配置されたような様相は見られない。むしろ、陥し穴を対象とした動物が生活しやすかった環境の下で掘り込みも存在したのではないかと考える。

#### 他の遺跡の事例

松元町フミカキ遺跡は、標高168mの台地上にある遺跡で、1994年に調査された。掘り込みが検出された層は、アカホヤより下位の薩摩火山灰層上面であり、縄文時代早期に該当する。フミカキ遺跡では、縄文時代早期の層から吉田式土器と石坂式土器が地点を異にして出土しており、しかも出土層位に差がみられる。掘り込みの埋土には吉田式土器が出土する層と同じ黒色土が堆積していて、早期前葉の所産であると考えられる。埋土から遺物の出土はなく、吉田式土器が使われていた時期と同時期に掘り込まれたかどうかの確証はない。掘り込みはI a類と全く同じタイプのものであり、上面長150cm・上面幅60cm・深さ70cmの床面から、さらに長軸の一端に深さ60cmほどの小穴を有している。

鹿児島市山ノ中遺跡は、2つの川がシラス台地を浸食した残地である急傾斜地にあり、各時期の生活痕跡は標高100m前後のやや平坦になった所にある。1995年に発掘調査が行われた。遺跡の中心は縄文時代後期前半期であるが、平安時代前半及び中世山城に関する遺物等も出土している。掘り込みは平安時代前半と中世山城の時期に挟まれた地層内から検出された。埋土に縄文土器や平安時代の土器類が認められることから、平安時代前半以降に掘られたものであることは確かである。したがって平安時代後半の掘り込みである可能性が高い。掘り込みは全部で17基あり、上面長約1m・小穴を含めた深さは80cmほどである。I a類と同様な形状であるが、上面形が卵形というよりも細長い形をしている。小穴のほとんどは地形的に高い方に掘り込まれている。

1993年に調査した松元町宮尾遺跡では、急斜面で8カ所の掘り込みを検出した。埋土は表土下の黒色土であり、近世～現代に近い頃に掘られたものであると考えられる。いずれも等高線の高い方に掘り込まれており、二段掘りではなく一段掘りで幅15～20

cmの細長い掘り込みである。深さは、最も深いもので116cm、最も浅いものでも48cm、あとの6カ所は72cm～80cmにおさまる。おそらくヤマイモの採掘痕と考えられ、キンツと呼ばれる掘り具で採掘したと考えられる。

1994年に調査した松元町山下掘頭遺跡でも、古墳時代と考えられる埋土で一端に小穴を持つ掘り込みが検出された。小穴は、深さ1mほどは埋土と同じ層であったが、それ以下は限りなく続き深さ3mほど掘ってもまだ普通の土層と異なっていた。おそらくその後この小穴が透水用となったのではないかと考えられる。

宮崎県都城市に所在する牧の原第<sup>註2</sup>2遺跡では、56基の土坑が検出されており、その内の「ハイヒール状土坑」と呼んでいる土坑が掘り込みに類似している。遺跡は標高175m前後の平坦な台地上に位置し、土坑の埋土に桜島噴出の文明ボラ（1460年代）が堆積していることから、中世の所産であると想定している。土坑内埋土の植物珪酸体分析を行った結果、ネザサ節やメダケ節が多く、タケ亜科やススキ属などが生育する草原的な環境であったことが想定されている。また周辺にはクスノキ科の照葉樹もみられるということであり、ヤマイモや葛が生育する環境としても齟齬はない。調査担当者はネザサ節やメダケ節を何らかの目的で土坑内に集積したことを想定しているが、掘り返された表土部分の植物が埋土として残ったと考えられなくもない。

宮崎県宮崎郡田野町に所在する天神河内第<sup>註3</sup>1遺跡は、標高280m前後の河岸段丘面及び傾斜面に位置する。ここでは128基の土坑が検出され、その内のIV類としている端部にピットをもつものは62基を数える。内部の小穴は北～東にかけて多く掘られており、こちらの方が等高線の高い位置になる。報告書では、歴史時代の土坑であるとしており、用途等については類例を待って検討したいとしている。

熊本県相良村野原遺跡<sup>註4</sup>では、アカホヤ層の下でI a類と同様の掘り込みが3基検出されていた。野原遺跡は川辺川右岸の急傾斜地に位置し、縄文時代早期の遺物としては、押型文土器と中原式土器が出土していた。掘り込みの検出面よりも下位からこれら

の土器が出土することから、縄文時代早期後葉頃に掘られた掘り込みであることが解る。

以上、上野原遺跡以外の7遺跡の掘り込みを紹介した。いずれも形態的には類似したものであるが、時期的には縄文時代早期前葉から中世後期に近い時期まで幅広い時代に存在する点が注目される。また、松元町宮尾遺跡にみられるように現代に近い時期のものであっても、壁際に小穴を伴う掘り込みが存在するということが解る。このことは、時代を超えて同様の行為が行われていたことを示すし、現在行われている行為そのものを追求していくことによって、過去の同様の事例を明らかに出来ることにもなる。管見にふれた掘り込みの事例は、鹿児島・宮崎・熊本<sup>註8</sup>の南九州三県のみであるが、自然環境が似通った地域であったならば、どの地域でも同様の行為が行われていたと考えられる。今後、他地域での報告例を調べるとともに、発掘調査される遺跡の中で目的に調査されることを期待したい。

#### 掘り込みの用途

以上、上野原遺跡の掘り込みの内Ⅰ類～Ⅳ類について述べ、同様の掘り込みの類例をみてきた。簡単にまとめると、人が一人入れるぐらいの掘り込みであること・壁際に小穴を掘り込むこと・時代を超えて存在すること・平坦面よりも傾斜面に存在すること・掘り込み同士の関連性が薄いこと・動物糞との共存が考えられること・遺物を伴わないこと・最初から出来上りの形を考えて掘られた穴ではないこと、等があげられる。以上のような結果から、これらの掘り込みは地下茎植物の採掘としての痕跡であると想定される。そして、穴の深さからヤマノイモ<sup>註5</sup>あるいは葛の可能性が高い。

縄文時代の人々が野生の地下茎を食糧としていたことは渡辺誠氏<sup>註6</sup>や佐々木高明氏<sup>註7</sup>等によって想定されており、それを積極的に論証しているのは山本直人氏<sup>註8</sup>である。山本氏は採取対象植物と採収用具の民俗学・民具学による研究成果を、縄文時代の考古資料と比較・検討することによって縄文時代における野生地下茎の食糧化を明らかにしようとしている。遺跡から出土する動物骨や魚貝類の食糧化、及び炭

化物として遺る堅果類やプラント・オパールとして検出される植物遺存体についての食糧化は研究が進められているものの、遺跡に遺りにくい植物についての研究は遅れている。しかし、山本直人氏の研究や松井章氏・宮路淳子氏等による土壤微細形態学の研究<sup>註9</sup>から、地下茎植物についても次第に明らかになりつつある。それらに加え、地下茎植物を採掘した痕跡が遺構として検出されれば、より一層縄文時代における地下茎植物の研究は進むものと考ええる。山本直人氏は縄文時代に食糧化されていたと想定される野生地下茎植物に、カラスウリ・キカラスウリ・クズ・ヤマノイモ・トコロ・ヒメドコロ・ワラビ・ヒガンバナ・キツネノカミソリ・カタクリ・ノビル・ウバユリ・オオウバユリ・オニユリ・コオニユリ・ヤマユリ・テンナンショウの17種類<sup>註10</sup>をあげている。これらの他に、藤本滋生氏はホドイモとアマナも加えている。

#### 民俗事例から考えられること

1994年2月17日・18日、葛の根を集積している久永春男さんに話を伺った。鹿児島では葛を「カンネ」、ヤマノイモを「ヤマイモ」と呼んでいる。葛やヤマノイモが育つ土壌としては、黒土は良くなくシラスや「ドモジラス（ヌレシラスとか赤みがかったシラスのことをいう）」が良く、岩盤が崩れた土壌も適しているという。岩盤が崩れた土壌では、根が奥まで入っていかずにデンプンが溜まりやすい上に掘りやすいという。採取する場所は平坦面よりも傾斜地が多く、しかも北側斜面よりも南側斜面の方が根が大きい。また、海岸よりも内陸の方が暖かくて葉が早く出て遅く落ちるので、大きな根が入っているとのことである。葛の根を掘る時期は、葉が落ちてから芽が出るまでの12月～翌3月までであり、精製する期間も5月になるとデンプンの沈殿が悪くなり行わないという。<sup>註11</sup>薩摩半島でも各地で葛の根は掘られており、これまで見た最も大きなものは長さ2m・直径60cm・重さ235kgであったという。

1994年2月26日、内田実さん御夫妻の葛掘りに付いて行った。二人分の道具は、スコップ2本・山グワ2本・鋸2本・鉋1本・鎌1本・キンツ1本であっ

た。山グワは細身のもので刃幅6cm・長さ22cmを測る。キンツはヤマイモ掘りに使う道具であり、刃幅6.5cm・柄を含めた長さは152cmを測る。採取した場所は、松元町平谷に所在する標高約300mの山腹で、植林のために階段状に整地され、あまり間伐が行われていないヒノキ林であった。土質は、5cm程の腐植土の下に白茶色を呈する日南層と粘土質土の混土があり、1m程下になると白灰色をした日南層で硬くなる。この日は午前8時半から掘りはじめ、午後3時半ごろまでに4本の葛の根を掘りあげた。直径5cm以上の蔓を探し、鎌を用いて周りの邪魔になる木々を切り払い、山グワで掘り始める。掘る方向は基本的には標高の低い方から掘っていくが、他の木や石の状況にあわせて掘るため方向はまちまちである。出てきた他の木の根は鉋で切り、葛の根そのものは繊維が多いため鋸を用いて引きちぎるようにして切る。掘った土は後ろの方に掻き出ししながら、葛の根の全体を出すようにして掘り進んでいった。深くするにつれて、掘る人が入る穴も広がってくる。葛の根は一本のものもあるが、地下で枝分かれしているものもある。枝分かれしているものについては、一本づつを追いかけながら切り離していく。全てを掘りあげた後、土を軽く元に戻して終わりである。はじめに広く掘られた所は、最後までそのままの状態というわけではなく、終わりに近づくにつれて廃土を置いていくため、掘られた全体の姿をそのまま見ることは出来ない。途中途中の深さや幅を記録し、最終的に復元しなければならぬ。その結果、上面長100cm・上面幅80cm・掘り込み部分の深さ30cm・葛の根を掘りだした深さ約100cmという採掘痕になった。上野原遺跡の掘り込みに近いものである。

午後3時半からは約1時間半かけての搬出である。葛の根を1mほどの長さに切って、肩に担いで運んでいく。内田さんは一度、暗くなったので葛の根を山の中に積み上げて麻袋を被せ一夜置いておいたら、明るく朝にはイノシシによって全てを食い荒らされていた経験があるそうである。現に所々には、イノシシによって葛やヤマイモが掘られた場所があり、葛の根を縦に半分だけ食い荒らされていたり、足跡が遺ったりした痕跡がみられた。葛やヤマノイモが

繁殖する環境が、イノシシにとっても良好な生活の場であることを実感できた。

ヤマイモの採掘は葉が落ちる9月末頃から行われる。蔓が枯れてしまうと場所が解らなくなってしまうので、夏の間根元に粉を蒔いて目印にしておき、秋に掘り出す。現在はキンツと呼ばれる掘り具を用いて、ほぼ垂直にのびたヤマイモを掘り出す。ヤマイモに傷が付かないように、しかも折れないように手前の方を広くしながら、のびる方向を探っていく。現在はそのまま食べるが、古くは干し粉<sup>註12</sup>にして貯えていたそうである。滋養強壮薬として漢方にも用いられ、ムカゴも焼いて食べる。

葛は食用となるデンプンを採取する以外にも、一昔前までの人間の生活に密着した非常に有用な植物である。葛根は発汗・解熱・鎮痛剤などの薬用になるし、蔓から採った繊維でつくられる「クズタナシ」<sup>註13</sup>と呼ばれる仕事着が甌島などに遺っている。蔓はそのままでも結束用としたり、背負い籠や編み物容器にもなる。また、柔らかい葉は飼料となり、デンプンを採取した後の繊維は肥料となり、捨てるころがないくらいである。このように、葛は衣食住どれをとっても有用な植物であり、今後とも追求すべき植物であると考えられる。

I・II類とした掘り込みは、ヤマノイモを対象とし、III・IV類が葛を対象として採掘した痕跡<sup>註14</sup>ではないかと考えられる。

#### おわりに

遺構には、住居跡・柱穴・溝・墓・貯蔵穴・陥し穴など、目的を持って出来上がったときの形や深さを考えながら掘られたものと、そうでなく何らかの行為を目的として土が掘り返された際、たまたま痕跡として残った穴がある。発掘調査の際、前者については注意深く捜していくけれども、後者の場合なかなか注目されることもなく、「樹痕」とか「不明土坑」として片付けられることが多い。実測図や写真として記録されるのは、まだまだ少な方である。たまたま遺された穴の痕跡としては、食糧化を目的とした地下茎植物の他に薬用としての植物採集、あるいは食用としての小動物や昆虫類の捕獲の痕跡も想

定しておかなければならない。日本における食用薬用昆虫の種類は、大正年間の55種が報告されている。<sup>註15</sup> これらの内、地中を掘り起こして捕獲する昆虫はどの種類であるのか追求しなければならないが、ラオスでは家族総出で掘り棒とピクをもってコオロギのような昆虫を掘りに行く様子が見られ、日本の縄文時代においてもこのような行動を想定しておかなければならない。

藤本強氏は「植物利用の場合、遺物においても、遺構においても、その明確な痕跡をほとんど遺さないことが通常の状態である。考古学の資料から直接植物利用を証明することは不可能といわないまでもきわめて困難とするのが妥当であろう。植物利用を考古学的な証拠の上で実証しようとするならば、間接的な証拠を積み重ねていく以外に方法がないように思われる。遺されている微々たる証拠を根気よく、しかも意図して積み重ねることが必要である。」と、述べている。<sup>註17</sup> 今回報告した上野原遺跡の掘り込みがその中の一つであるかどうかについては断定できないが、現在までの成果からその可能性が大きいことを述べて終わりとした。

御協力いただいた方々

内田実御夫妻・篠原文徳・久木田浩子・出合宏光・久永春男・廣八堂田口勝喜・増田スミエ・福岡優子・村中康子・下野市子・宮元愛子・早田妙子・堀井広美・吉田孝枝・徳添洋子・新地啓子・川涯恵美（敬称略）

註

- 註1 小林哲夫「10 桜島火山の形成史と火砕流」『文部省科学研究費自然災害特別研究，計画研究「火山噴火に伴う乾燥粉体流（火砕流等）の特質と災害」（代表者 荒牧重雄）報告書』1986
- 註2 久木田浩子編『牧の原第2遺跡』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第19集 1999.3.31 宮崎県埋蔵文化財センター
- 註3 菅付和樹・谷口武範編『天神河内第1遺跡』1991.3 宮崎県教育委員会
- 註4 平成12年3月2日に熊本県相良村教育委員会

の出合宏光氏のご厚意により、現地を見せていただいた。

- 註5 藤卷正信氏によると、根茎類の深さはカタクリ・アサツキが20cm，オニユリ・ヤマユリが20～30cm，ワラビ・ウバユリが30cm，そしてクズ・ヤマノイモが100～150cmと報告されている。藤卷正信「土掘具（一）」『新潟考古学談話会会報』第12号 1993.10.15 新潟考古学談話会
- 註6 渡辺誠『縄文時代の植物食』1975 雄山閣出版
- 註7 佐々木高明『日本史誕生』集英社版日本の歴史① 1991.5 集英社
- 註8 山本直人「縄文時代における野生地下茎食糧化の基礎的研究」『名古屋大学文学部研究論集』122 1995.3 名古屋大学文学部・山本直人「野生地下茎食糧化に関する事例研究—クズとワラビを中心に—」『名古屋大学文学部研究論集』125 1996.3 名古屋大学文学部・山本直人「縄文時代における野生地下茎食糧化の地域性と季節性」『名古屋大学文学部研究論集』131 1998.3 名古屋大学文学部
- 註9 松井章・平山良治・宮路淳子・リチャード・マックフェイル「考古学における土壌微細形態学の有効性（予察）」『1996年度 日本考古学協会総会発表要旨』1996.4 日本考古学協会
- 註10 藤本滋生『植物とその澱粉の検索』1992.3.1 自費出版 鹿児島市
- 註11 松元町在住の増田スミエさんは、冬場に葛の根を臼で搗き、何度も冷たい水に沈殿させながらデンプンを取りだしたそうである。暖かくなるとデンプンの取れる量が少なくなり、水も臭くなったそうである。1994年2月16日に聞く。
- 註12 内藤喬『鹿児島民俗植物記』1964 鹿児島民俗植物記刊行会
- 註13 小野重朗「かごしまの民具 クズタナシ」『南日本新聞 朝刊』1982.5.21 南日本新聞社
- 註14 葛の根は土壌の状態や地形の関係でのびる方向が異なるが、平坦な場所ではまっすぐのびるようであり、I・II類の中にも葛の採掘痕が含まれている可能性がある。1994年2月4日にK T S 氏

レビ番組「ごちそうさま」で葛に関する番組を放映していた。その中に、輝北町の方が葛根を採集するシーンが映し出された。ほぼ平坦な場所での採掘であり、人一人が入るぐらいの大きさの穴を腰ぐらいの深さまで掘り下げ、穴の端にある根をさらに掘り下げている。

註15 三橋淳編『虫を食べる人びと』 1997.6.20

平凡社

註16 1999年10月にラオス北部の少数民族の集落を訪ねた際、実見した。

註17 藤本強「植物利用の再評価 ―世界的枠組みの再構築を見据えて―」『古代文化』Vol.52

2000.1.20 古代学協会

#### 追記 1

脱稿後、『下甌村生活文化図鑑』が刊行され、「ヤマモ掘りの極意」と題しての文章が掲載された。下甌村に在住するヤマモ掘りの名人と呼ばれる春田正親・大作兄弟が語るヤマモ掘りについての話であり、本文とも関係するので抜粋して紹介することとする。

「ヤマモは多年生の蔓草で自生している植物で、地下の細長い塊根はおいしい食物である。多年生であるヤマモであるにもかかわらず、心ない人によって掘られてしまうと、ヤマモはその生涯を永久に根絶させられてしまうのである。正親・大作兄弟が名人と呼ばれるのはどうしてだろうか。それは、ヤマモの生涯を寿命がくるまで生き長らえさせることを必ず実行しているからである。」

「切れた茎の長さが、どの茎もほぼ同じ長さだったら、地下のヤマモは確実に垂直にのびています。茎の長さがまちまちであつたら、ヤマモは曲がりくねったものです。」

「ガンクビ（ヤマモの根元）が崖の端にあつたり、大木や石の間にあつたりしたときは、掘ることができない。人の体がすっぽり入るぐらいの穴を掘っていく必要があるので、身体の危険性も考慮しておかなくてはならない。」

「大きなヤマモと思われるものに出会ったときは、一般的な方法としてはガンクビの下の方、山の

斜面の下の方から掘ります。しかし、ガンクビの下の方の斜面がどうしても掘れそうでないときは、ガンクビの上の斜面を掘っていきます。」

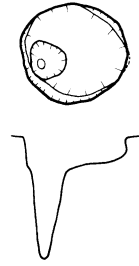
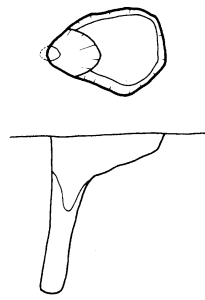
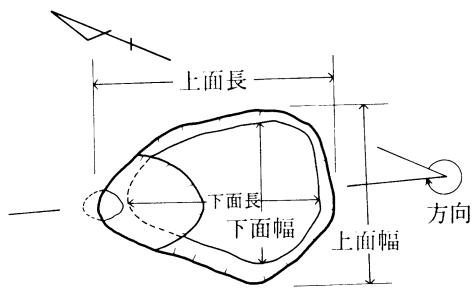
「ガンクビとその下に続くヤマモが穴の壁面に埋め込まれたような状態を保ちながら穴を掘り下げます。自分の身体が穴の中に入り、しかも土砂や木の根、時には石なども掘り上げるために必要な空間を地下に確保します。穴の中ほどのところに階段状の足のセステップをつくり、さらにその段よりも三十センチほど下にもう一方の足をのせて、下へ下へと掘りさげられるように、もう一つ段をつくります。このようにして穴を掘っていくと、ヤマモの姿が穴の側面に沿って浮かび上がってきます。大物は掘るのに約一時間かかります。」

「ここで忘れてならないことは、ヤマモのガンクビは必ず地下に残しておくことと、掘った穴は埋め戻しておくことである。これが、ヤマモ掘りの鉄則だという。ガンクビを残しておけば、次の春には新たな芽を出し、多年生であるからヤマモの一生はまだ続き、四、五年後には巨大なヤマモに成長する。穴の埋め戻しは山歩きや山林の手入れの時、危険を回避するために必要なマナーなのである。正親・大作さん兄弟の父甚三氏は、名人を育てた人である。この人はヤマモを掘った後には、赤色の箸を立てておき、三年後にはまたその現場を訪れ、ヤマモをわが子のような思いで再会する楽しみを持った人だったという。」

『下甌村生活文化図鑑』2000.2.25 下甌村教育委員会

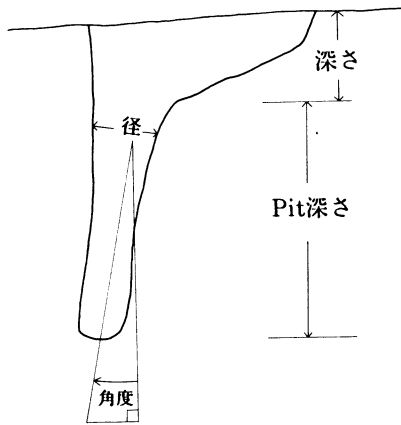
#### 追記 2

脱稿後、京都府網野町松ヶ崎遺跡で、縄文時代前期の炭化したヤマノイモ属の球芽が球芽が出土したということを知った。

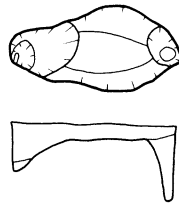


I a類

I b類



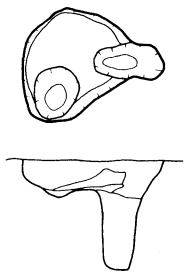
計測位置



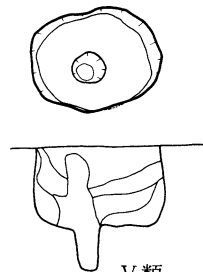
II a類



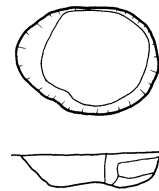
II b類



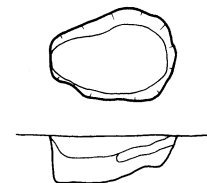
III類



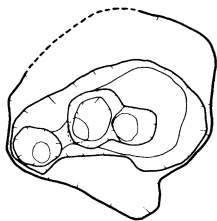
V類



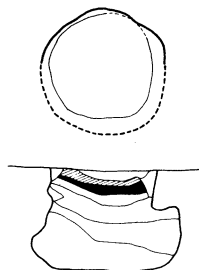
VI a類



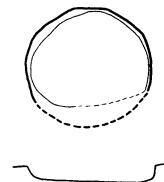
VI b類



IV類



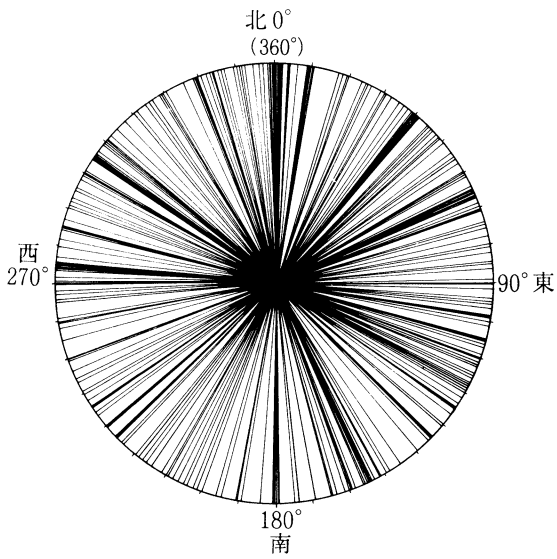
VII類



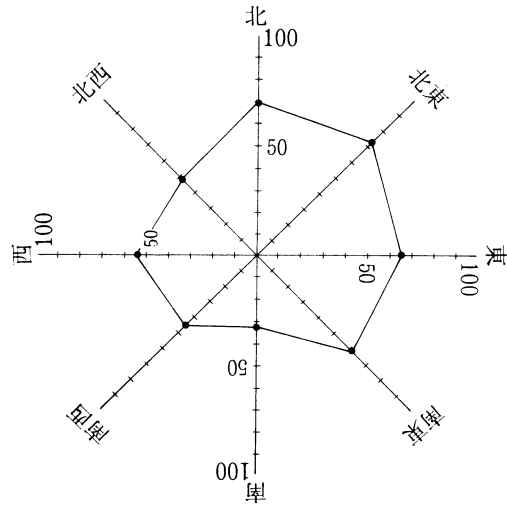
VIII類

第69図 掘り込みの計測位置と類別

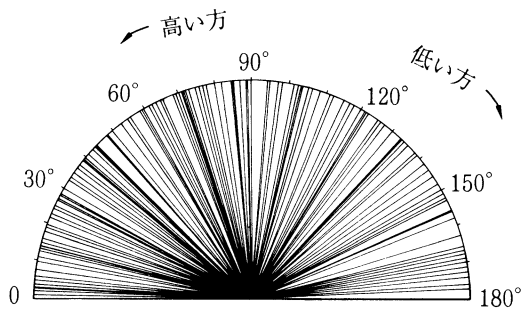




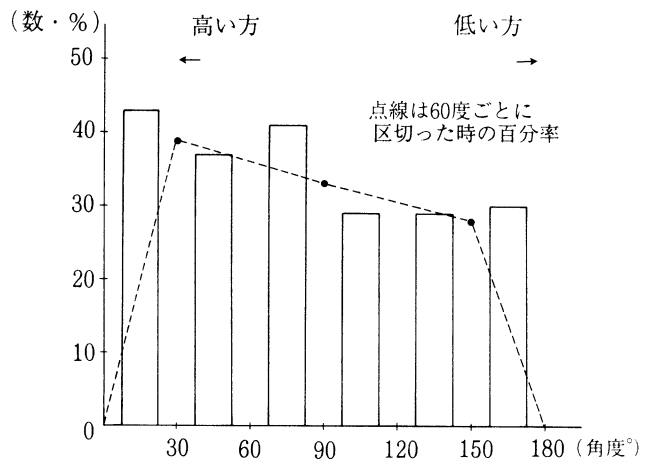
小穴の方向 (1)



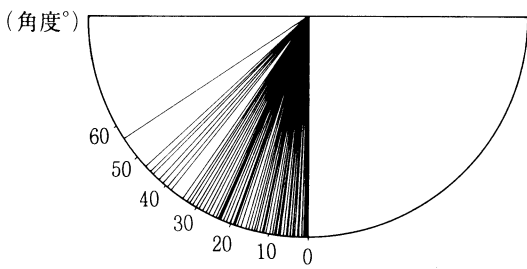
小穴の方向 (2)



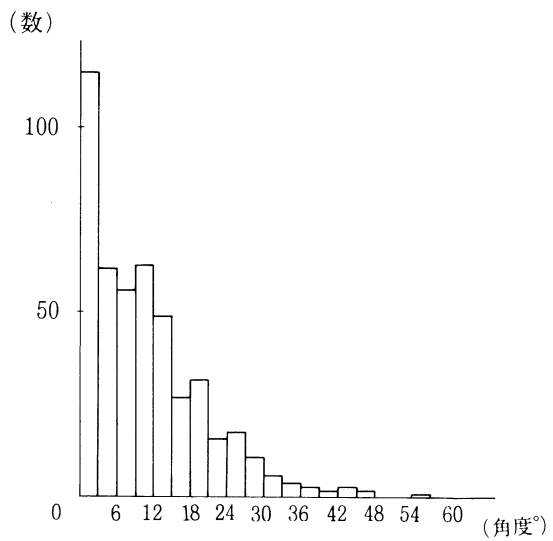
等高線に対する小穴の向き(1)



等高線に対する小穴の向き(2)

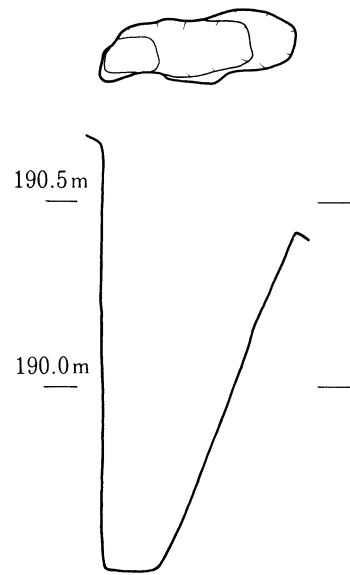
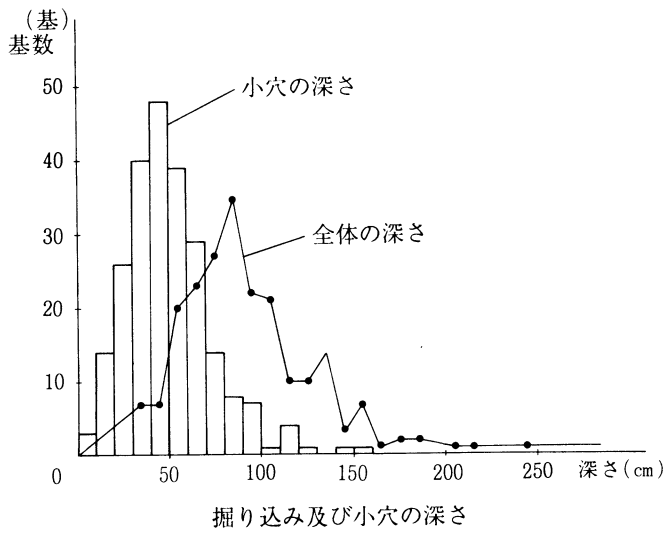


小穴の角度(1)

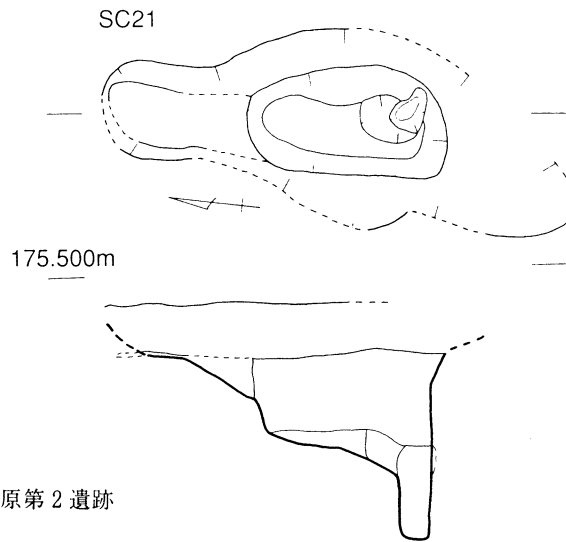
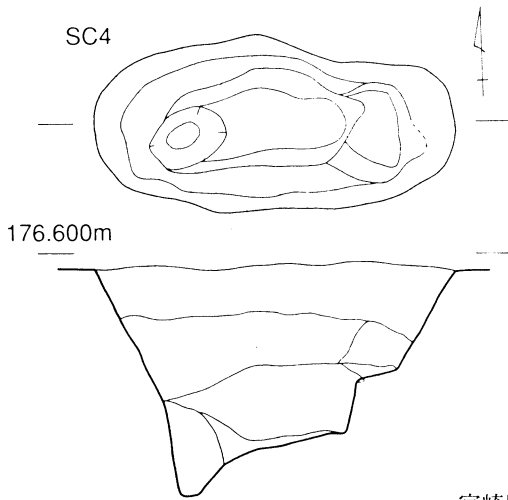


小穴の角度(2)

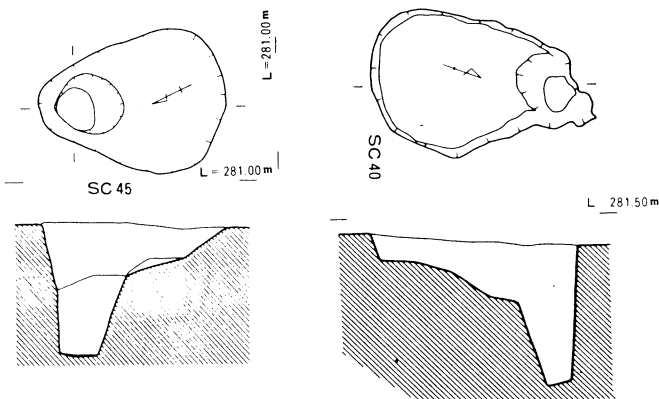
第70図 小穴の向きと角度



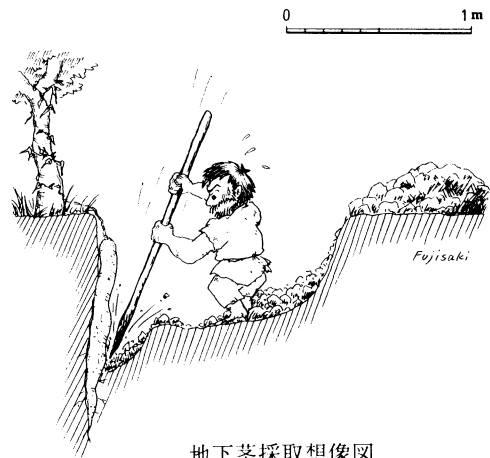
松元町宮尾遺跡



宮崎県牧の原第2遺跡

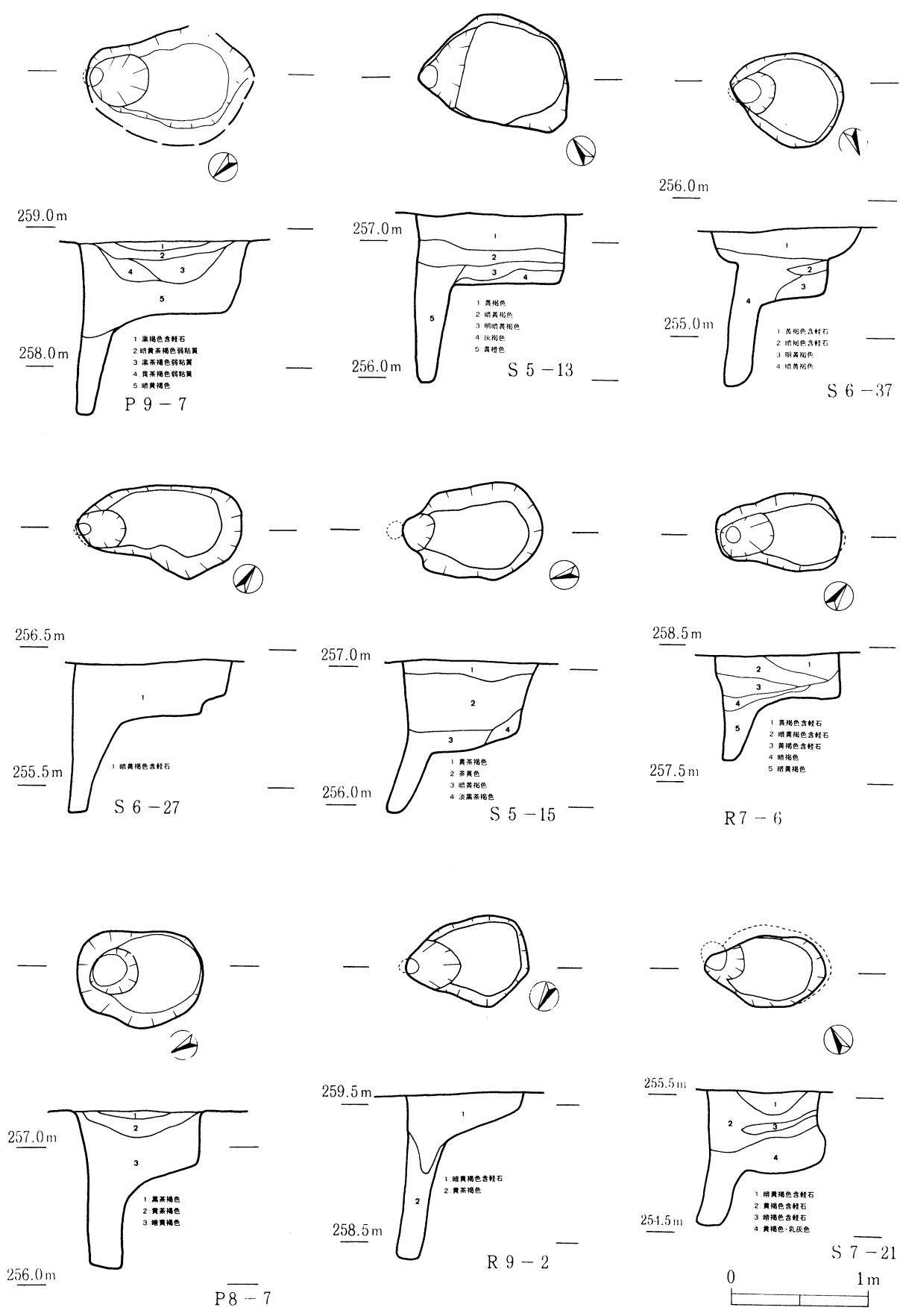


宮崎県天神河内第1遺跡

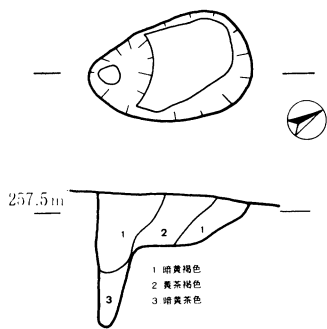


地下茎採取想像図  
(イラスト：藤崎光洋)

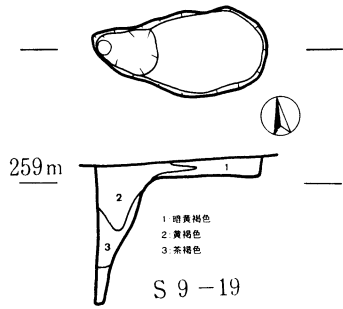
第71図 掘り込みの類例



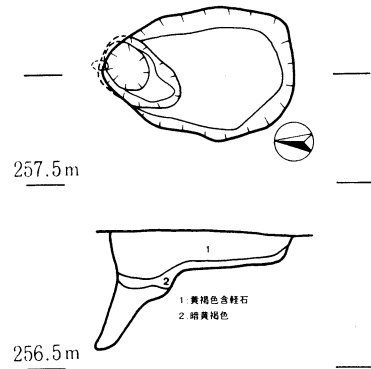
第72図 掘り込み実測図(1)



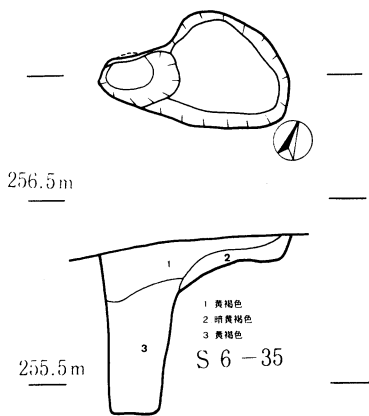
S 8-17



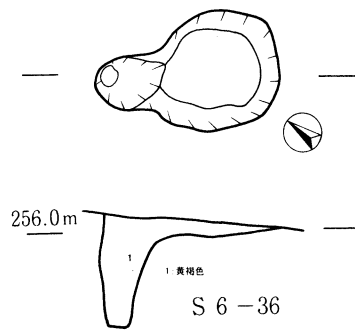
S 9-19



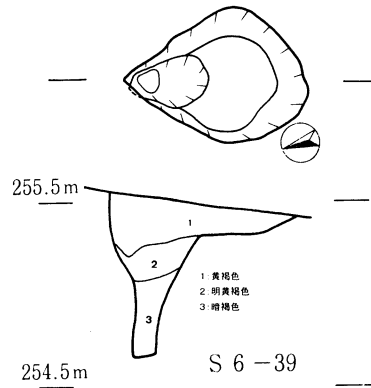
S 6-29



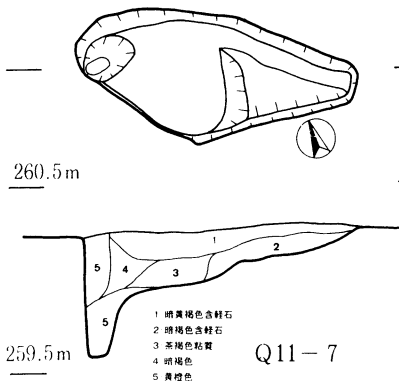
S 6-35



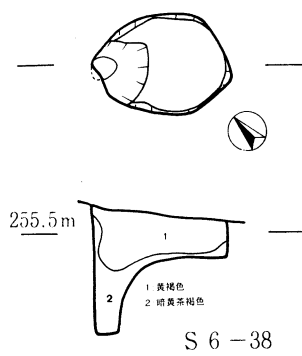
S 6-36



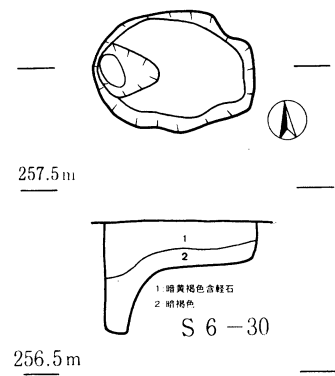
S 6-39



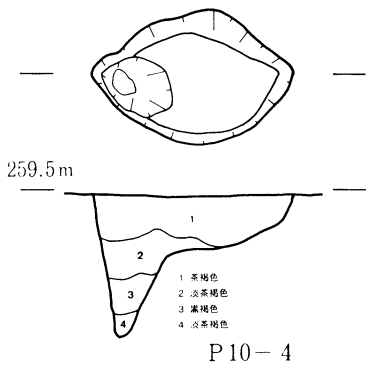
Q11-7



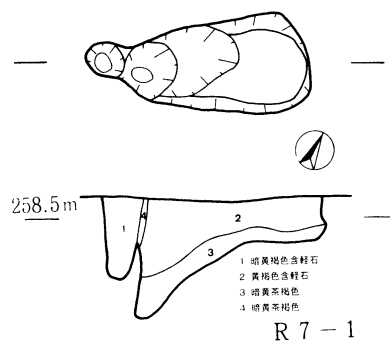
S 6-38



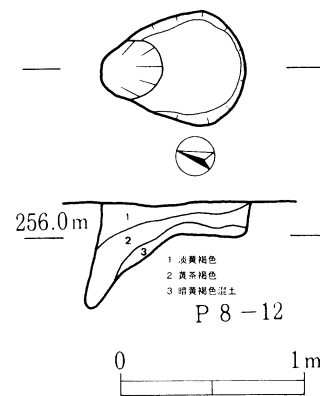
S 6-30



P 10-4

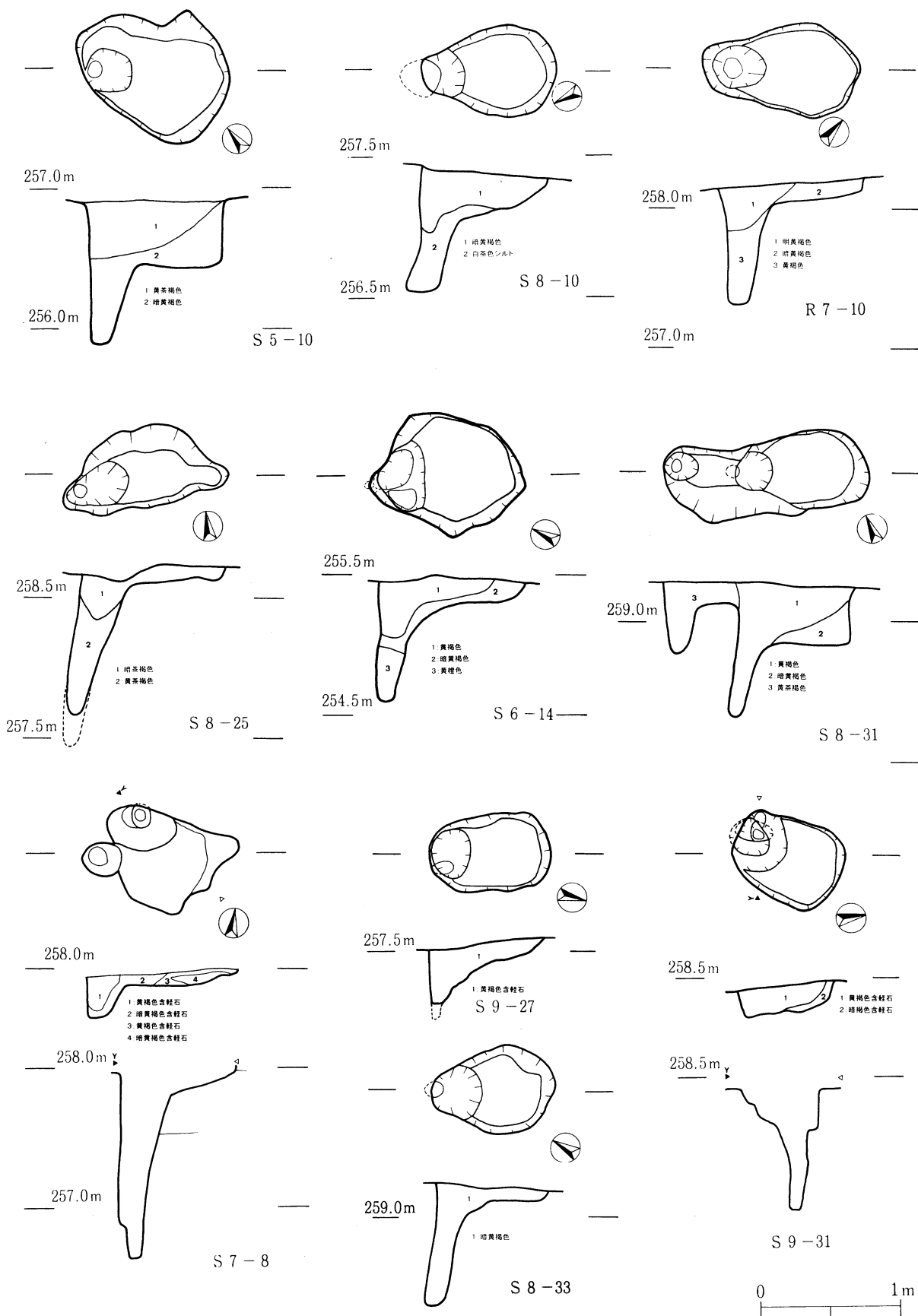


R 7-1

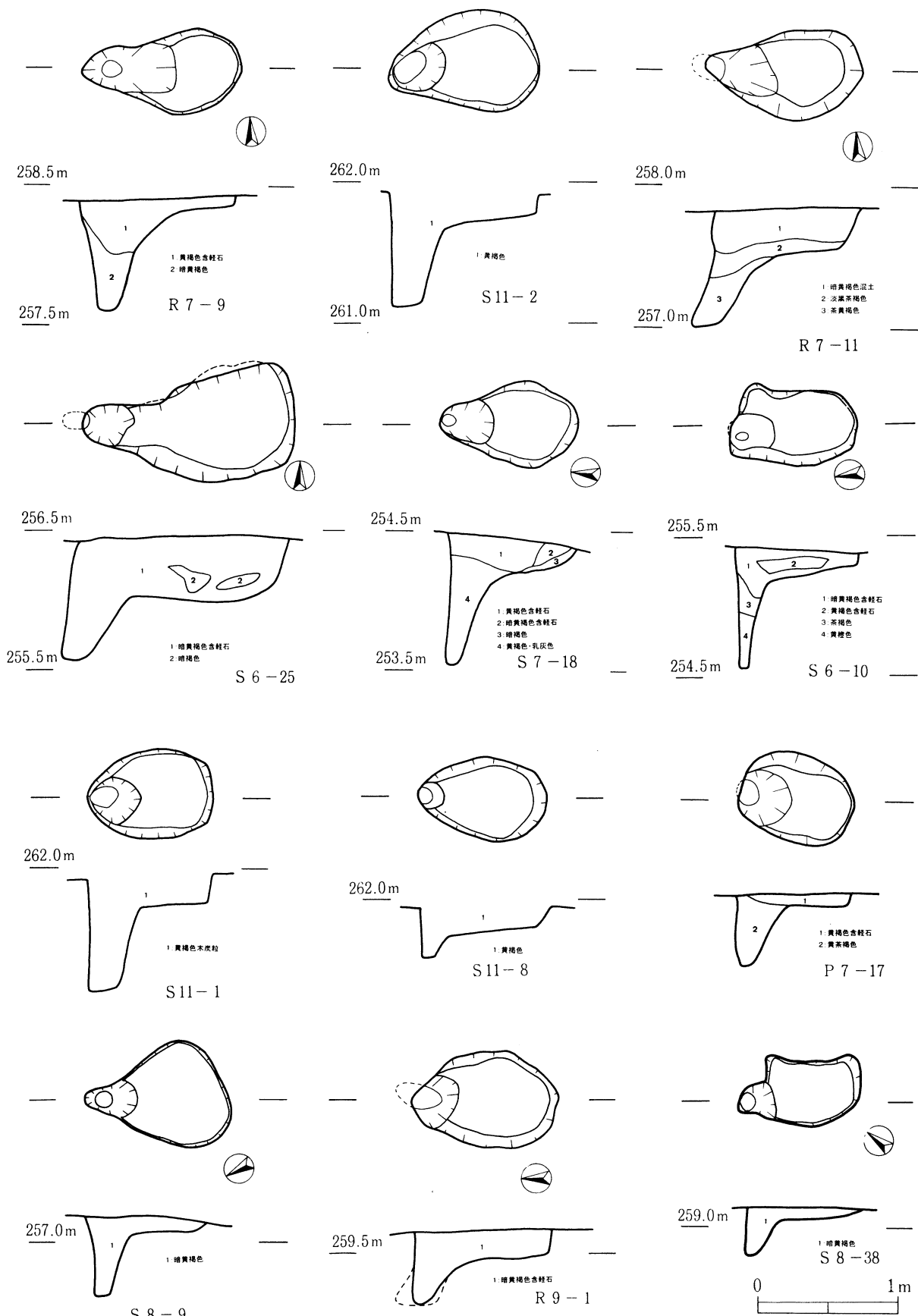


P 8-12

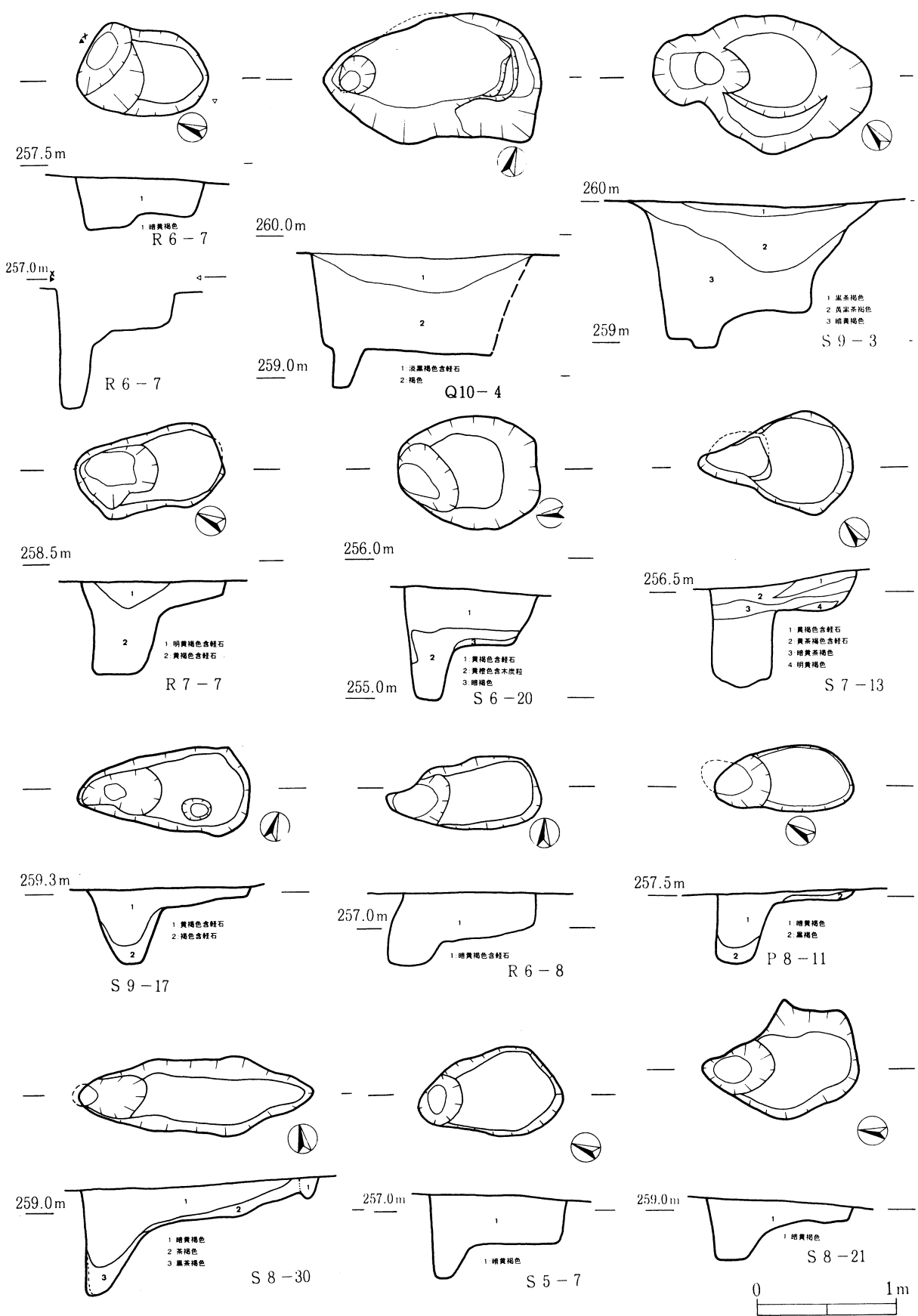
第73图 掘り込み実測図(2)



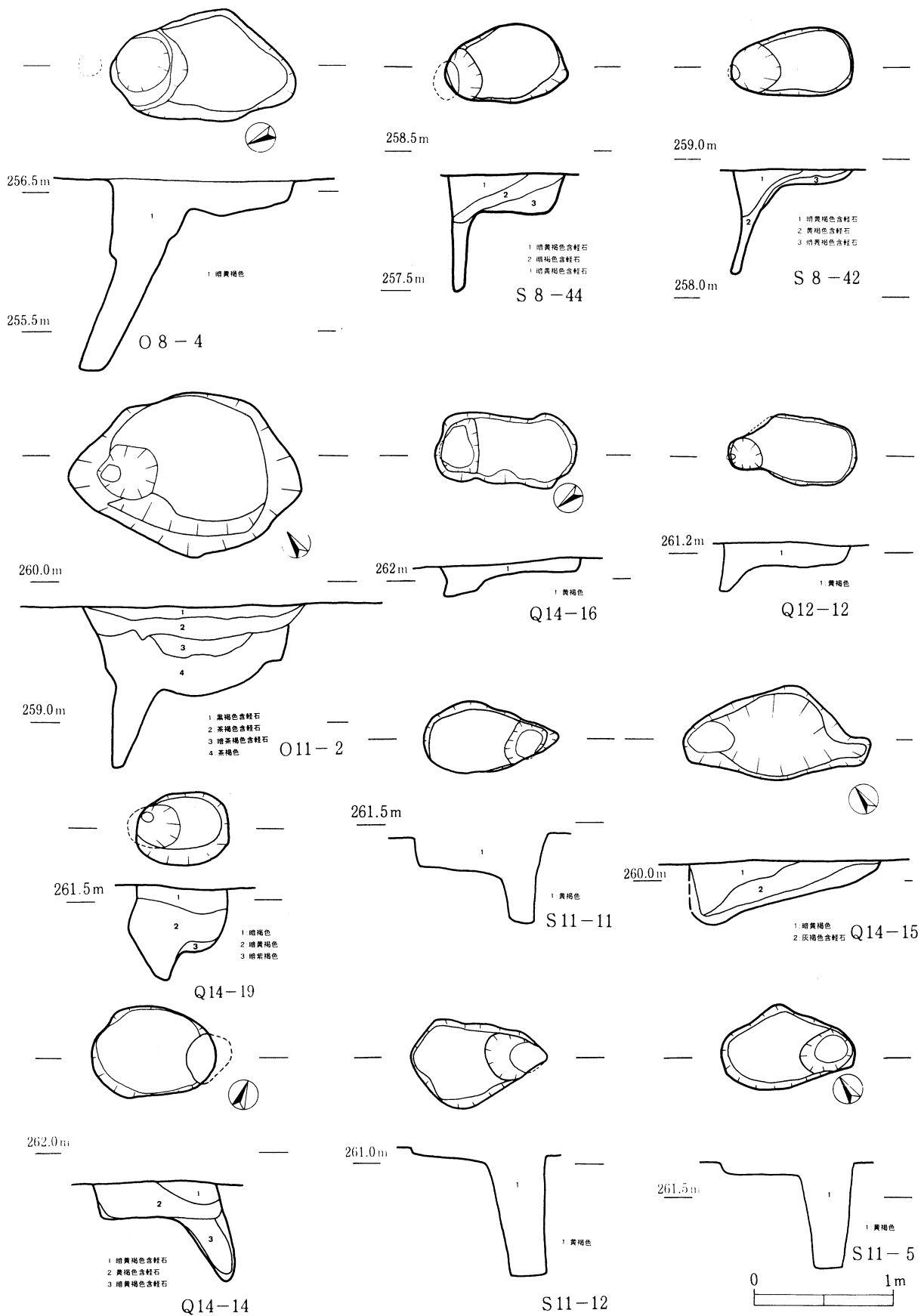
第74図 掘り込み実測図(3)



第75图 掘り込み実測図(4)

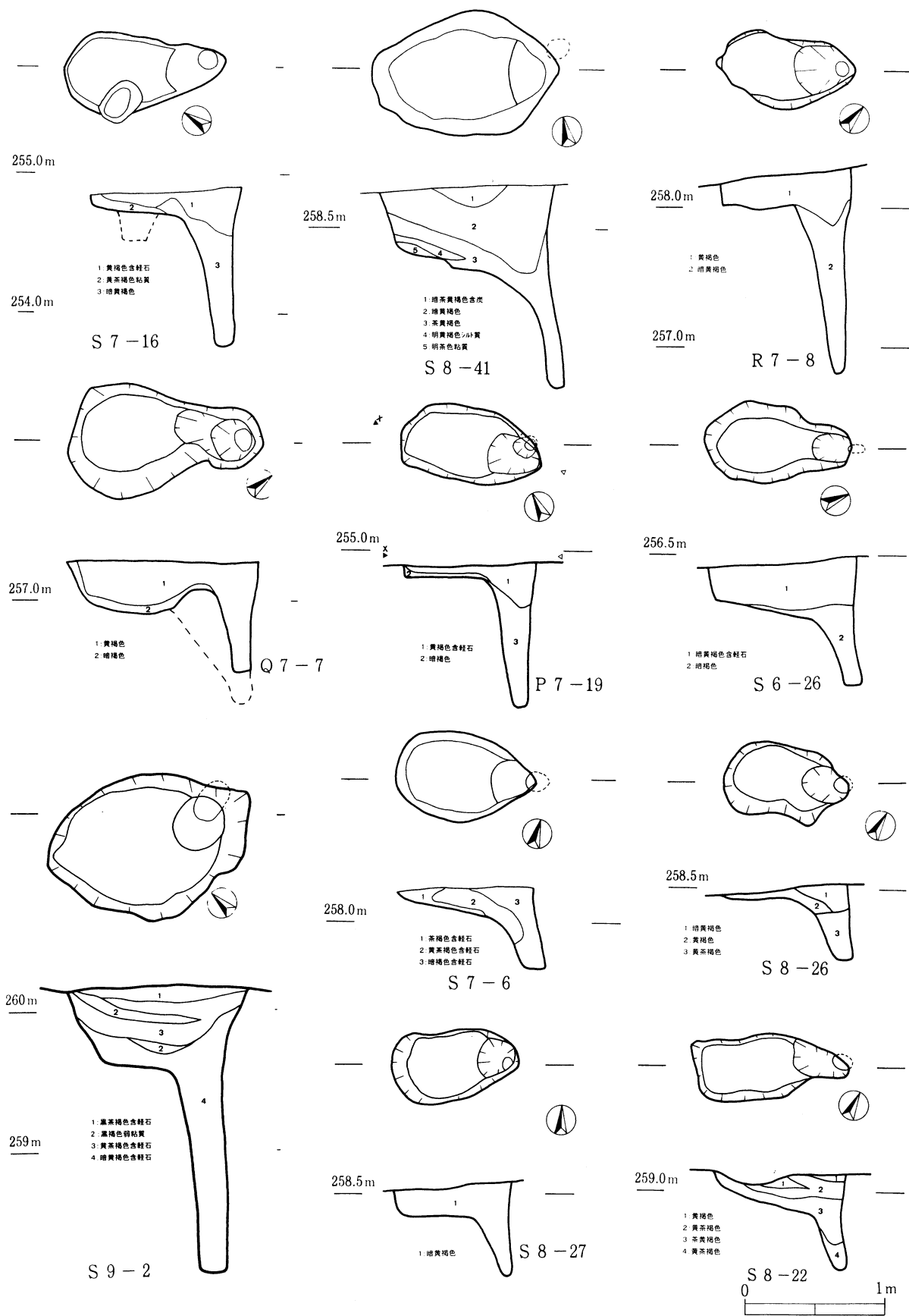


第76图 掘り込み実測図(5)

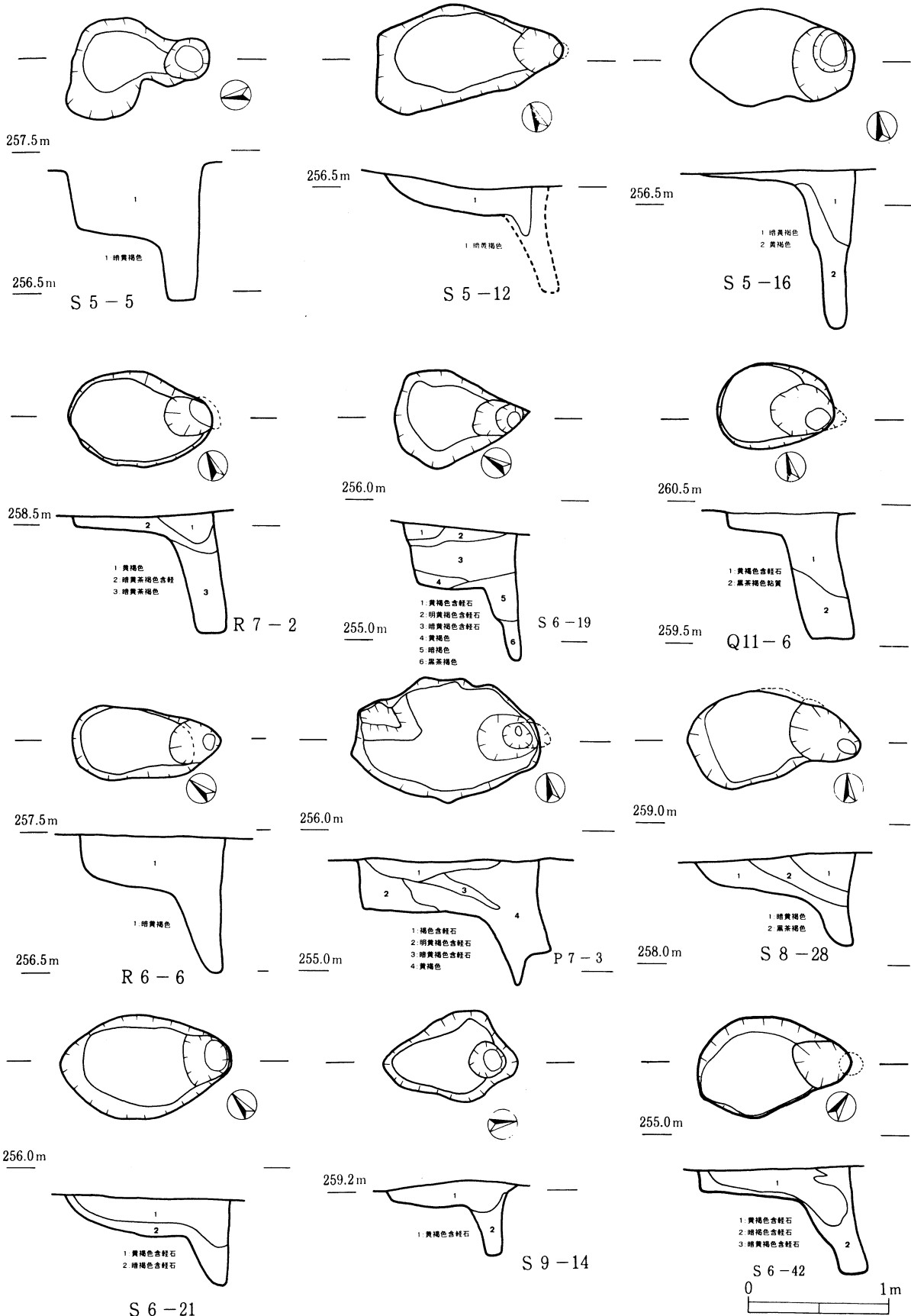


第77图 掘り込み実測図(6)

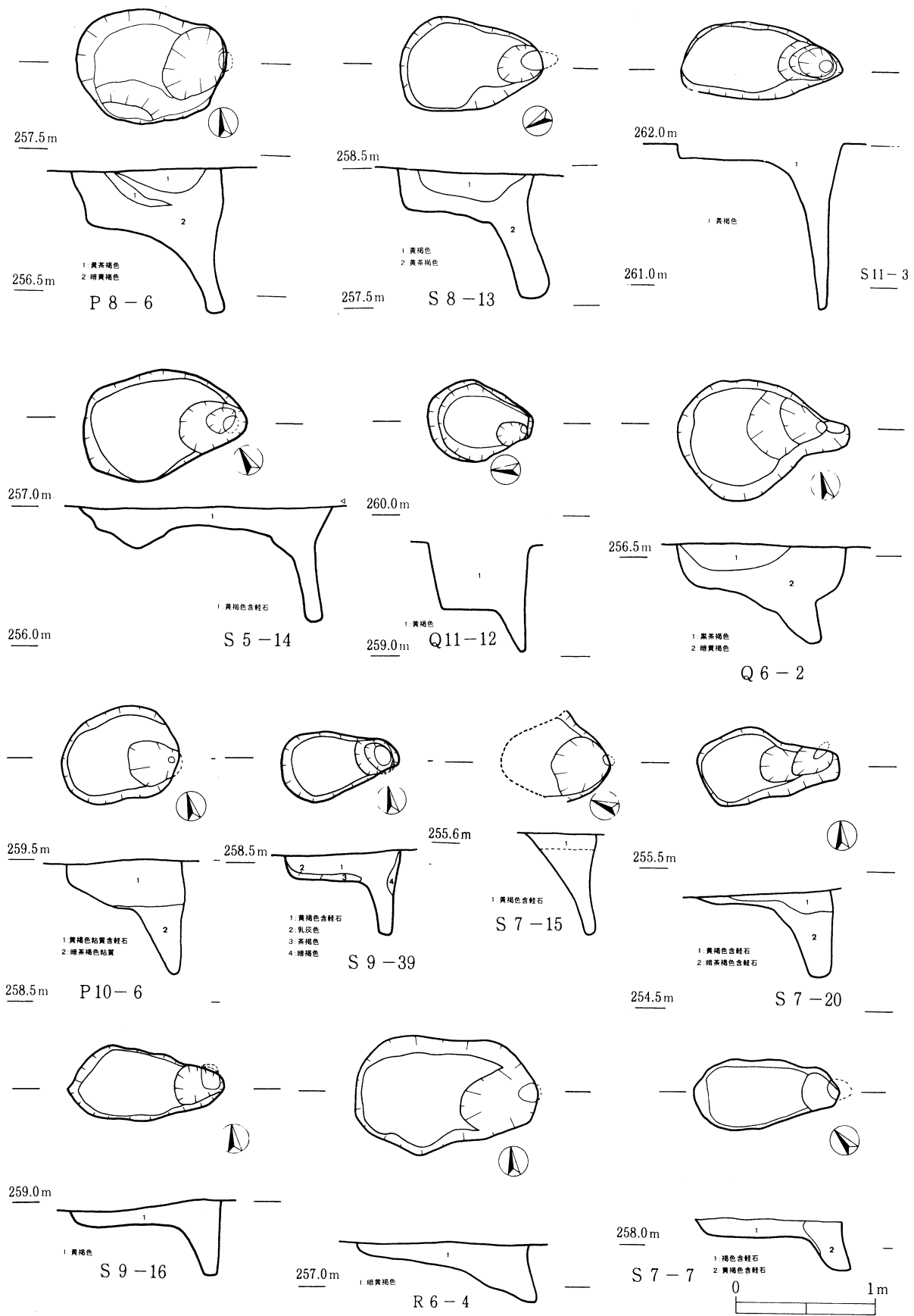




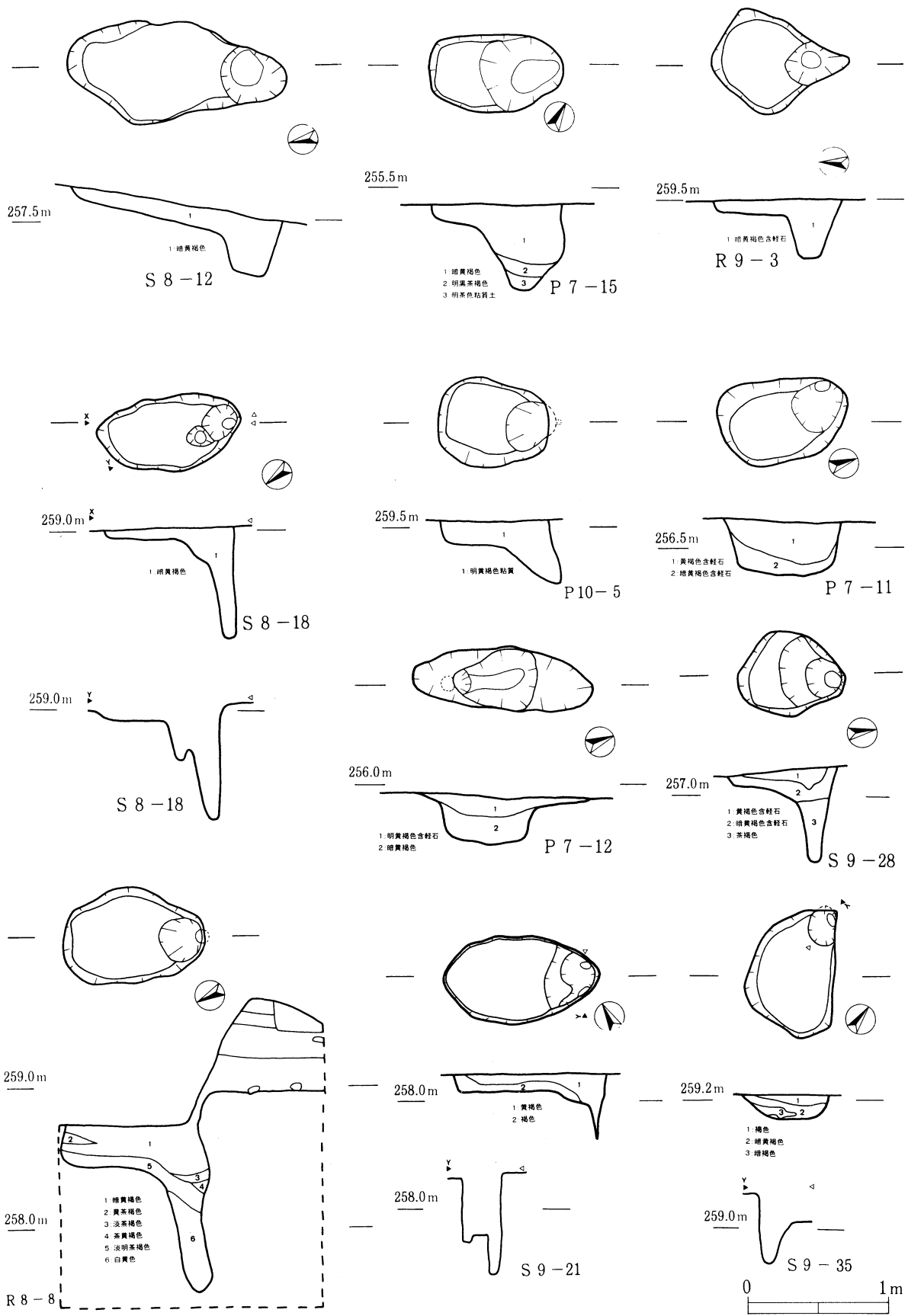
第78图 掘り込み実測図(7)



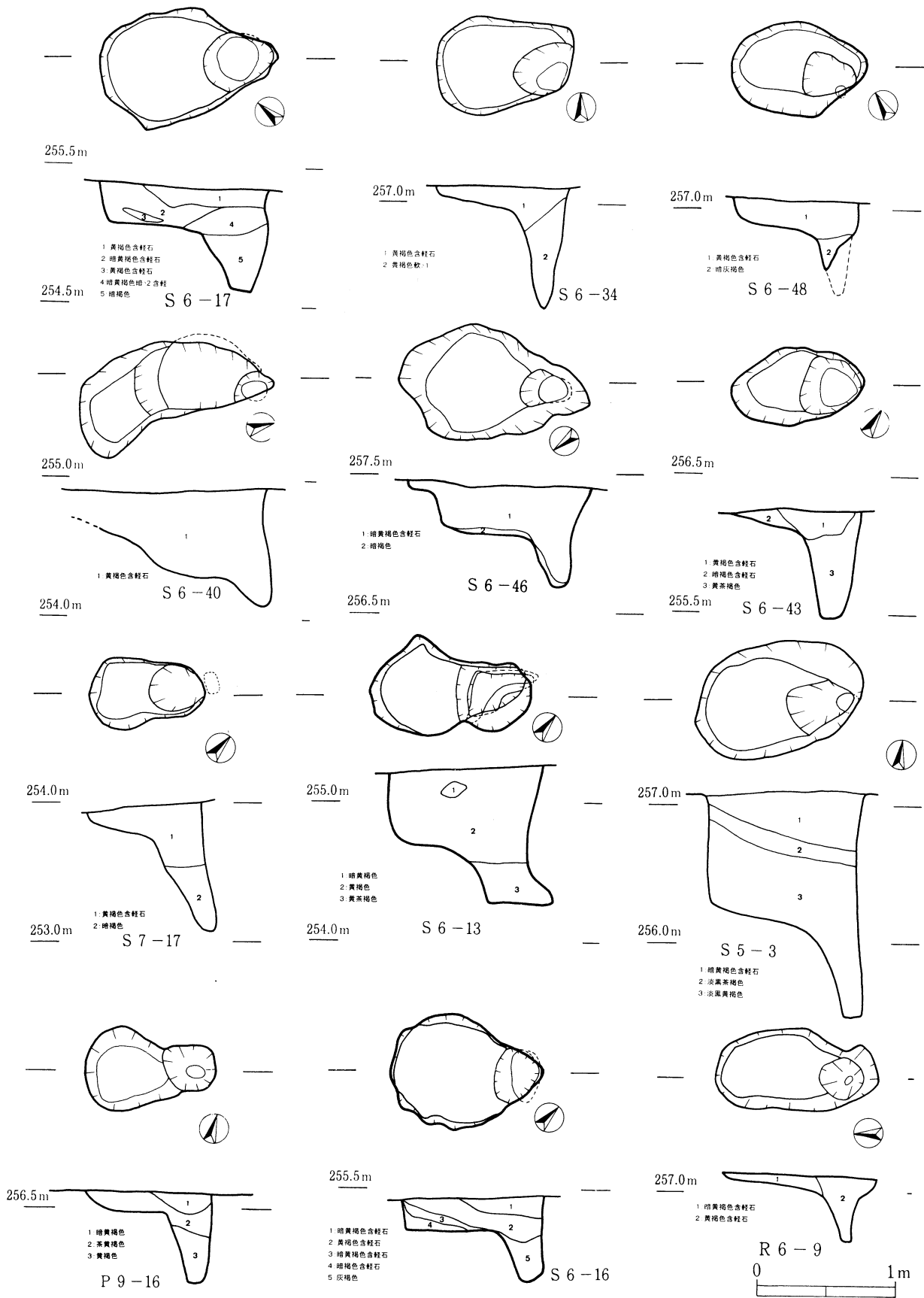
第79図 掘り込み実測図(8)



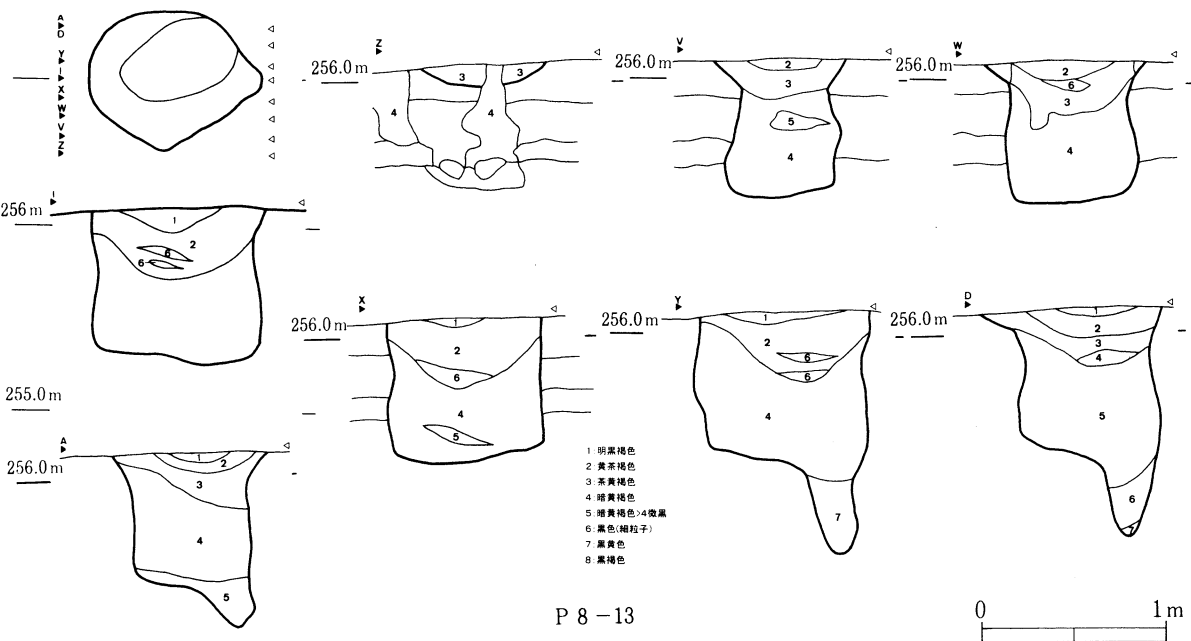
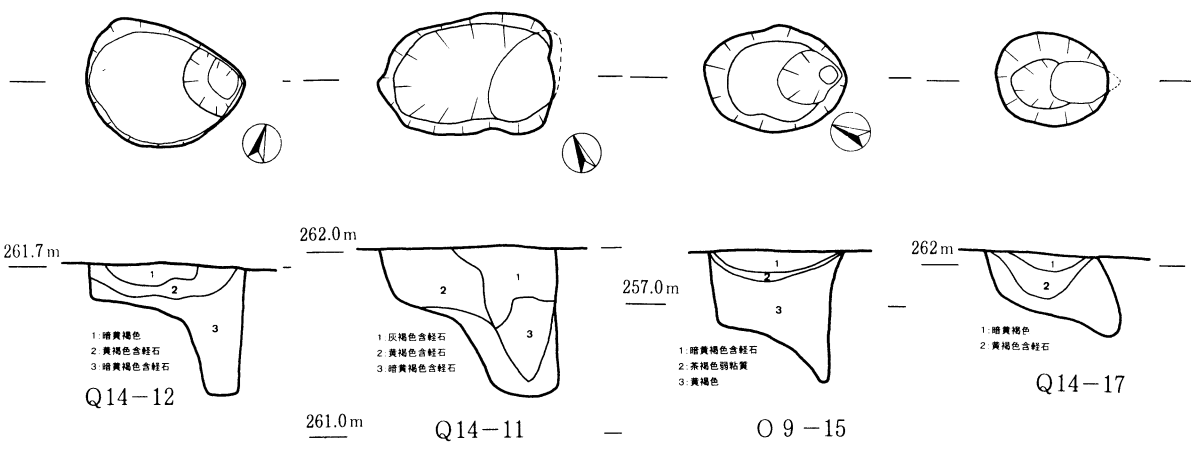
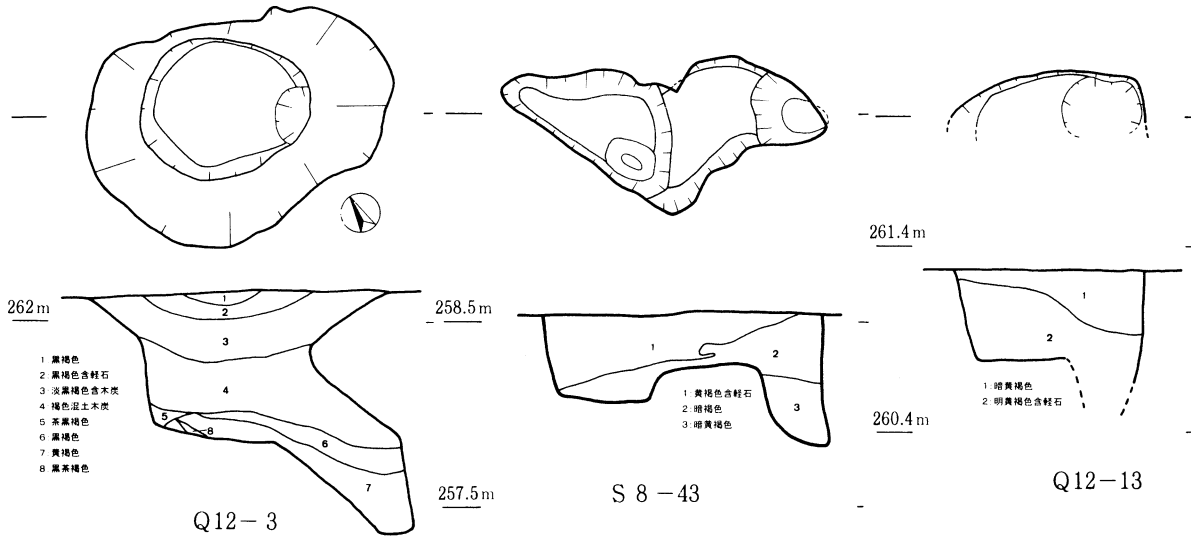
第80图 掘り込み実測図(9)



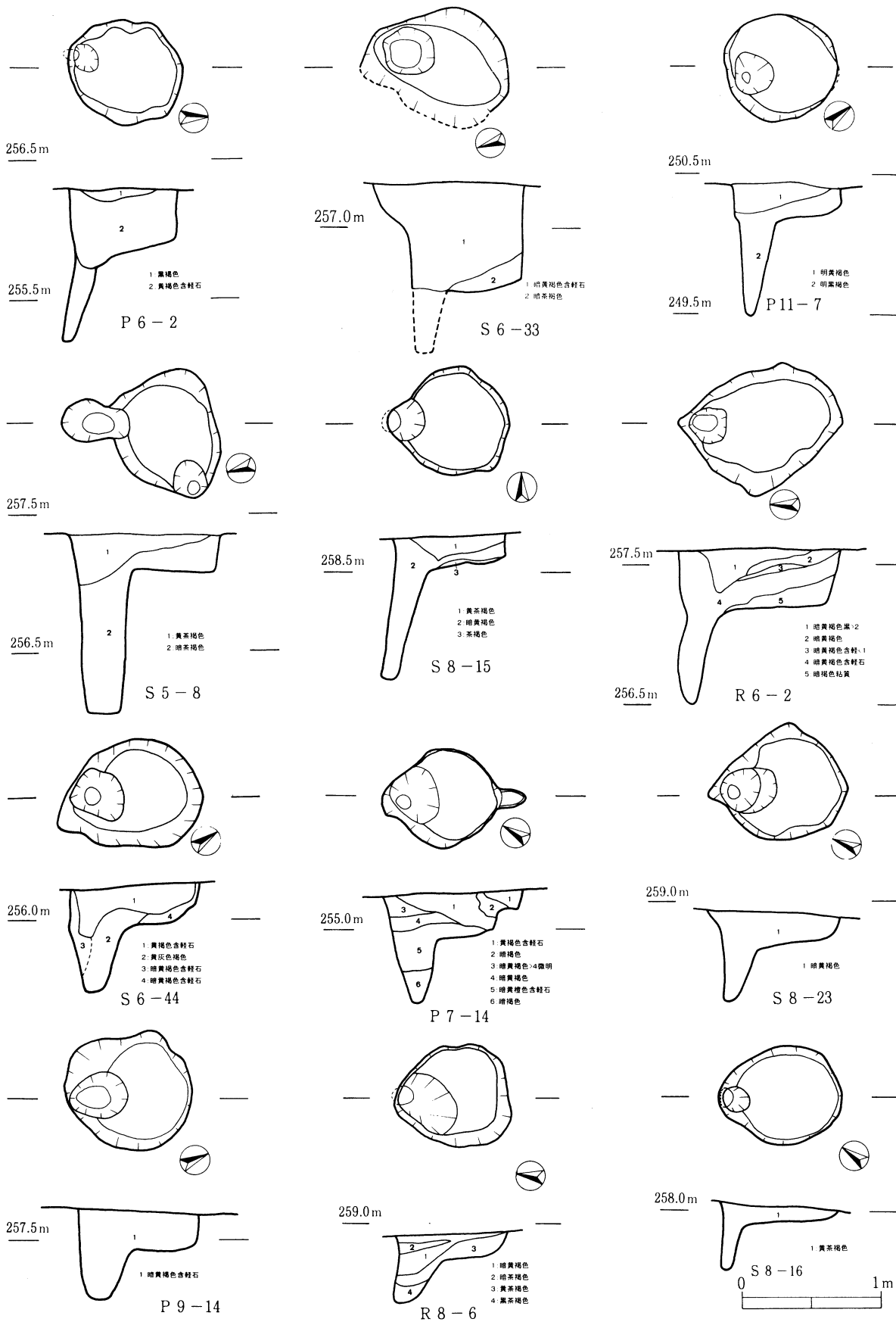
第81図 掘り込み実測図(10)



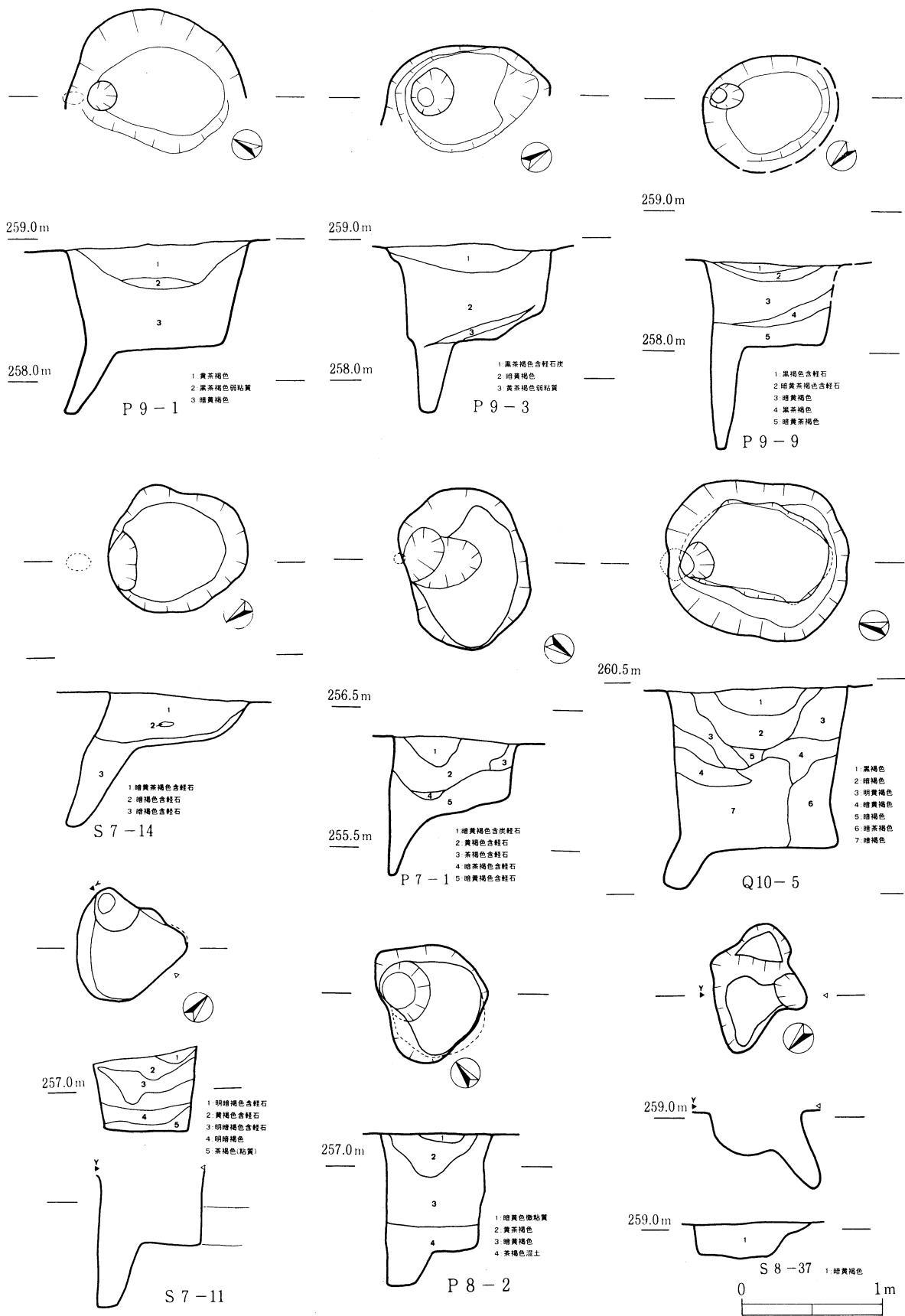
第82図 掘り込み実測図(11)



第83図 掘り込み実測図(12)

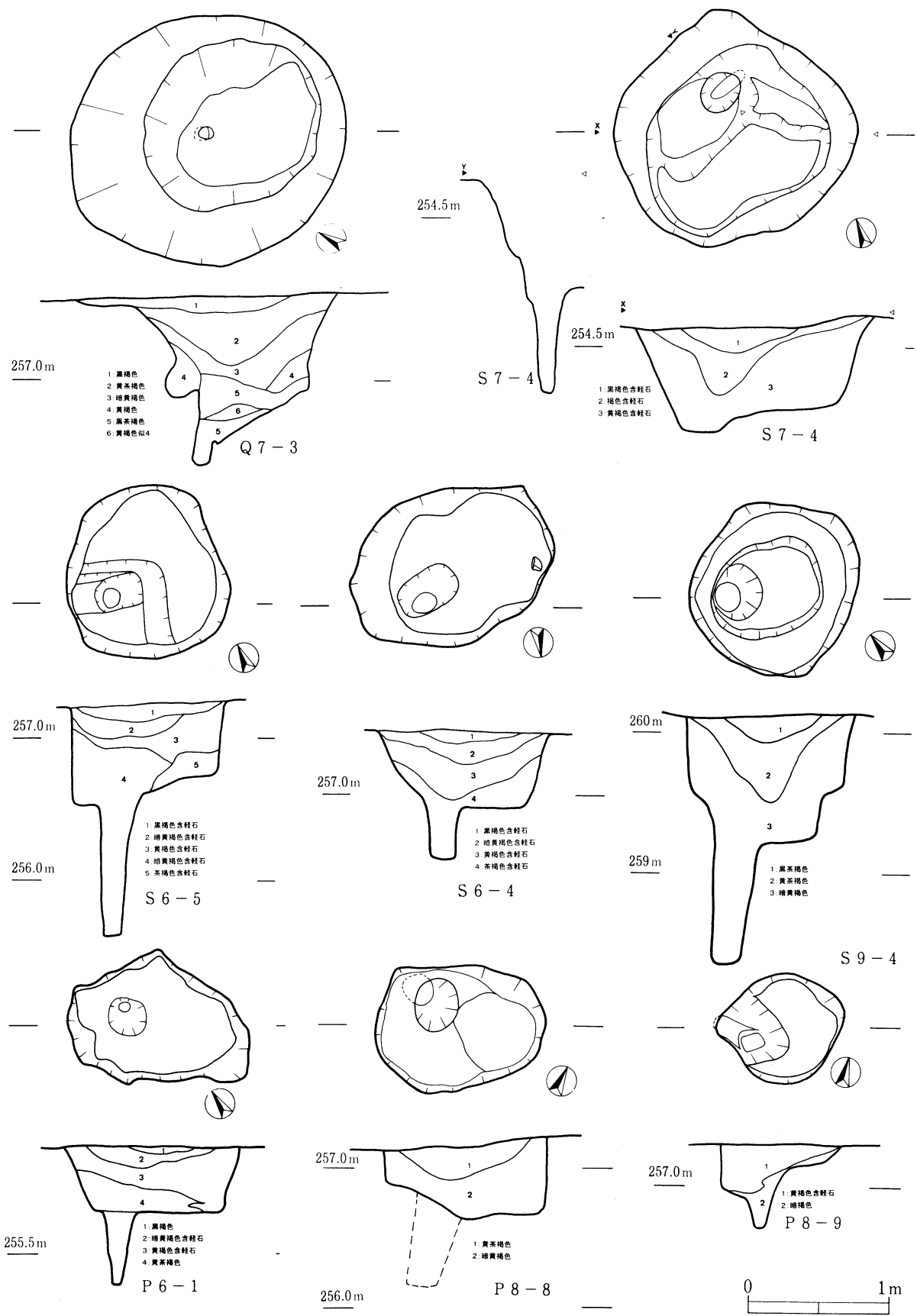


第84図 掘り込み実測図(13)

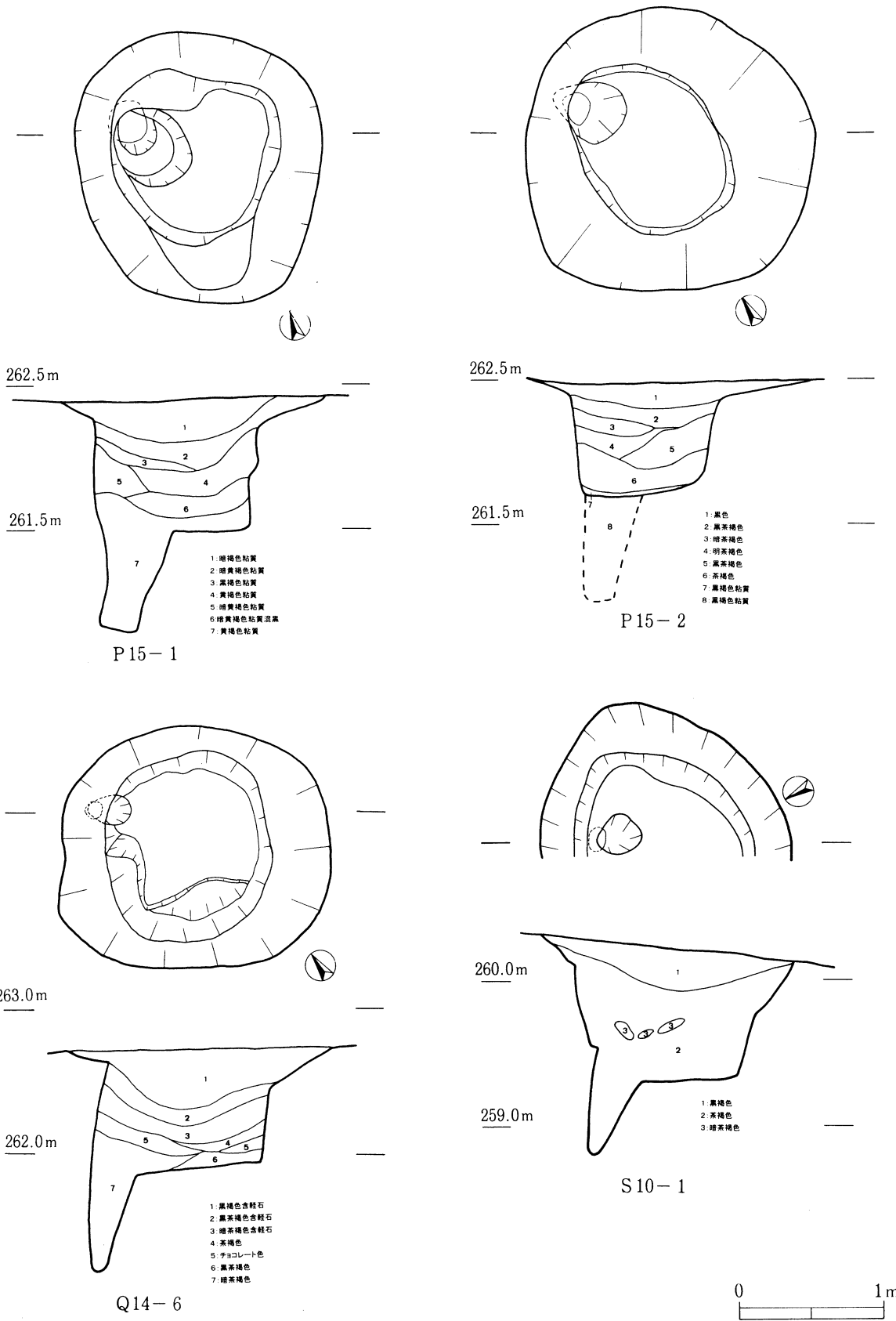


第85图 掘り込み実測図(14)

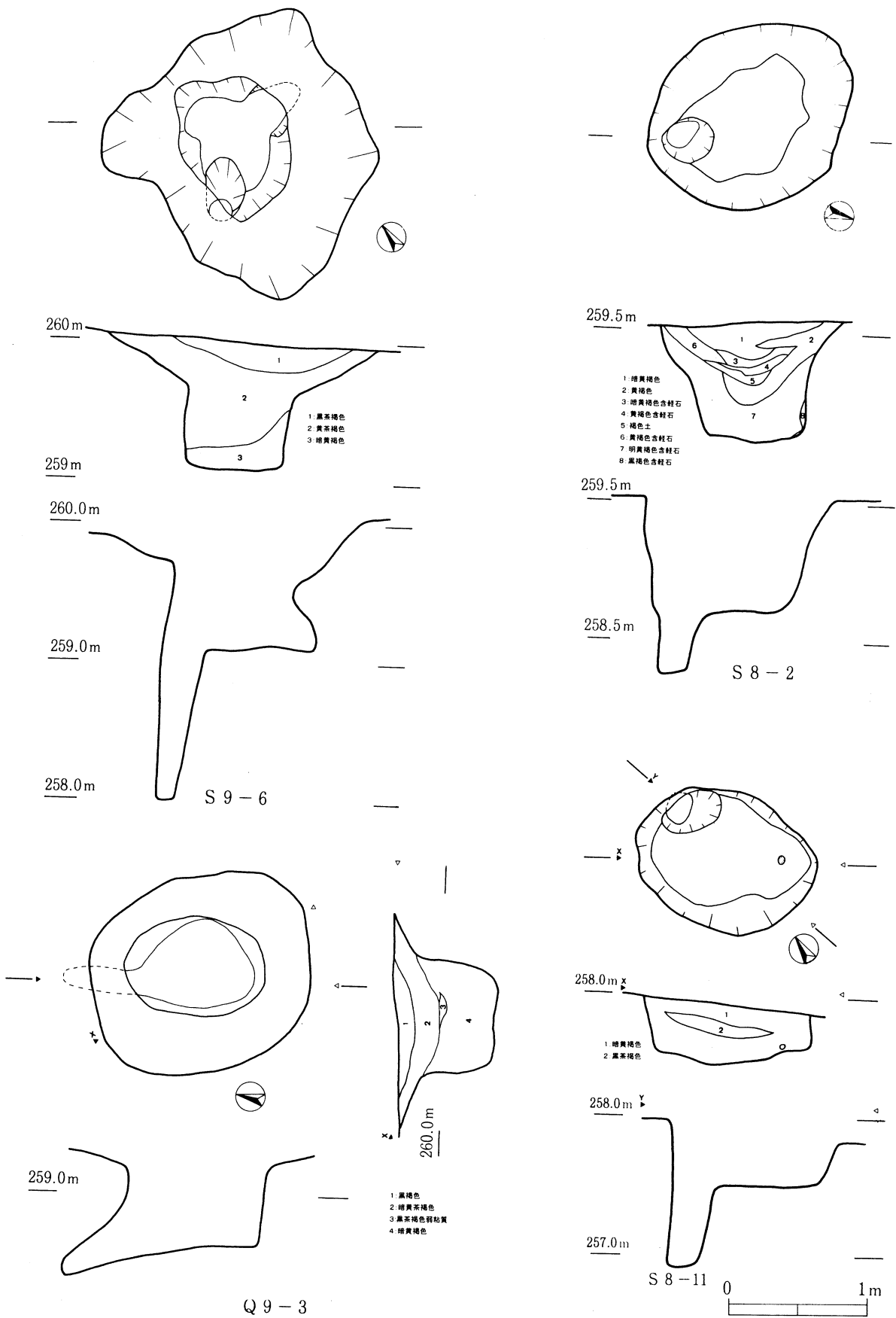




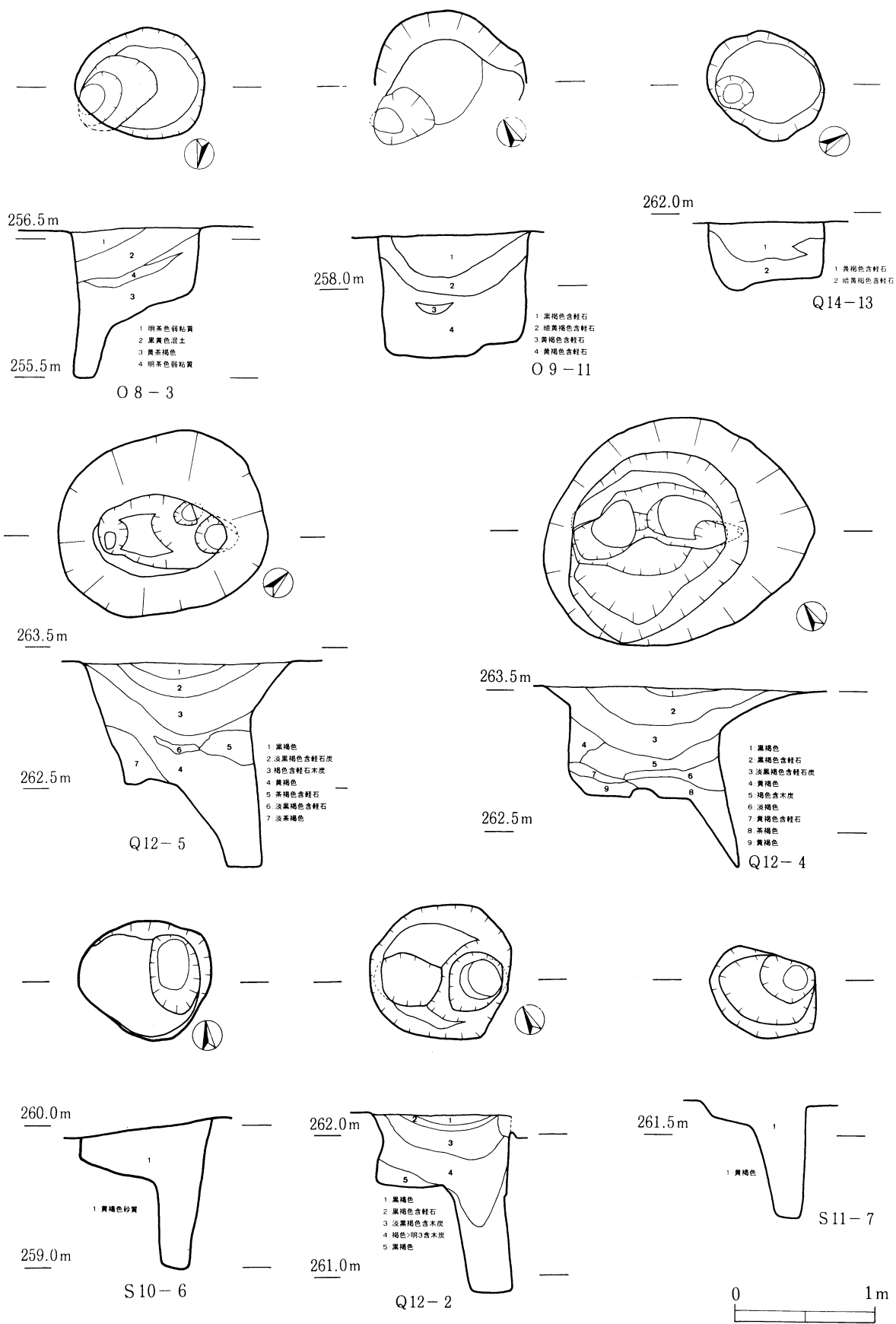
第86図 掘り込み実測図(15)



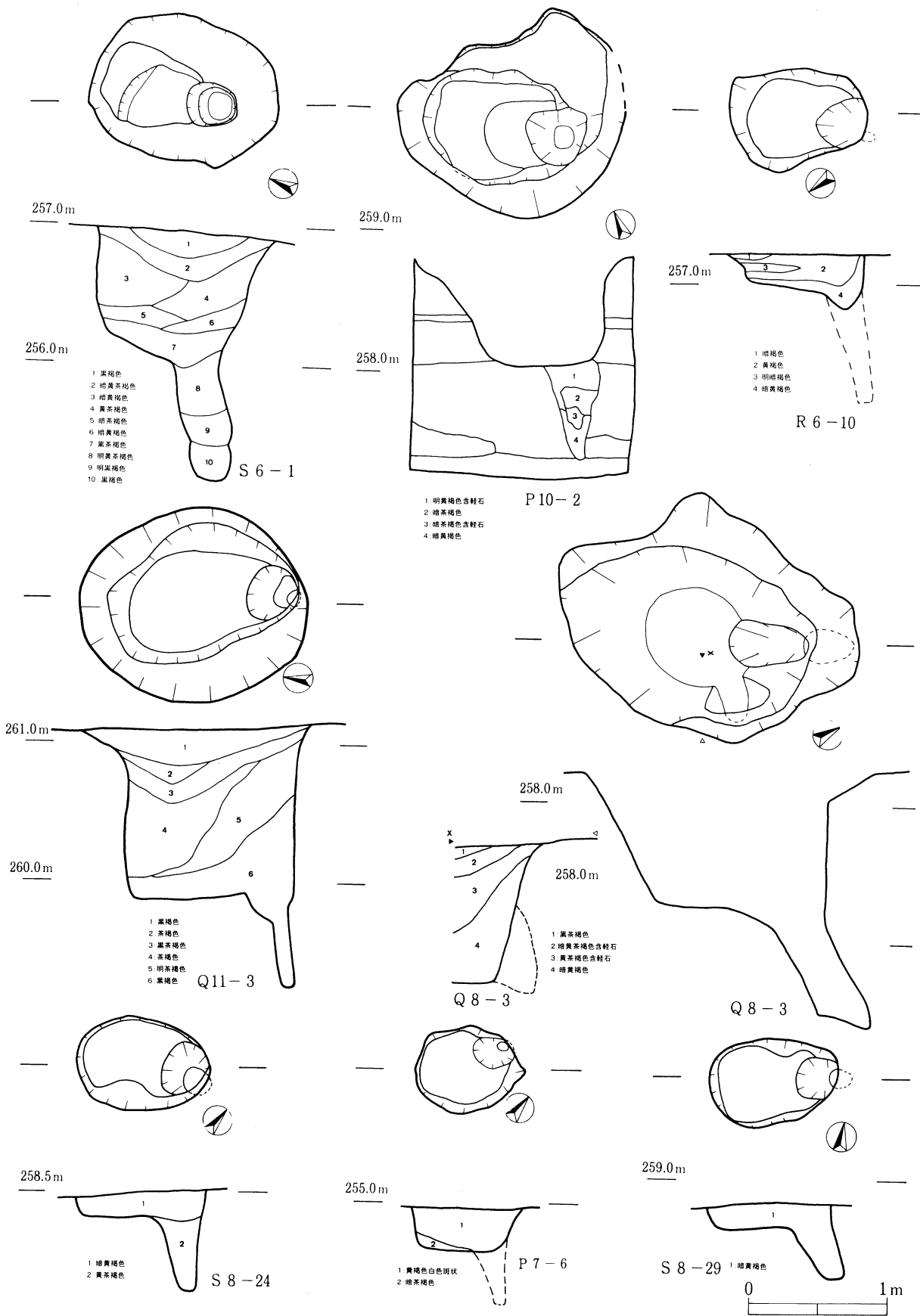
第87図 掘り込み実測図(16)



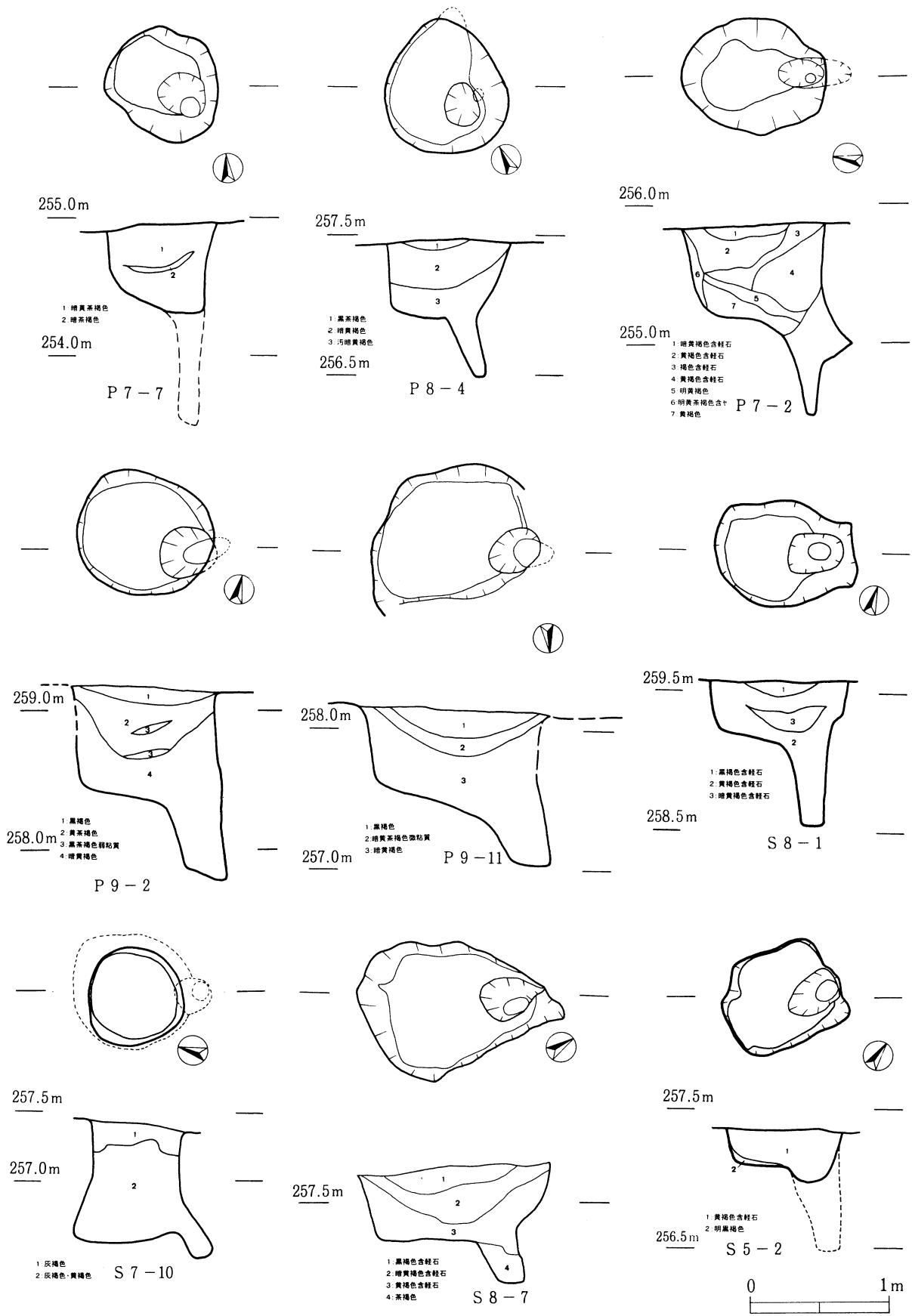
第88図 掘り込み実測図 (17)



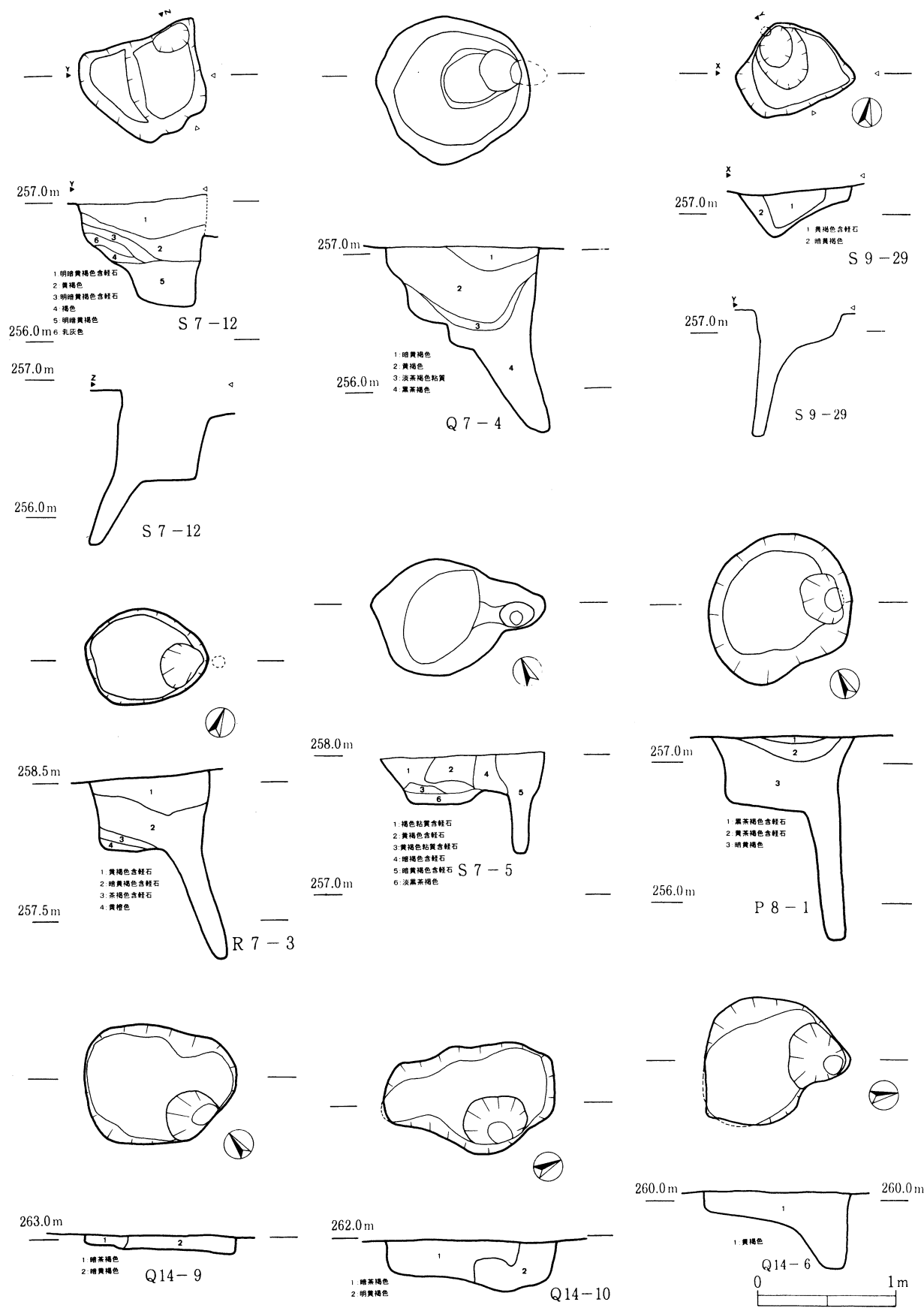
第89図 掘り込み実測図(18)



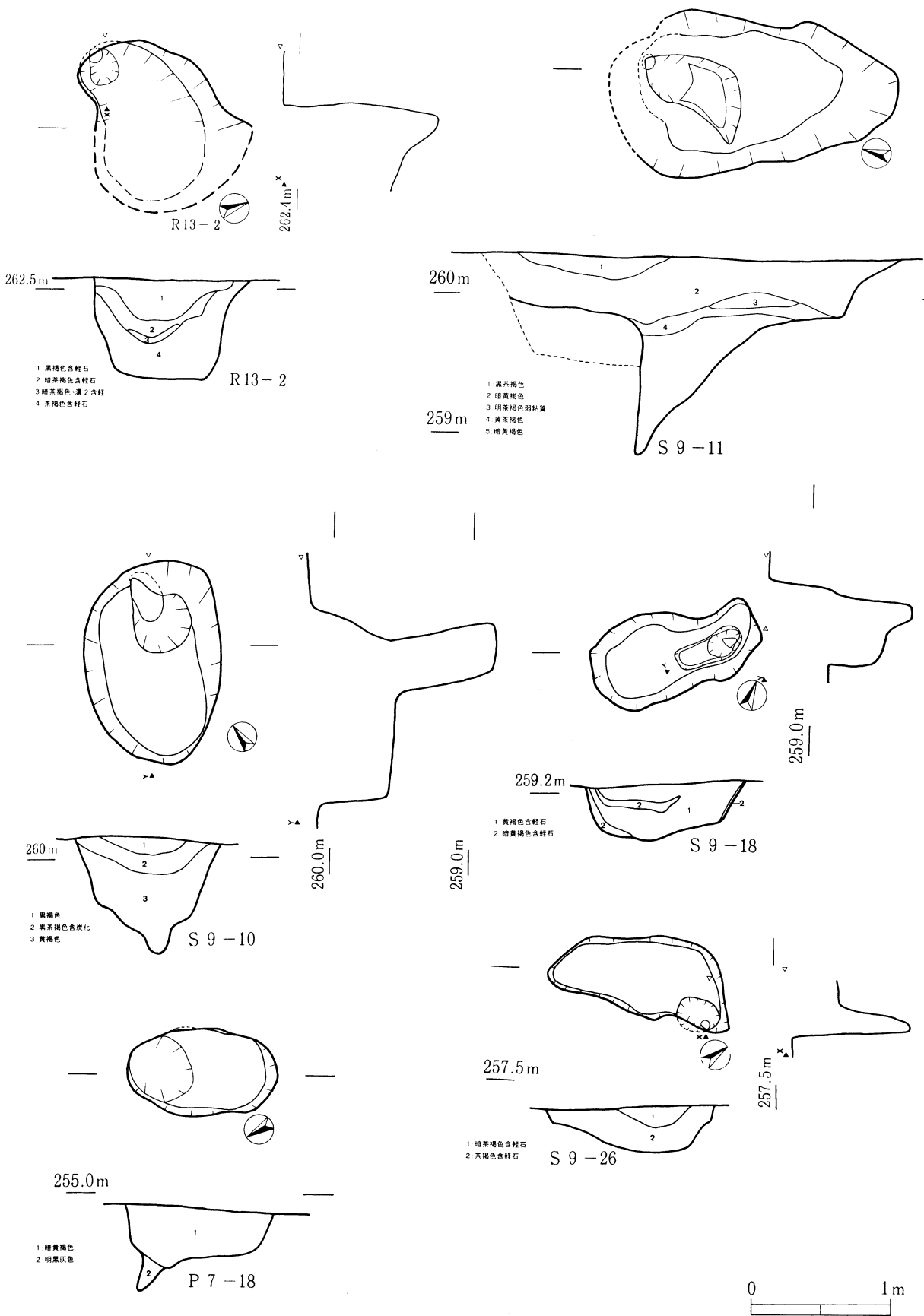
第90図 掘り込み実測図(19)



第91図 掘り込み実測図(20)

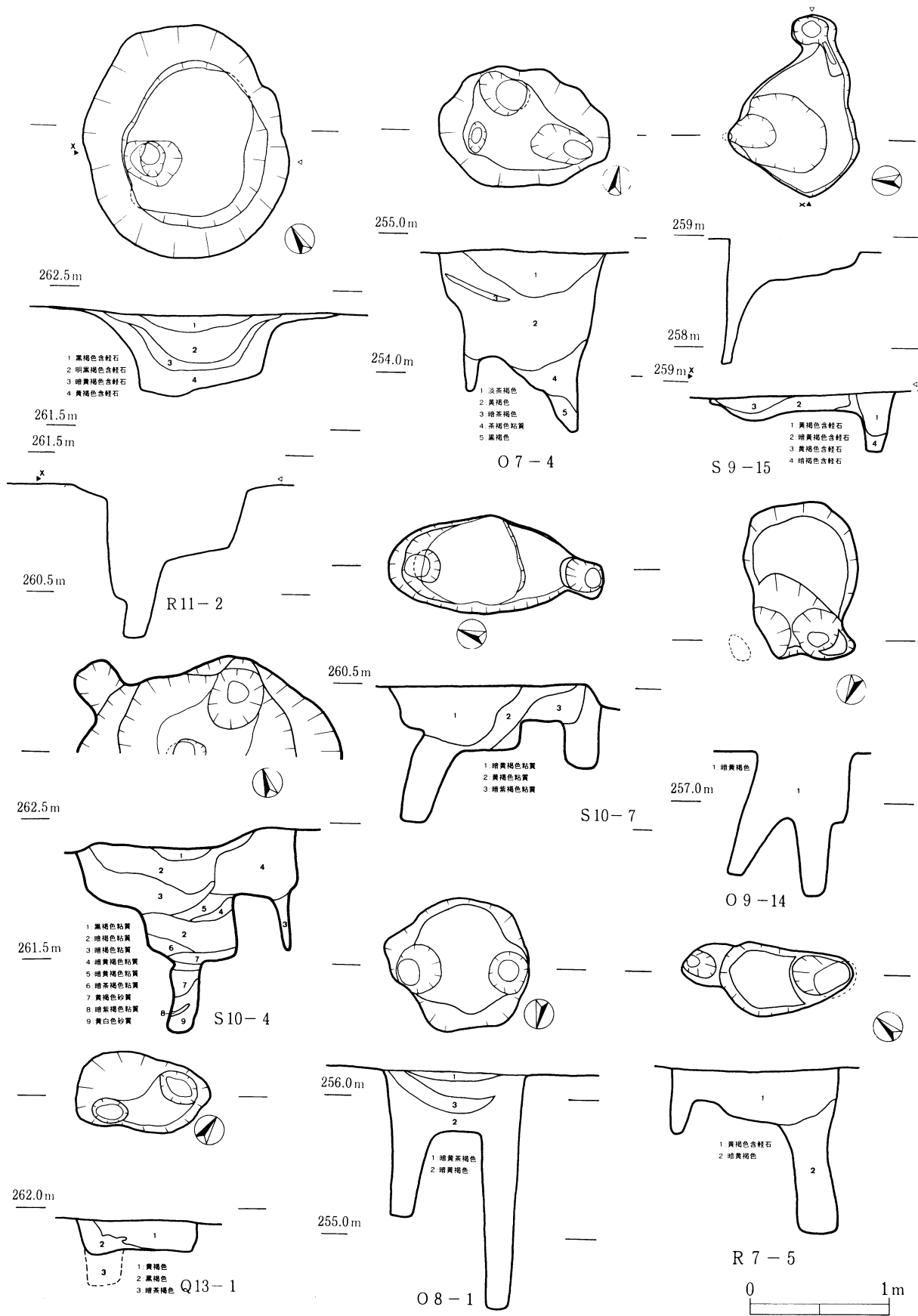


第92図 掘り込み実測図(21)

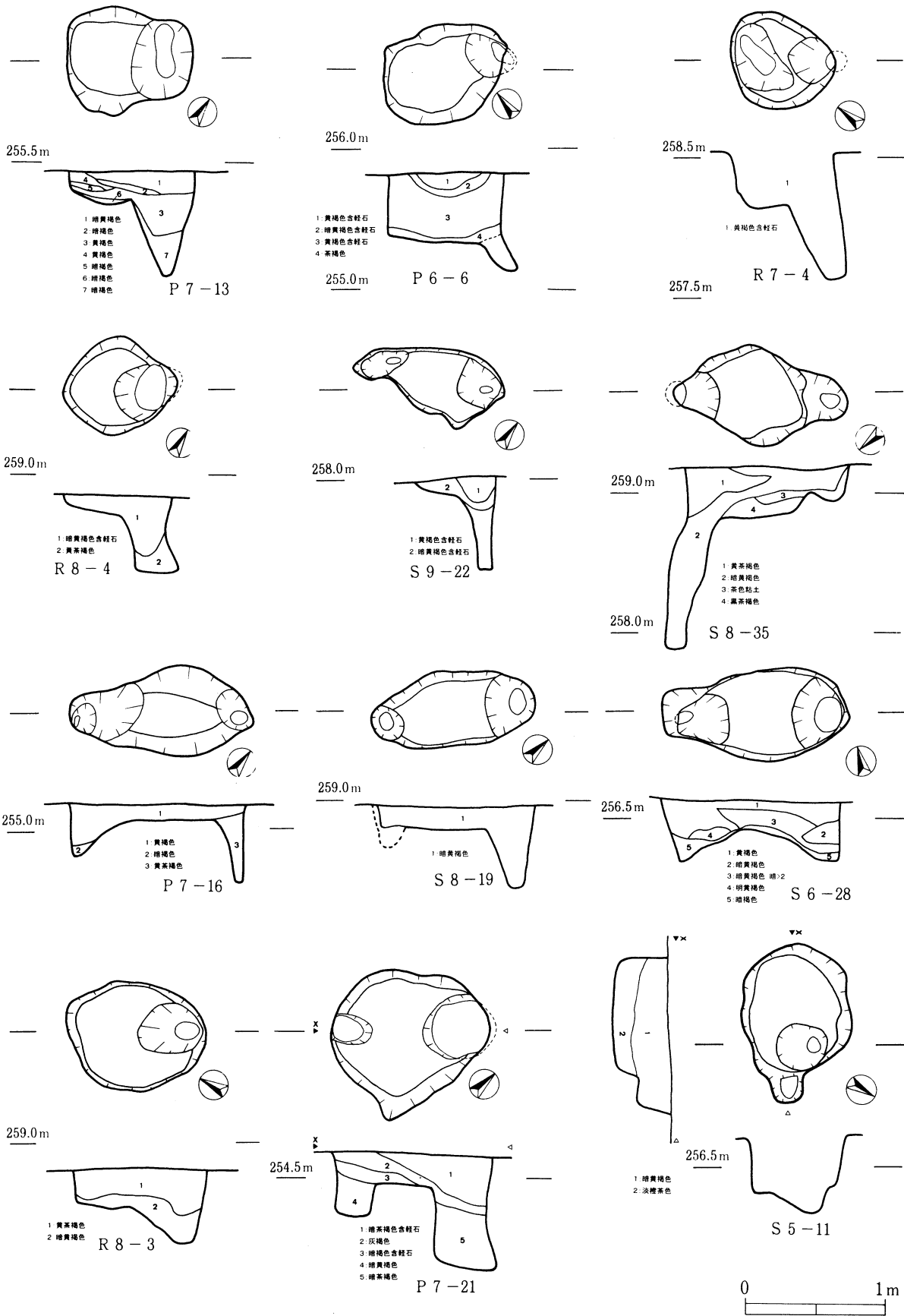


第93図 掘り込み実測図(22)

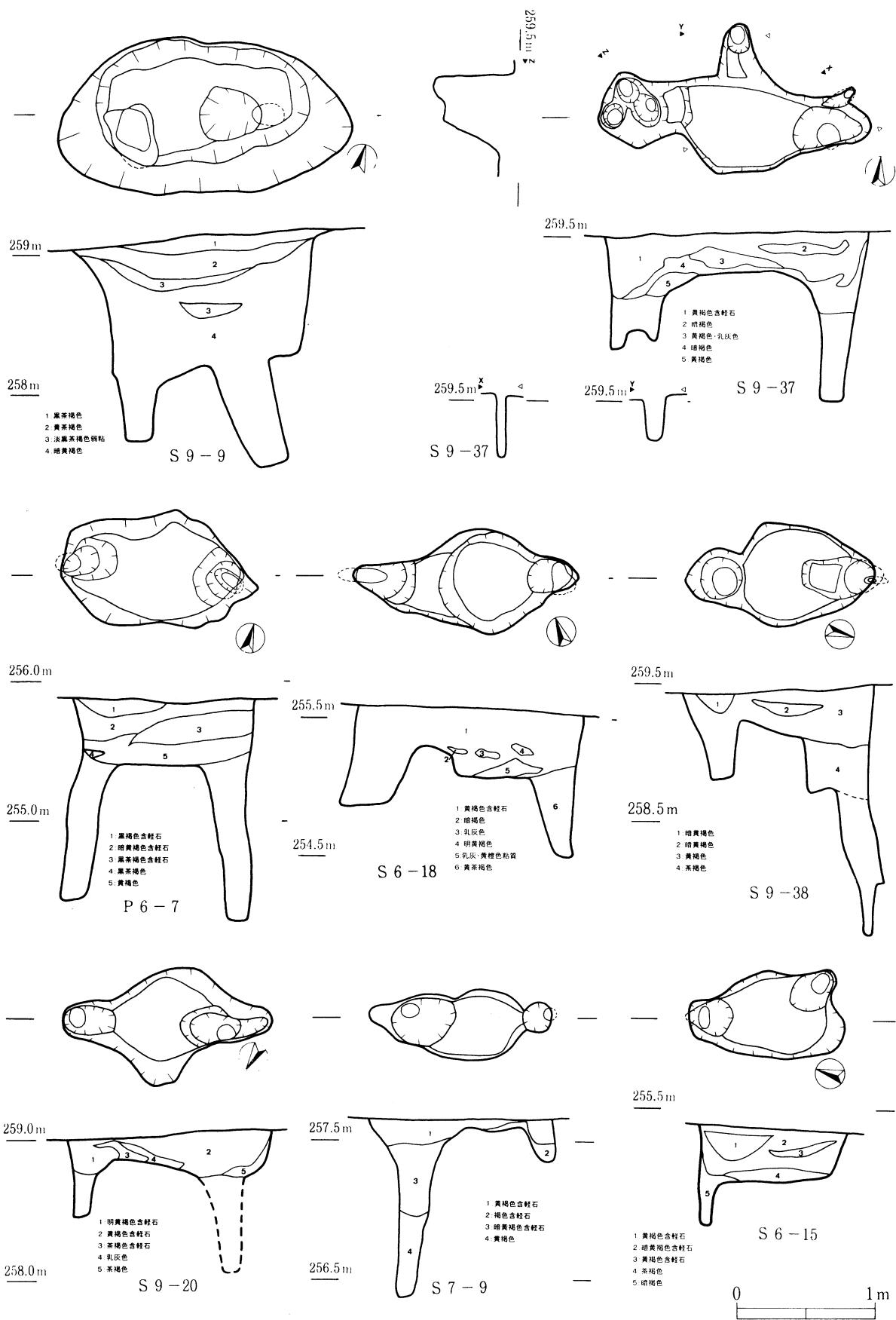




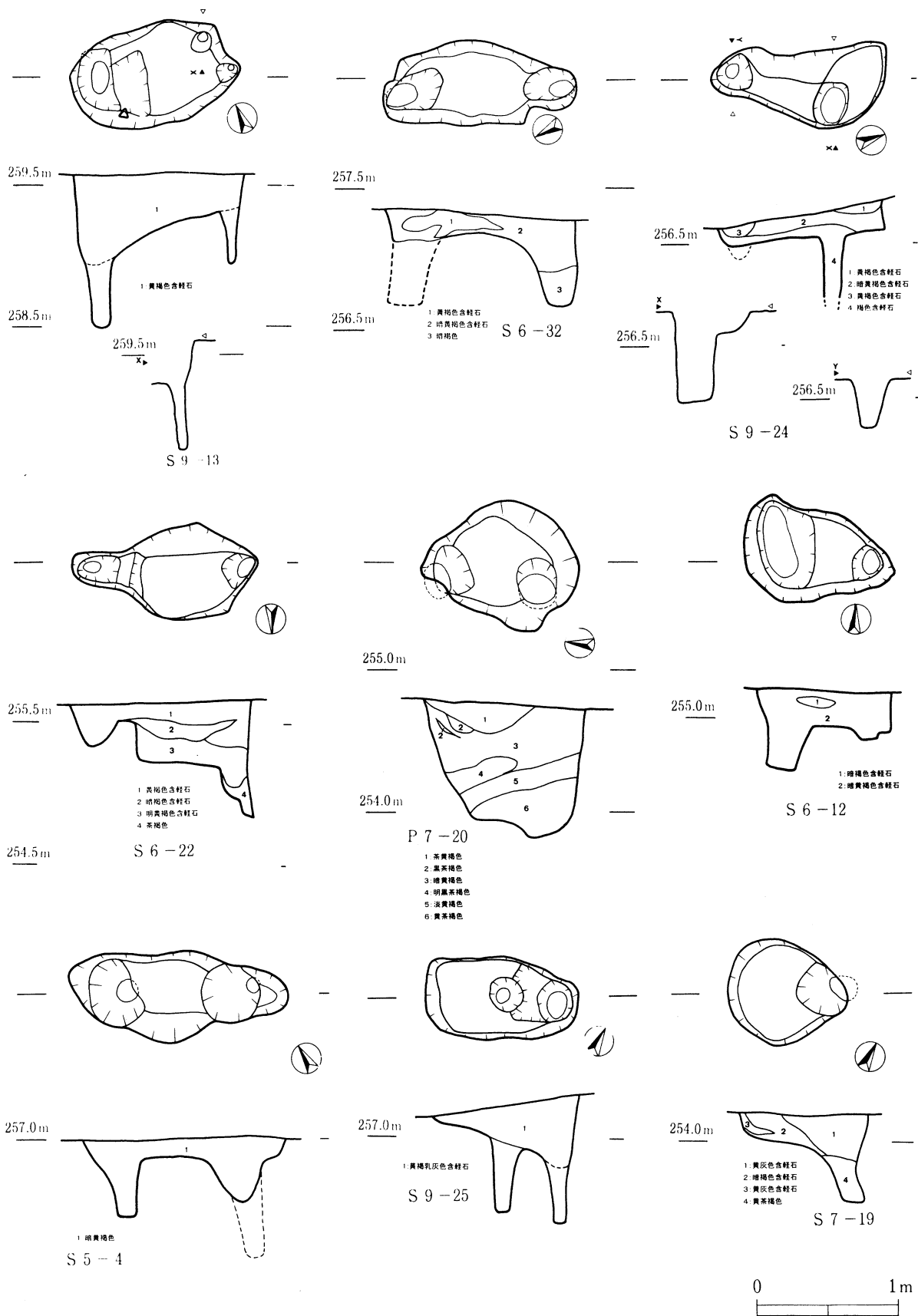
第94图 掘り込み実測図(23)



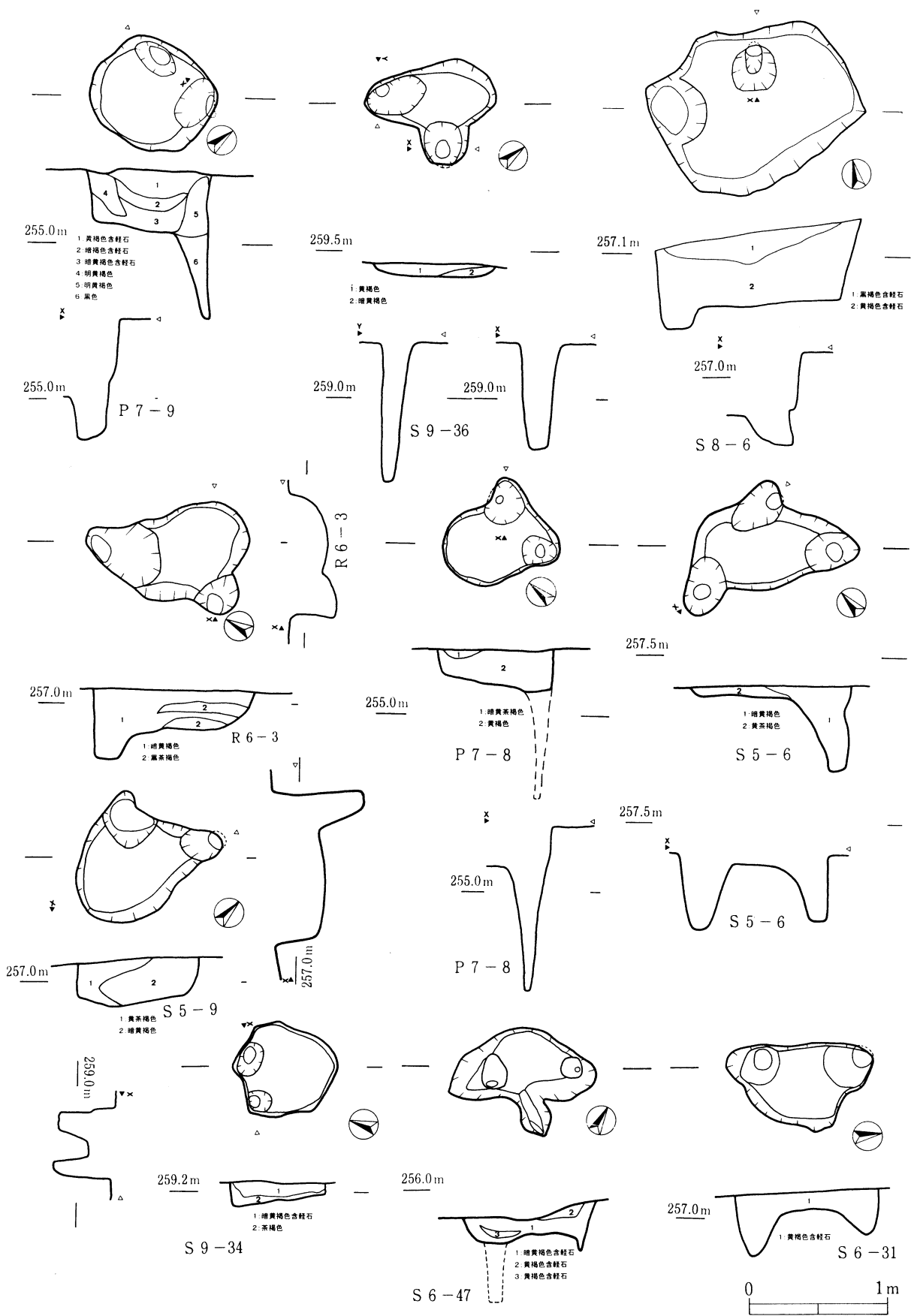
第95图 掘り込み実測図(24)



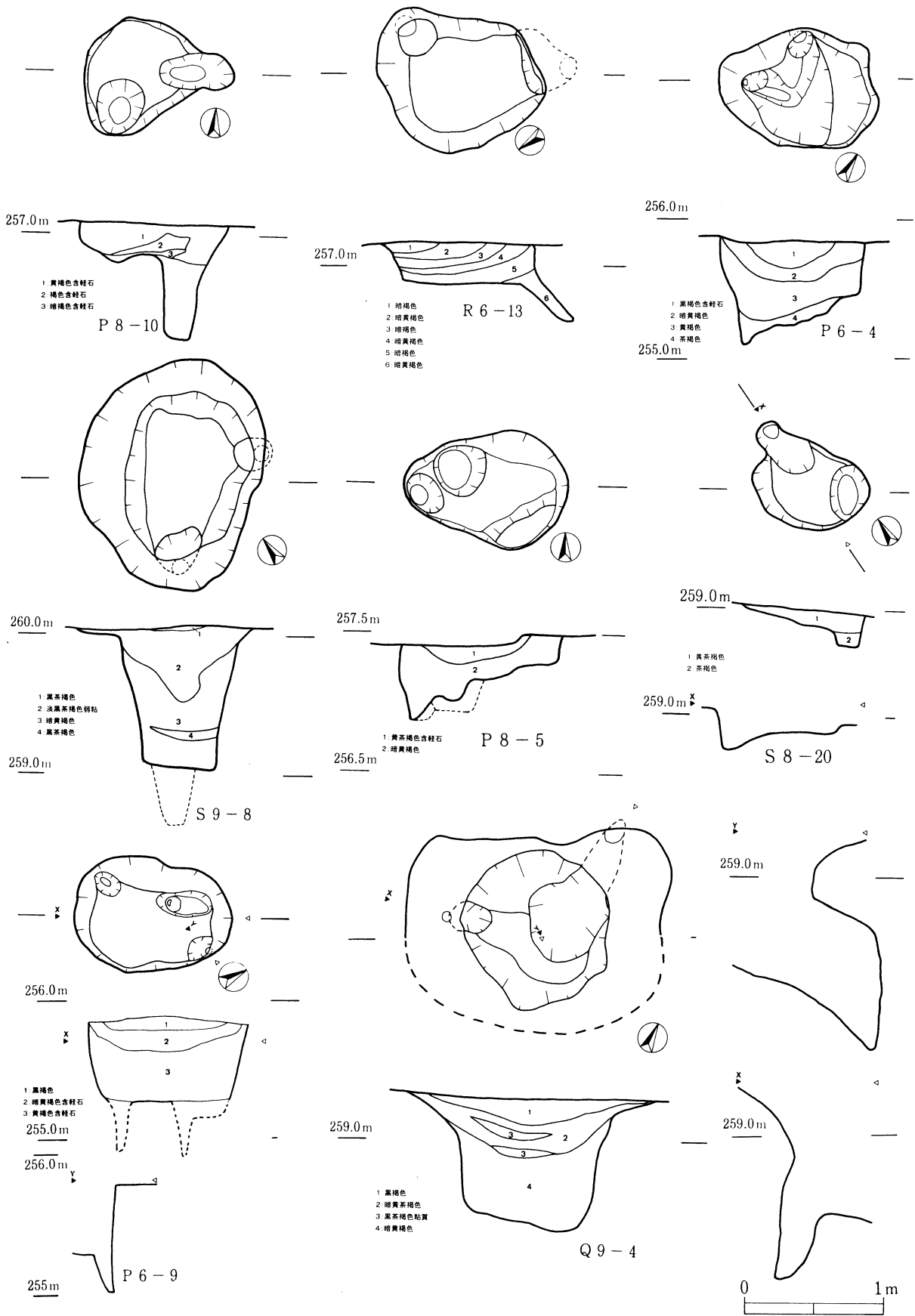
第96图 掘り込み実測図(25)



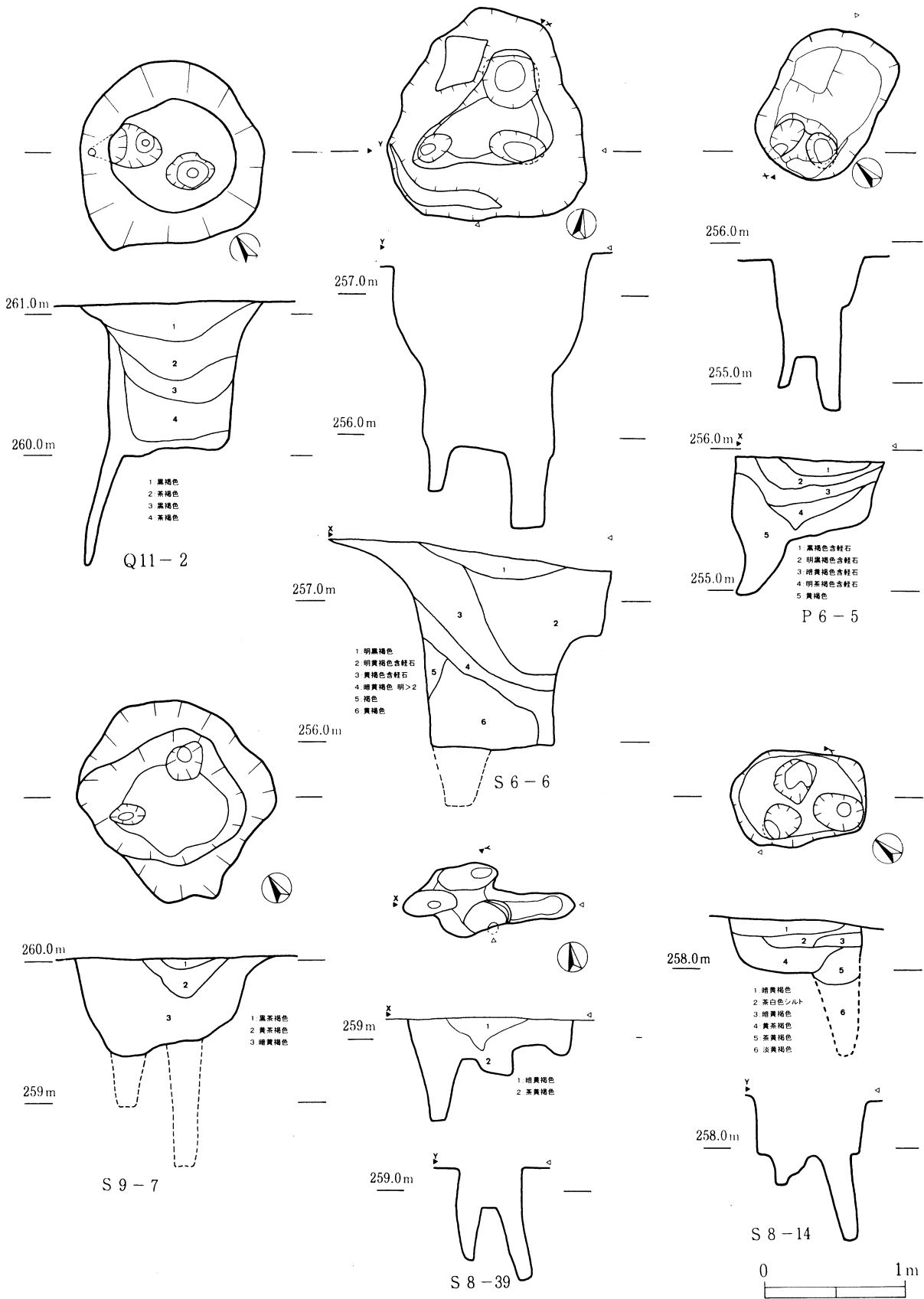
第97图 掘り込み実測図(26)



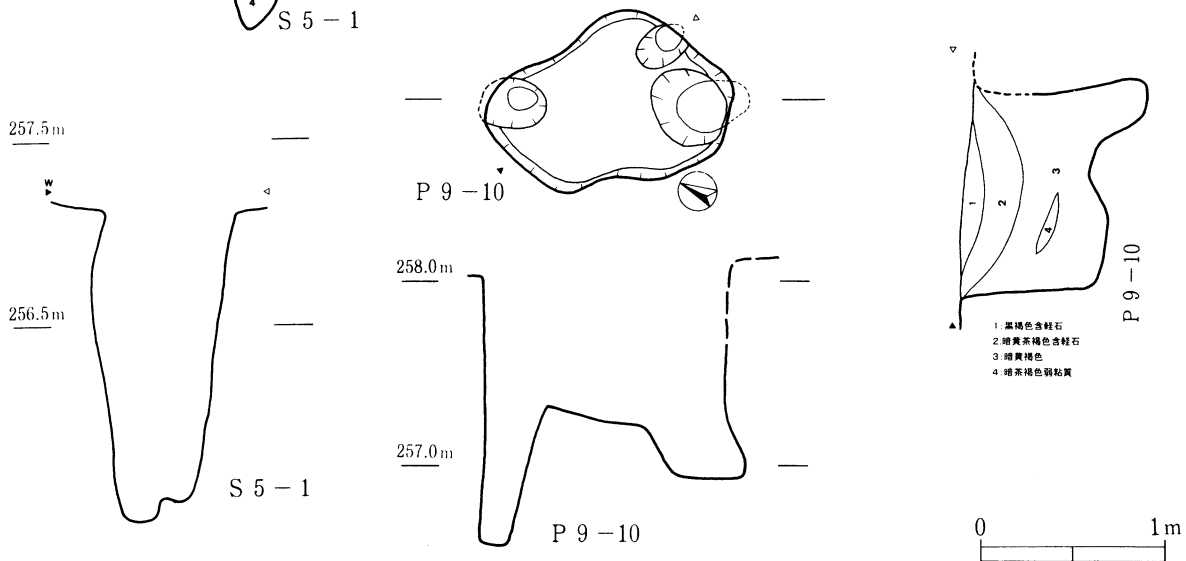
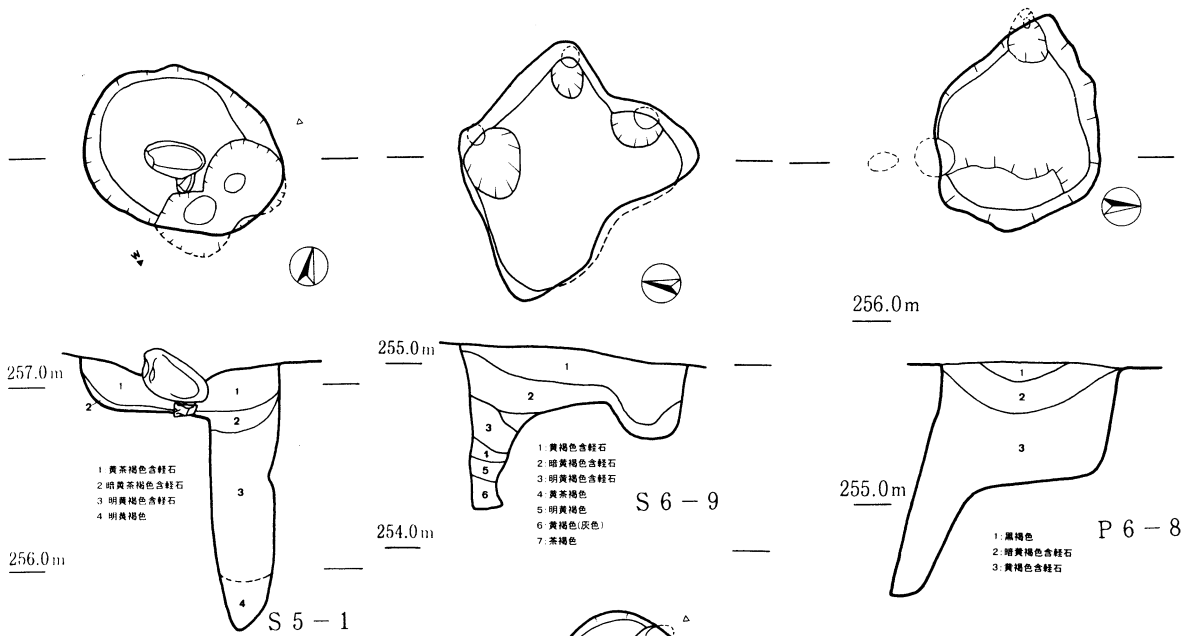
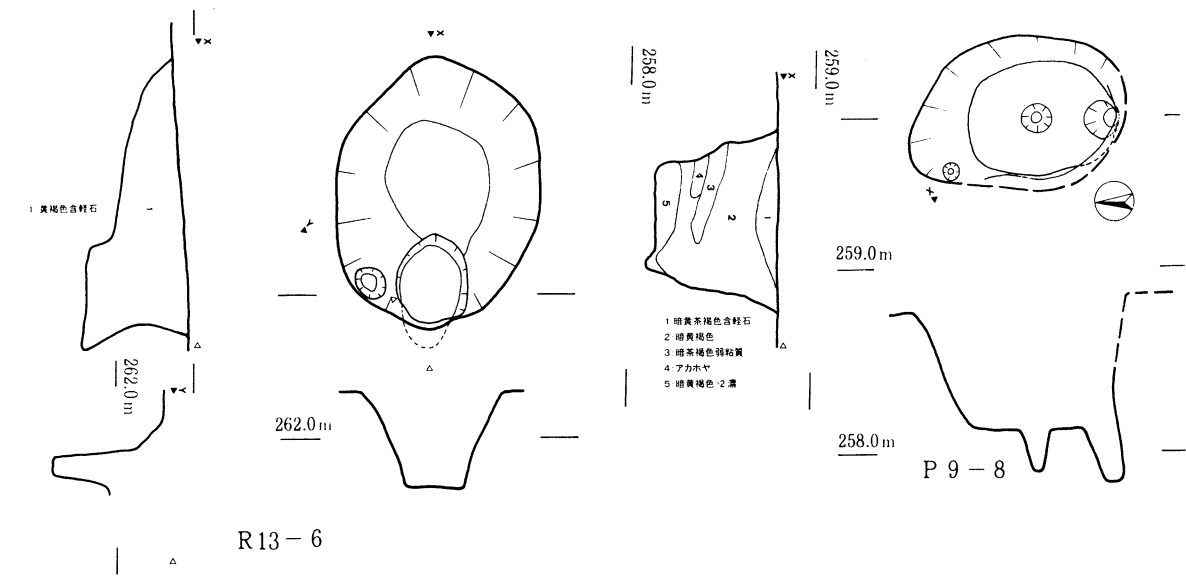
第98图 掘り込み実測図(27)



第99图 掘り込み実測図(28)

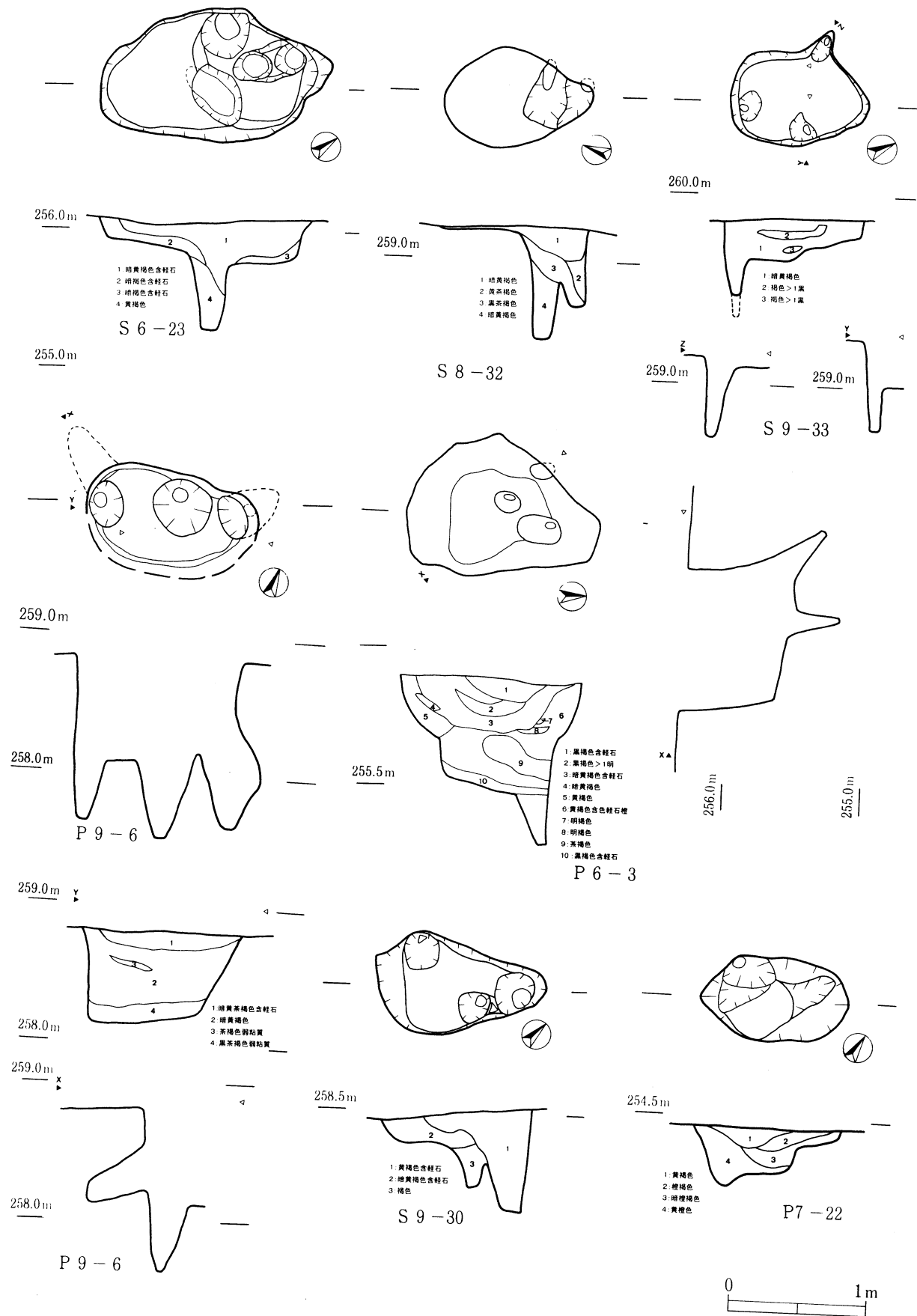


第100図 掘り込み実測図(29)

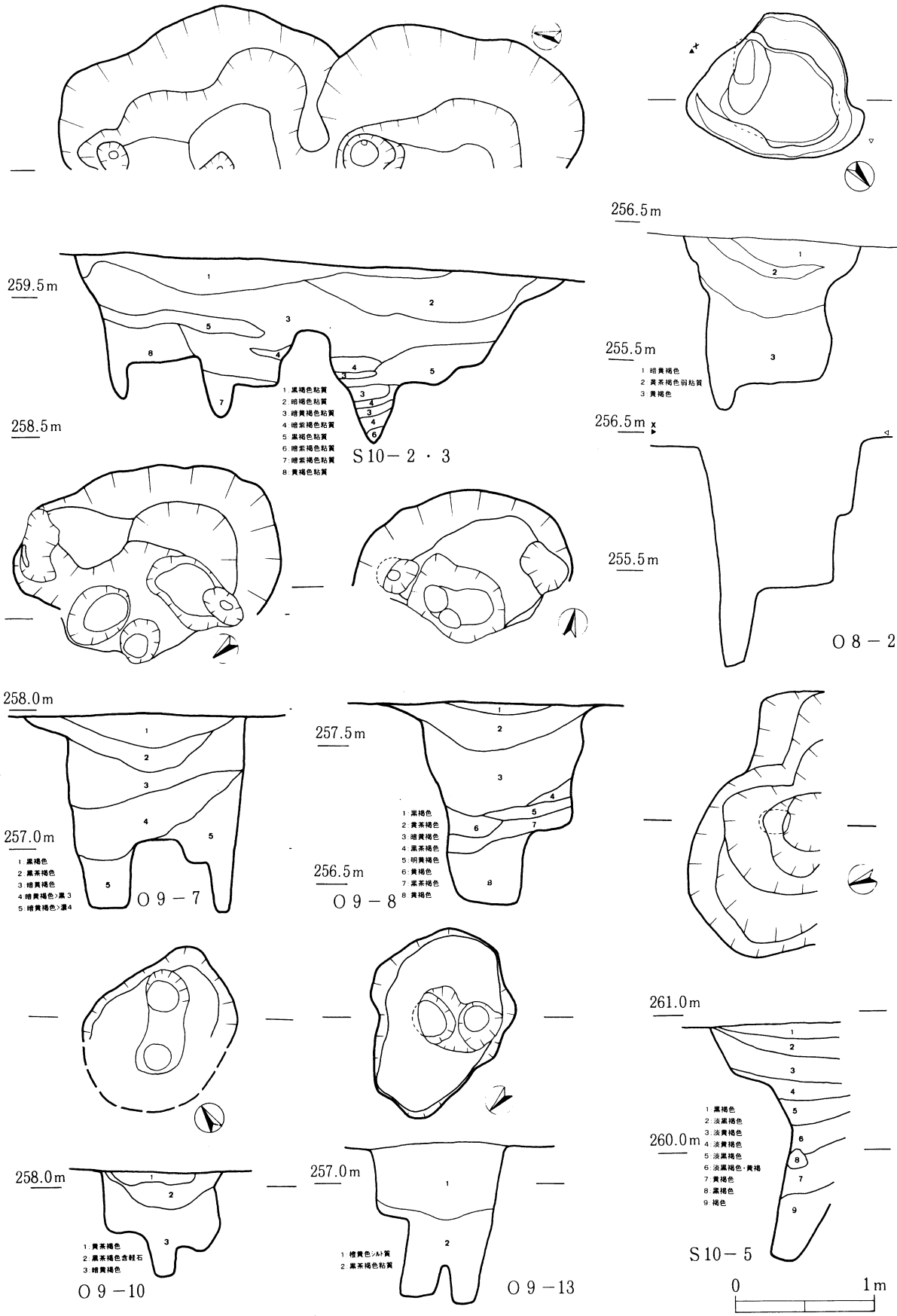


第101图 掘り込み実測図(30)

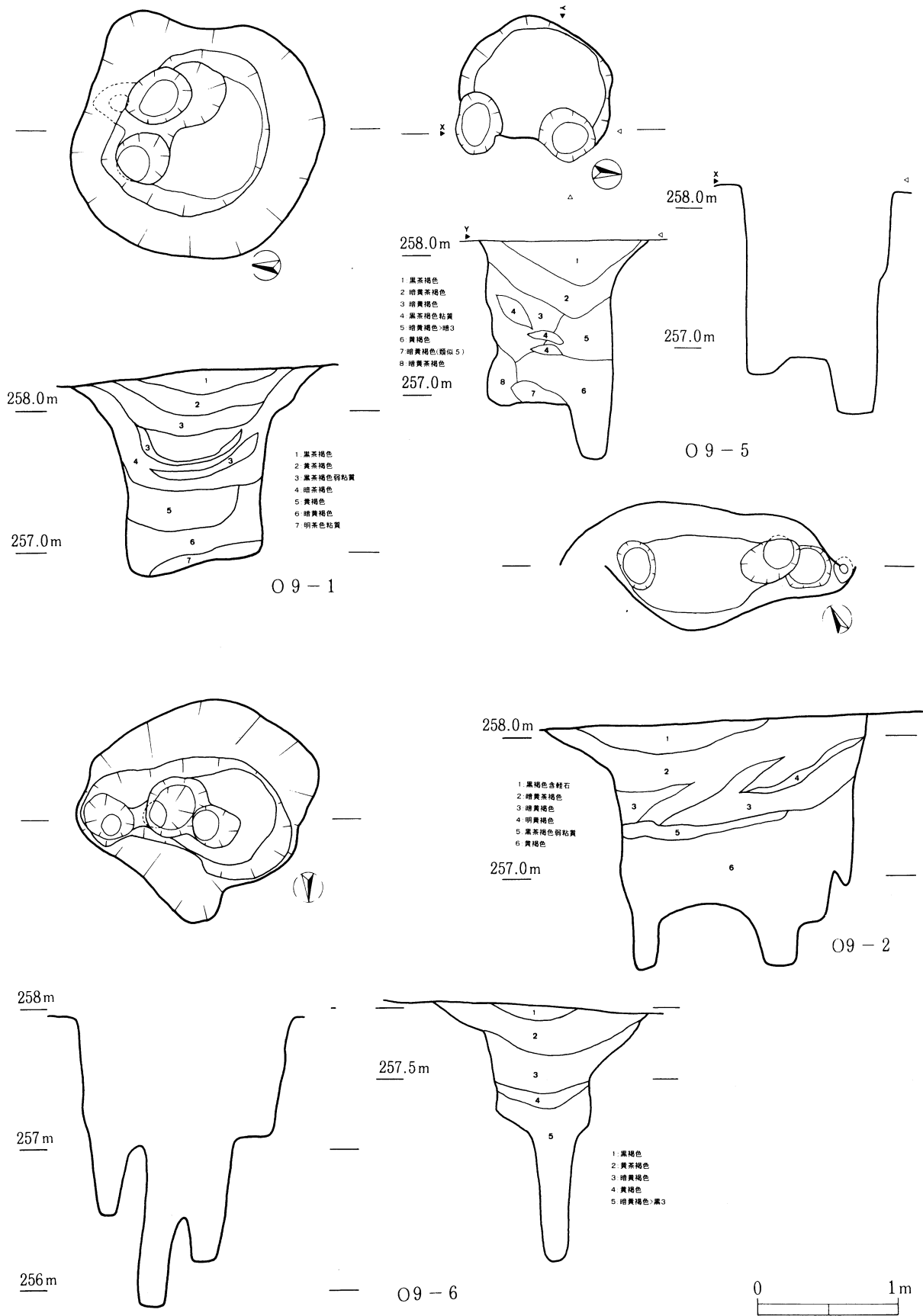




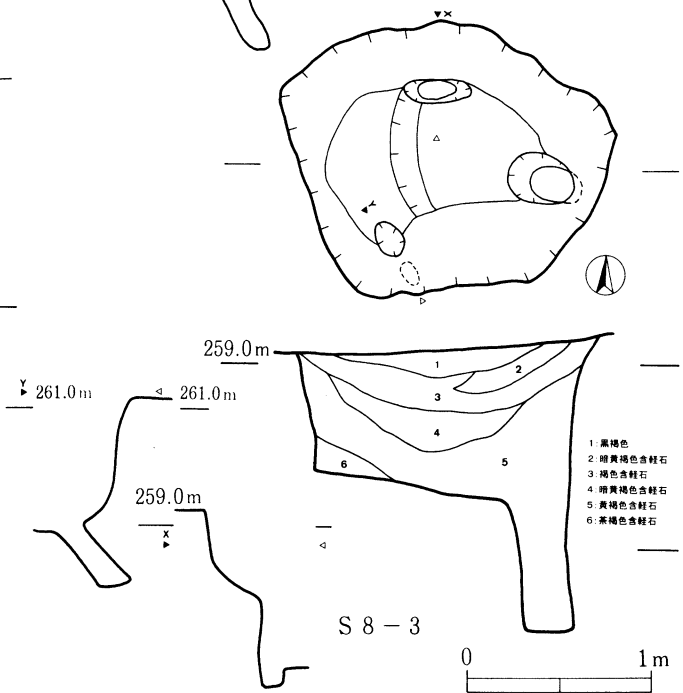
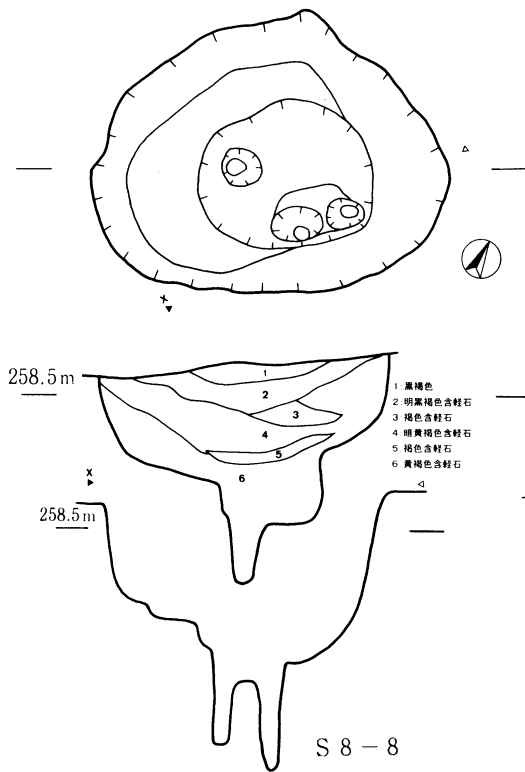
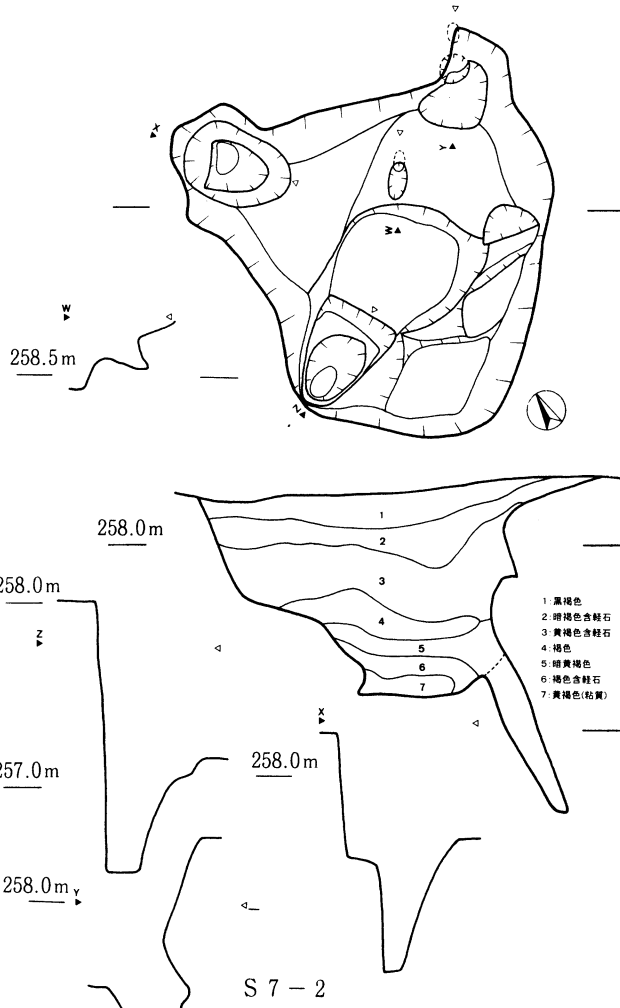
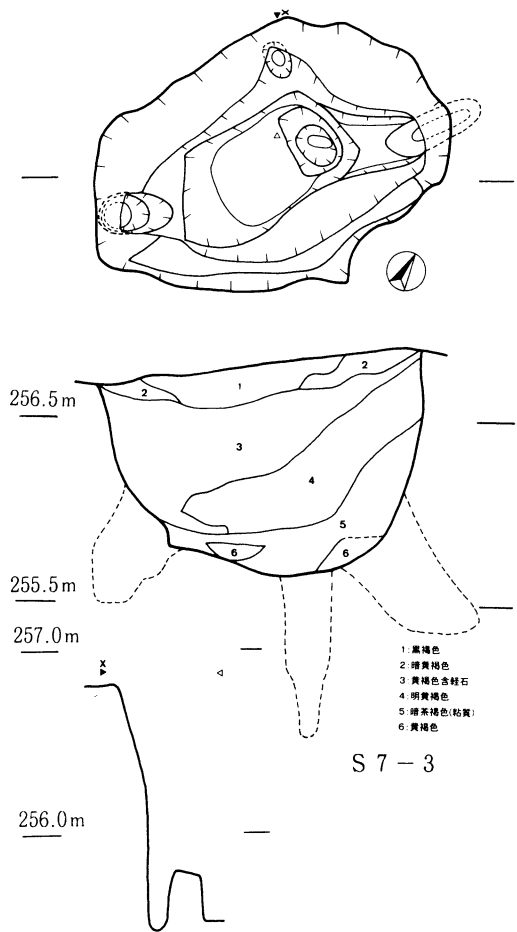
第102図 掘り込み実測図 (31)



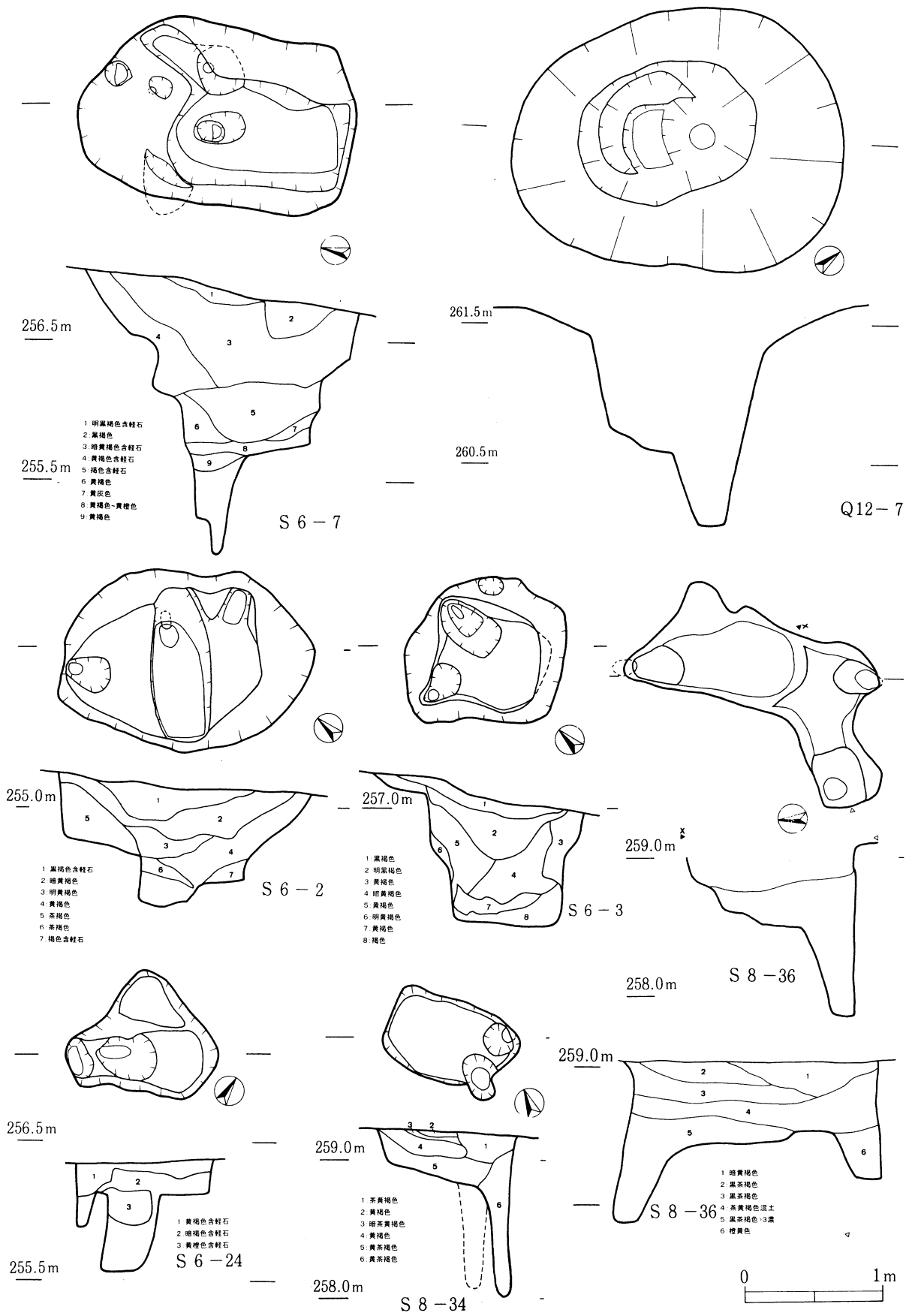
第103図 掘り込み実測図 (32)



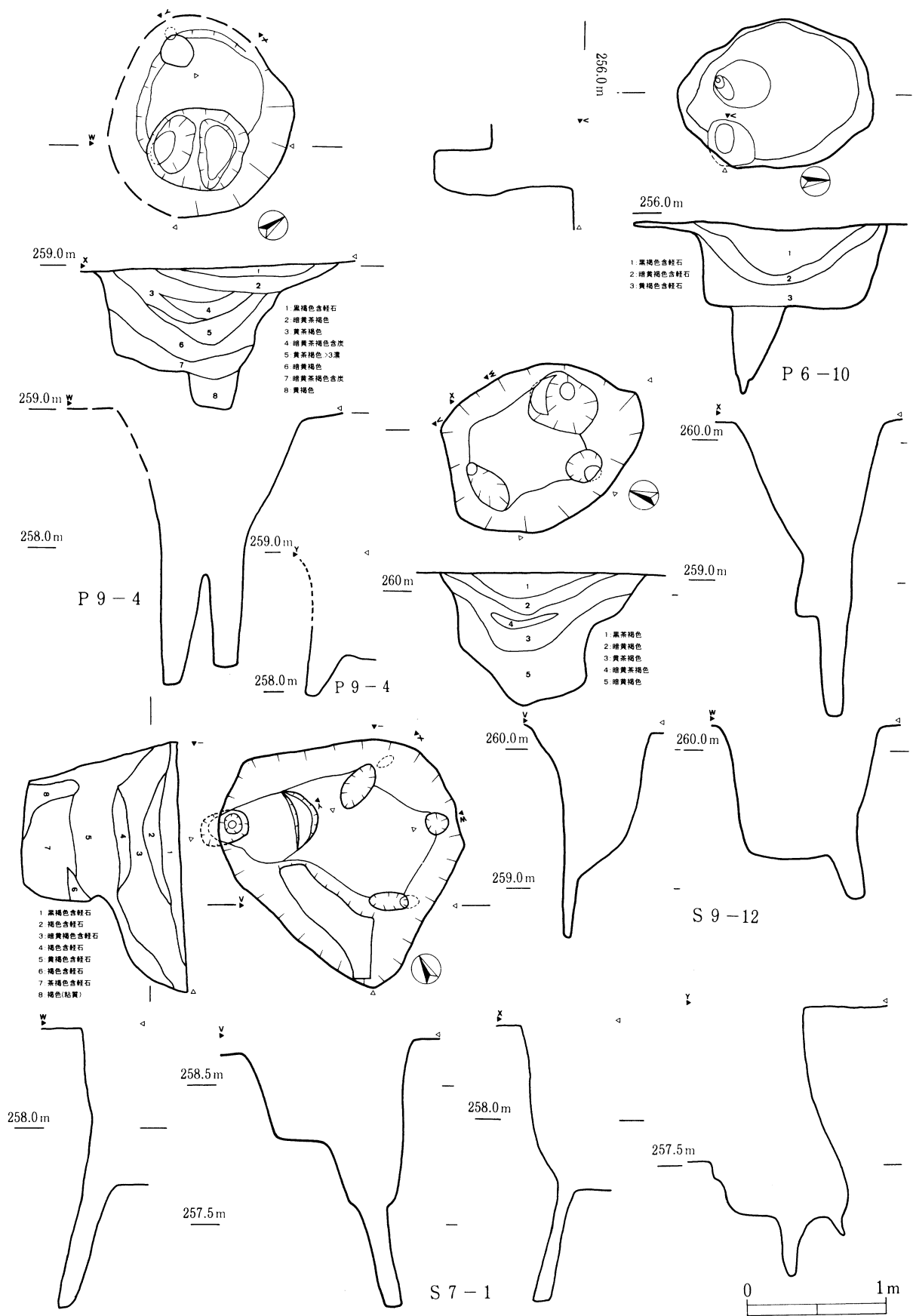
第104図 掘り込み実測図(33)



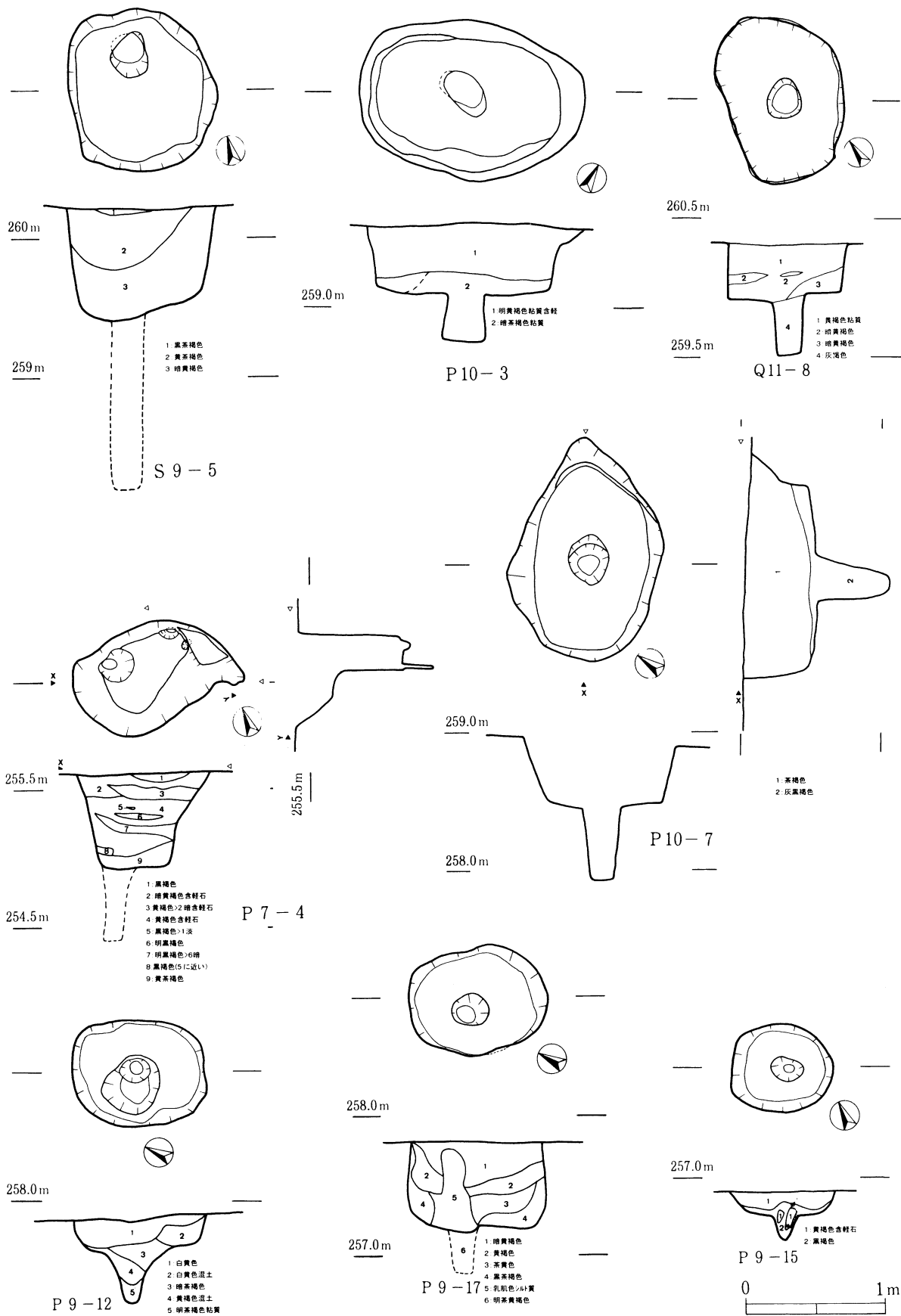
第105図 掘り込み実測図 (34)



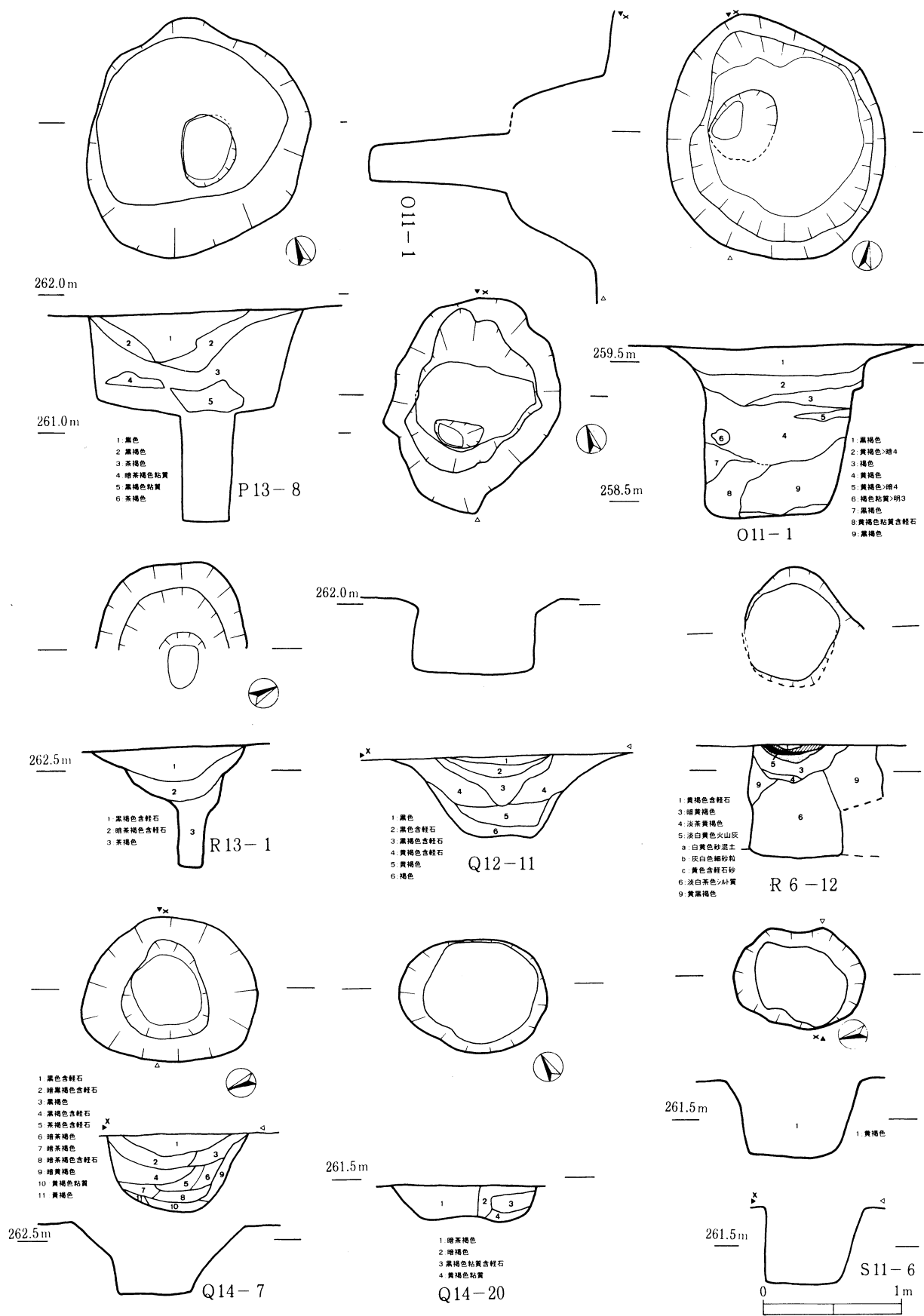
第106図 掘り込み実測図 (35)



第107図 掘り込み実測図 (36)

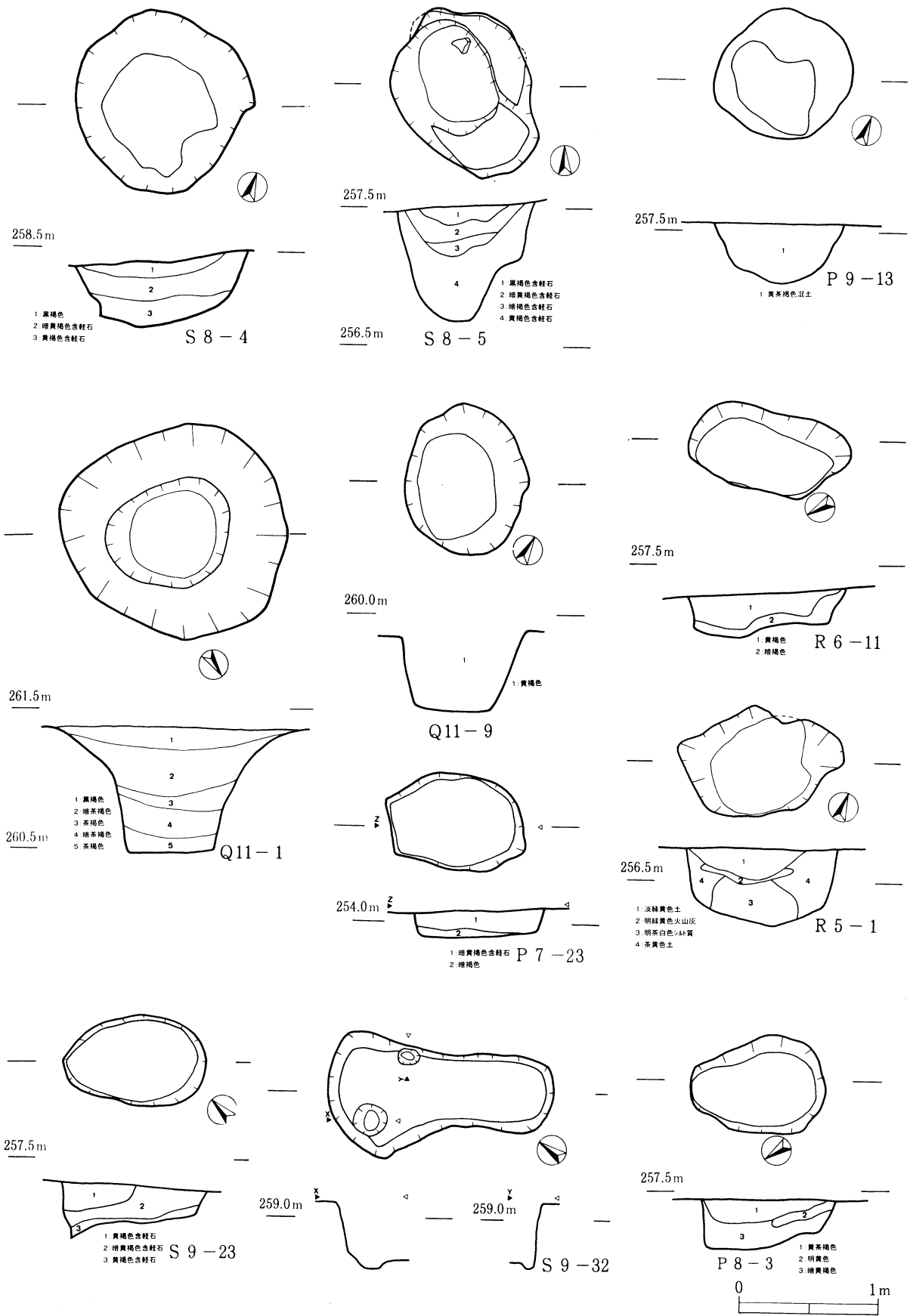


第108図 掘り込み実測図 (37)

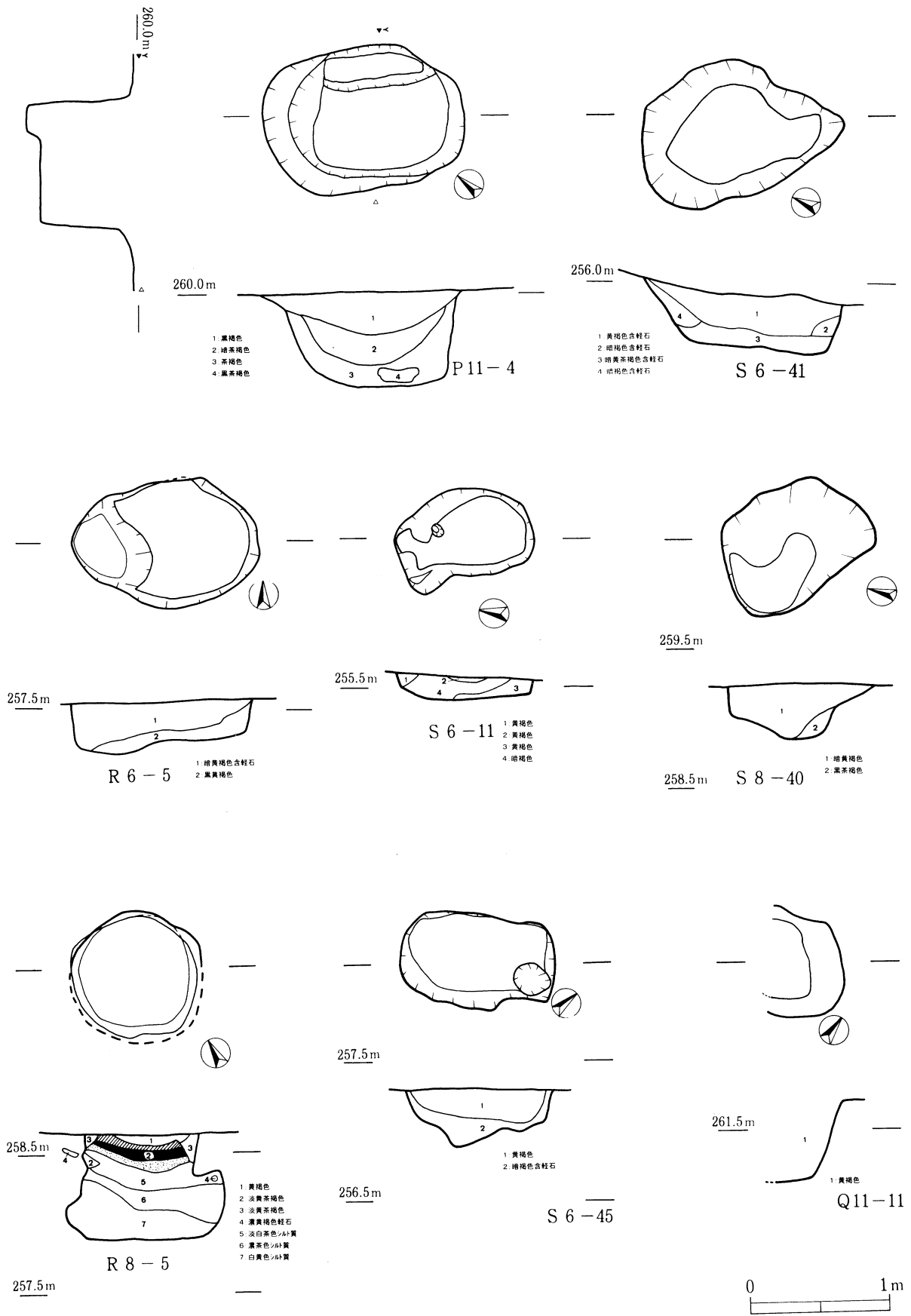


第109図 掘り込み実測図 (38)

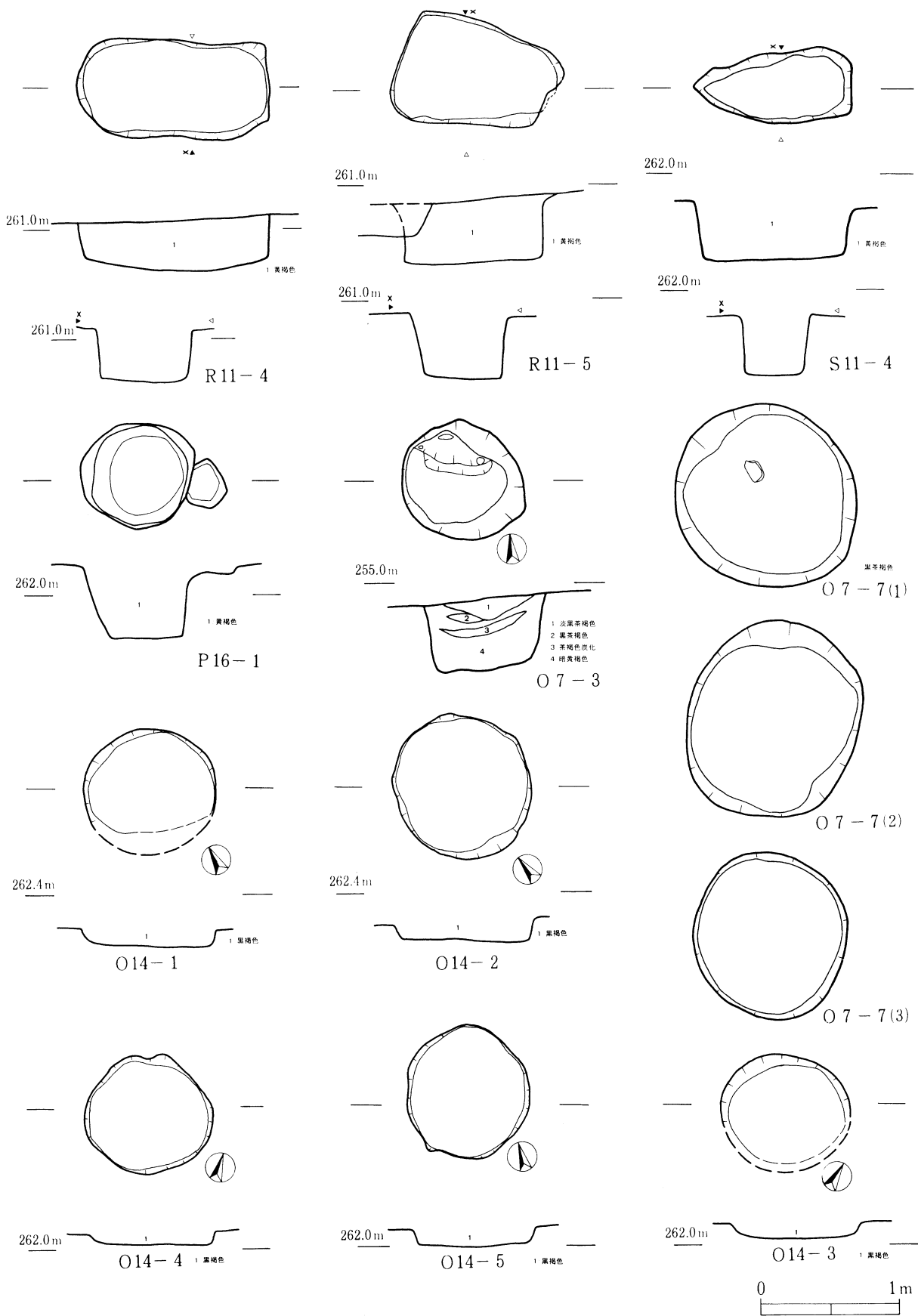




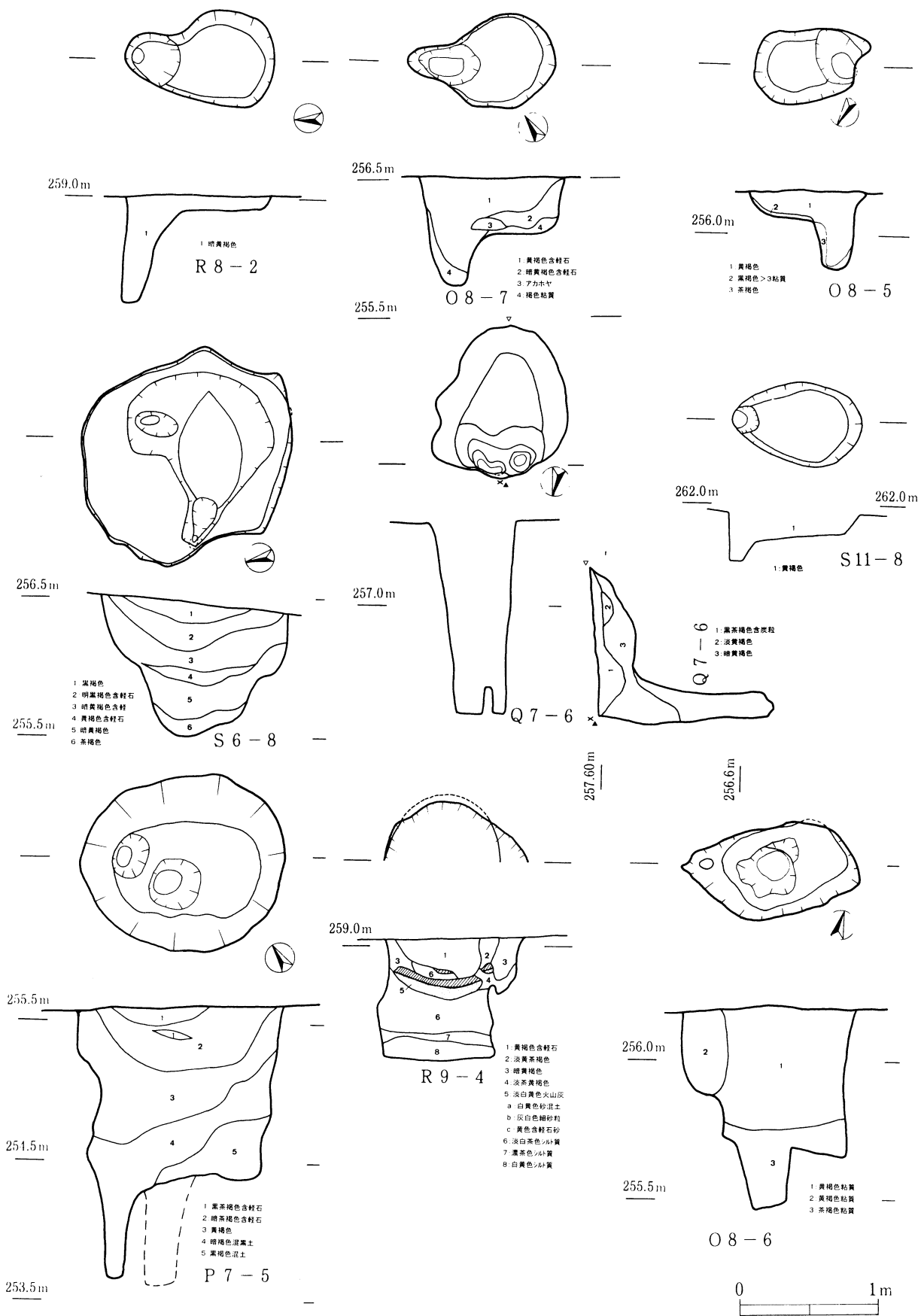
第110図 掘り込み実測図 (39)



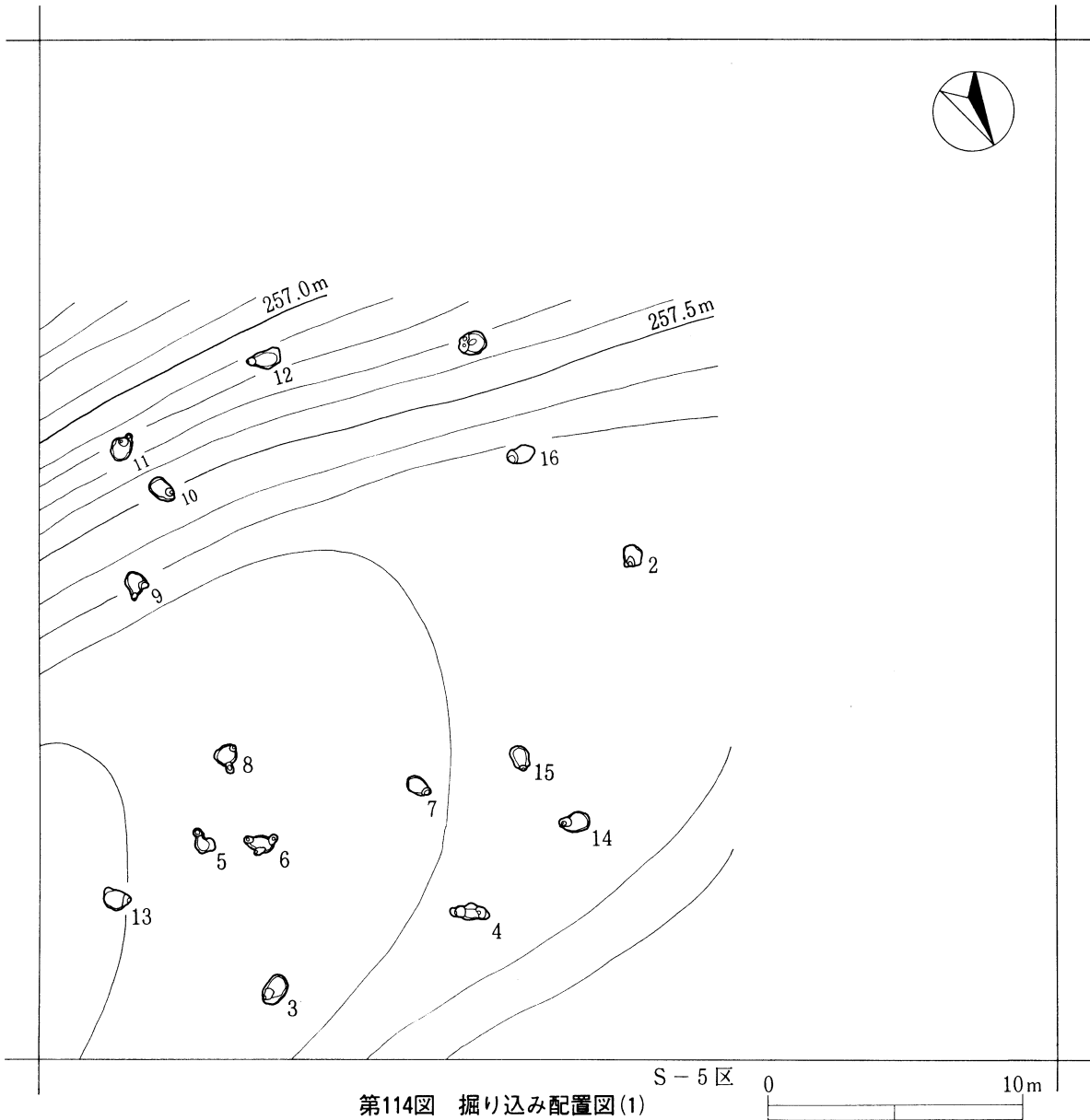
第111図 掘り込み実測図(40)



第112図 掘り込み実測図(41)



第113图 掘り込み実測図(42)



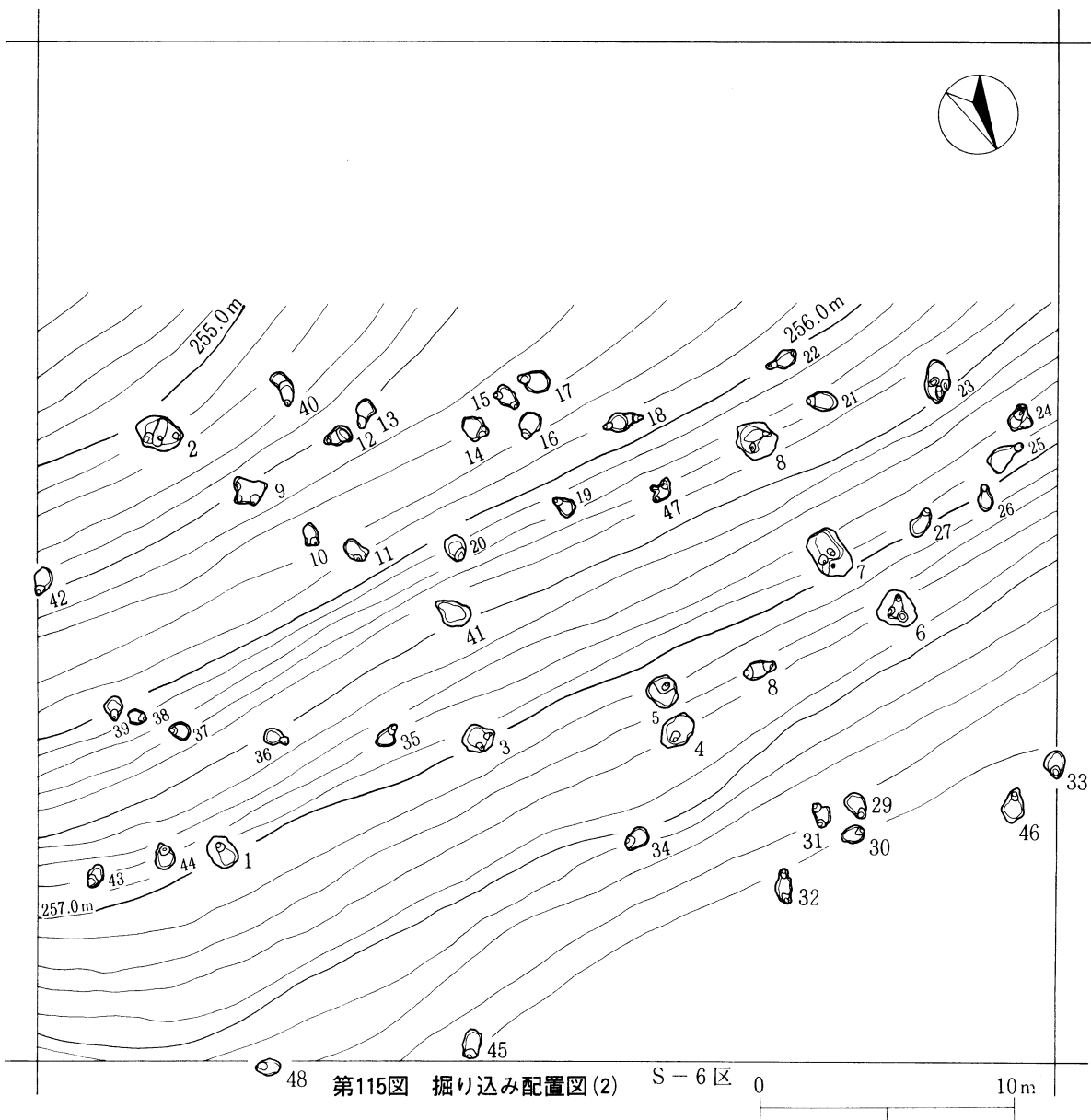
掘り込み観察表 (1)

区	遺構番号	挿図	タイプ	検出層	標高m	上面長	上面幅	深さ	下面長	下面幅	方向	Pit数	径	深さ	角度
S 5	1	101	III	VI	257.14	110	89	25	77	81	124	2	40	152	2
											124		45	167	9
S 5	2	91	I b	-	257.36	83	75	27	65	70	54	1	35	63	10
S 5	3	82	I a	VI	257.08	115	83	91	89	63	79	1	48	67	18
S 5	4	97	II a	VI	257.02	152	64	14	122	37	300	2	33	39	5
											120		42	69	14
S 5	5	79	I a	VI	257.42	92	67	52	65	35	190	1	30	44	0
S 5	6	98	III	VI	257.30	120	65	9	86	45	85	3	37	47	10
											265		40	54	56
											135		38	50	10
S 5	7	76	I a	VI	257.12	102	65	35	82	57	340	1	29	24	15
S 5	8	84	I b	VI	257.36	87	84	30	63	70	115	2	50	104	0
											40		24	32	11
S 5	9	98	I a	VI	257.2	111	80	39	85	60	351	2	30	32	15
											38		42	25	15
S 5	10	74	I b	VII	256.88	107	84	50	98	68	308	1	36	57	10

掘り込み観察表 (2)

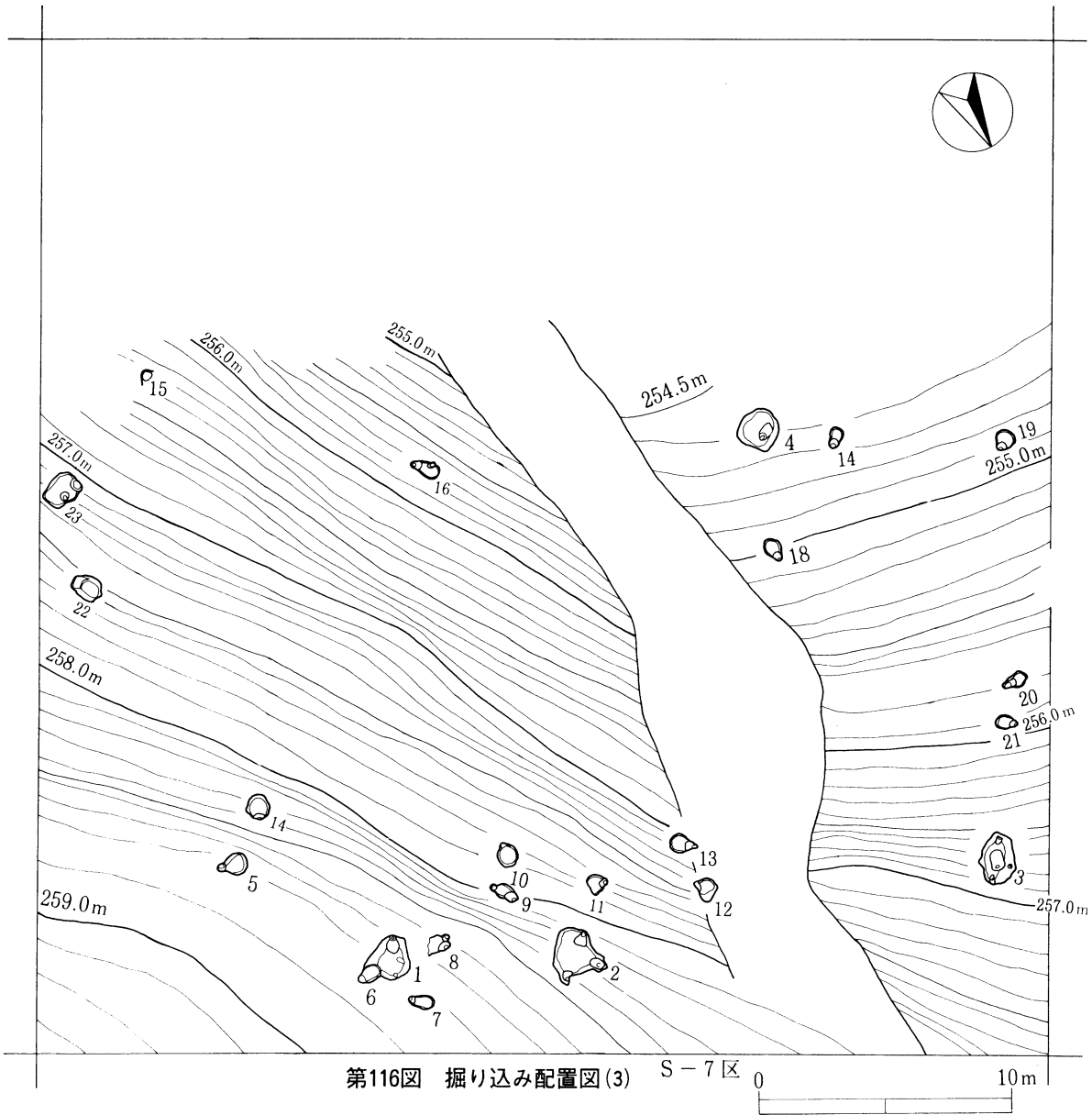
区	遺構番号	挿図	タイ°	検出層	標高m	上面長	上面幅	深さ	下面長	下面幅	方向	Pit 数	径	深さ	角度
S 5	11	95	I a	VI	256.74	114	79	40	85	65	300	1	38	18	0
S 5	12	79	I a	VI	256.8	134	70	20	98	55	158	1	35	55	18
S 5	13	72	I a	VII	257.2	110	82	50	88	73	305	1	32	72	5
S 5	14	80	I a	VII	257.00	116	78	20	95	70	125	1	20	52	9
S 5	15	72	I a	VII	257.06	103	70	66	82	45	18	1	23	46	12
S 5	16	79	I a	VII	256.74	116	65	11	-	-	101	1	23	57	2

区	遺構番号	挿図	タイ°	検出層	標高m	上面長	上面幅	深さ	下面長	下面幅	方向	Pit 数	径	深さ	角度
S 6	1	90	I b	V	257.0	136	105	95	70	55	160	1	27	90	10
S 6	2	106	IV	IV	255.26	183	130	100	130	100	295	3	32	25	19
											0		31	68	0
											115		18	80	10
S 6	3	106	IV	-	257.18	116	105	100	69	64	0	3	50	80	8
											275		30	63	7
											70		15	42	15
S 6	4	86	I b	-	257.46	138	113	55	86	111	67	1	45	38	4
S 6	5	86	I b	-	257.36	124	117	64	100	93	247	1	34	95	2
S 6	6	100	III	-	257.24	145	140	140	40	61	65	3	37	55	2
											350		40	40	7
											118		21	30	9
S 6	7	106	IV	-	256.82	204	130	138	117	59	73	3	35	40	9
											320		17	25	13
											258		34	63	1
S 6	8	113	III	IV	256.52	153	146	99	160	139	75	2	30	42	9
											284		34	40	21
S 6	9	101	III	-	255.1	130	110	33	109	100	351	3	35	55	7
											90		22	42	24
											123		18	37	30
S 6	10	75	I a	-	255.42	90	54	24	77	42	355	1	32	65	9
S 6	11	111	VI b	-	255.62	102	63	17	78	48	8	1	8	10	3
S 6	12	97	II a	-	255.2	105	66	27	57	52	266	2	40	32	10
											86		22	6	18
S 6	13	82	I a	-	255.28	115	65	60	70	55	48	1	40	30	20
S 6	14	74	I a	-	255.50	108	87	29	77	73	153	1	34	62	10
S 6	15	96	II a	-	255.38	112	63	40	79	53	343	2	35	30	9
											118		34	33	13
S 6	16	82	I a	-	255.46	111	83	24	86	70	49	1	32	36	15
S 6	17	82	I a	-	255.38	129	82	30	96	74	136	1	50	40	10
S 6	18	96	II a	VII	255.58	164	76	50	102	45	289	2	45	44	18
											109		33	61	8
S 6	19	79	I a	VII	255.84	94	69	45	60	45	155	1	25	53	12
S 6	20	76	I a	-	255.8	100	82	44	59	53	8	1	54	38	3
S 6	21	79	I a	-	255.82	121	75	27	82	55	125	1	33	35	15
S 6	22	97	II a	-	255.68	132	67	43	70	44	91	2	29	18	3
											271		22	37	19
S 6	23	102	IV	-	256.08	160	97	31	140	185	36	4	45	48	5
											311		32	55	22
											17		23	70	0
											17		20	64	8
S 6	24	106	IV	-	256.38	112	88	25	52	40	226	2	30	25	8
											226		44	55	9
S 6	25	75	I a	-	256.49	153	76	45	123	73	270	1	38	45	18
S 6	26	78	I a	-	256.5	105	56	38	80	38	23	1	28	47	18
S 6	27	72	I a	-	256.42	120	62	40	86	40	240	1	36	66	11
S 6	28	95	II a	-	256.64	132	65	23	80	55	285	2	36	21	28
											105		38	17	24
S 6	29	73	I a	-	257.24	105	73	23	83	54	3	1	45	42	27



掘り込み観察表(3)

区	遺構番号	挿図	タイプ	検出層	標高m	上長	上幅	深さ	下長	下幅	方向	Pit数	径	深さ	角度
S 6	30	73	III	-	257.32	87	67	28	72	53	275	1	33	34	14
S 6	31	98	II a	VI	257.28	106	60	12	75	50	189	2	26	30	4
											9		35	15	15
S 6	32	97	II a	-	257.38	129	60	18	96	45	28	2	43	45	9
											208		38	50	8
S 6	33	84	I b	-	257.32	107	85	80	76	52	18	1	36	46	5
S 6	34	82	I a	-	257.14	98	62	18	85	58	89	1	39	70	1
S 6	35	73	I a	VI	256.32	105	64	26	67	48	250	1	44	65	5
S 6	36	73	I a	VI	256.16	100	65	12	52	40	325	1	36	50	9
S 6	37	72	I a	-	255.82	80	70	50	55	58	112	1	30	60	10
S 6	38	73	I a	-	255.68	75	55	34	61	48	134	1	30	38	11
S 6	39	73	I a	VI	255.6	98	74	18	52	52	3	1	41	65	26
S 6	40	82	I a	VI	254.94	124	56	63	134	42	25	1	26	20	29
S 6	41	111	VI b	VI	256.1	140	99	38	93	62	-	-	-	-	-
S 6	42	79	I a	VII	254.78	109	71	22	72	60	56	1	42	50	19
S 6	43	82	I a	-	256.26	94	54	20	55	45	60	1	43	61	2



掘り込み観察表 (4)

区	遺構番号	挿図	タイ°	検出層	標高m	上面長	上面幅	深さ	下面長	下面幅	方向	Pit数	径	深さ	角度
S 6	44	84	I b	-	256.28	100	77	30	78	58	214	1	40	45	3
S 6	45	111	VI b	-	257.32	112	70	39	93	54	-	-	-	-	-
S 6	46	82	I a	-	257.48	132	83	37	80	68	218	1	35	33	13
S 6	47	98	III	-	255.92	100	50	18	68	45	122	2	18	43	0
S 6	48	82	I a	-	257.08	99	69	28	85	45	150	1	38	42	7

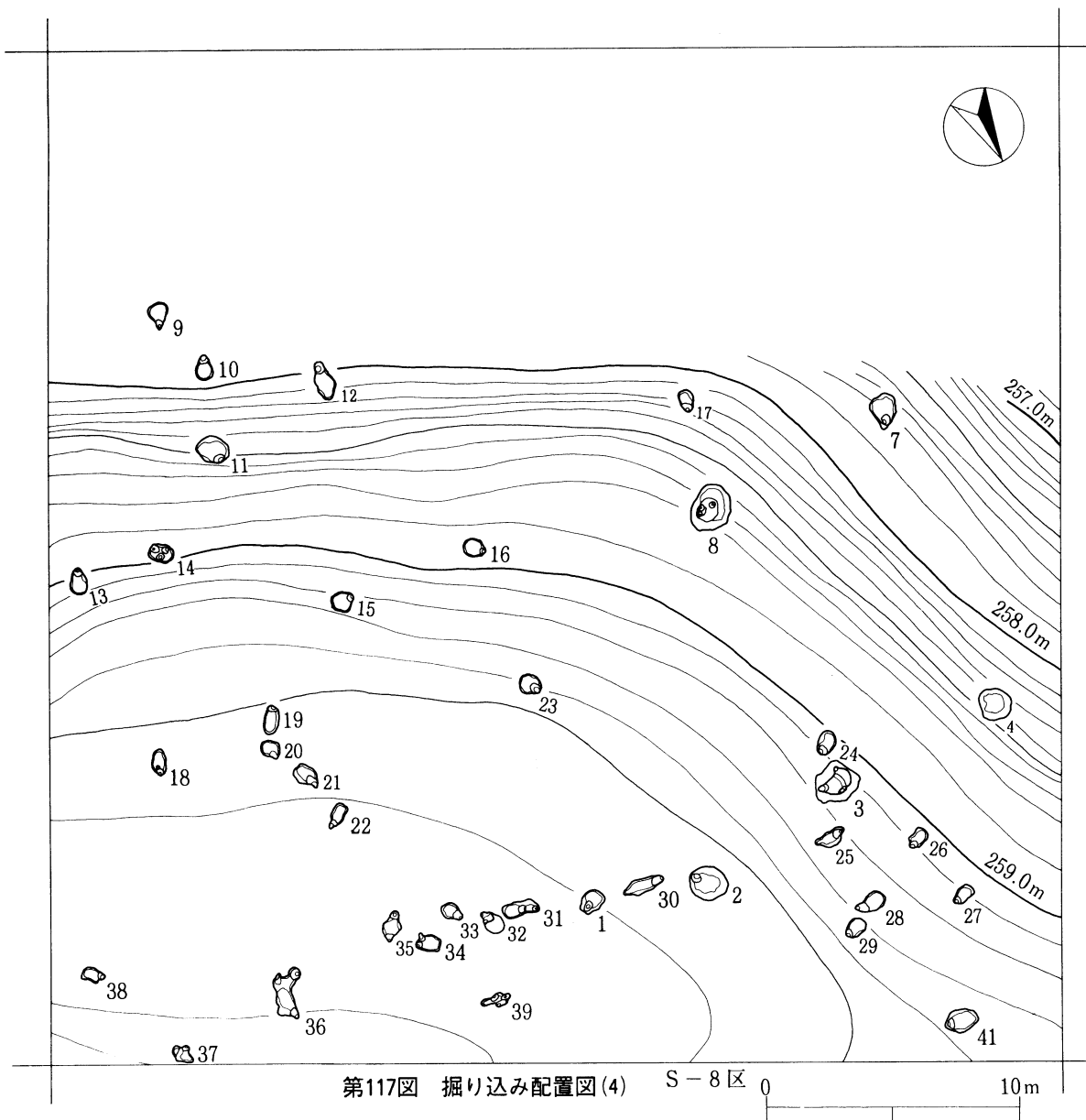
区	遺構番号	挿図	タイ°	検出層	標高m	上面長	上面幅	深さ	下面長	下面幅	方向	Pit数	径	深さ	角度
S 7	1	107	III	-	258.76	180	168	112	80	112	277	5	27	73	14
											344		16	87	17
											340		33	80	13
											202		12	40	0
											202		13	12	30



掘り込み観察表(5)

区	遺構番号	挿図	タイプ	検出層	標高m	上面長	上面幅	深さ	下面長	下面幅	方向	Pit数	径	深さ	角度
S 7	2	105	IV	-	258.42	197	179	110	150	117	94	5	15	110	29
											241		32	58	2
											50		40	60	32
											312		32	11	12
											28		20	18	44
S 7	3	105	IV	-	256.88	190	145	100	69	60	237	4	20	33	0
											234		40	50	26
											6		20	87	6
											41		53	40	45
S 7	4	86	I b	-	254.72	174	160	65	74	45	36	1	26	65	0
S 7	5	92	I b	VI	258.02	120	84	33	52	65	120	1	23	44	3
S 7	6	78	I a	VI	258.26	101	66	25	76	50	75	1	32	40	24
S 7	7	80	I a	VII	258.19	105	50	14	78	42	136	1	27	26	20
S 7	8	74	I a	VII	258.0	75	66	10	65	64	290	2	26	24	5
											309		38	130	15
S 7	9	96	II a	VII	257.66	132	50	17	75	43	329	2	46	116	3
											149		22	24	20
S 7	10	91	I b	VII	257.4	67	70	80	87	84	175	1	26	15	31
S 7	11	85	I b	VII	257.3	74	73	54	60	65	274	1	33	47	9
S 7	12	92	I b	VII	256.88	95	85	64	70	65	88	1	16	48	24
S 7	13	76	I a	VI	256.66	111	68	19	68	61	307	1	45	55	0
S 7	14	85	I b	VII	257.76	100	90	40	74	69	39	1	20	55	27
S 7	15	80	I a	VII	255.71	79	66	26	79	54	164	1	43	55	20
S 7	16	78	I a	VII	254.92	115	56	20	85	50	146	1	42	95	7
S 7	17	82	I a	VII	254.02	84	49	23	65	39	50	1	42	67	19
S 7	18	75	I a	VII	254.5	100	60	36	68	49	0	1	38	70	15
S 7	19	97	I a	-	254.22	84	75	28	62	68	65	1	35	40	12
S 7	20	80	I a	VII	255.38	101	55	25	64	45	95	1	27	37	9
S 7	21	72	I a	VII	255.54	88	52	59	63	45	305	1	28	42	13

区	遺構番号	挿図	タイプ	検出層	標高m	上面長	上面幅	深さ	下面長	下面幅	方向	Pit数	径	深さ	角度
S 8	1	91	I b	-	259.58	100	76	44	66	60	75	1	40	60	8
S 8	2	88	I b	-	259.58	134	136	88	83	76	165	1	36	64	8
S 8	3	105	IV	-	259.16	178	148	88	120	70	86	3	34	70	5
											19		12	10	0
											208		20	36	38
S 8	4	110	VI a	-	258.46	128	132	56	82	83	-	0	-	-	-
S 8	5	110	VI b	-	257.56	100	110	84	116	75	-	0	-	-	-
S 8	6	98	III	-	257.38	160	120	48	130	96	284	2	36	20	0
											17		36	16	0
S 8	7	91	I a	-	257.8	140	92	56	104	85	30	1	40	32	16
S 8	8	105	IV	-	258.78	196	154	88	115	104	136	3	22	34	0
											243		28	34	0
											131		20	52	12
S 8	9	75	I a	VI	257.2	108	72	32	81	70	26	1	38	24	7
S 8	10	74	I a	VII	257.46	96	68	40	71	52	32	1	32	44	15
S 8	11	88	I b	VII	258.0	128	104	48	95	80	342	1	42	58	8
S 8	12	81	I a	VI	257.80	156	72	38	115	68	190	1	48	28	3
S 8	13	80	I a	VI	258.62	104	64	42	85	60	210	1	34	58	20
S 8	14	100	III	VII	258.36	96	68	40	86	65	262	3	34	60	12
											64		30	20	0
											157		24	60	8
S 8	15	84	I b	VI	258.76	88	80	26	70	69	274	1	28	80	10
S 8	16	84	I b	-	258.55	90	68	18	75	60	326	1	20	32	10
S 8	17	73	I a	VI	257.62	90	56	30	61	43	30	1	36	44	8
S 8	18	81	I a	VI	259.04	100	54	18	80	45	200	2	24	60	8
											216		16	8	0



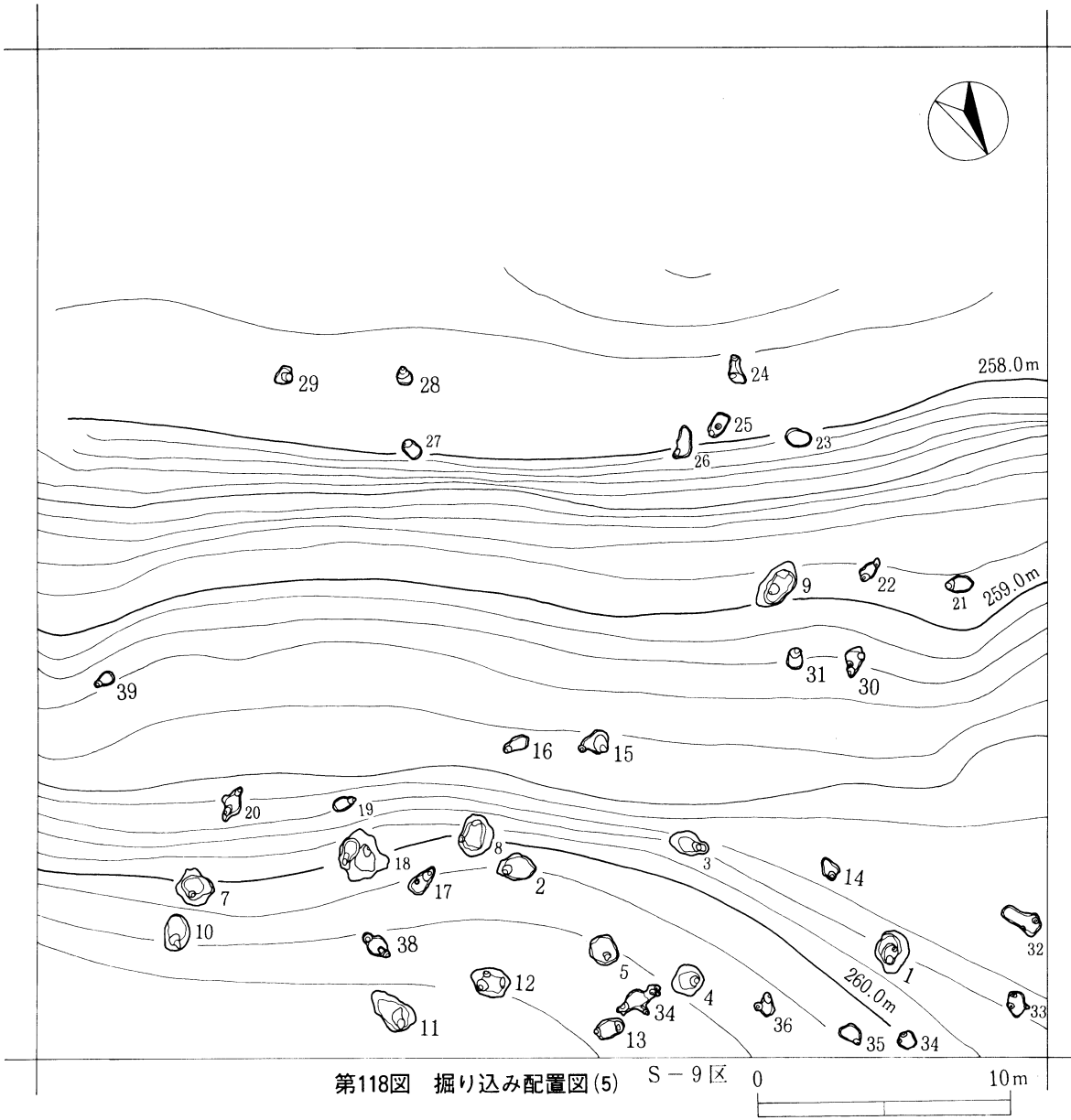
掘り込み観察表 (6)

区	遺構番号	挿図	タイプ	検出層	標高m	上面長	上面幅	深さ	下面長	下面幅	方向	Pit 数	径	深さ	角度
S 8	19	95	II a	VI	258.98	116	54	18	93	42	218	2	24	14	13
													38	36	42
S 8	20	99	III	VI	259.04	84	64	10	55	53	122	2	38	14	0
													359	44	12
S 8	21	76	I a	VI	259.12	112	80	16	81	50	354	1	52	28	10
S 8	22	78	I a	VI	259.16	110	48	30	78	38	65	1	40	40	10
S 8	23	84	I b	VI	258.94	96	76	28	70	61	337	1	28	38	10
S 8	24	90	I a	VI	258.56	96	66	26	76	46	65	1	36	56	7
S 8	25	74	I a	VI	258.72	108	60	12	60	38	260	1	46	92	11
S 8	26	78	I a	VII	258.54	90	50	12	70	38	60	1	32	44	19
S 8	27	78	I a	VI	258.58	92	50	28	60	42	88	1	26	40	13
S 8	28	79	I a	VI	258.82	124	66	20	70	61	98	1	50	56	20
S 8	29	90	I a	VI	258.84	92	64	20	72	45	84	1	30	36	23
S 8	30	76	I a	VI	259.26	168	52	30	132	33	280	1	48	48	14
S 8	31	74	I a	VI	259.28	148	50	16	125	48	118	2	24	36	3
											113		26	78	10

掘り込み観察表(7)

区	遺構番号	挿図	タイプ	検出層	標高m	上長	上幅	深さ	下長	下幅	方向	Pit数	径	深さ	角度	
S 8	32	102	I a	VI	259.26	108	72	40	72	40	82	2	28	42	0	
													135	18	18	8
S 8	33	74	I a	VI	259.22	88	64	20	57	48	330	1	36	68	12	
S 8	34	106	III	VI	259.22	100	60	40	85	54	161	2	26	74	0	
													110	20	80	8
S 8	35	95	II a	VI	259.18	124	68	36	67	58	40	1	32	94	10	
S 8	36	106	IV	VI	259.06	186	72	50	96	55	0	3	36	66	18	
													260	34	34	7
													10	42	68	9
S 8	37	85	I a	VI	259.06	90	72	24	30	35	226	1	24	28	29	
S 8	38	75	I b	VI	259.26	88	48	8	61	41	324	1	28	24	15	
S 8	39	100	III	VI	259.14	120	48	20	83	30	184	3	36	52	16	
													0	16	44	8
													275	20	64	0
S 8	40	111	VI b	VI	259.24	110	88	40	56	63	-	0	-	-	-	
S 8	41	78	I a	VII	258.82	136	88	60	90	64	85	1	26	88	12	
S 8	42	77	I a	-	258.94	88	48	16	70	39	-	1	34	60	16	
S 8	43	83	I a	-	258.56	160	70	30	130	55	-	2	36	44	12	
													-	28	25	8
S 8	44	77	I a	-	258.34	88	56	30	70	54	-	1	28	54	2	

区	遺構番号	挿図	タイプ	検出層	標高m	上長	上幅	深さ	下長	下幅	方向	Pit数	径	深さ	角度	
S 9	2	78	I a	-	260.10	135	106	100	100	82	134	1	36	148	3	
S 9	3	76	I a	-	260.0	156	100	78	65	53	-	0	-	-	-	
S 9	4	86	I b	-	260.14	117	123	84	105	115	130	1	36	90	5	
S 9	5	108	V	-	260.24	108	116	73	90	103	8	1	25	122	1	
S 9	6	88	I b	-	260.04	190	165	92	87	65	244	1	35	115	6	
S 9	7	100	III	-	260.04	127	120	62	70	60	291	2	25	36	3	
													47	25	88	1
S 9	8	99	III	-	260.08	130	158	100	60	90	204	2	30	42	3	
													116	28	48	28
S 9	9	96	II a	-	259.22	125	106	95	133	65	236	2	35	42	3	
													84	45	77	23
S 9	10	93	I a	IV	260.18	100	140	63	68	68	36	1	44	80	12	
S 9	11	93	I a	III	260.3	203	105	58	145	83	9	1	75	95	24	
S 9	12	107	III	IV	260.18	145	120	112	80	72	117	3	27	75	0	
													196	20	35	18
													305	43	72	0
S 9	13	97	II a	-	259.6	120	75	40	85	65	295	3	24	50	3	
													86	15	38	2
													107	24	42	5
S 9	14	79	I a	-	259.28	96	65	20	71	44	9	1	26	37	8	
S 9	15	94	III	-	258.97	87	91	24	85	88	85	2	20	25	0	
													357	35	70	12
S 9	16	80	I a	-	259.02	112	50	17	82	45	95	1	35	42	11	
S 9	17	76	I a	-	259.34	122	53	15	75	45	0	2	55	80	3	
													296	12	12	3
S 9	18	93	I a	-	259.3	115	65	40	92	50	46	1	23	20	10	
S 9	19	73	I a	-	259.16	95	48	10	65	43	280	1	32	70	10	
S 9	20	96	II a	-	259.08	151	84	23	75	60	58	2	37	36	11	
													292	50	70	8
S 9	21	81	I a	-	258.24	112	63	17	85	57	119	2	8	10	0	
													119	5	27	0
S 9	22	95	II a	-	258.02	77	48	15	55	41	55	2	31	58	7	
													258	16	39	0
S 9	23	110	VI b	-	257.32	105	65	30	94	60	-	0	-	-	-	



第118図 掘り込み配置図(5) S-9区 0 10m

掘り込み観察表(8)

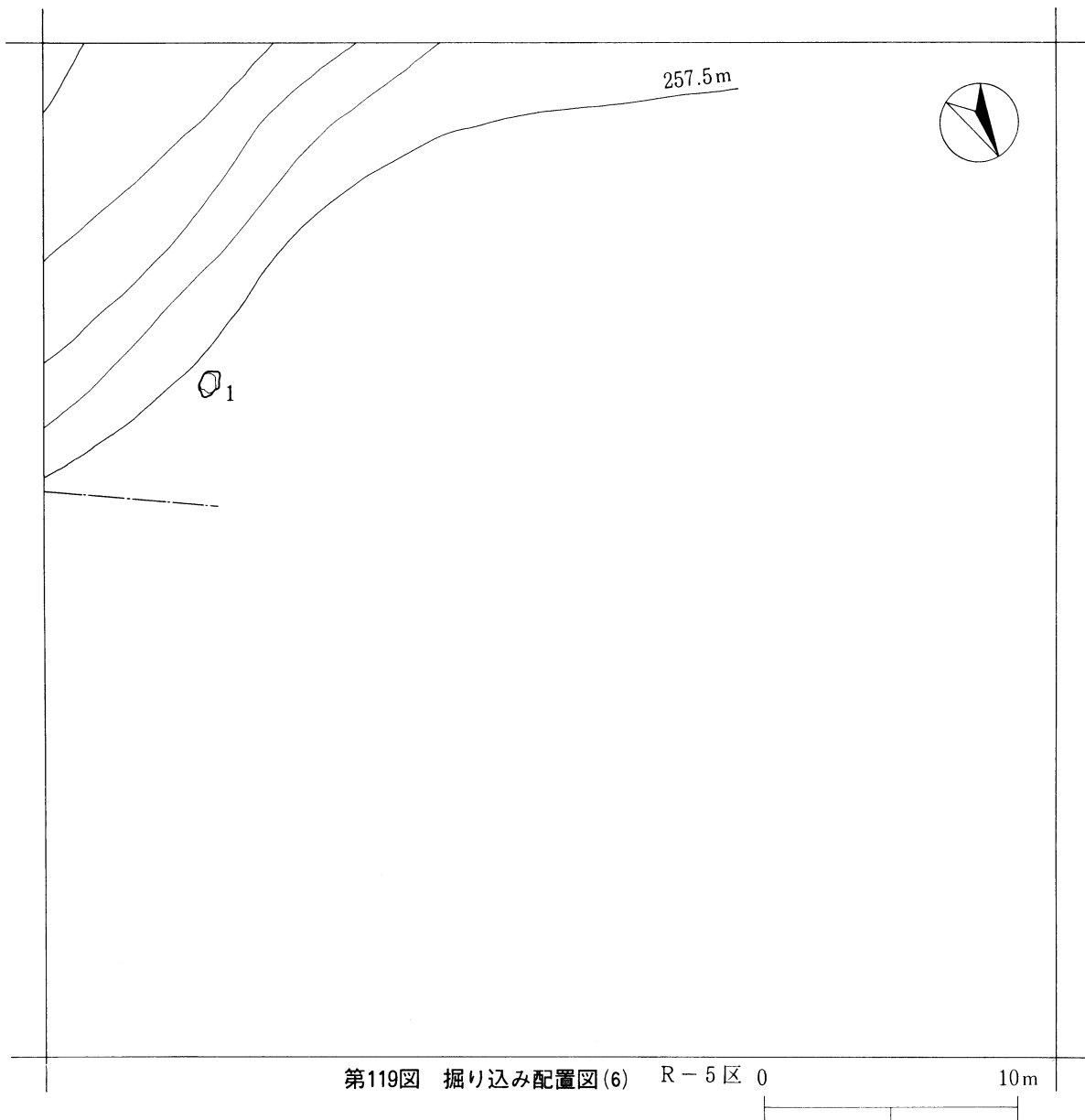
区	遺構番号	挿図	タイプ	検出層	標高m	上面長	上面幅	深さ	下面長	下面幅	方向	Pit数	径	深さ	角度
S 9	24	97	II a	-	256.82	122	55	15	98	20	114	2	32	45	0
											224		28	35	7
S 9	25	97	I a	-	257.3	109	59	35	78	52	0	2	24	47	3
											68		24	50	5
S 9	26	93	I a	-	257.4	123	55	35	114	50	38	1	20	50	8
S 9	27	74	I a	-	257.62	87	55	15	66	48	348	1	28	35	15
S 9	28	81	I a	-	257.22	75	60	20	42	55	9	1	25	44	2
S 9	29	92	I b	-	257.2	84	67	25	65	55	317	1	25	65	12
S 9	30	102	III	-	258.56	122	68	27	80	58	65	3	22	19	6
											260		28	33	6
											44		25	35	11
S 9	31	74	I a	-	258.48	82	64	29	66	56	212	1	30	57	0
S 9	32	110	VI b	-	259.1	162	58	35	149	45	305	2	10	4	0
											338		5	4	0

掘り込み観察表 (9)

区	遺構番号	挿図	タイ°	検出層	標高m	上面長	上面幅	深さ	下面長	下面幅	方向	Pit数	径	深さ	角度
S 9	33	102	III	-	259.34	102	69	30	90	50	119	3	22	41	2
											98		20	32	3
											321		20	52	7
S 9	34	98	III	-	259.28	75	70	17	69	58	354	2	25	25	9
											306		15	26	3
S 9	35	81	I a	-	259.14	62	88	18	52	77	0	1	25	32	11
S 9	36	98	III	-	259.39	95	50	20	65	40	106	2	26	76	0
											230		28	100	4
S 9	37	96	II a	-	259.56	195	70	30	85	56	265	6	14	14	0
											284		18	8	0
											274		20	6	10
											356		14	32	2
											60		8	44	0
S 9	38	96	II a	-	259.52	133	75	75	75	65	345	2	30	40	4
											165		25	112	8
S 9	39	80	I a	-	258.62	85	50	22	62	40	105	1	20	37	5

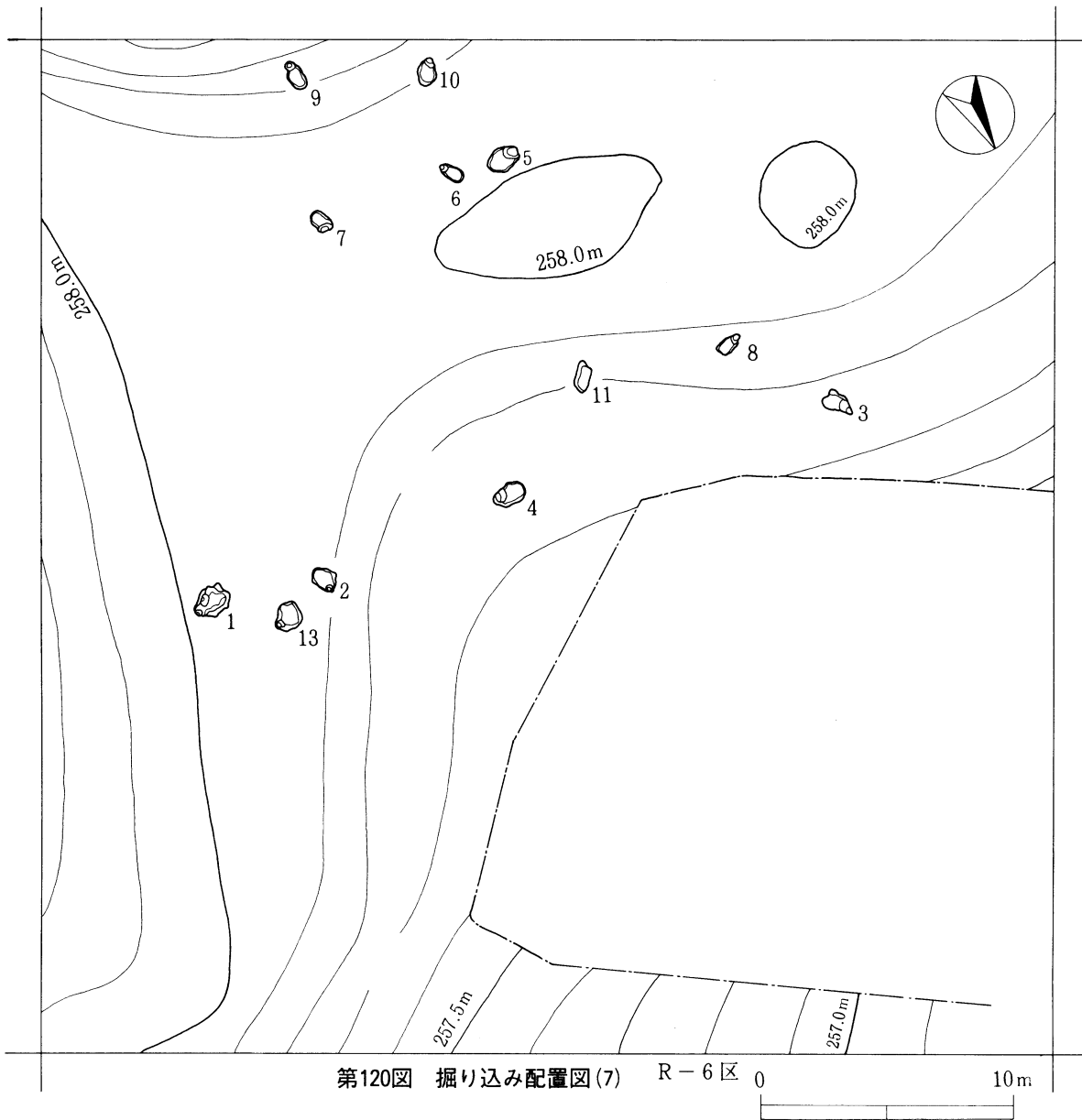
区	遺構番号	挿図	タイ°	検出層	標高m	上面長	上面幅	深さ	下面長	下面幅	方向	Pit数	径	深さ	角度
S 10	1	87	I b	IV	260.33	174	-	100	130	-	207	1	30	52	16
S 10	2	103	IV	IV	259.81	180	-	77	180	-	352	2	22	25	6
											350		24	22	5
S 10	3	103	IV	VI	259.73	178	-	93	177	-	152	1	44	43	6
S 10	4	94	IV	IV	260.92	190	-	46	200	-	108	2	23	51	9
											46		39	37	7
S 10	5	103	IV	-	260.98	183	-	77	110	-	19	1	40	62	0
S 10	6	89	I b	-	260.06	95	85	45	35	55	70	1	56	65	0
S 10	7	94	II a	-	260.55	154	140	50	117	64	340	2	19	53	19
											160		31	33	0

区	遺構番号	挿図	タイ°	検出層	標高m	上面長	上面幅	深さ	下面長	下面幅	方向	Pit数	径	深さ	角度
S 11	1	75	I a	VI	261.96	90	65	24	83	51	-	1	37	61	2
S 11	2	75	I a	VI	261.92	106	62	20	102	56	-	1	38	55	0
S 11	3	80	I a	-	262.01	116	54	16	110	45	-	1	42	120	6
S 11	4	112	VI b	-	261.81	113	50	42	100	48	-	0	-	-	-
S 11	5	77	I a	VII	261.74	95	57	9	87	50	-	1	37	68	0
S 11	6	109	VI a	-	261.77	95	68	56	67	51	-	0	-	-	-
S 11	7	89	I b	VI	261.71	76	61	18	67	48	-	1	38	65	5
S 11	8	75	I a	VI	261.94	94	60	17	74	52	-	1	19	14	0
S 11	11	77	I a	VI	261.42	97	47	28	84	45	-	1	26	34	6
S 11	12	77	I a	VI	261.17	99	62	9	94	52	-	1	43	82	12



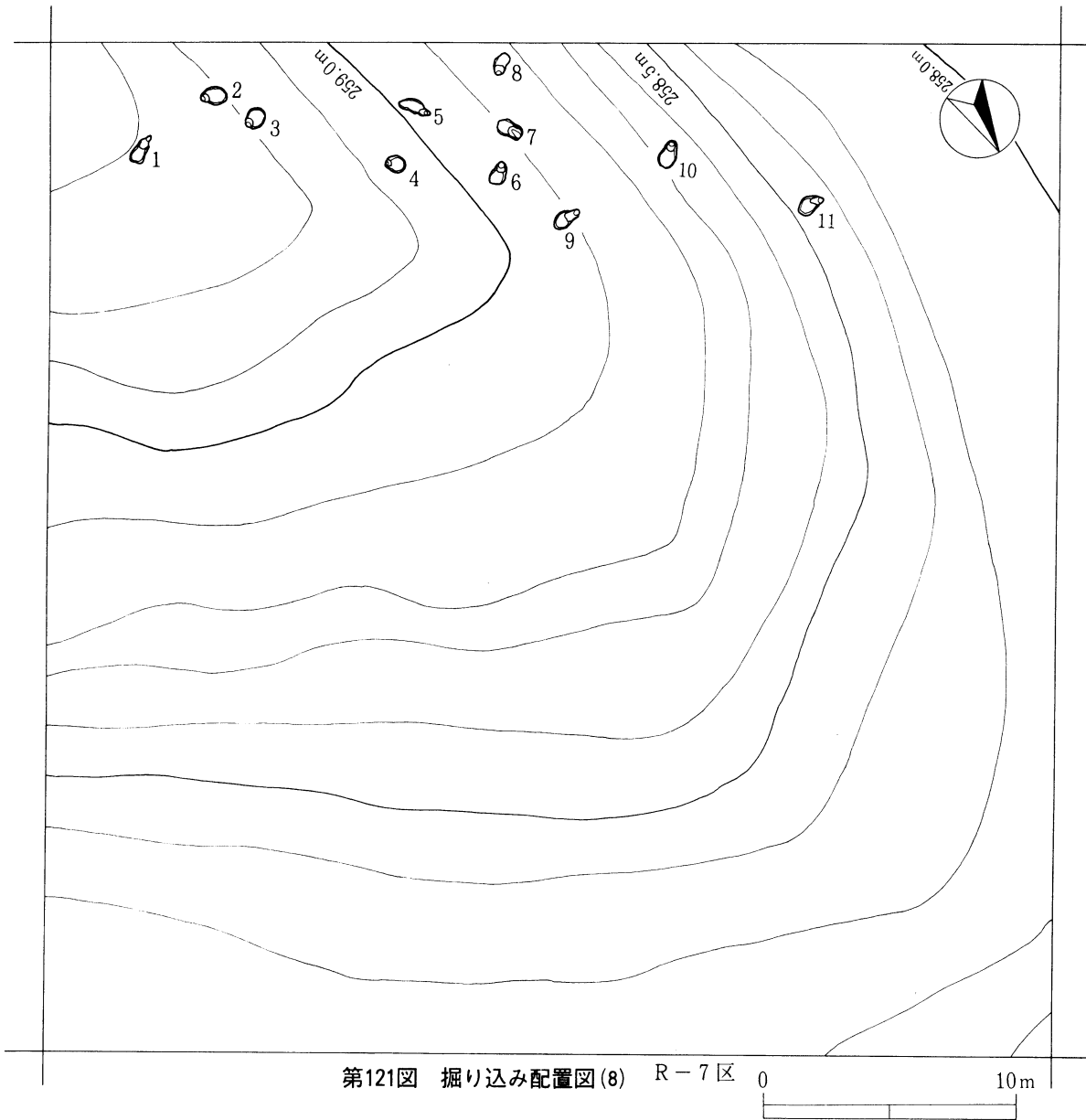
掘り込み観察表(10)

区	遺構番号	挿図	タイ°	検出層	標高m	上面長	上面幅	深さ	下面長	下面幅	方向	Pit数	径	深さ	角度
R 5	1	110	VI b	VI	256.74	120	80	76	64	64	-	-	-	-	-



掘り込み観察表 (11)

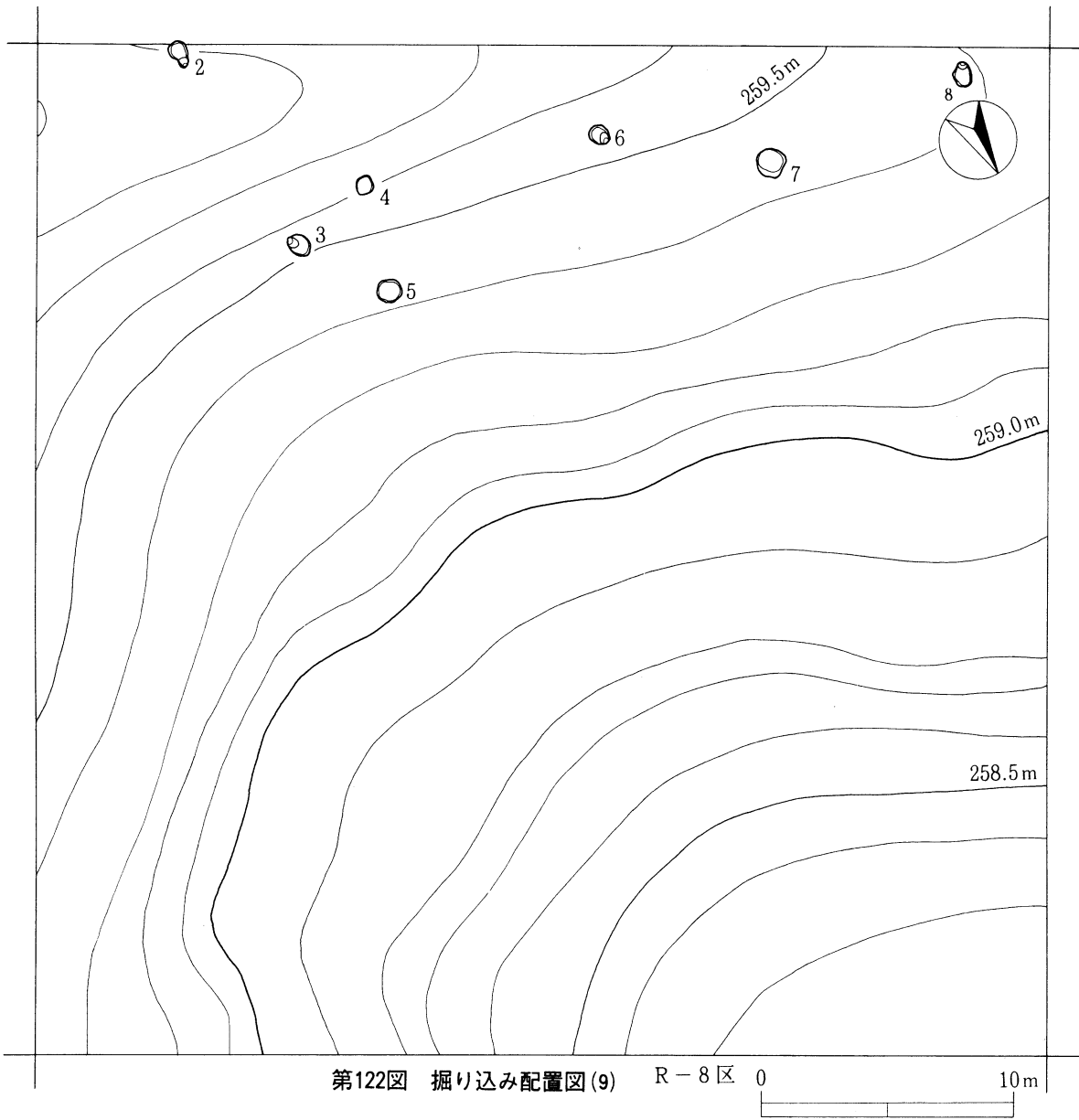
区	遺構番号	挿図	タイプ°	検出層	標高m	上面長	上面幅	深さ	下面長	下面幅	方向	Pit数	径	深さ	角度
R 6	2	84	I b	-	257.62	116	90	44	94	63	1	1	28	70	11
R 6	3	98	III	VI	257.12	120	60	28	82	58	330	2	54	20	3
											201		30	12	22
R 6	4	80	I a	VI	257.22	130	72	40	103	63	98	1	16	40	38
R 6	5	111	VI a	VI	257.56	136	92	36	110	82	270	1	34	10	0
R 6	6	79	I a	VI	257.48	116	48	32	80	45	150	1	36	60	13
R 6	7	76	I a	VI	257.44	96	60	28	60	44	3	1	48	56	5
R 6	8	76	I a	VI	257.26	112	48	36	78	38	267	1	46	52	20
R 6	9	82	I a	-	257.14	116	60	8	85	46	180	1	32	36	4
R 6	10	90	I a	-	257.22	100	68	28	70	58	240	1	32	80	12
R 6	11	110	VI b	-	257.38	116	56	36	85	48	-	-	-	-	-
R 6	12	109	VII	VII	257.18	84	-	82	67	-	-	-	-	-	-
R 6	13	99	III	-	257.18	120	96	28	94	64	210	2	28	42	41
											0		40	56	11



掘り込み観察表(12)

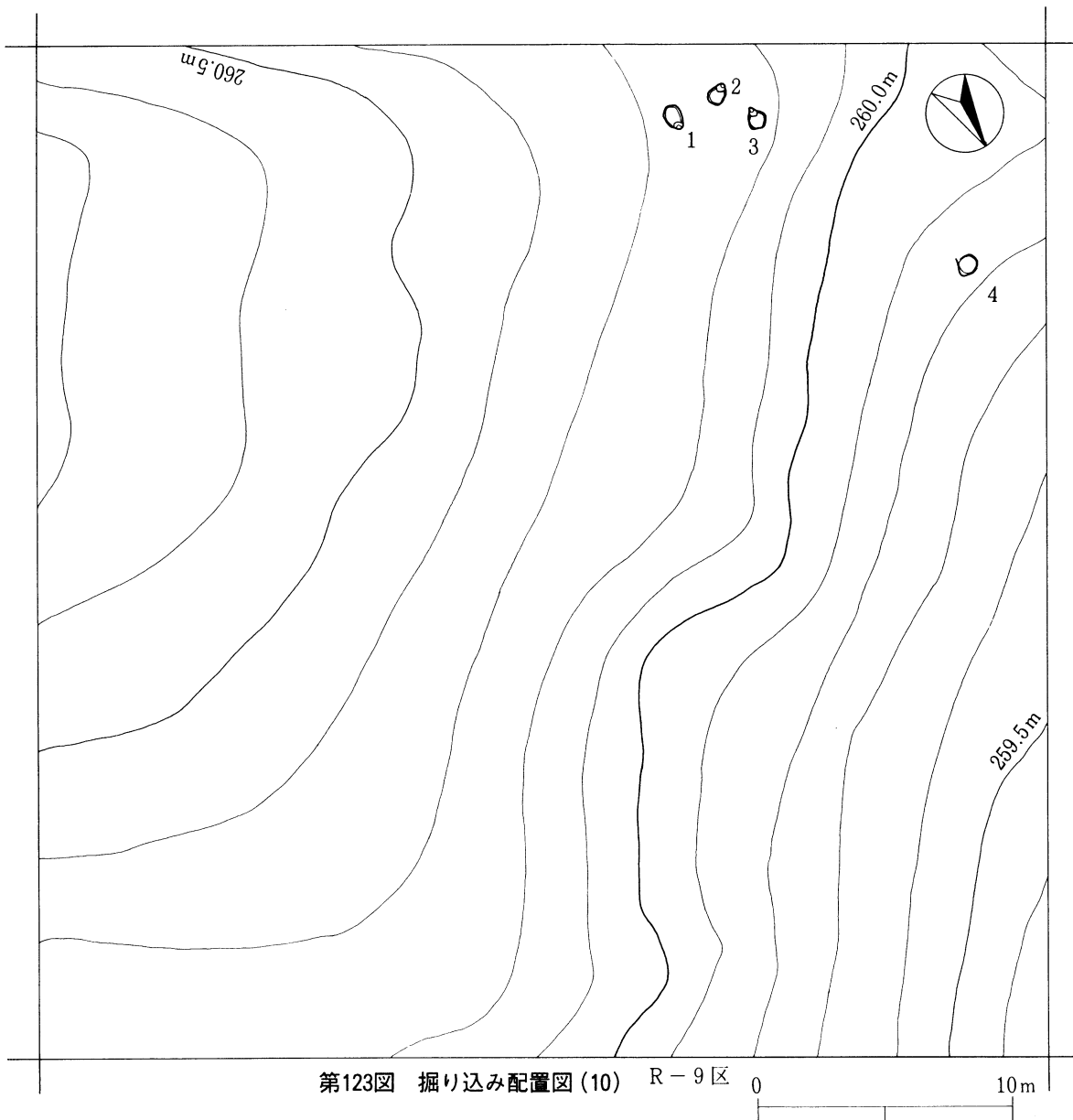
区	遺構番号	挿図	方位°	検出層	標高m	上面長	上面幅	深さ	下面長	下面幅	方向	Pit数	径	深さ	角度
R 7	1	73	I a	VII	258.62	120	48	26	67	39	238	2	30	40	39
											245		20	20	7
R 7	2	79	I a	VII	258.62	104	68	32	91	58	110	1	34	76	13
R 7	3	92	I b	VII	258.58	90	68	52	68	62	70	1	32	80	20
R 7	4	95	I b	VII	258.54	76	66	40	52	58	110	1	32	56	18
R 7	5	94	II a	VII		120	48	20	56	40	343	2	24	26	9
											140		40	92	12
R 7	6	72	I a	VII	258.42	92	42	32	68	45	235	1	40	48	47
R 7	7	76	I a	VII	258.38	108	56	36	75	49	340	1	56	52	13
R 7	8	78	I a	VII	258.30	96	48	20	68	43	48	1	44	120	5
R 7	9	75	I a	VII	258.42	116	36	8	70	53	274	1	68	70	13
R 7	10	74	I a	VII	258.22	112	44	12	94	55	230	1	40	70	4
R 7	11	75	I a	VII	257.87	112	56	36	70	45	275	1	52	56	28





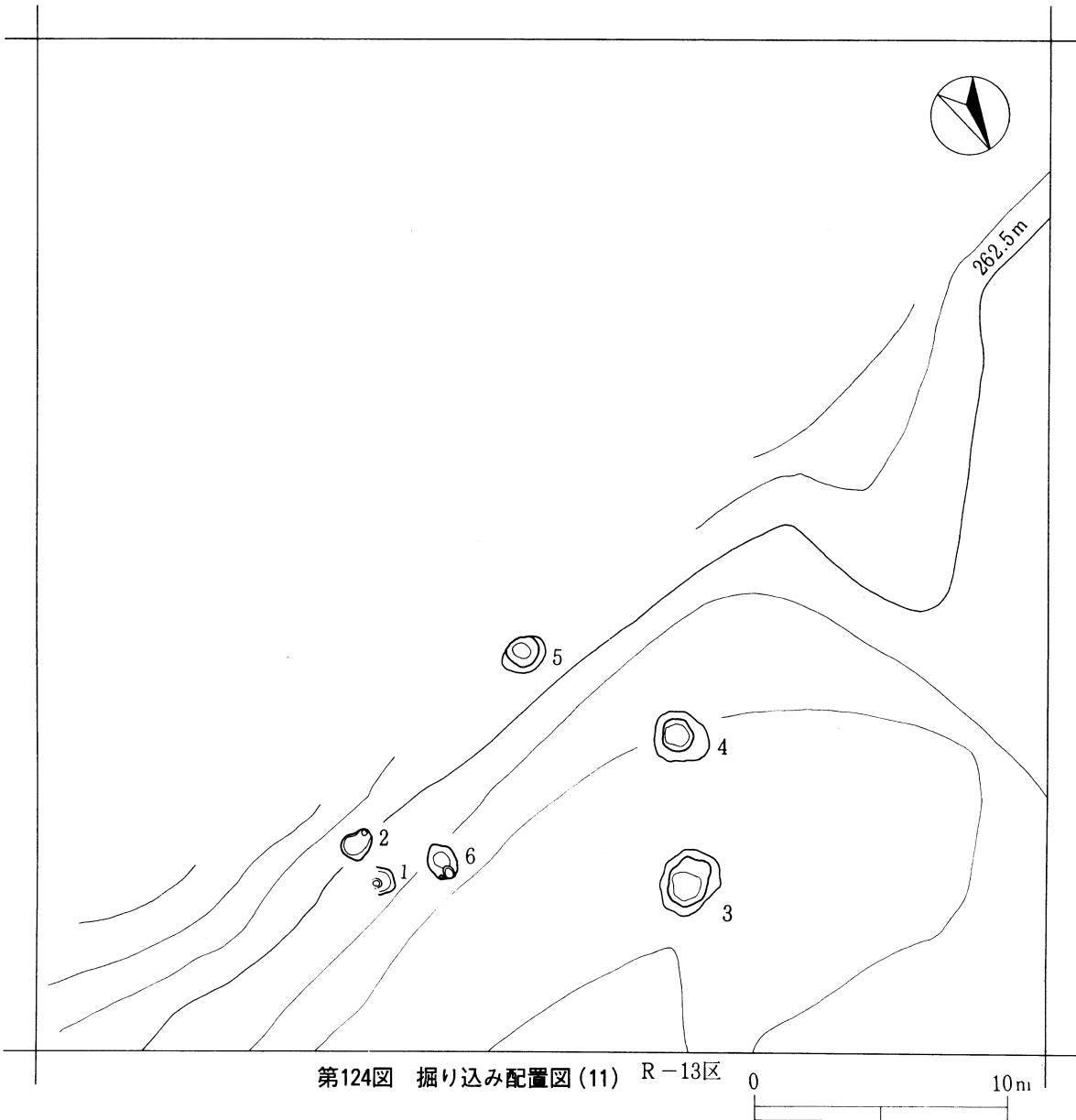
掘り込み観察表(13)

区	遺構番号	挿図	タイプ	検出層	標高m	上面長	上面幅	深さ	下面長	下面幅	方向	Pit数	径	深さ	角度
R 8	2	113	I a	VI	259.02	110	68	120	74	50	9	1	40	66	14
R 8	3	95	I b	VI	258.82	100	76	40	78	73	152	1	48	26	28
R 8	4	95	I b	VI	258.86	80	72	12	61	55	60	1	46	44	10
R 8	5	111	VII	V	258.68	94	96	76	80	78	-	-	-	-	-
R 8	6	84	I b	VI	258.94	84	72	18	70	60	350	1	42	34	21
R 8	8	81	I a	VI	259.62	104	68	30	73	58	210	1	32	88	8



掘り込み観察表(14)

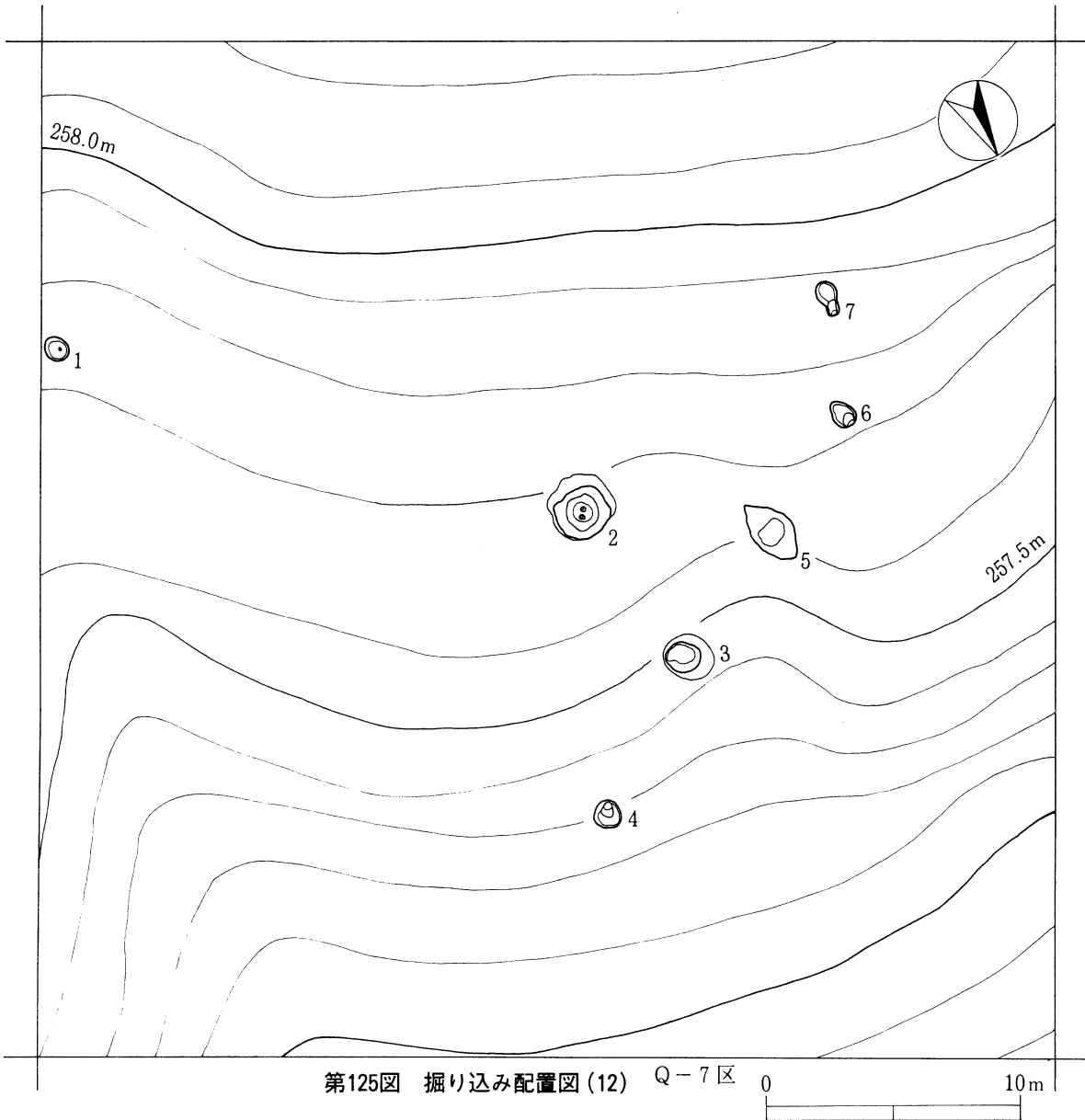
区	遺構番号	挿図	タイ°	検出層	標高m	上面長	上面幅	深さ	下面長	下面幅	方向	Pit数	径	深さ	角度
R 9	1	75	I a	VI	259.67	104	68	20	86	55	6	1	34	36	31
R 9	2	72	I a	VI	259.60	92	64	28	64	48	245	1	40	92	10
R 9	3	81	I a	VI	259.50	100	72	12	60	61	179	1	46	32	4
R 9	4	113	VII	VII	259.08	104	-	88	83	-	-	-	-	-	-



掘り込み観察表(15)

区	遺構番号	挿図	タイ°	検出層	標高m	上面長	上面幅	深さ	下面長	下面幅	方向	Pit数	径	深さ	角度
R 11	2	94	I b	III	262.34	145	167	60	86	104	285	1	38	52	15
R 11	4	112	VI b	VII		139	68	40	132	64	-	-	-	-	-
R 11	5	112	VI b	VI		68	120	48	56	116	-	-	-	-	-

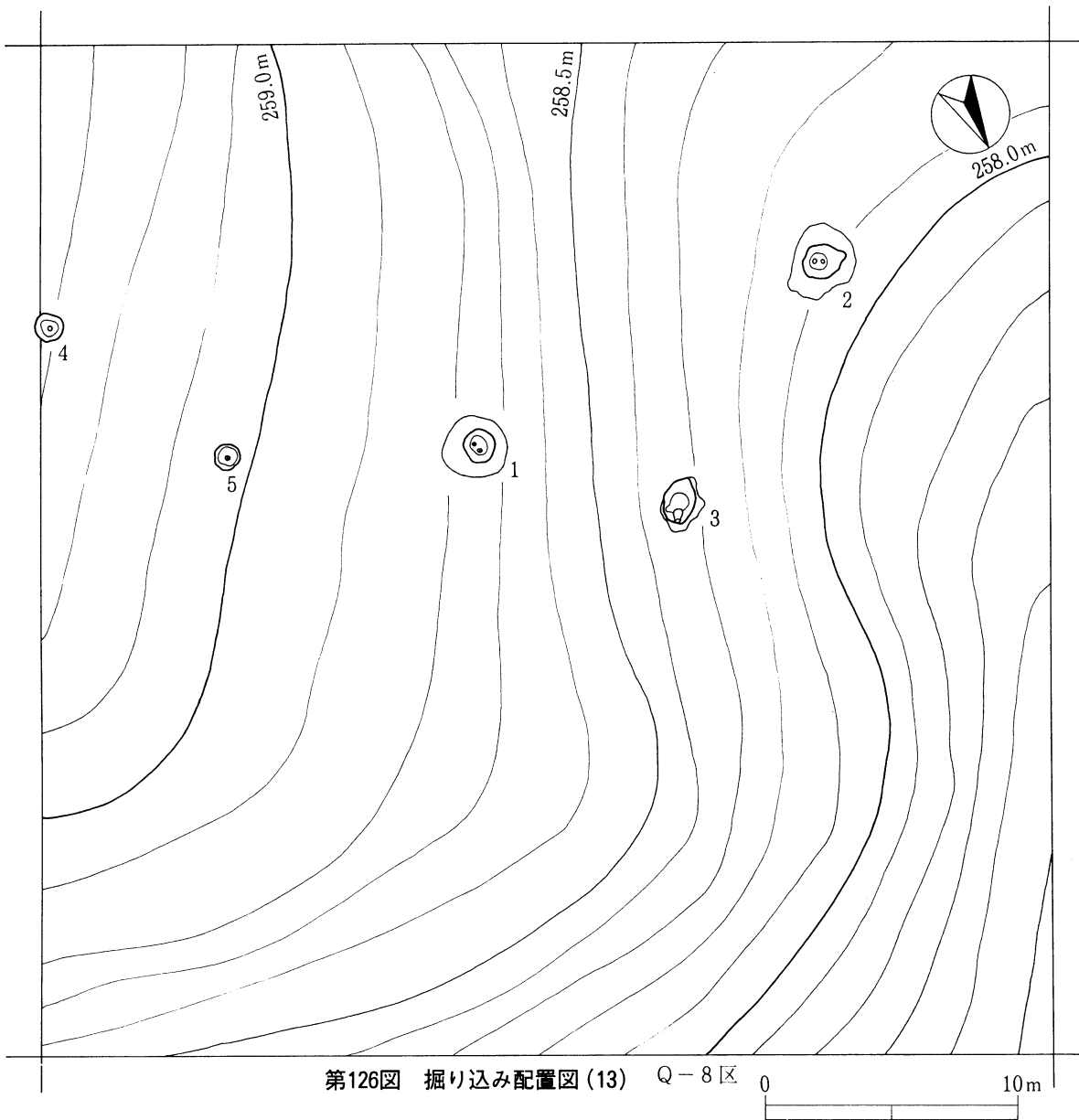
区	遺構番号	挿図	タイ°	検出層	標高m	上面長	上面幅	深さ	下面長	下面幅	方向	Pit数	径	深さ	角度
R 13	1	109	V	III	262.6	110	-	40	80	-	25	1	24	49	0
R 13	2	93	I a	IV	262.5	114	-	72	18	20	255	1	28	22	18
R 13	6	101	I a	VII	261.6	150	112	54	112	64	82	2	19	29	0
											41		54	25	15



掘り込み観察表(16)

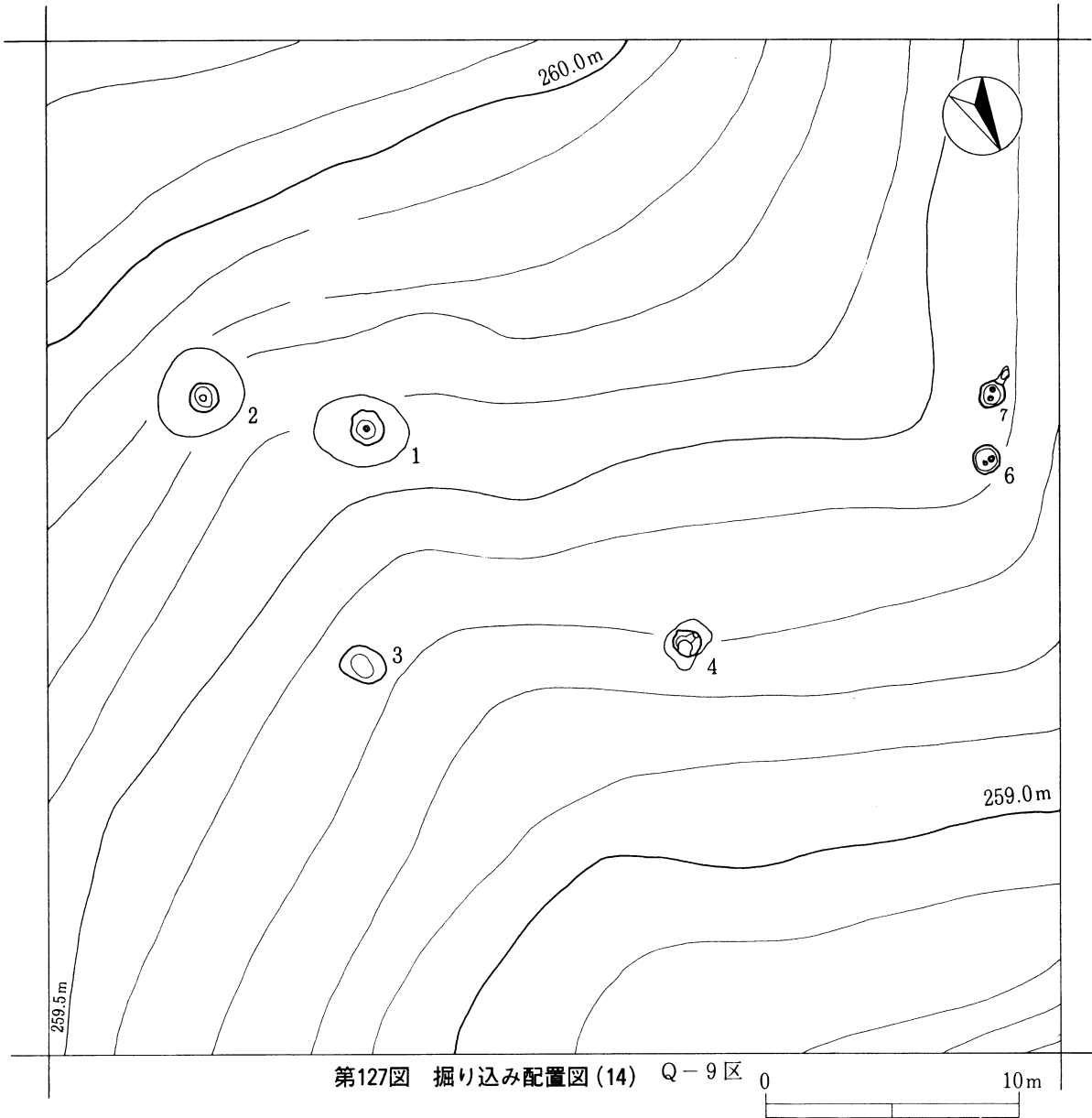
区	遺構番号	挿図	タイフ°	検出層	標高m	上面長	上面幅	深さ	下面長	下面幅	方向	Pit数	径	深さ	角度
Q 6	2	80	I a	V	256.60	122	86	40	60	69	105	1	30	30	28

区	遺構番号	挿図	タイフ°	検出層	標高m	上面長	上面幅	深さ	下面長	下面幅	方向	Pit数	径	深さ	角度
Q 7	3	86	I b	IV	257.64	195	177	68	90	69	154	1	10	54	11
Q 7	4	92	I b	IV	257.14	104	112	76	87	81	217	1	40	58	34
Q 7	6	113	III	IV	257.72	104	60	122	87	60	328	2	22	20	-
											-		10	18	-
Q 7	7	78	I a	VII	257.24	138	80	28	77	55	40	1	28	82	5



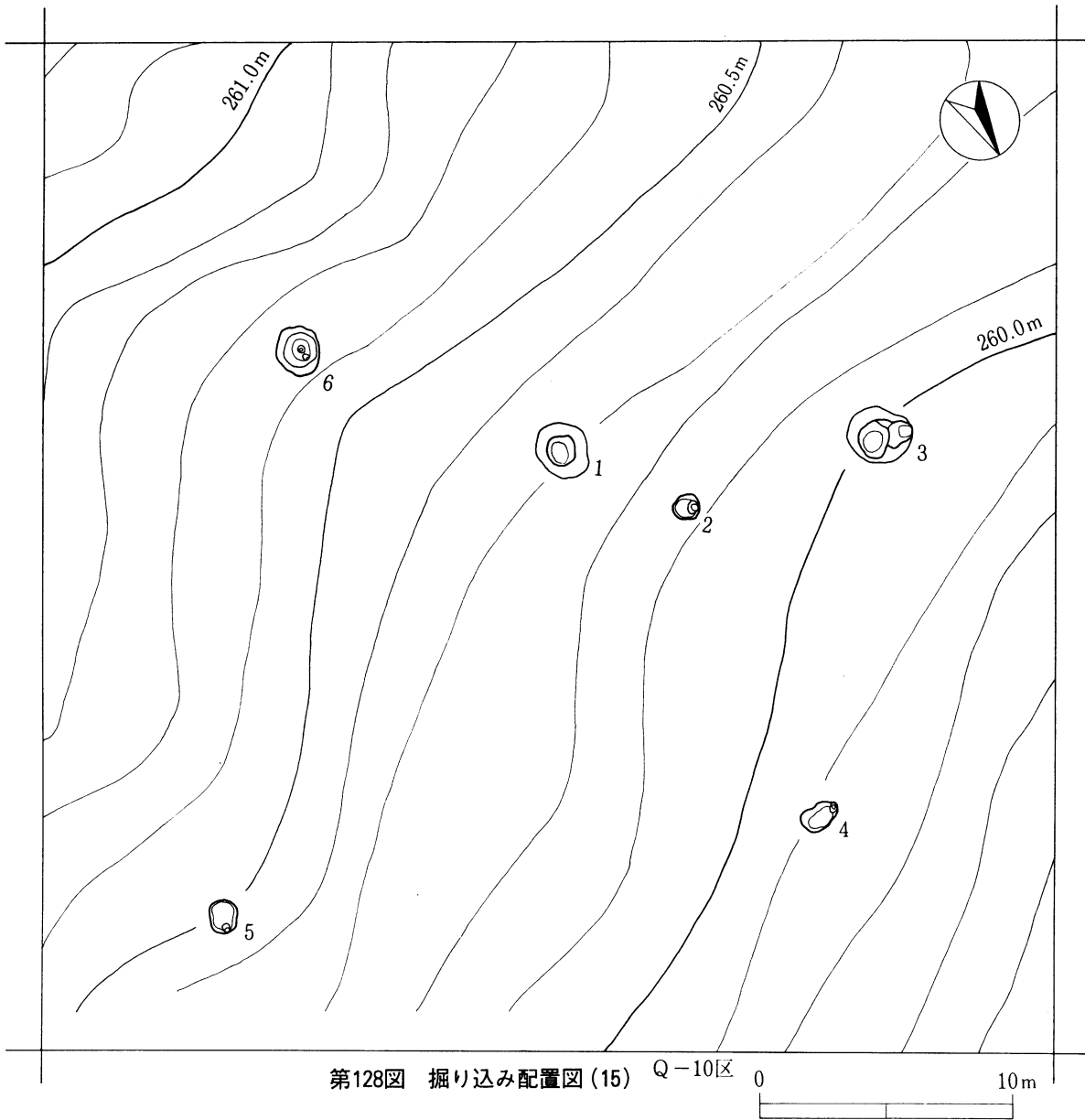
掘り込み観察表(17)

区	遺構番号	挿図	タイ°	検出層	標高m	上面長	上面幅	深さ	下面長	下面幅	方向	Pit数	径	深さ	角度
Q 8	3	90	I b	-	258.32	194	206	90	71	72	30	1	54	84	25



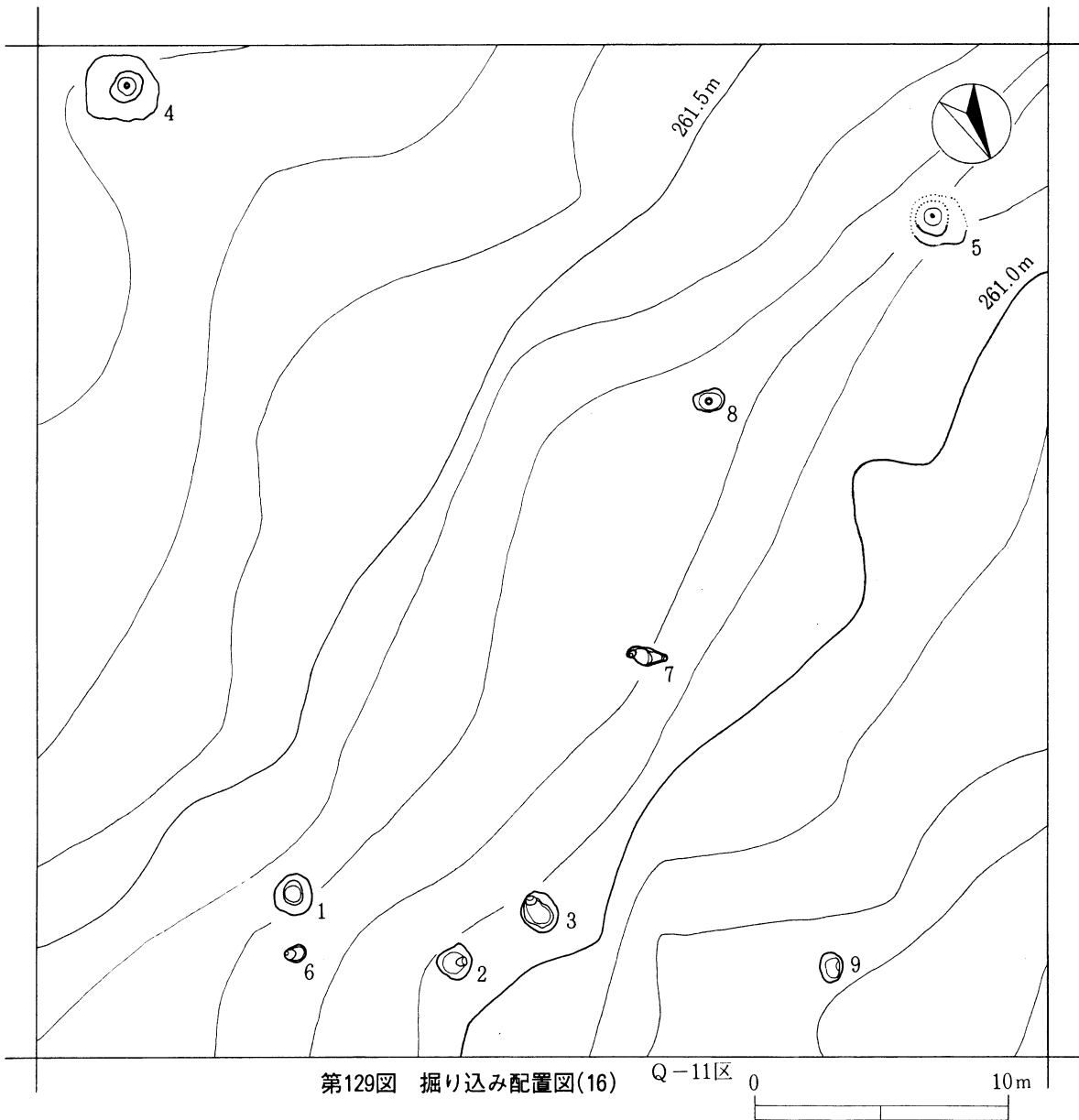
掘り込み観察表 (18)

区	遺構番号	挿図	タイプ	検出層	標高m	上面長	上面幅	深さ	下面長	下面幅	方向	Pit数	径	深さ	角度
Q 9	3	88	I b	IV	260.31	160	142	70	98	70	351	1	100	71	47
Q 9	4	99	III	IV	259.30	100	115	96	75	45	265	2	30	46	21
											19		74	50	28



掘り込み観察表(19)

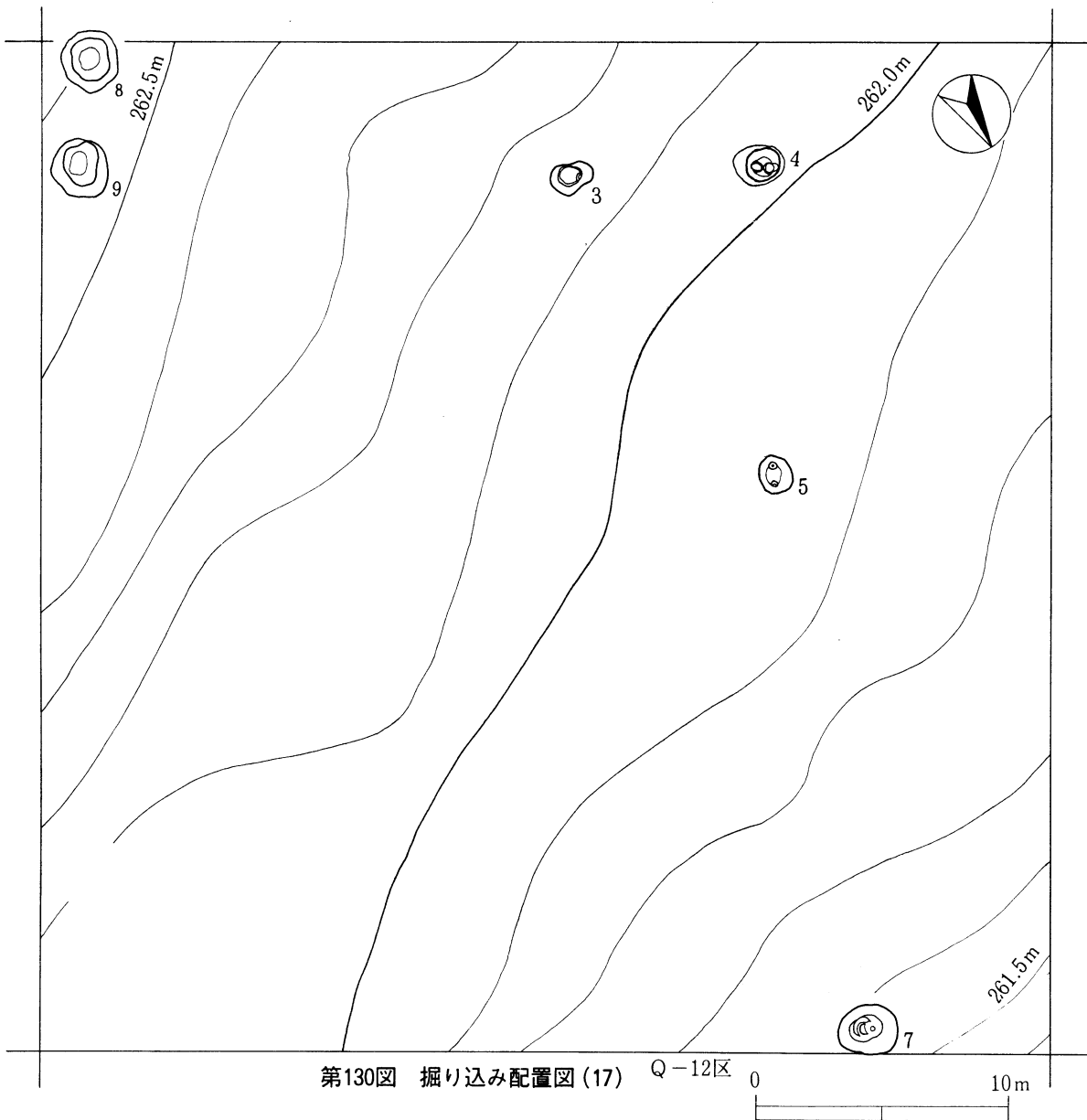
区	遺構番号	挿図	タイプ	検出層	標高m	上面長	上面幅	深さ	下面長	下面幅	方向	Pit数	径	深さ	角度
Q 10	4	76	I a	IV	259.89	157	80	68	144	61	305	1	23	30	0
Q 10	5	85	I b		260.48	128	110	115	111	75	347	1	28	17	3



掘り込み観察表 (20)

区	遺構番号	挿図	タイプ	検出層	標高m	上面長	上面幅	深さ	下面長	下面幅	方向	Pit数	径	深さ	角度
Q 11	1	110	VI a	IV	261.41	155	163	84	80	87	-	-	-	-	-
Q 11	2	100	III	IV	261.09	130	130	108	89	78	300	2	14	78	13
											155		17	9	12
Q 11	3	90	I b	IV	261.17	164	139	123	127	69	175	1	20	165	7
Q 11	6	79	I a	VI	260.43	83	61	14	61	54	102	1	41	74	11
Q 11	7	73	I a	VI	260.25	153	72	33	143	60	293	1	22	30	0
Q 11	8	108	V	VI	260.38	118	86	36	115	80	0	1	24	39	2
Q 11	9	110	VI a	VI	259.86	108	89	55	74	54	-	-	-	-	-
Q 11	11	111	VI b	IV	261.70	78	-	60	54	-	-	-	-	-	-
Q 11	12	80	I a	VI	259.82	74	59	46	65	37	180	1	21	31	14

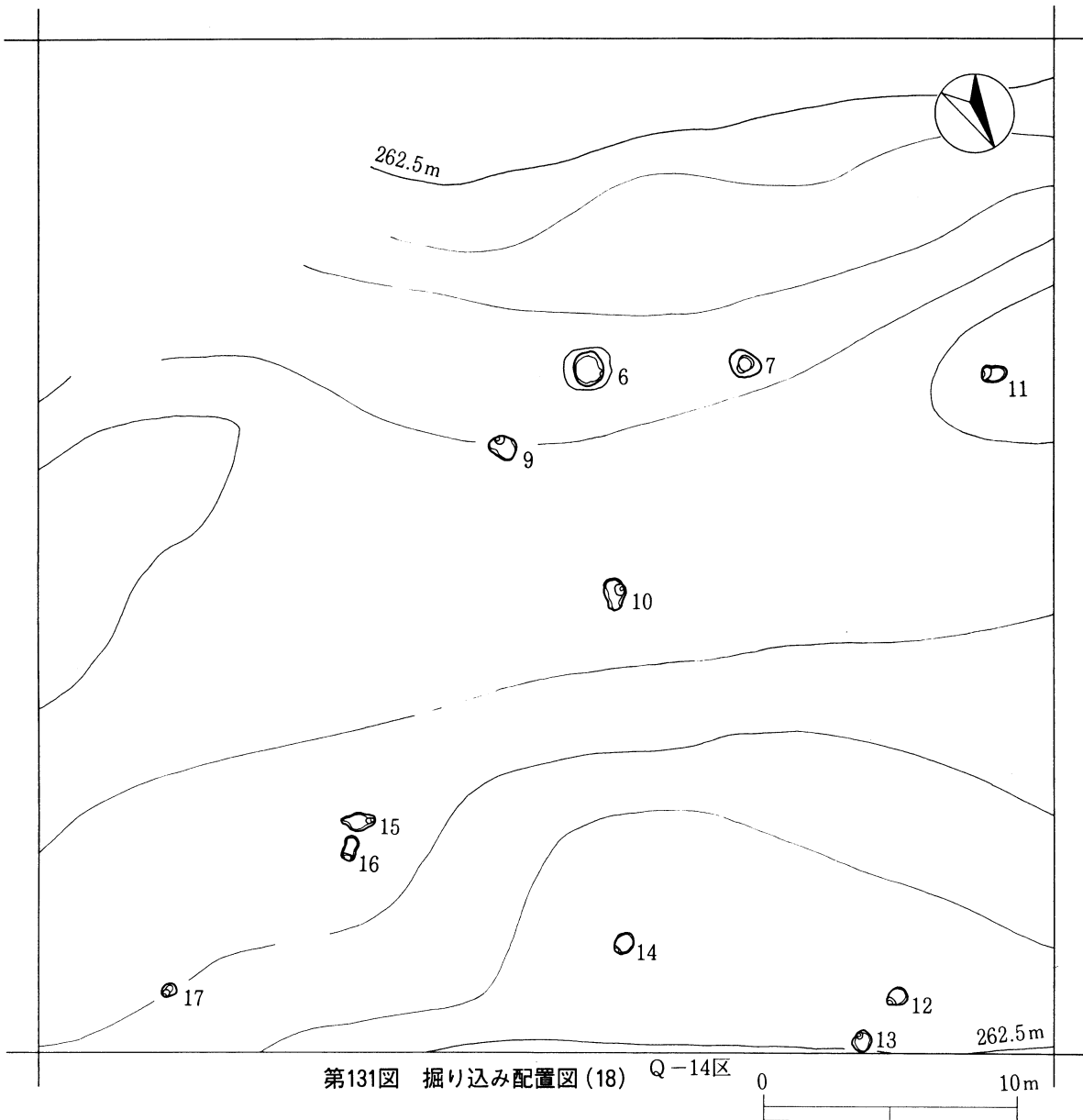




掘り込み観察表 (21)

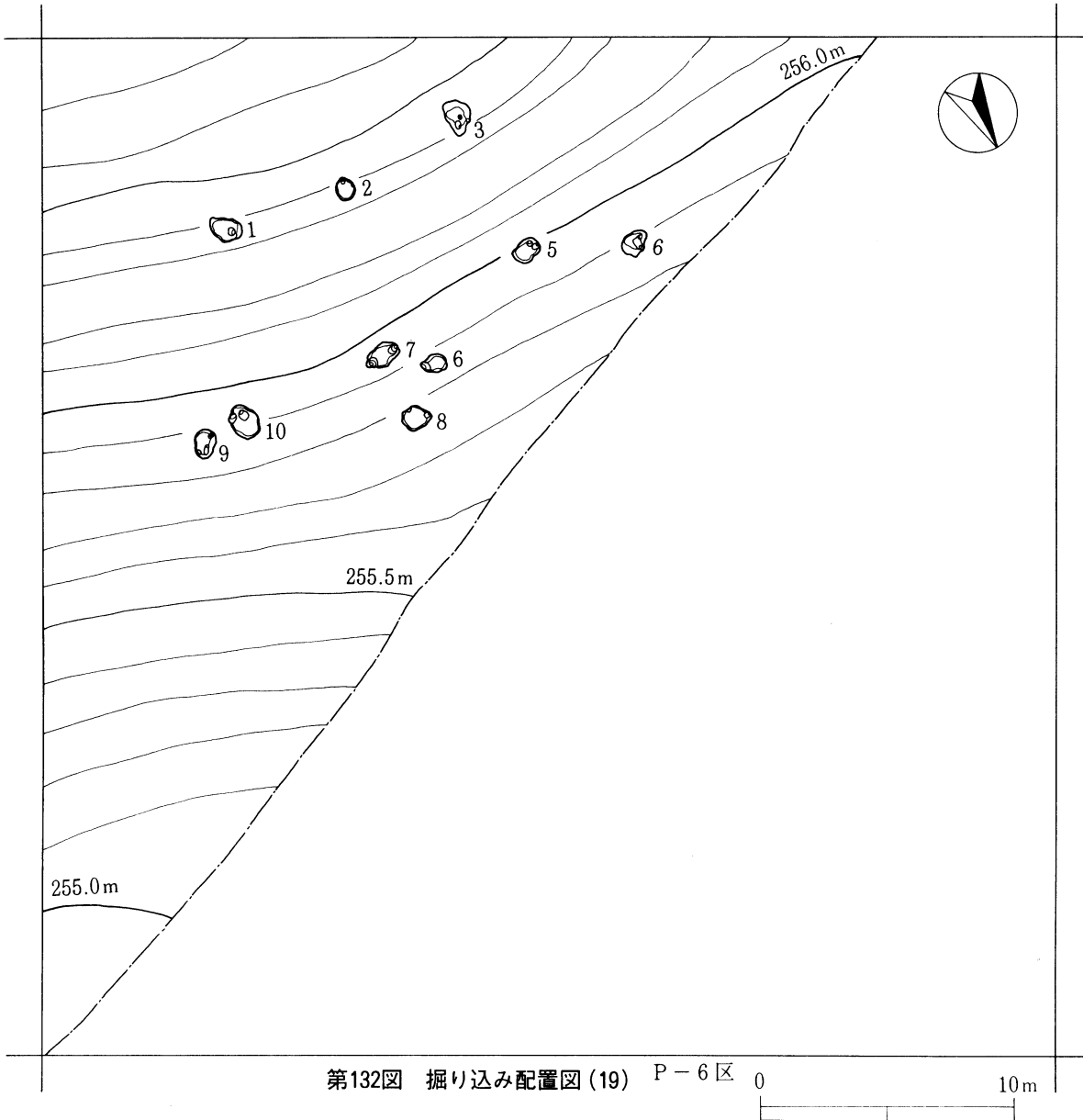
区	遺構番号	挿図	タイ°	検出層	標高m	上面長	上面幅	深さ	下面長	下面幅	方向	Pit数	径	深さ	角度
Q 12	2	89	I b	IV	262.17	99	95	57	91	74	130	1	27	71	7
Q 12	3	83	I a	IV	262.08	161	120	80	92	68	117	1	67	51	42
Q 12	4	89	I b	IV	262.03	192	159	78	109	105	300	1	26	47	23
Q 12	5	89	I b	IV	261.91	151	126	89	105	58	44	1	56	58	12
Q 12	7	106	IV	IV	261.64	237	186	102	125	104	40	1	48	53	0
Q 12	11	109	VI a	IV	262.01	156	120	58	103	87	-	-	-	-	-
Q 12	12	77	I a	VII	261.26	95	47	16	87	49	-	1	23	16	20
Q 12	13	83	I a	VII	261.28	103	-	48	86	-	-	1	40	-	0

区	遺構番号	挿図	タイ°	検出層	標高m	上面長	上面幅	深さ	下面長	下面幅	方向	Pit数	径	深さ	角度
Q 13	1	94	II a	VII	261.9	97	54	20	75	34	180	2	27	25	22
											57		22	33	0



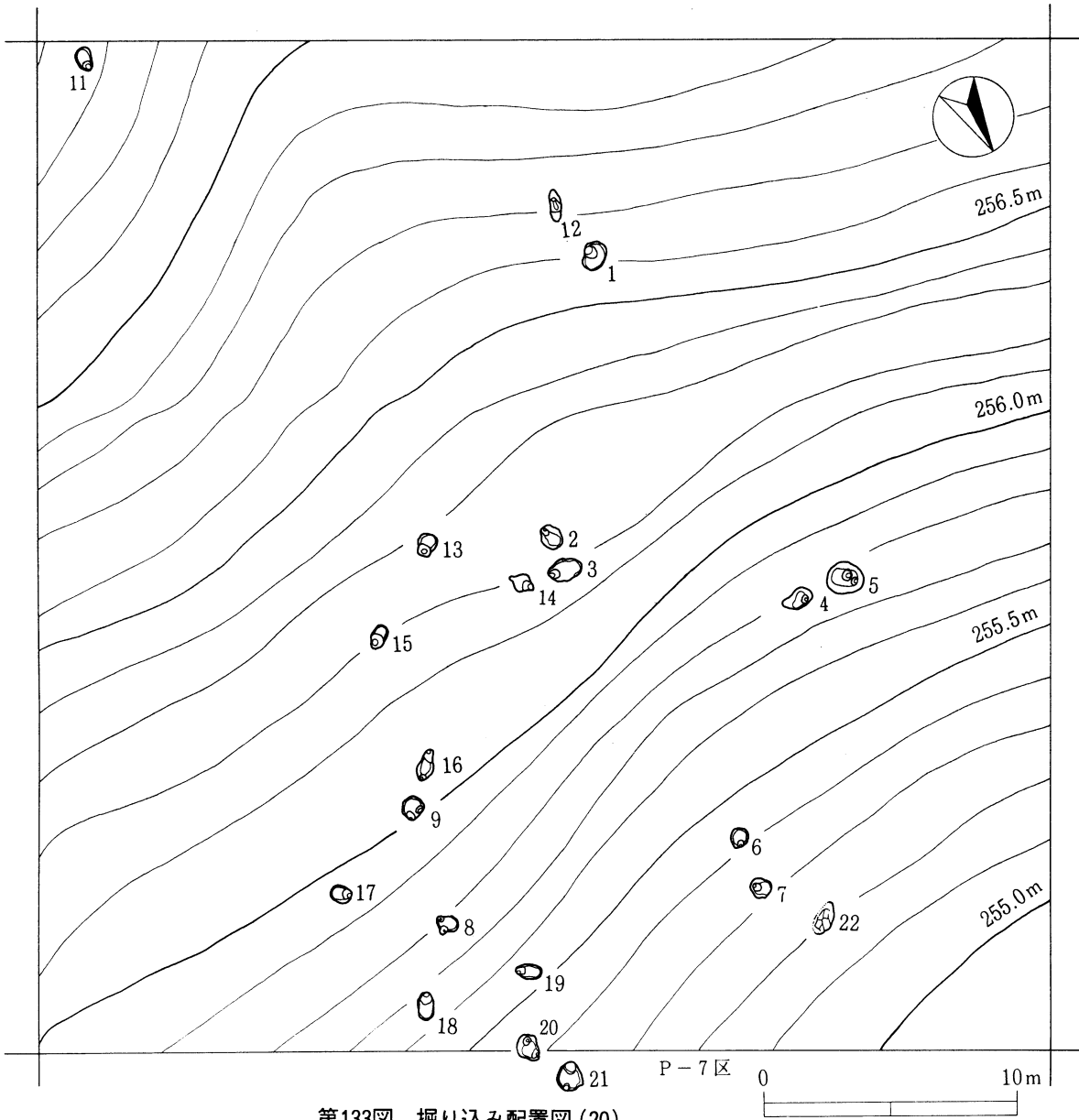
掘り込み観察表(22)

区	遺構番号	挿図	タイプ	検出層	標高m	上面長	上面幅	深さ	下面長	下面幅	方向	Pit数	径	深さ	角度
Q 14	6	87	I b	-	262.7	183	166	82	115	132	338	1	32	56	10
Q 14	7	109	VI a	IV	262.7	124	103	56	48	70	-	-	-	-	-
Q 14	9	92	I b	VI	263.05	110	86	9	104	76	164	1	27	27	26
Q 14	10	92	I b	VI	261.95	123	75	36	116	65	99	1	45	19	16
Q 14	11	83	I a	VI	262.02	97	56	37	86	52	110	1	55	44	22
Q 14	12	83	I a	VI	261.72	86	67	32	81	58	74	1	31	39	0
Q 14	13	89	I b	VI	261.92	83	77	51	73	56	194	1	26	27	0
Q 14	14	77	I a	VI	261.78	88	63	26	74	60	64	1	38	44	25
Q 14	15	77	I a	VI	262.15	134	65	44	126	59	-	-	-	-	-
Q 14	16	77	I a	VI	262.16	102	48	11	95	35	40	1	27	19	5
Q 14	17	83	I a	VI	262.10	55	55	47	28	28	-	1	58	38	25
Q 14	19	77	I a	VI	261.61	66	54	68	66	36	-	1	40	25	12
Q 14	20	109	VI a	VI	261.42	106	81	26	80	72	-	-	-	-	-



掘り込み観察表 (23)

区	遺構番号	挿図	タイプ°	検出層	標高m	上面長	上面幅	深さ	下面長	下面幅	方向	Pit数	径	深さ	角度
P 6	1	86	I b	IV	256.24	128	92	46	88	78	352	1	24	50	0
P 6	2	84	I b	IV	256.28	84	74	56	74	62	200	1	14	52	14
P 6	3	102	III	IV	256.32	142	102	80	74	60	320	3	16	30	8
											320		26	23	42
											32		25	36	8
P 6	4	99	III	IV	255.88	104	86	6	30	24	292	1	24	14	19
P 6	5	100	III	IV	255.94	106	80	50	85	63	272	2	18	12	4
											233	2	10	9	13
P 6	6	95	I a	IV	255.84	94	63	50	72	51	99	1	28	34	30
P 6	7	96	II a	IV	255.88	143	82	48	105	65	265	2	24	100	10
											85	2	35	115	6
P 6	8	101	III	IV	255.78	95	105	60	81	88	224	2	30	16	23
											275		13	4	33
P 6	9	99	III	IV	255.86	108	84	60	86	60	250	3	20	35	0
											70		10	28	0
											0		11	28	15

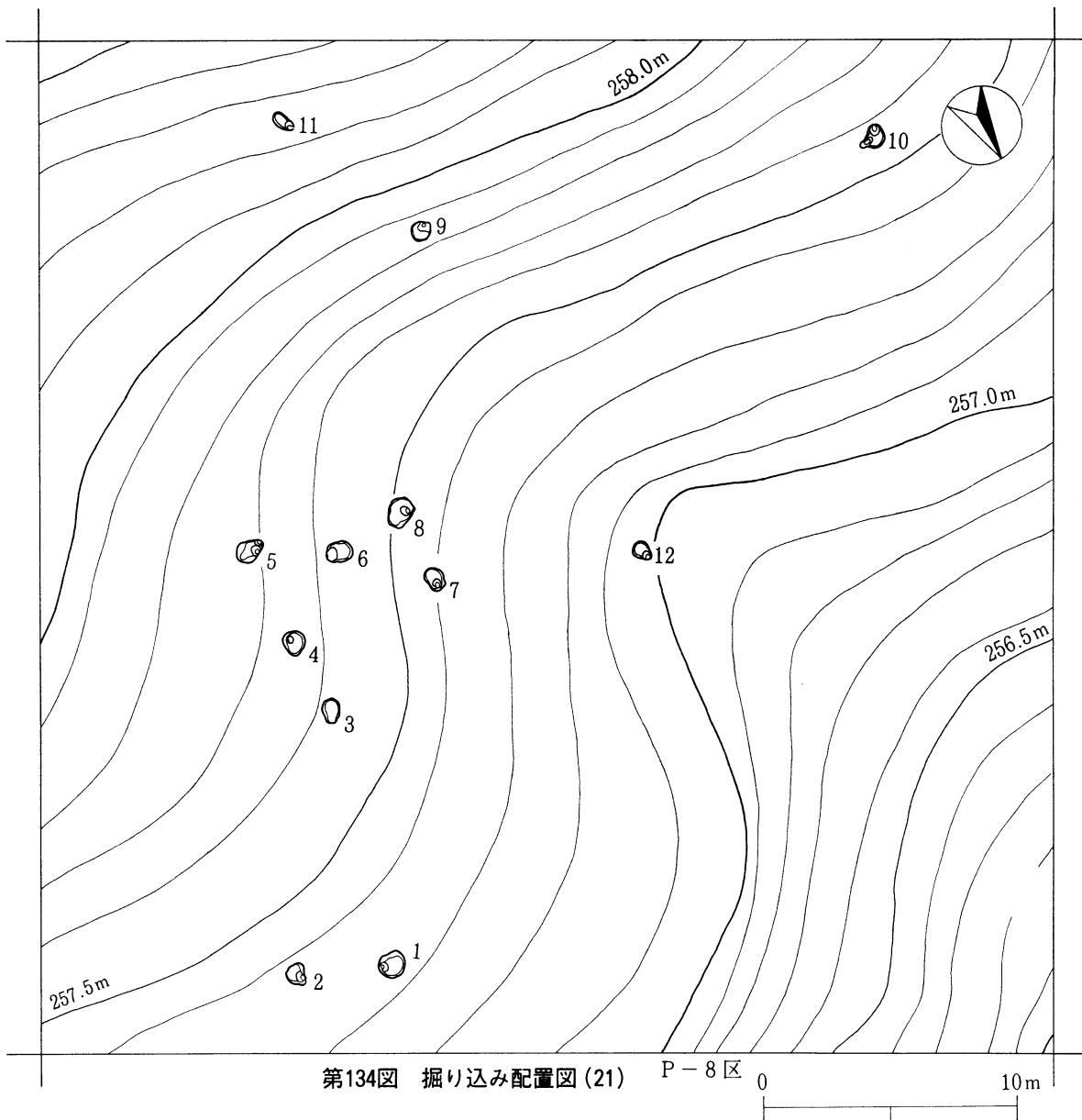


第133図 掘り込み配置図(20)

掘り込み観察表(24)

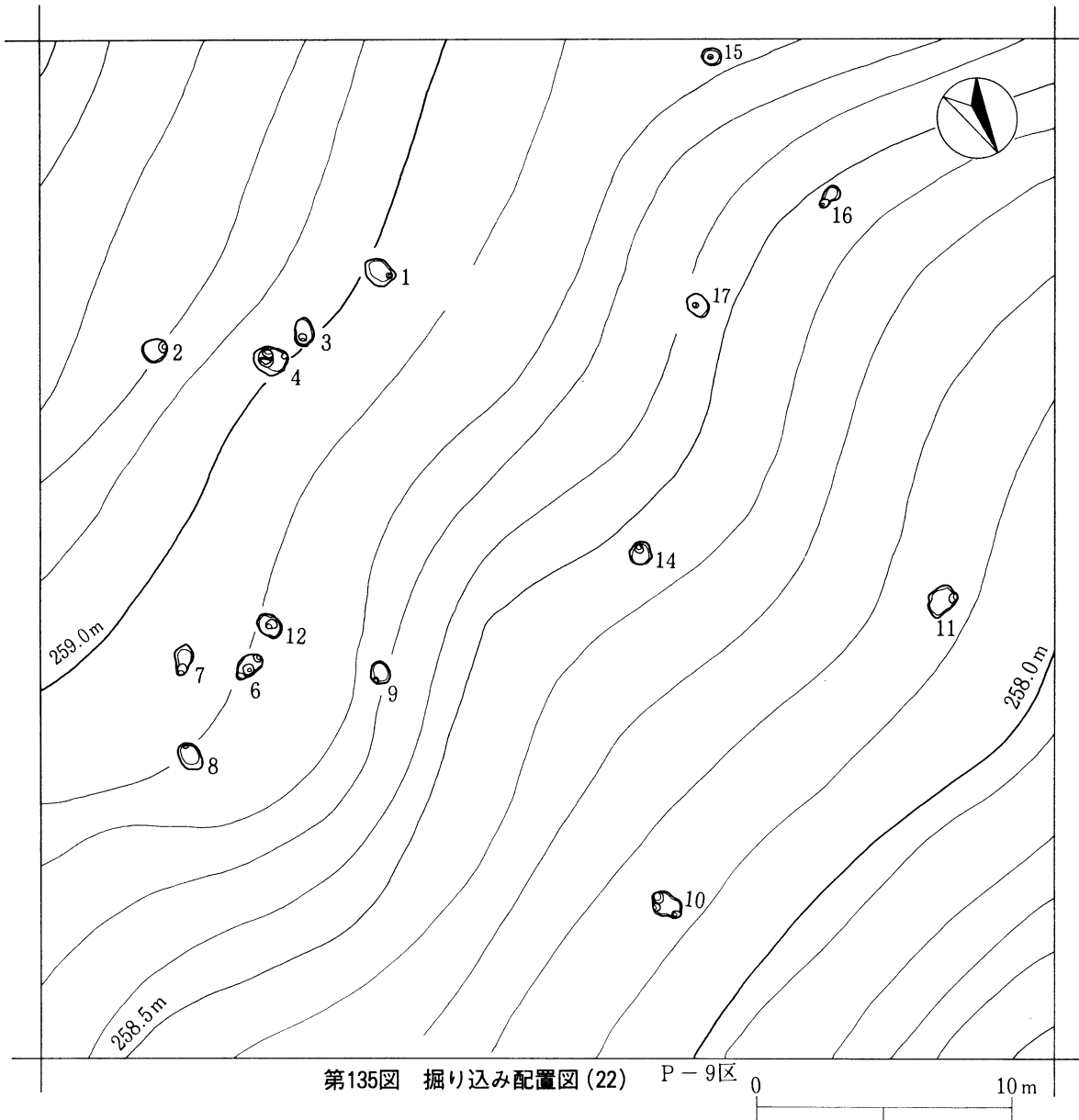
区	遺構番号	挿図	タイ°	検出層	標高m	上面長	上面幅	深さ	下面長	下面幅	方向	Pit数	径	深さ	角度
P 6	10	107	III	-	255.96	138	106	55	121	99	204	2	40	63	10
											149		34	66	5

区	遺構番号	挿図	タイ°	検出層	標高m	上面長	上面幅	深さ	下面長	下面幅	方向	Pit数	径	深さ	角度
P 7	1	85	I b	IV	256.30	90	116	50	70	94	146	1	28	43	13
P 7	2	91	I b	IV	255.88	104	83	66	70	44	170	1	37	66	2
P 7	3	79	I a	IV	255.80	132	85	34	124	74	112	1	40	50	3
P 7	4	108	IV	IV	255.62	103	83	68	48	54	298	1	24	51	7
P 7	5	113	IV	V	255.64	141	132	121	86	84	260	2	26	60	1
											305		37	70	5
P 7	6	90	I b	IV	254.96	72	62	30	60	52	37	1	28	44	10
P 7	7	91	I b	IV	254.94	86	75	55	64	50	140	1	34	83	2
P 7	8	98	III	IV	255.48	73	57	25	69	51	70	2	24	81	0
											157		30	92	0



掘り込み観察表(25)

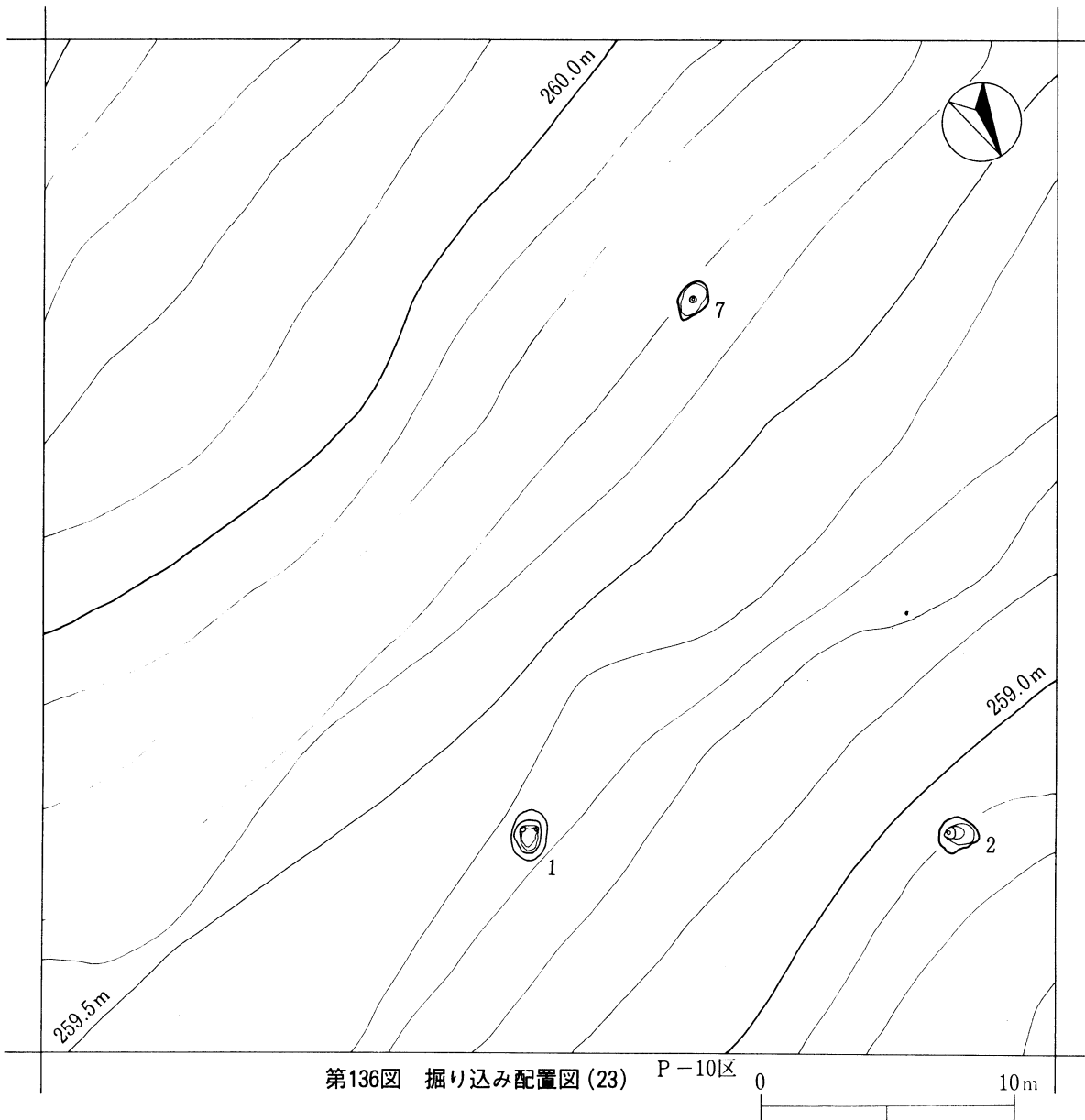
区	遺構番号	挿図	タイプ	検出層	標高m	上面長	上面幅	深さ	下面長	下面幅	方向	Pit数	径	深さ	角度
P 7	9	98	III	IV	255.34	82	86	43	74	70	34	2	26	62	11
											308		33	38	7
P 7	11	81	I a	-	256.72	89	60	38	65	37	20	1	37	64	24
P 7	12	81	I a	VII	255.94	130	44	8	52	13	-	-	-	-	-
P 7	13	95	I b	-	255.44	90	75	20	62	53	56	1	44	56	2
P 7	14	84	I b	-	255.28	86	73	34	60	64	328	1	34	45	5
P 7	15	81	I a	VII	255.38	97	56	15	55	50	61	1	62	48	3
P 7	16	95	II a	-	255.20	129	59	10	73	32	50	2	22	49	0
											230		19	18	0
P 7	17	75	I a	-		82	66	10	73	46	125	1	36	47	14
P 7	18	93	I a	VII	254.92	108	63	32	83	55	30	1	30	32	34
P 7	19	78	I a	VII	254.92	96	55	14	77	44	115	1	30	93	5
P 7	20	97	III	VII	254.78	85	98	46	59	70	342	2	20	38	22
											189		25	48	13
P 7	21	95	II b	VII	254.68	115	99	23	97	75	45	2	30	24	6
											45		50	65	8



掘り込み観察表 (26)

区	遺構番号	挿図	タイプ	検出層	標高m	上面長	上面幅	深さ	下面長	下面幅	方向	Pit数	径	深さ	角度
P 7	22	102	I a	-	254.44	70	86	38	40	48	112	1	25	10	0
P 7	23	110	VI b	-	254.08	109	76	16	92	64	-	-	-	-	-

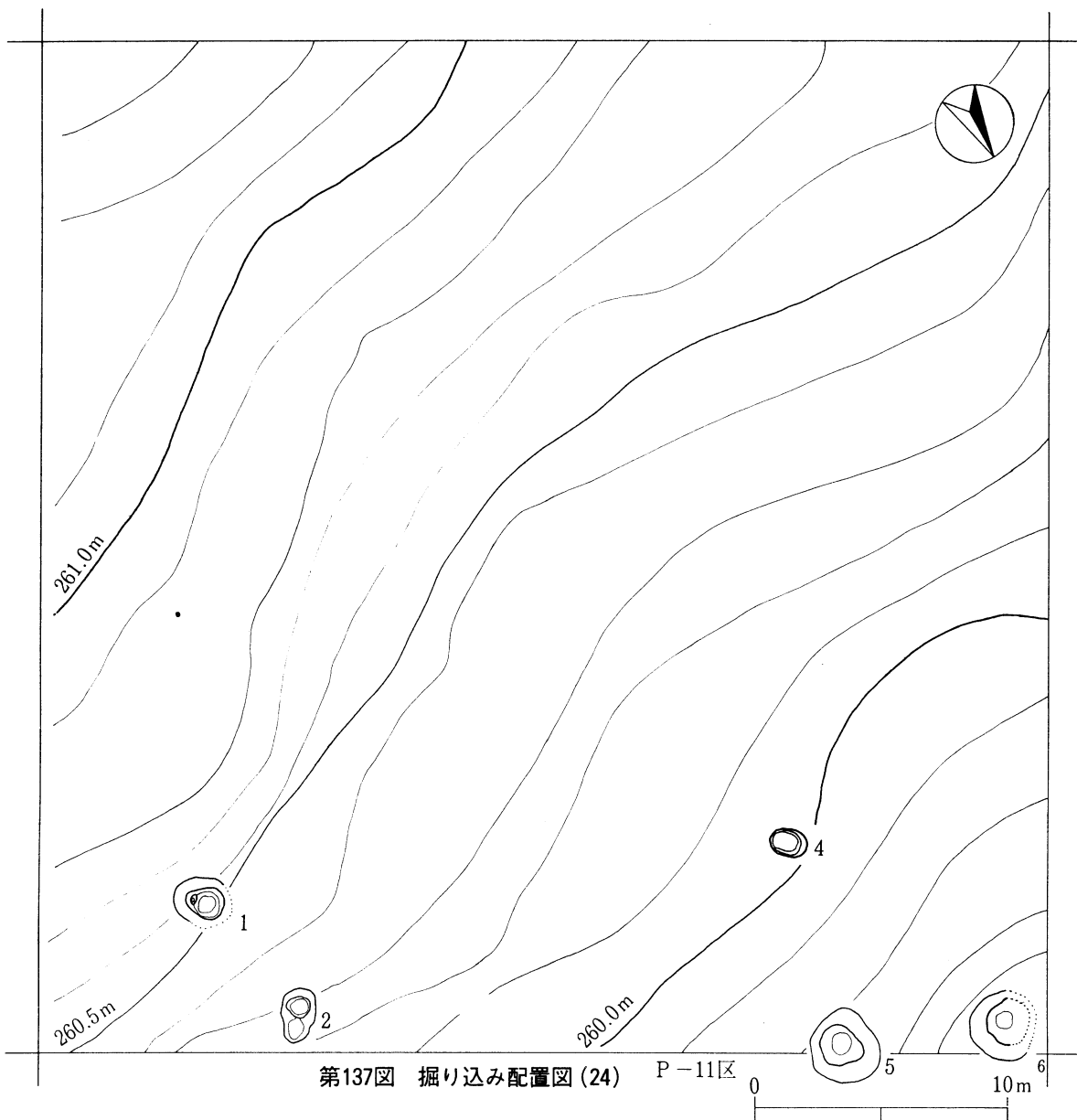
区	遺構番号	挿図	タイプ	検出層	標高m	上面長	上面幅	深さ	下面長	下面幅	方向	Pit数	径	深さ	角度
P 8	1	92	I b	-	257.20	103	106	55	75	70	120	1	28	98	7
P 8	2	85	I b	IV	257.24	80	84	84	66	66	310	1	35	29	13
P 8	3	110	VI b	-	257.44	96	70	25	87	52	30	1	35	98	25
P 8	4	91	I b	-	257.28	88	97	56	59	90	120	1	25	48	19
P 8	5	99	III	-	257.5	119	80	24	106	58	270	2	16	38	0
											305		23	38	0
P 8	6	80	I a	IV	257.36	107	80	50	88	67	105	1	42	61	23
P 8	7	72	I a	IV	257.28	93	70	53	68	55	356	1	32	55	1
P 8	8	86	I b	IV	257.12	115	101	50	106	85	274	1	32	56	12
P 8	9	86	I b	-	257.30	81	77	30	68	64	234	1	36	27	5
P 8	10	99	III	-	257.08	108	82	22	62	74	90	2	36	60	0
											180		33	41	0



掘り込み観察表(27)

区	遺構番号	挿図	タイプ°	検出層	標高m	上面長	上面幅	深さ	下面長	下面幅	方向	Pit数	径	深さ	角度
P 8	11	76	I a	VII	257.56	100	48	70	72	43	160	1	40	42	3
P 8	12	73	I a	VII	256.18	20	62	18	63	50	346	1	36	38	33
P 8	13	83	I a	IV	256.08	95	76	90	90	-	-	1	22	44	12

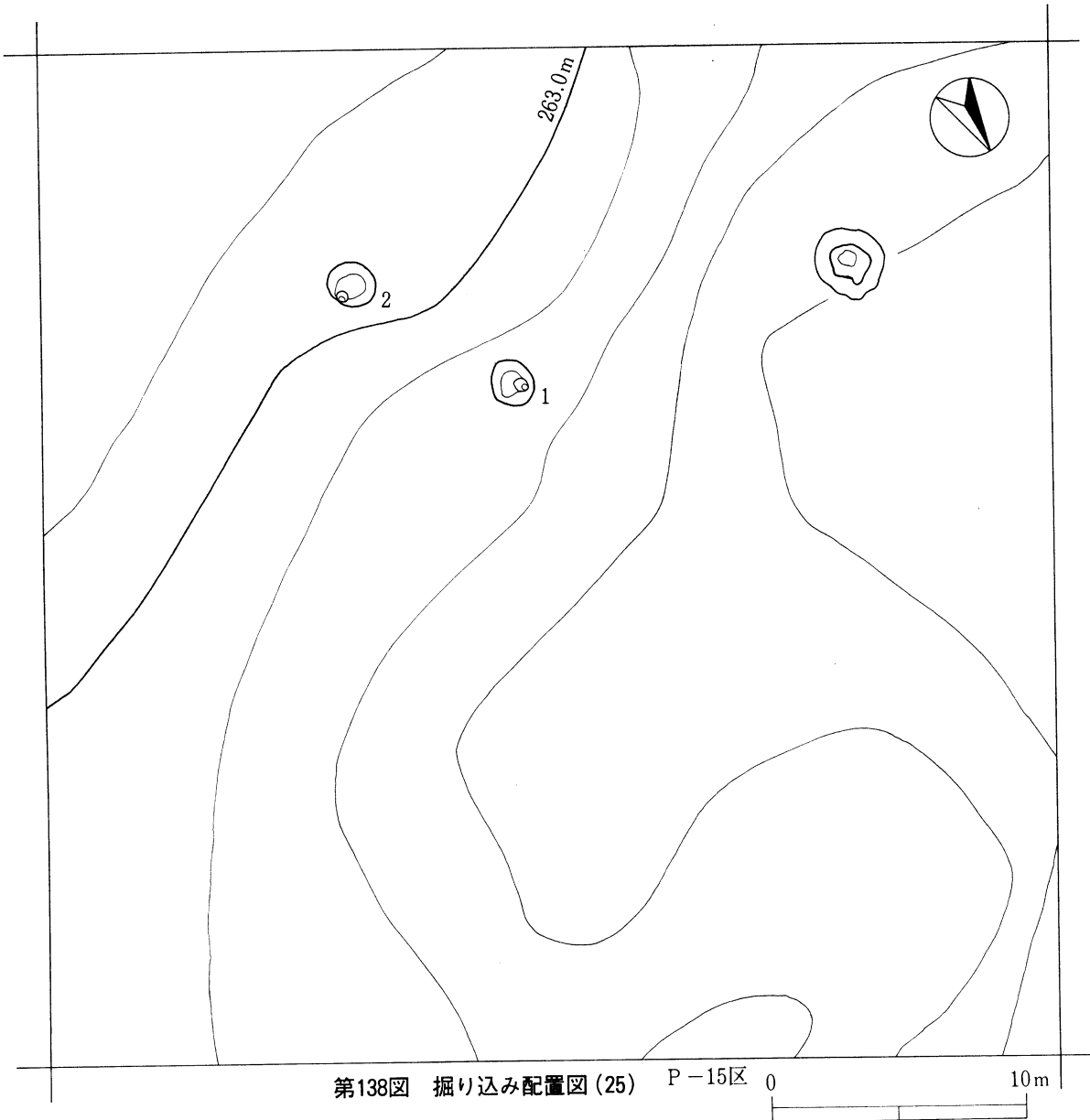
区	遺構番号	挿図	タイプ°	検出層	標高m	上面長	上面幅	深さ	下面長	下面幅	方向	Pit数	径	深さ	角度
P 9	1	85	I b	-	258.98	128	118	80	90	60	226	1	24	44	25
P 9	2	91	I b	-	258.88	98	54	84	85	77	75	1	42	56	18
P 9	3	85	I b	-	258.96	116	64	72	77	64	216	1	30	50	2
P 9	4	107	III	IV	259.00	138	128	118	107	78	154	3	32	82	0
											116		26	66	0
											261		23	50	22
P 9	6	102	III	IV	258.82	124	78	66	94	65	282	3	22	42	0
											345		40	56	0
											107		44	54	0
P 9	7	72	I a	-	258.92	120	84	56	78	55	44	1	42	72	9



掘り込み観察表 (28)

区	遺構番号	挿図	タイプ°	検出層	標高m	上面長	上面幅	深さ	下面長	下面幅	方向	Pit数	径	深さ	角度
P 9	8	101	I a	IV	258.80	114	84	72	80	63	180	2	16	22	1
											0		20	32	14
P 9	9	85	I b	-	258.66	96	80	64	66	55	44	1	22	72	4
P 9	10	101	III	-	258.04	132	90	72	120	73	349	3	32	75	0
											165		40	35	0
											127		25	30	0
P 9	11	91	I b	IV	258.18	136	46	70	96	82	250	1	80	48	11
P 9	12	108	V	VII	257.86	94	76	24	85	70	154	1	42	34	4
P 9	13	110	VI a	VII	257.56	98	94	42	57	50	-	-	-	-	-
P 9	14	84	I b	VII	257.74	92	84	28	65	69	205	1	40	36	8
P 9	15	108	V	VII	256.90	72	64	16	58	50	116	1	18	18	0
P 9	16	82	I a	-	256.62	96	62	14	53	59	74	1	34	50	18
P 9	17	108	V	VII	257.82	100	76	66	78	78	287	1	18	28	0



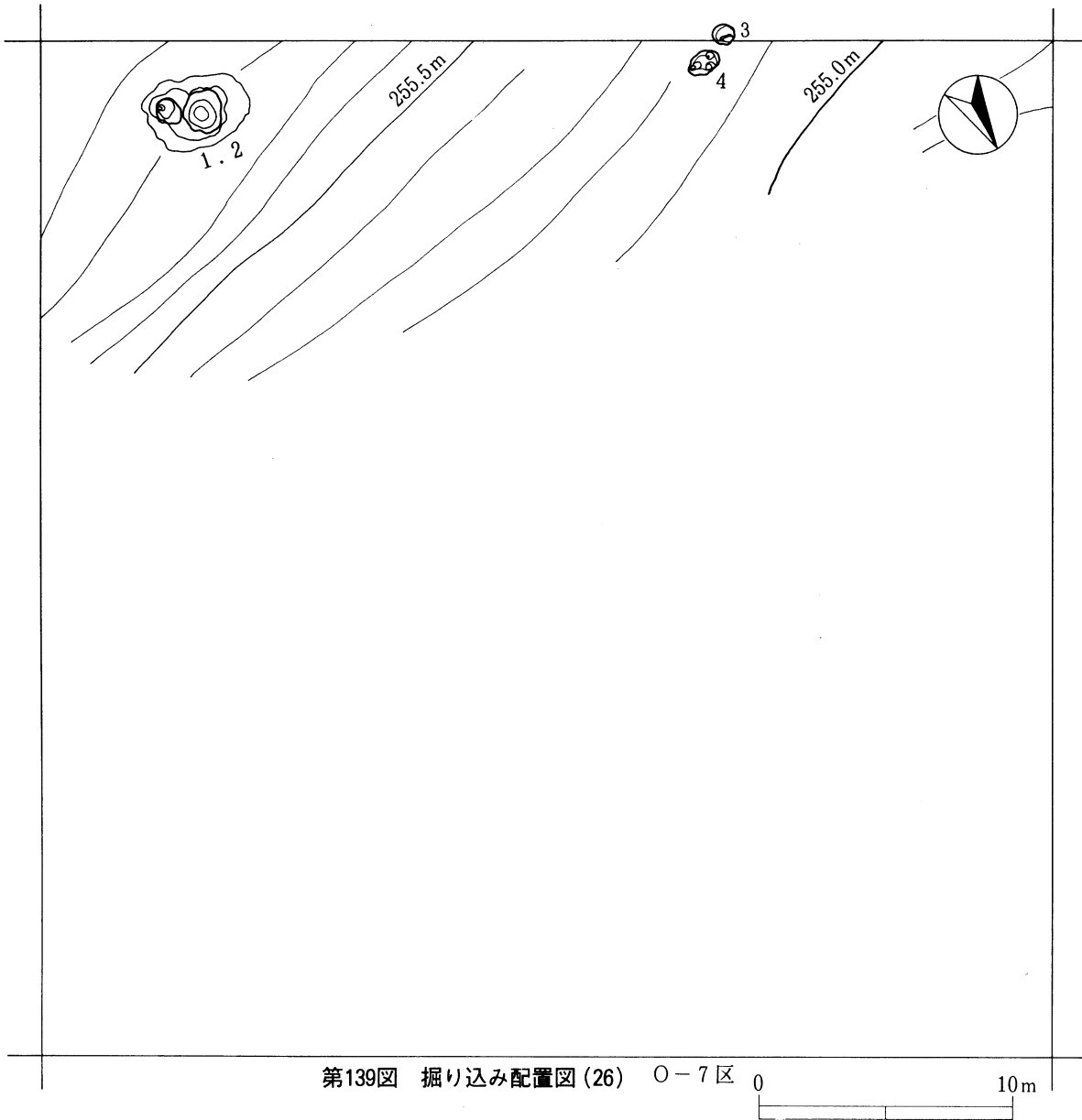


掘り込み観察表(29)

区	遺構番号	挿図	タイ°	検出層	標高m	上面長	上面幅	深さ	下面長	下面幅	方向	Pit数	径	深さ	角度
P 10	2	90	I b	V	259.08	163	134	77	118	57	156	1	34	16	26
P 10	3	108	V	-	259.60	162	115	51	131	81	97	1	27	35	23
P 10	4	73	I a	VI	259.56	108	71	32	96	54	-	1	35	44	15
P 10	5	81	I a	VI	260.1	79	64	18	136	94	90	1	34	26	38
P 10	6	80	I a	VI	259.50	82	67	35	160	106	107	1	36	47	14
P 10	7	108	V	VI	259.06	160	157	51	131	82	55	1	33	52	0

区	遺構番号	挿図	タイ°	検出層	標高m	上面長	上面幅	深さ	下面長	下面幅	方向	Pit数	径	深さ	角度
P 11	4	111	VI b	IV	260.02	145	103	66	92	73	53	1	26	90	0
P 11	7	84	I b	VI	250.34	77	75	25	70	75	-	1	28	67	7

区	遺構番号	挿図	タイ°	検出層	標高m	上面長	上面幅	深さ	下面長	下面幅	方向	Pit数	径	深さ	角度
P 13	8	109	V	IV	264.00	157	163	74	32	45	210	1	39	76	0

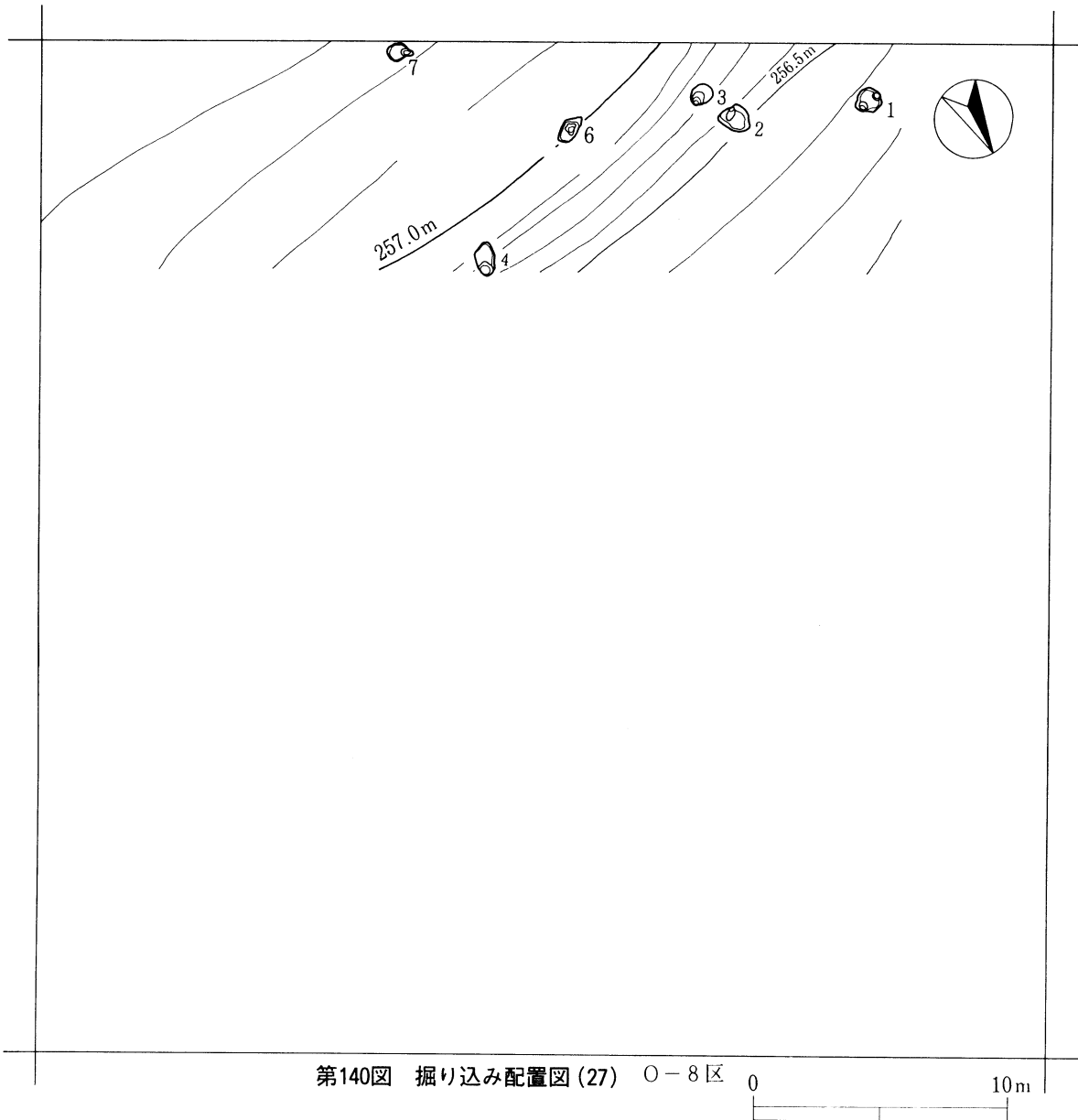


掘り込み観察表 (30)

区	遺構番号	挿図	タイ°	検出層	標高m	上面長	上面幅	深さ	下面長	下面幅	方向	Pit数	径	深さ	角度
P 15	1	87	I b	IV	261.7	170	184	140	196	184	310	1	47	71	14
P 15	2	87	I b	IV	262.1	198	194	77	192	110	328	1	40	78	0

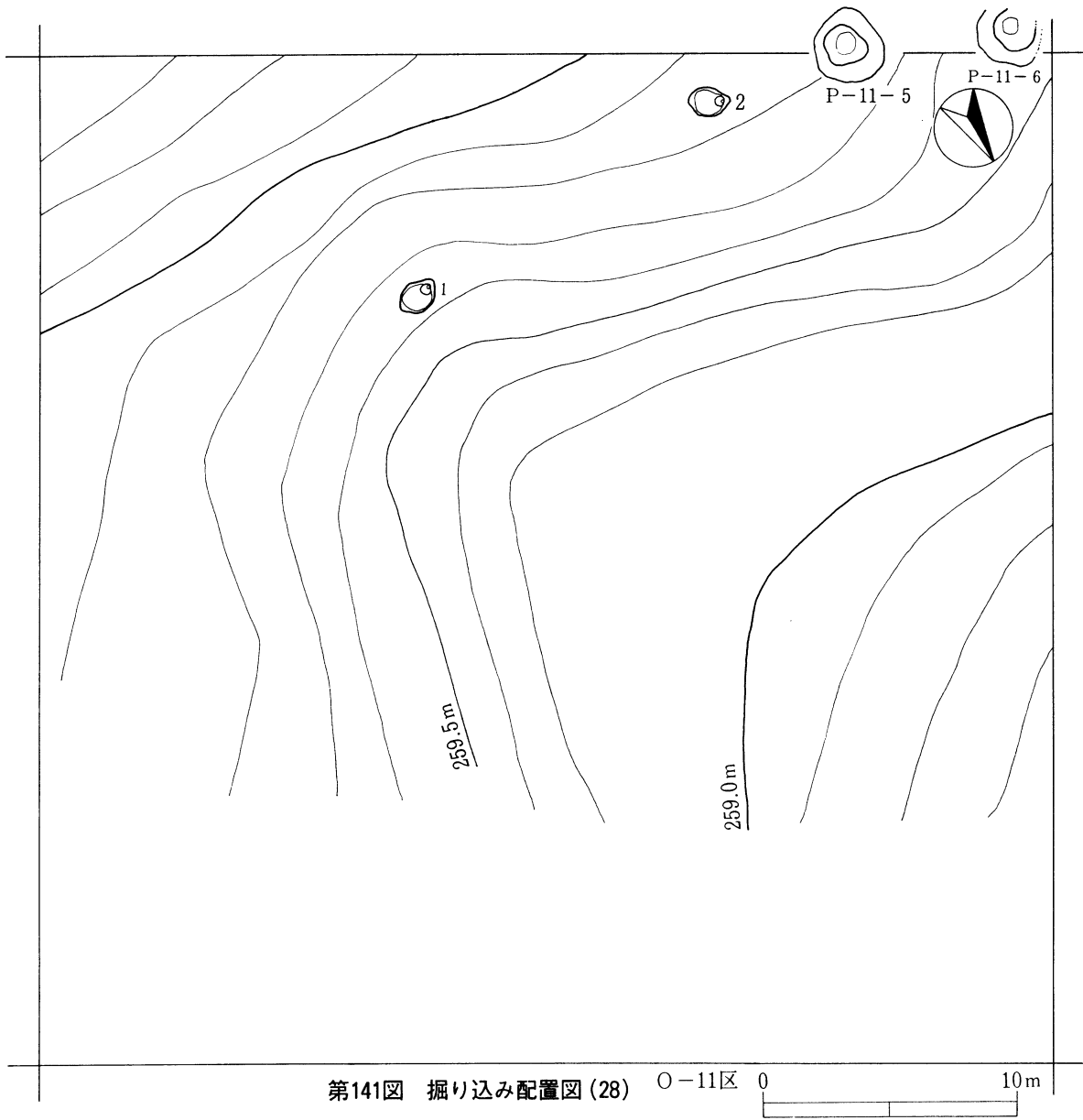
区	遺構番号	挿図	タイ°	検出層	標高m	上面長	上面幅	深さ	下面長	下面幅	方向	Pit数	径	深さ	角度
P 16	1	112	VI b	VII	262.22	103	76	53	106	114	-	-	-	-	-

区	遺構番号	挿図	タイ°	検出層	標高m	上面長	上面幅	深さ	下面長	下面幅	方向	Pit数	径	深さ	角度
O 7	3	112	VI b	IV	254.96	87	83	52	73	55	-	-	-	-	-
O 7	4	94	III	IV	254.88	122	82	75	83	55	300	3	36	43	18
											120		45	45	21
											82		22	23	17
O 7	7(1)	112	VIII	-	255.82	65	65	8	57	57	-	-	-	-	-
O 7	7(2)	112	VIII	-	255.78	62	70	5	58	59	-	-	-	-	-
O 7	7(3)	112	VIII	-	255.76	55	61	5	52	55	-	-	-	-	-



掘り込み観察表(31)

区	遺構番号	挿図	タイプ	検出層	標高m	上面長	上面幅	深さ	下面長	下面幅	方向	Pit数	径	深さ	角度
O 8	1	94	II b	-	256.20	98	94	47	83	78	80	2	30	60	8
											260		27	125	0
O 8	2	103	I b	-	256.40	117	104	104	105	100	160	1	51	58	3
O 8	3	89	I b	-	256.54	93	78	54	73	60	77	1	38	44	16
O 8	4	77	I a	IV	256.60	128	76	18	12	58	25	1	55	116	20
O 8	5	113	I a	VI	256.34	86	52	21	47	35	237	1	41	40	0
O 8	6	113	IV	VII	256.38	121	64	100	91	59	255	1	41	45	10
O 8	7	113	I a	VII	256.52	107	64	40	69	57	307	1	51	36	2



掘り込み観察表 (32)

区	遺構番号	挿図	タイプ	検出層	標高m	上面長	上面幅	深さ	下面長	下面幅	方向	Pit数	径	深さ	角度	
O 9	1	104	III	IV	258.32	178	165	135	82	88	312	2	45	36	5	
													24	38	42	10
O 9	2	104	IV	IV	258.16	200	89	129	105	54	298	3	26	40	0	
													118	43	32	10
													118	13	11	10
O 9	5	104	III	IV	258.1	107	88	115	75	72	48	2	43	13	20	
													174	38	39	0
O 9	6	104	IV	-	258.04	162	140	90	78	66	18	3	28	32	5	
													34	43	62	10
													63	34	50	3
O 9	7	103	IV	-	257.96	165	170	92	47	43	271	4	33	47	17	
													2	28	36	4
													47	39	45	7
													343	32	37	1

掘り込み観察表 (33)

区	遺構番号	挿図	タイ°	検出層	標高m	上面長	上面幅	深さ	下面長	下面幅	方向	Pit数	径	深さ	角度						
○ 9	8	103	IV	-	257.8	157	110	91	100	75	258	3	30	20	0						
																		67	30	45	24
																		223	45	60	0
○ 9	10	103	IV	IV	258.12	112	-	47	86	-	27	1	20	47	5						
○ 9	11	89	I b	IV	258.36	11	104	86	81	55	268	1	42	67	12						
○ 9	13	103	IV	VII	257.24	132	100	50	80	122	0	2	25	26	13						
																		226	30	30	0
○ 9	14	94	III	VII	257.36	110	80	50	78	65	314	2	41	40	2						
																		335	36	53	25
○ 9	15	83	VII	VII	257.3	77	58	45	46	43	153	1	35	31	16						

区	遺構番号	挿図	タイ°	検出層	標高m	上面長	上面幅	深さ	下面長	下面幅	方向	Pit数	径	深さ	角度
○ 11	1	109	V	-	259.66	157	169	71	112	113	96	1	43	100	0
○ 11	2	77	I a	-	259.86	147	118	72	112	87	307	1	42	52	13

区	遺構番号	挿図	タイ°	検出層	標高m	上面長	上面幅	深さ	下面長	下面幅	方向	Pit数	径	深さ	角度
○ 14	1	112	VIII	IV	262.17	96	90	12	89	69	-	-	-	-	-
○ 14	2	112	VIII	IV	262.22	100	100	13	94	92	-	-	-	-	-
○ 14	3	112	VIII	IV	262.16	92	84	11	82	67	-	-	-	-	-
○ 14	4	112	VIII	IV	262.13	90	84	8	85	83	-	-	-	-	-
○ 14	5	112	VIII	IV	262.15	87	95	11	81	87	-	-	-	-	-
○ 14	6	92	I b	VII	260.06	104	90	22	100	72	60	1	37	33	0

### 3 縄文時代後期の集石遺構

Ⅳ層中で検出した集石は2基あり、第142図及び第143図に示した。

両者とも、共伴遺物や近接して出土した土器などがないことから、厳密な時期判断はできないが、第3工区内の同一層から出土する遺物には第144～147図の遺物しかないので、この二つの集石は縄文時代後期の所産であると判断している。

ただし、これらの土器は後期中葉末から後期後葉までの4型式に渡るようであるが、そのうちのいずれの型式に伴うかは判断できない。

さて、Ⅳ層中検出1号集石は、わずか7個の安山岩角礫で構成される集石である。全ての礫が265.2mのレベルに安定している、掘り込みを持たない平坦でやや疎らな集石である。また、被熱の痕跡もさほど顕著には見られない。

これらの礫は、10cm角以内の大きさで、節理面で板状に割れた角礫であり、上野原の台地上で採集できるものではなく、また、角礫であることから川床からの採集でもない。

これらの角礫に一番近い産状を示すのは、標高差約250mもある台地南縁下の崖砕堆積物中に見られるものであり、この集石を作った人々は、ここから採集したのであろうと考えている。

つぎの、Ⅳ層中検出2号集石は、同1号集石と趣が異なり、15×25×10cm角の板状の角礫と拳大の亜角礫約20個ほどから構成される、密集する集石である。

発掘時には掘り込みを確認できなかったが、50cmもあるレベル差と礫が密集している状況とを考慮併せると、掘り込みがあったものとみなしたい。

この集石の礫の内、大型の板状の角礫は1号集石を構成する礫と同じような形状であり、1号集石と同様に台地下から運び込まれたものと考えられる。

なお、図中黒丸を付した礫同士は接合することから、かなり大きな礫を台地上まで運び上げたことが推測される。そして、その多大な労力を考えると、なぜそこまでして大きな礫を必要としたのか、たいへん興味深いものがある。

また、Ⅳ層中からは非常に多くの陥し穴なども検

出されているが、陥し穴はその性格上、集石と同時期に構築されるとは考えにくいので、この集石とは別時期であると考えている。

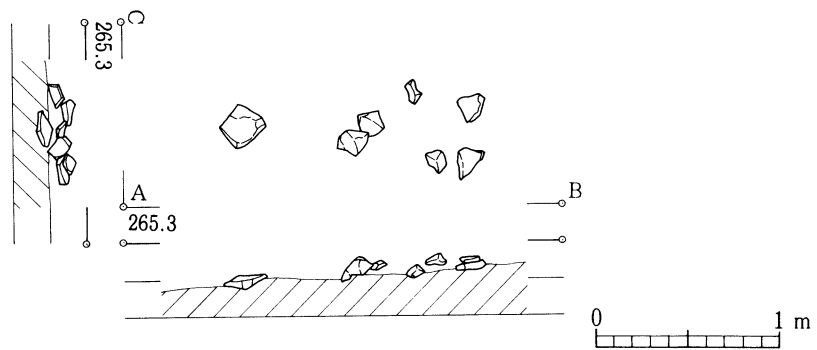
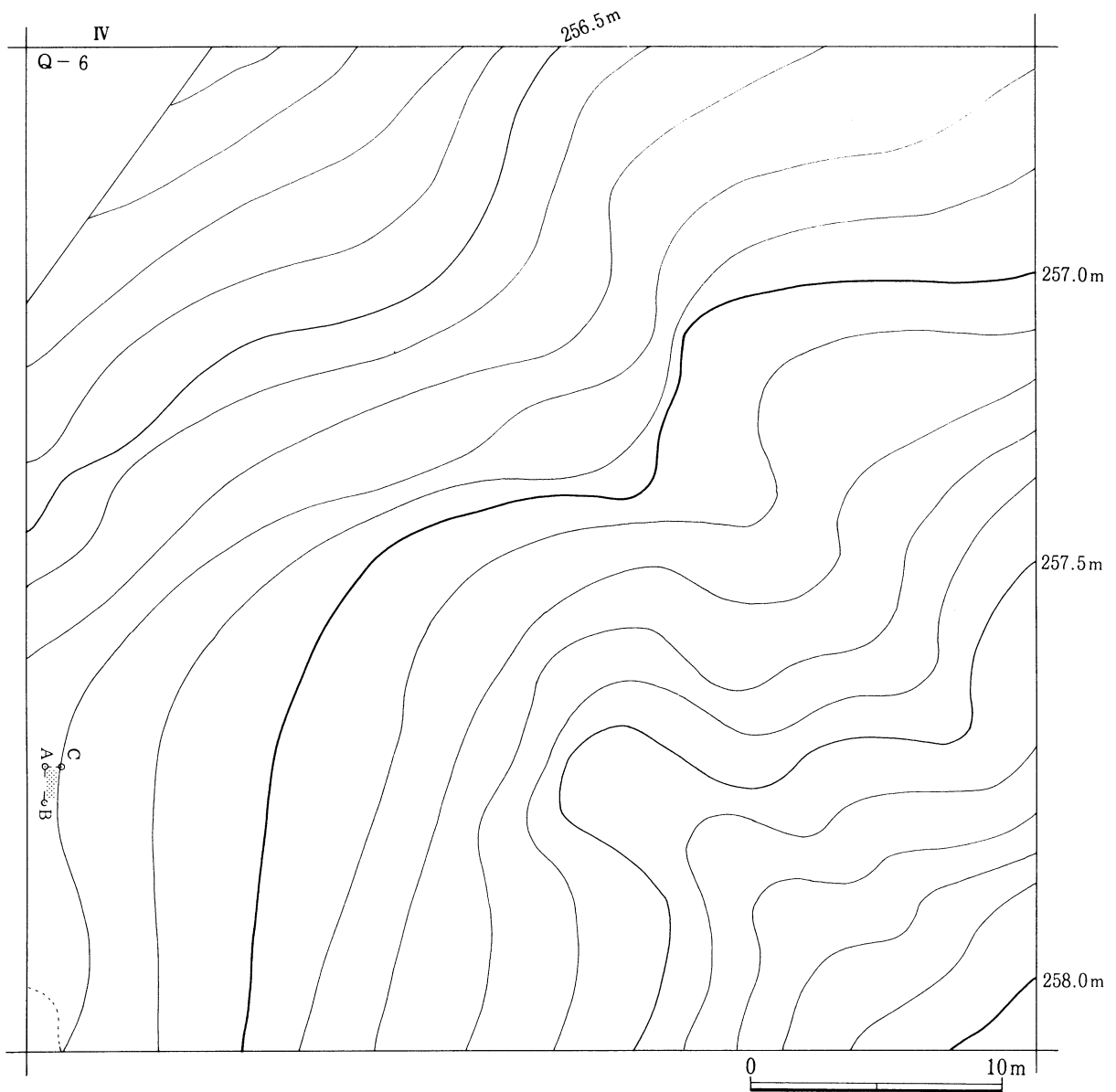
### 4 縄文時代後期の遺物

縄文時代後期の遺物はⅢ～Ⅳ層から出土した。

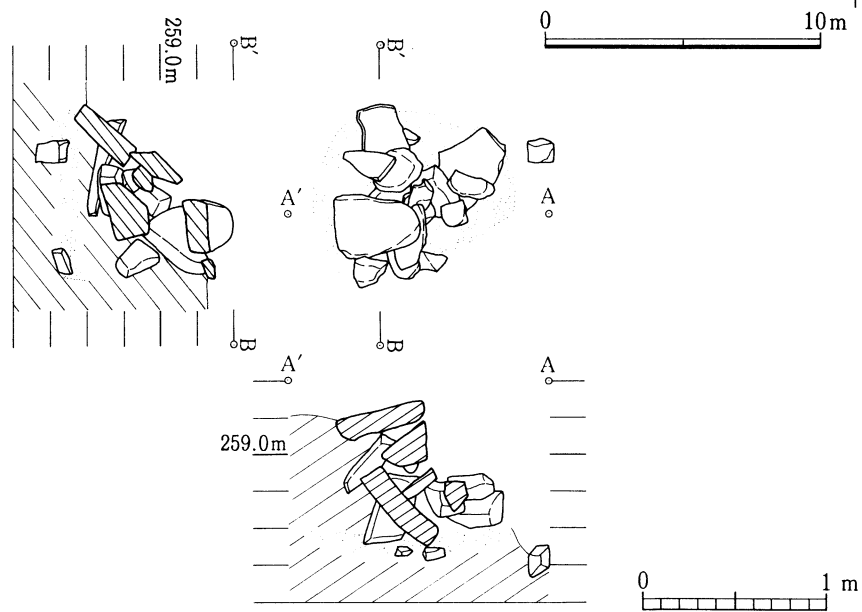
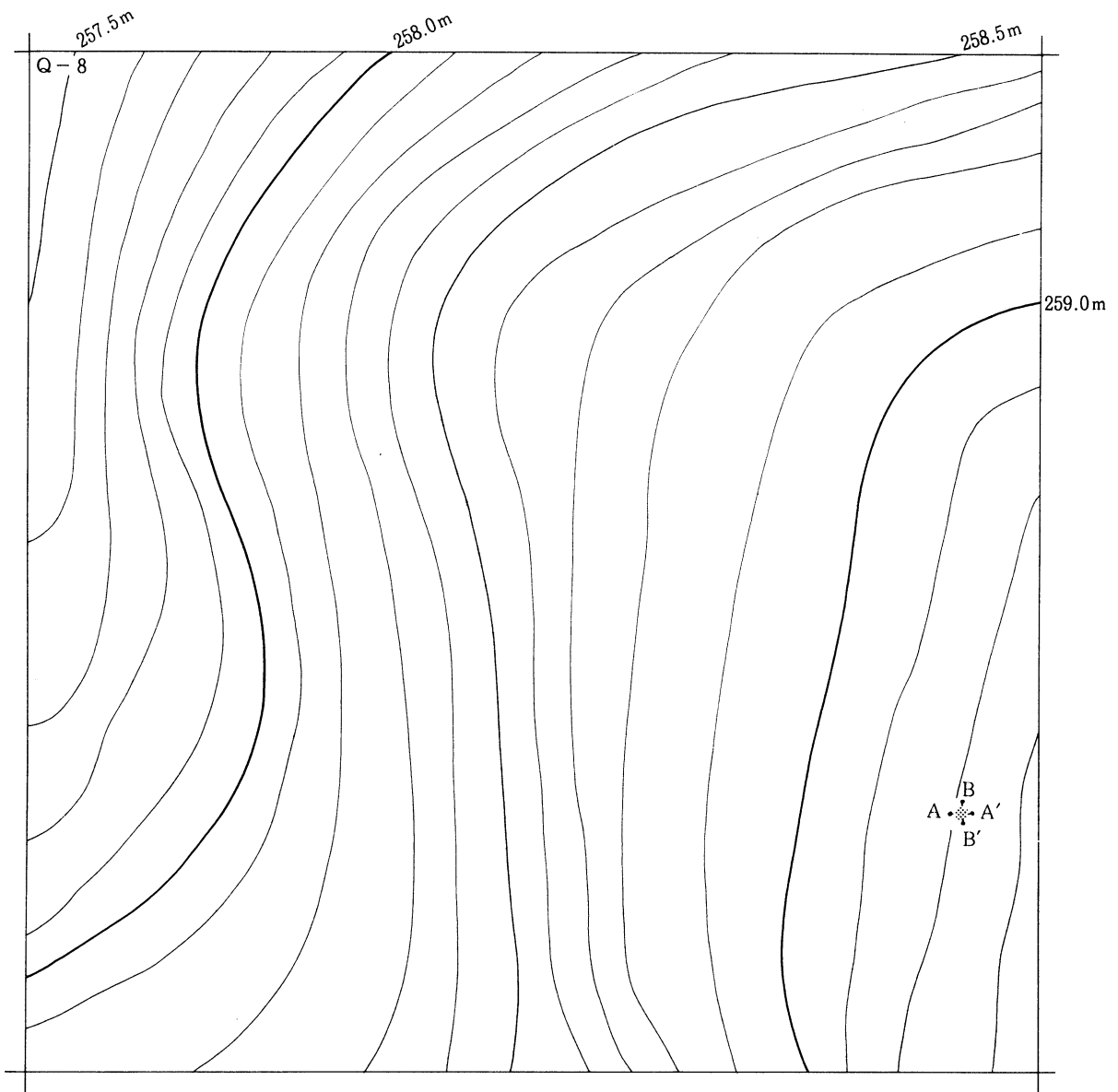
第143図6は胴部でく字状に屈曲し、緩やかに外反しながら口縁部へと続く。外面の口唇部直下に1条の細沈線を廻らす。口縁部内面には横位の丁寧なヘラミガキによりわずかな段を作り出している。内外面ともに丁寧な縦位のヘラミガキにより仕上げている。外面にはススの付着が認められる。復元口径19.2cmを測る。7は丸みをおびた胴部から頸部でく字状に屈曲し、直線状に外反しながら口縁部となる。外面はヘラミガキ、内面はナデ後のわずかなヘラミガキが観察される。外面にはススの付着が認められる。復元口径17.6cmを測る。8、9はわずかに外反する口縁部である。10、11はく字状に屈曲する胴部である。11は外面にわずかにススの付着が見られる。12、13は浅鉢である。12は底部近くの外面に1条の細沈線を廻らす。胴部で強く立ち上がり、わずかに外反する口縁部となる。口縁部に6条のわずかな凹線を廻らせ、凹線と凹線の間は稜を持つ。内外面とも丁寧なヘラミガキにより仕上げている。復元口径19.4cmを測る。13は復元口径17.6cmを測る。

第144図14は頸部が、く字状に屈曲し、肥厚する山形の口縁部となるものである。口縁部文様帯は、横位あるいは縦位の凹線文を組み合わせ、その上下に連続する斜位の短い刻目を施文する。凹線文を施す前に、放射肋を持つ2枚貝の貝殻腹縁を横位に押圧している。内外面ともに貝殻条痕文を施す。15、16も同様のものである。17は大きく外反する山形の口縁部である。山形の頂部の口唇部には、円形の凹みを持ち、その両側には凹線状の刻みをそれぞれ2条ずつ施す。外面には凹線文と連点文を施す。

第145図18は胴部上位が丸く張り、頸部でしまり、外反する山形の口縁部となるものである。山形の頂部には凹線状の浅い刻みを6条施す。口唇部直下に竹管状のものによる連続する刺突文を施し、胴部上

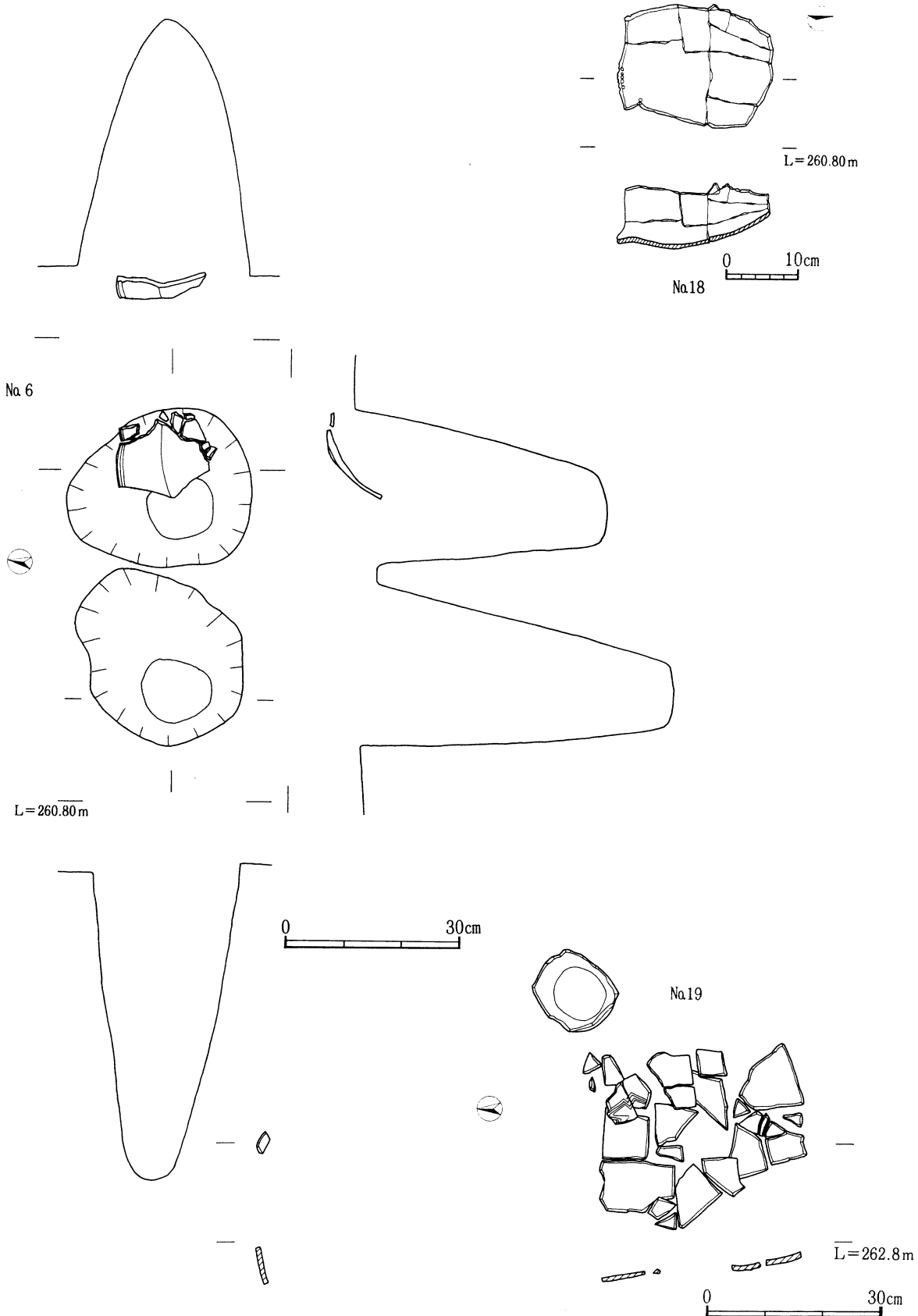


第142図 IV層検出1号集石遺構

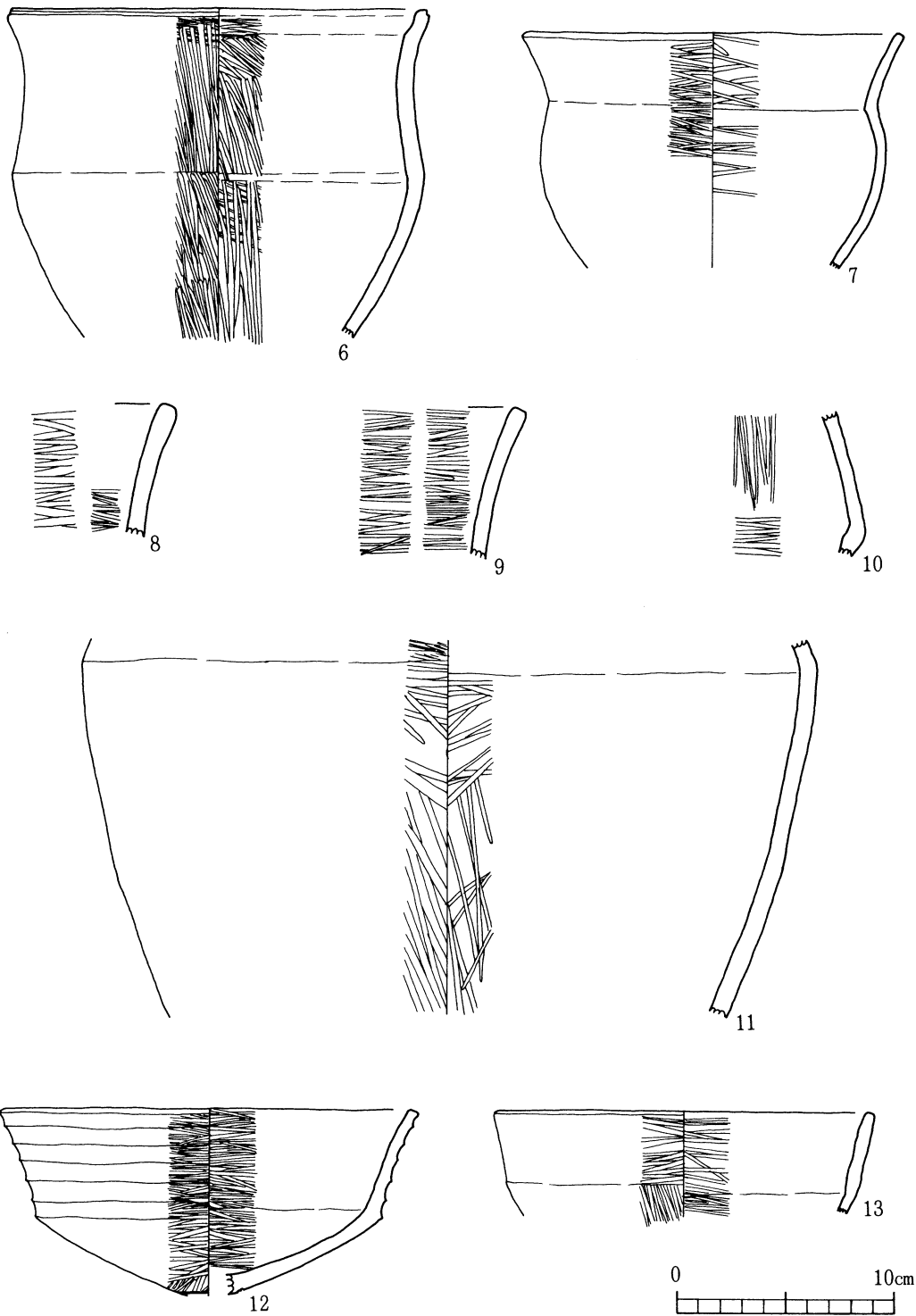


第143図 IV層検出2号集石遺構





第144図 縄文後期土器出土状況

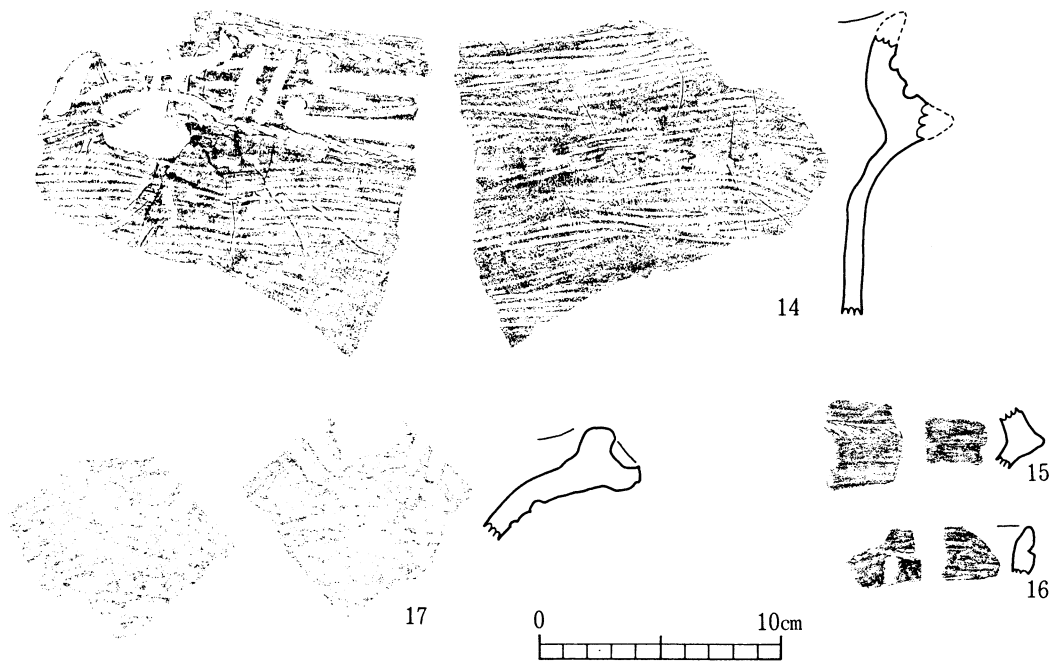


第145図 縄文時代後期土器実測図1

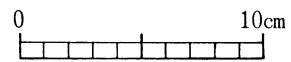
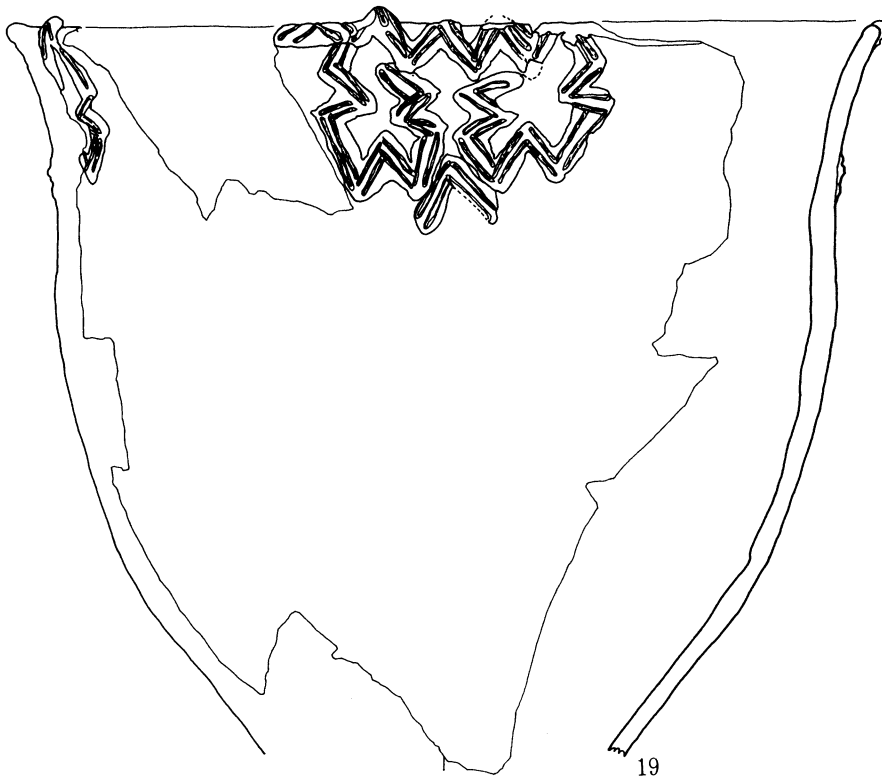
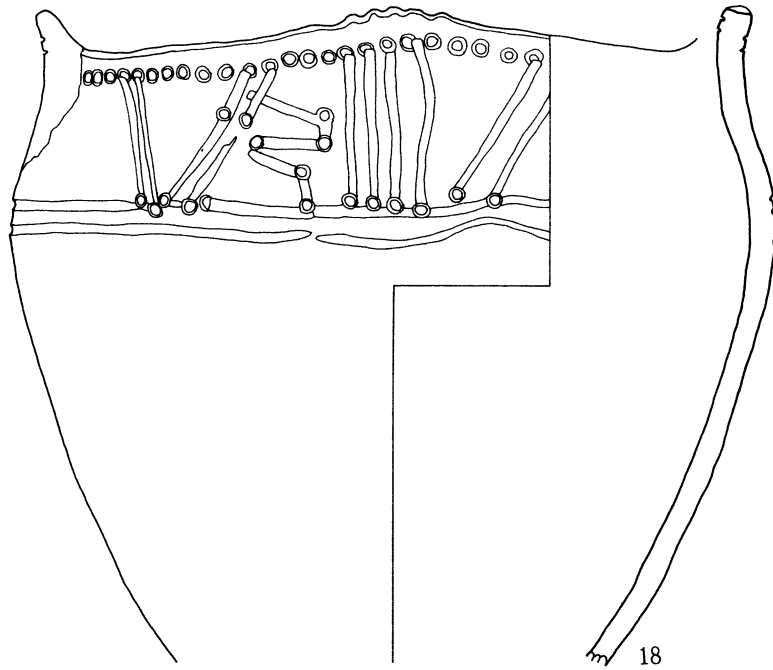
位の丸く張った部分に2条のやや浅い沈線文を廻らし、沈線上に同様の刺突文を施す。その後、この刺突文と刺突文の間を、場所によっては同様の刺突文を施しながら、沈線で結ぶものである。ややもろい。山形部分の復元口径29.4cmを測る。19はゆるく外反する口縁部から口唇部にかけて、やや幅広の粘土紐を貼付け、その上にへら状の工具を用いて2条を1単位とする沈線を、粘土紐に沿って施文するものである。内外面ともに浅い条痕が観察される。外面にはススの付着が認められる。復元口径は35.4cmを測る。20は小破片のため全体は把握し得ないが、口縁

部にやや幅広の粘土紐を貼付け、その上に放射肋を持つ2枚貝の復縁を用い押し引状の文様を施すものである。内面には条痕が施される。

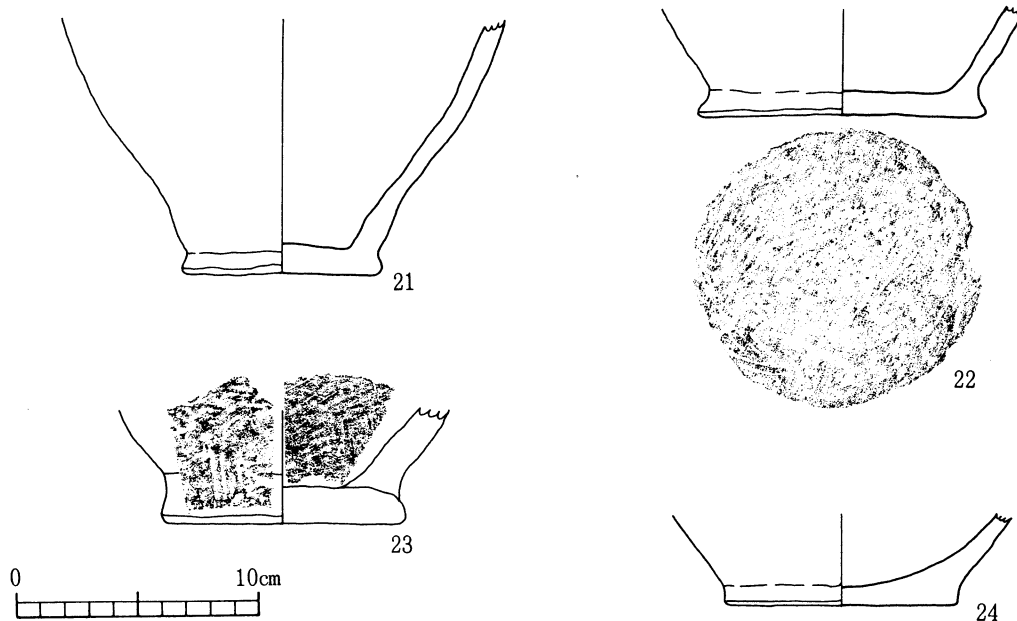
第146図21~24は底部である。21~23は端部が張り出すもので、24はわずかであるが、垂直に立ち上がるものである。22は内外面ともに条痕後ナデによる整形を行っている。外部底面には条痕文が見られる。23は内外面ともにわずかに条痕が観察される。底部径はそれぞれ、8.2cm、11.8cm、10.2cm、9.6cmを測る。



第146図 縄文時代後期土器実測図2



第147図 縄文時代後期土器実測図3



第148図 縄文時代後期土器実測図4

後期の土器観察表

(石-石英, 角-角閃石, 長-長石)

挿図 番号	遺物 番号	出土区	層	胎土	焼成	外 面	内 面
144	6	O-13	IV	石・角・長・少	良	ヘラミガキ, 黄褐色, スス附着	ヘラミガキ, 黒褐色, スス附着
	7	O-11	III	石・角・長	やや良	ヘラミガキ, 褐色, スス附着	ナデ後ヘラミガキ, 褐色
	8	P-15	III	石・角・長	良	やや粗いヘラミガキ, 褐色	やや粗いヘラミガキ, 褐色
	9	P-14	IV	石・角・長・細礫	良	ヘラミガキ, 褐色	ヘラミガキ, 赤褐色
	10	O-14	IV	石・角・長・粗	良	ナデ, 淡褐色	ナデ, 淡黄褐色
	11	O-14	IV	石・角・長	良	ケズリ後ナデ, 黒褐色, スス附着	ナデ, 暗赤褐色
	12	O-8	III	石・角・長	良	研磨, 暗赤褐色	研磨, 褐色
	13	P-14	IV	石・角・長	良	ヘラミガキ, 黄褐色	ヘラミガキ, 褐色
145	14	Q-5	IV	石・角・長	良	条痕, 黒褐色, スス附着	条痕, 黒褐色
	15	R-7	III	石・角・長	良	条痕?, 褐色	ナデ, 黄褐色
	16	Q-5	III	石・角・長	良	ナデ, 褐色	条痕?, 褐色
	17	P-8	IV	石・角・長	良	ナデ, 淡褐色	ナデ, 黄褐色
146	18	S-10	IV	石・角・長・細礫	やや良	ナデ, 黄褐色	ケズリ後ナデ, 黄褐色
	19	Q-14	IV	石・角・長	良	条痕後ナデ, 褐色, スス附着	条痕, 褐色
	20	Q-10	III	石・角・長	良	ナデ, 褐色, スス附着	条痕後ナデ, 褐色
147	21	R-6	IV	石・角・長	良	条痕後ナデ, 黄褐色	条痕後ナデ, 褐色
	22	Q-14	IV	石・角・長	良	条痕後ナデ, 暗黄褐色	条痕, 褐色
	23	Q-10	III	石・角・長	良	条痕後ナデ, 褐色	条痕後ナデ, 褐色
	24	P-16	III	石・角・長	良	ナデ, 暗赤褐色	ナデ, 褐色

### 第7節 縄文時代前期の調査（第148・149図）

縄文時代前期については、遺構の検出はなく、遺物も少なかったが、S-5区のIV層より曾畑式土器が出土している。

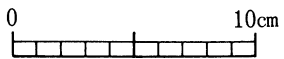
第148図および第149図は、曾畑式土器と思われるもので、25点が図化出来た。

曾畑式土器についてみると、器面調整は内外面共に丁寧な調整である。外面の文様は、口縁部上端から下方にむけて横位に連続する短沈線文を規則正しく施文してある。また、横位の短沈線の上から斜格子目文を施すものもある。内面にも口縁部上端から約2～3cmの幅で横位の短沈線文が施されている。また、口唇部には連続した刻み目が見られる。

25～35は連続した横位の短沈線文の上から、粗い斜格子目文を施すものである。25は、復元口縁部径21cmを測るもので、胴部は直行に近く立ち上がり口縁部上端でわずかに外反する。また、口縁端部は舌状に成形してある。底部は無いものの丸底と思われ

る。28は斜格子目文が連点で表現されたものである。36～43は外面に連続した横位の短沈線文のみを施すものである。口縁部内面には連続した横位の短沈線文の上から粗い鋸歯文が施されているものである。全体的に文様の施し方が粗雑である。36は復元口縁部径28.5cmを測るものである。胴部はわずかに膨らみ、口縁部は直行気味に立ち上がる。口縁端部は舌状に成形してある。底部は無いものの丸底になるものと思われる。外面下半部において、施文後に調整が行なわれている部分も認められる。44～49は底部破片である。49は、曾畑式土器に典型的な丸底で、文様も「くもの巣」状で典型的な曾畑式土器の底部である。輪積みの痕跡も明瞭に認められるものである。

以上の曾畑式土器について見ると、器形・文様の特徴から曾畑式土器のなかでは、比較的新しいものと考えられる。



第149図 縄文時代前期土器実測図1



第150図 縄文時代前期土器実測図2



鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(27)

国分上野原テクノパーク第3工区造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(I)

## 上野原遺跡(第10地点)(第1分冊)

発行日 平成12年3月31日

発行所 鹿児島県立埋蔵文化財センター  
〒899-5652 鹿児島県始良郡始良町平松6252番地  
☎(0995) 65-8787

印刷所 中央印刷株式会社  
〒892-0804 鹿児島市春日町12番16号  
☎(099) 247-3300